

# 中坪遺跡（第2次）発掘調査報告 —松阪市立田町—

2018（平成30）年3月  
三重県埋蔵文化財センター





作業風景（北から）



SD 2041（西から）



調査区全景（南から）



SD 2003 出土漆製品（A面）・土師器皿



SD 2003 出土漆製品（B面）

## 例　　言

1. 本書は三重県松阪市立田町に所在する中坪遺跡の第2次発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の調査は、高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴い、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて実施した。
3. 調査の体制等は次の通りである。  
　調査主体 三重県教育委員会  
　調査担当 三重県埋蔵文化財センター
  - 調査研究1課 主査 谷口文隆 主幹 森 隆生  
　　主幹 嶋田元彦 技師 櫻井拓馬
  - 活用支援課 研修員 田中信太郎

整理担当 三重県埋蔵文化財センター　調査研究1課  
調査土工受託機関 安西工業株式会社
4. 調査期間及び面積は次の通りである。  
　平成26年4月21日～平成27年1月16日　　1,100m<sup>2</sup>
5. 調査にあたっては、地元の方々をはじめ、松阪市教育委員会、三重県農林水産部、松阪農林水産事務所の多大な協力を得た。
6. 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が行った。本書の執筆は谷口および渡辺和仁が行い目次等に示した。第5章について、樹種同定は一般社団法人文化財科学研究センターに委託した。動物遺存体の同定は丸山真史氏（東海大学）に依頼した。自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。鉄滓分析は日鉄住金テクノロジー株式会社に委託した。本書の写真撮影・全体の編集は谷口が行った。
7. 当発掘調査の記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

## 凡　　例

1. 当地は平面座標系第VI系に属しており、本書での方位は座標北を使用している。  
なお、座標値は世界測地系2000に基づいて表示している。
2. 遺跡地形図及び調査区位置図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2011三重県共有デジタル地図(数値地形図2500(道路線1000))」を使用し、調整したものである。(承認番号：三総合地第1号)
3. 土層及び遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖（21版）』（1967年初版、1997年第19版）による。
4. 本書では、以下のように遺構の略記号表記をしている。  
S B : 据立柱建物 S A : 撫 S E : 井戸 S D : 溝 S K : 土坑
5. 遺物実測図の縮尺は1:4を基本とし、遺物によってはその他の縮尺を便宜用いた。
6. 訳は各節の文末に付し、参考文献も訳に記した。
7. 遺構一覧表および遺物観察表は各章末に付した。
8. 遺物観察表の凡例は以下のとおりである。
  - ・実測番号は当センター所蔵の遺物実測番号である。
  - ・色調は標準土色帖の色名（「黄橙色」など）を記す。
  - ・土器の残存率は全周を12分割して示す（例：口縁部3/12）。  
1/12以下のものは「口縁部片」など
  - ・胎土の緻密さは、粗・やや粗・やや密・密の4段階である。
  - ・計測値は完存ないし復元の値である。口径・底径は実測時の接地面で計測した値とした。  
また、土師器皿の底径は記していない。
9. 個別遺構詳細図・写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。  
遺物写真は順不同である。

## 本文目次

I	前言	(谷口)	1
II	位置と環境	(谷口)	2
III	層位と遺構	(谷口)	6
IV	遺物	(谷口・渡辺)	25
V	自然科学分析	(谷口・一般社団法人文化財科学研究センター・丸山真史) (日鉄住金テクノロジー株八幡事業所・株パレオ・ラボ)	82
VI	結語	(谷口)	106

## 挿図目次

第1図	遺跡位置図	3	第30図	出土遺物実測図⑯	41
第2図	遺跡地形図	4	第31図	出土遺物実測図⑰	42
第3図	調査区位置図	5	第32図	出土遺物実測図⑱	43
第4図	遺構平面図	11	第33図	出土遺物実測図⑲	44
第5図	調査区土層断面図	12	第34図	出土遺物実測図⑳	45
第6図	調査区土層断面図	13	第35図	出土遺物実測図㉑	46
第7図	個別遺構実測図①	14	第36図	出土遺物実測図㉒	47
第8図	個別遺構実測図②	15	第37図	出土遺物実測図㉓	48
第9図	個別遺構実測図③	16	第38図	出土遺物実測図㉔	49
第10図	個別遺構実測図④	17	第39図	出土遺物実測図㉕	50
第11図	個別遺構実測図⑤	18	第40図	出土遺物実測図㉖	51
第12図	個別遺構実測図⑥	19	第41図	中坪遺跡における赤外分光分析結果	
第13図	個別遺構実測図⑦	20			85
第14図	個別遺構実測図⑧	21	第42図	中坪遺跡における蛍光X線分析結果	
第15図	出土遺物実測図①	26			86
第16図	出土遺物実測図②	27	第43図	中坪遺跡の塗膜分析写真	86
第17図	出土遺物実測図③	28	第44図	中坪遺跡（第2次）の木材Ⅰ	91
第18図	出土遺物実測図④	29	第45図	中坪遺跡（第2次）の木材Ⅱ	92
第19図	出土遺物実測図⑤	30	第46図	中坪遺跡（第2次）の木材Ⅲ	93
第20図	出土遺物実測図⑥	31	第47図	中坪遺跡（第2次）の木材Ⅳ	94
第21図	出土遺物実測図⑦	32	第48図	S D 2019 出土の馬歛	95
第22図	出土遺物実測図⑧	33	第49図	楕形鍛冶津の顕微鏡組織・E PMA 調査結果	99
第23図	出土遺物実測図⑨	34	第50図	堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真	
第24図	出土遺物実測図⑩	35			102
第25図	出土遺物実測図⑪	36	第51図	中坪遺跡における植物珪酸体分布図	
第26図	出土遺物実測図⑫	37			103
第27図	出土遺物実測図⑬	38	第52図	中坪遺跡から産出した植物珪酸体	
第28図	出土遺物実測図⑭	39			105
第29図	出土遺物実測図⑮	40			

## 表 目 次

第1表	遺構一覧表①	22	第24表	出土遺物観察表⑩	72
第2表	遺構一覧表②	23	第25表	出土遺物観察表⑪	73
第3表	遺構一覧表③	24	第26表	出土遺物観察表⑫	74
第4表	土器編年区分表	52	第27表	出土遺物観察表⑬	75
第5表	出土遺物観察表①	53	第28表	出土遺物観察表⑭	76
第6表	出土遺物観察表②	54	第29表	出土遺物観察表⑮	77
第7表	出土遺物観察表③	55	第30表	出土遺物観察表⑯	78
第8表	出土遺物観察表④	56	第31表	出土遺物観察表⑰	79
第9表	出土遺物観察表⑤	57	第32表	出土遺物観察表⑱	80
第10表	出土遺物観察表⑦	59	第33表	出土遺物観察表⑲	81
第12表	出土遺物観察表⑧	60	第34表	中坪遺跡(第2次)における木材同定 結果	90
第13表	出土遺物観察表⑨	61	第35表	S D 2019出土の動物遺存体	95
第14表	出土遺物観察表⑩	62	第36表	供試材の履歴と調査項目	98
第15表	出土遺物観察表⑪	63	第37表	供試材の化学組成	98
第16表	出土遺物観察表⑫	64	第38表	出土遺物の調査結果のまとめ	98
第17表	出土遺物観察表⑯	65	第39表	堆積物の特徴	100
第18表	出土遺物観察表⑯	66	第40表	堆積物中の珪藻化石産出表	101
第19表	出土遺物観察表⑯	67	第41表	分析試料一覧	103
第20表	出土遺物観察表⑯	68	第42表	試料 1 g 当りのプランクト・オパール 個数	103
第21表	出土遺物観察表⑯	69			
第22表	出土遺物観察表⑯	70			
第23表	出土遺物観察表⑯	71			

## 写真目次

### 卷頭図版

写真表紙	108	写真図版12	出土遺物	120	
写真図版1	調査区全景	109	写真図版13	出土遺物	121
写真図版2	個別遺構	110	写真図版14	出土遺物	122
写真図版3	調査区全景・個別遺構	111	写真図版15	出土遺物	123
写真図版4	個別遺構	112	写真図版16	出土遺物	124
写真図版5	個別遺構	113	写真図版17	出土遺物	125
写真図版6	個別遺構	114	写真図版18	出土遺物	126
写真図版7	個別遺構	115	写真図版19	出土遺物	127
写真図版8	出土遺物	116	写真図版20	出土遺物	128
写真図版9	出土遺物	117	写真図版21	出土遺物	129
写真図版10	出土遺物	118	写真図版22	出土遺物	130
写真図版11	出土遺物	119	写真図版23	出土遺物	131

# I 前 言

## 1 調査に至る経過

三重県農林水産部による地域活性化プランの施策である高度水利機能確保基盤整備事業が、朝見上地区において平成22年度より実施されている。事業地には、存在が既に知られている堀町遺跡・四常遺跡・大角遺跡・朝見遺跡・中坪遺跡が含まれている。そのため、平成21年度に県教育委員会が行った埋蔵文化財範囲確認調査の結果をもとに、中坪遺跡では平成25年度に1,955m<sup>2</sup>が調査された（第1次調査）。

また、平成26年度においては1,100m<sup>2</sup>について発掘調査を実施し、記録保存することになった（第2次調査）。

## 2 文化財保護法に関する諸手続

文化財保護法（昭和25年法律第214号平成16年改正法律第84号）および三重県文化財保護条例（昭和32年条例第72号）にかかる諸手続は以下のとおりである。

- 三重県埋蔵文化財保護条例第48条第1項  
・平成22年9月9日付 松農環第4236-1号  
三重県知事から三重県教育委員会教育長あて「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」（朝見遺跡、堀町遺跡、大角遺跡、中坪遺跡、四常遺跡）
- 三重県埋蔵文化財保護法条例第48条第2項  
・平成22年9月13日付 教委第12-4075号  
三重県教育委員会教育長から三重県知事あて「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について（通知）」（朝見遺跡、堀町遺跡、大角遺跡、中坪遺跡、四常遺跡）
- 文化財保護法第99条第1項  
・平成26年4月23日付 教埋第28号  
三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長あて「埋蔵文化財発掘調査の報告について」
- 文化財保護法第100条第2項  
・平成27年3月2日付 教委第12-4435号  
三重県教育委員会教育長から松阪警察署長あて「埋蔵文化財の発見について（通知）」

## 3 調査経過

調査の開始に先立って、平成26年4月24日に調査前風景写真を6×7版（プローニー）および35mmカメラを併用して撮影した。

調査は平成26年5月22日に南側現況竹藪部分から重機による表土掘削を開始し、平成26年8月20日に調査区内のすべての遺構掘削、写真撮影及び実測を終了した。

なお、調査期間は平成26年4月21日から平成27年1月16日であるが、同事業による朝見遺跡（第5次）発掘調査を含むためである。

### 調査日誌（抄）

調査の経過に関しては以下の通りである。

- 4月22日 安西工業と事前協議。
- 4月24日 調査前風景撮影。
- 5月22日 調査区南側から重機による表土掘削開始。
- 6月3日 表土掘削終了。
- 6月9日 調査区北側から人力による遺構検出開始。  
幅2mの区画溝S D2017遺構検出。
- 6月17日 K-D23グリッドpit5から鉄鎧出土。  
幅2mの区画溝S D2041遺構検出。
- 6月18日 S D2030遺構掘削。  
底面から波板状遺構検出。  
幅2mの区画溝S D2056遺構検出。
- 6月20日 遺構検出終了。
- 6月25日 S K2063遺構掘削。  
中世後期の土器器多数出土。
- 6月26日 K-C21グリッド下層で井戸3基を確認。  
多数の溝と井戸の重複を確認。
- 7月2日 全景写真撮影。
- 7月9日 遺構平面図実測開始。
- 7月26日 現地説明会（参加者71名）。
- 7月28日 井戸の断割り開始。
- 8月1日 K-C21グリッド付近断割り。  
湧水が激しく遺構の下層確認ができず。
- 8月4日 井戸の断割り終了。
- 8月5日 S D2024の3箇所で土層確認。
- 8月20日 S K2063完掘・写真撮影。

## II 位置と環境

### 1 地理的環境

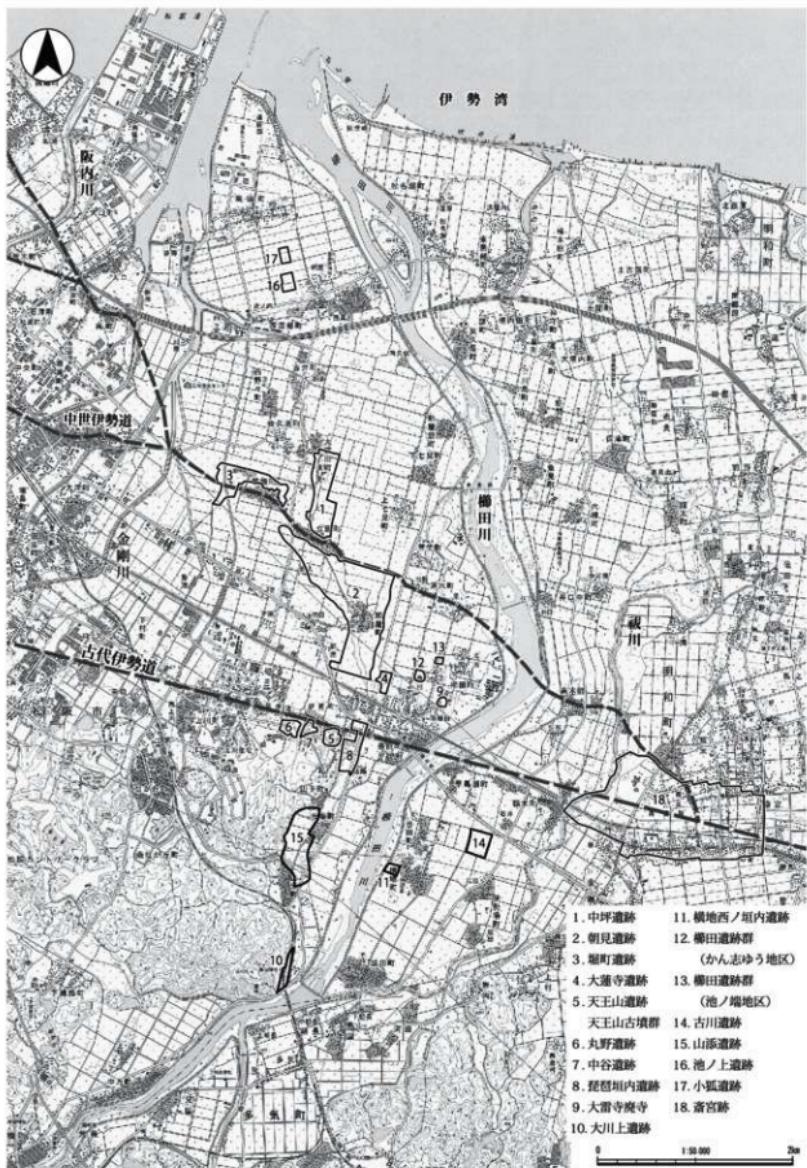
中坪遺跡（1）は松阪市大宮田町、上七見町及び立田町に所在している。松阪市は三重県のほぼ中央に位置し、東は平野で西は山地である。西に位置する高見山地に源を発し、上・中流部では中央構造線に沿って流れる櫛田川が、東側の下流において、松阪丘陵、明野台地群、松阪低地に囲まれる位置に櫛田低地を形成し、伊勢湾に注いでいる。低地には、櫛田川およびその支流の氾濫により形成される自然堤防の微高地が存在し、中坪遺跡が所在する立田町集落、南東に位置する和屋町集落、北西に位置する朝田町集落は、断続的な一連の微高地と考えられる。中坪遺跡は立田町集落の北側で、この微高地上に立地する。調査区の現況は水田であり、標高は約4～5m前後である。

### 2 歴史的環境

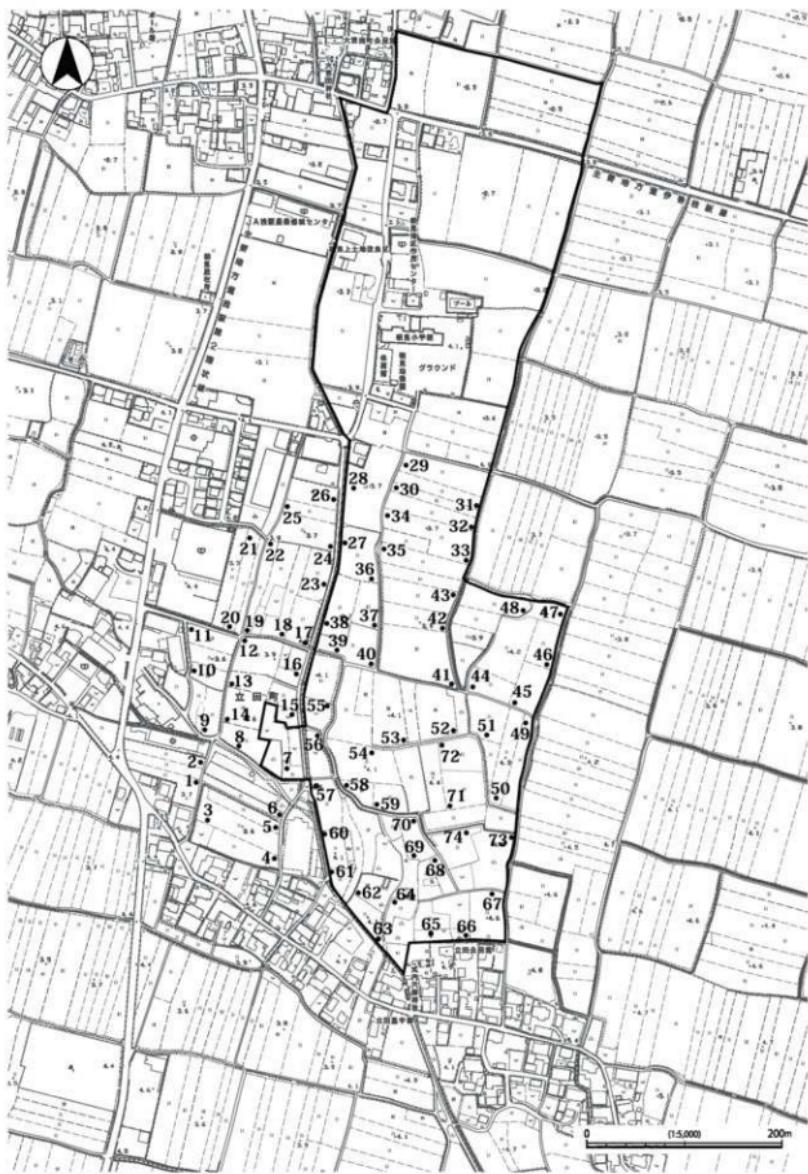
古代 櫛田川左岸下流域は伊勢国飯野郡の領域で、飯野郡は度会郡、多気郡とともに、郡全体が神宮の領地である「神三郡」にあたる。中坪遺跡のすぐ南東に位置する朝見遺跡（2）では、10世紀前半の二面庇の大型掘立柱建物を中心とする9棟の建物群が見つかり、官衙関連遺跡としての性格が想定されている<sup>①</sup>。また4面の青銅鏡<sup>②</sup>のほか、斎串等祭祀に関わる遺物が出土し、そのほか大量の縄釉陶器が出土している<sup>③</sup>。北西に位置する堀町遺跡（3）では、大型掘立柱建物<sup>④</sup>のほか、数度の建て替えが確認できた掘立柱建物が見つかり、斎串等祭祀に関わる遺物が出土している<sup>⑤</sup>。この2遺跡に挟まれるように位置する中坪遺跡（第1次調査）では、奈良時代の井戸が見つかり、中から須恵器長頸壺や土師器甕、斎串が出土した<sup>⑥</sup>。大蓮寺遺跡（4）では、四面庇の掘立柱建物が見つかっており、陰刻花文のある縄釉陶器が出土している<sup>⑦</sup>。天王山遺跡（5）では、7世紀後葉から8世紀前葉にかけての堅穴住居19棟以上、掘立柱建物12棟が見つかっており、丘陵斜面に展開する規模の大きい集落と考えられている<sup>⑧</sup>。丸野遺跡（6）、中谷遺跡（7）でも奈良時代の堅穴住居が見つかっており、集落跡と考えられている<sup>⑨</sup>。

琵琶塙内遺跡（8）では8世紀の堅穴住居・掘立柱建物・井戸などが見つかり集落の形成が確認され、「厨」の文字が見える墨書き器が多く出土しており、官衙との関係が想定されている<sup>⑩</sup>。また、官道の古代伊勢道が駅部田町から天王山遺跡、丸野・中谷遺跡が所在する丘陵北側を東西にはしり、平安時代以前の櫛田川の本流とされる裁川を経て、斎宮跡へとつながると推定されている<sup>⑪</sup>。官道沿いの寺院としては、奈良時代後半の瓦が出土している大雷寺廃寺（9）がある<sup>⑫</sup>。櫛田川下流域に広がる飯野郡条里地割はこの官道と軸が同じである<sup>⑬</sup>。大川上遺跡（10）では「神宮寺」と墨書きされた土師器皿が出土しており、伊勢神宮寺との関わりが想定されている<sup>⑭</sup>。これら櫛田川左岸は神宮領飯野郡の領域になり、櫛田川上流、現在の多気郡多気町兄国付近には「上・下たこり」と郡衙に関わる地名が残り、「兄国」は飯野郡の中心地であり、郡の長官であった古代豪族兄国氏の本貫地であったとされる<sup>⑮</sup>。櫛田川右岸の横地西ノ塙内遺跡（11）では、掘立柱建物のほか、多量の製塗土器が投棄された土坑が見つかり、縄釉陶器や転用鏡が出土した<sup>⑯</sup>。

中世 堀町遺跡では、掘立柱建物をはじめ、井戸、土坑が見つかり、「盛法寺」と墨書きされた平安時代末の山茶碗が出土した<sup>⑰</sup>。櫛田遺跡群のかん志ゆう地区（12）では南東隅土坑をもつ掘立柱建物が見つかり、鎌倉時代の集落と考えられている。またその集落を隔てた北東側の池ノ端地区（13）では室町時代の土壙墓や石組み竈が検出されている<sup>⑱</sup>。古川遺跡（14）では、鎌倉時代の掘立柱建物や石組井戸が検出されている<sup>⑲</sup>。琵琶塙内遺跡では、鎌倉時代の掘立柱建物が見つかり、南半部では室町時代の井戸や溝が検出されている<sup>⑳</sup>。山添遺跡（15）では鎌倉時代の掘立柱建物とともに区画溝が見つかっており、石臼や石硯が出土している<sup>㉑</sup>。横地西ノ塙内遺跡では、掘立柱建物や石組の井戸が見つかっている<sup>㉒</sup>。櫛田川のさらに下流では、池ノ上遺跡（16）で16世紀代と考えられるかん水槽のほか塩竈と推定される



第1図 遺跡位置図 (1:50,000) (国土地理院1:25,000数値地形図より作成)



第2図 遺跡地形図(1:5,000)



第3図 調査区位置図（1：2,000）

焼土坑が見つかり、また小狐遺跡（17）でもかん水槽と考えられる粘土坑が見つかっている<sup>⑩</sup>。西黒部地域は、明応地震以降、地盤沈下に伴い塩漬が行われたと考えられている<sup>⑪</sup>。中世伊勢道が朝田町、立田町、清水町を通っており、中世において開闢の徵収を目的とした開所が立利（旧立田）にも存在している。

#### 【注】

- ①三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第5次）発掘調査現地説明会資料（その2）』（2014年）
- ②三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第5次）発掘調査現地説明会資料（その1）』（2014年）
- ③三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第6次）発掘調査現地説明会資料』（2015年）
- ④三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第1・2次）発掘調査報告』（2014年）
- ⑤三重県埋蔵文化財センター『御町道路（第5次）発掘調査報告』（2016年）
- ⑥三重県埋蔵文化財センター『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告書』『鶴町道路』（2009年）
- ⑦三重県埋蔵文化財センター『中坪道路（第1次）発掘調査報告』（2017年）
- ⑧三重県埋蔵文化財センター『大通寺道路（第2次）発掘調査報告』
- ⑨（2015年）
- ⑩三重県埋蔵文化財センター『天王山遺跡・天王山古墳群発掘調査報告』（2006年）
- ⑪三重県埋蔵文化財センター『丸野・中谷遺跡発掘調査報告』（2003年）
- ⑫三重県埋蔵文化財センター『琵琶垣内遺跡（1・4次）発掘調査報告』（2006年）
- ⑬足利健亮『大和から伊勢神宮への古代の道』『探訪古代の道第1巻』（1988年）
- ⑭松阪市史編纂委員会『松阪市史 第二巻資料編考古』（1978年）
- ⑮伊藤裕作『春宮寮・伊勢道、条組』『春宮歴史博物館研究紀要』13』『春宮歴史博物館』（2004年）
- ⑯三重県埋蔵文化財センター『大川上遺跡発掘調査報告』（1999年）
- ⑰伊勢義郎『第三編古代』『多気町史・通史』『多気町』（1992年）
- ⑱三重県埋蔵文化財センター『横地西ノ堀内遺跡発掘調査報告』（1999年）
- ⑲前掲註④に同じ
- ⑳三重県埋蔵文化財センター『勝田地区内遺跡群発掘調査報告Ⅱ』（1997年）
- ㉑三重県埋蔵文化財センター『吉川道路・山口道路発掘調査報告』（1996年）
- ㉒前掲註⑯に同じ
- ㉓三重県埋蔵文化財センター『山添道路発掘調査報告』（1979年）
- ㉔前掲註㉖に同じ
- ㉕三重県埋蔵文化財センター『三重県埋蔵文化財センター年報4』（1993年）
- ㉖伊藤裕作『海岸線の変動と交通環境』『環境の日本史3 中世の環境と開発・生産』（2013年）

### III 層位と遺構

#### 1 基本層位

調査区は、農業排水路及び農道設置箇所に設置している。中坪遺跡第1次発掘調査B区と、字境の水路を挟んですぐ東にあたる。調査区現況は、北半分が水田で、南半分は一段高い畠地となる。標高は、水田部で約4.4mに対し、畠地部で約5.0mとなり、約0.6mの高低差がある。遺構検出は、北側の水田部は耕作土直下の黄褐色シルト層で行き、南側の畠地においても同じく黄褐色シルト層において行った。調査区全面を通して標高4.2mでこの黄褐色シルト層にあたり、その上に厚さ約10cmのにぶい褐色シルト層が北部と南部で、部分的ではあるが、ともに確認できた。北側水田部はその上が耕作土となるが、南側畠地では、この上に約40cmの厚さで、にぶい黄橙色の砂質土が堆積しており、古代の遺構がこの上面より切り込んでいる。したがって、古代の遺構面はこのにぶい黄橙色砂質土の上面になる。土層断面図は調査区の北壁・東壁を図示した（第5・6図）。

#### 2 遺構

調査の結果、掘立柱建物3棟と土坑19基、溝40条と多数の小穴が確認できた。遺構は古代以前と中世に大別することができ、その様相も大きく分かれれる。  
古代以前

古代以前の遺構は、道路と考えられる1条以外は溝で、全体的に北西から南東方向に延びる傾向がみられる。遺物の出土は多くはないが、須恵器獸脚付壺や綠釉陶器香炉といった、希少なもののが含まれる。

**S D 2019**（第7図） 調査区北部（K-A21～K-D21グリッド）を南北に延びる幅3m、深さ約1mの溝である。南は溝S D 2024につながり、北は調査区外へと続く。上層は褐色の砂質シルトで、下層は褐色の粘質シルトである。須恵器獸脚付壺の獣脚が出土した。平安時代の溝と考えられる。

**S D 2030** 調査区中央部（K-F22～K-F23グリッド）を東西に7m延びる幅1.2mの道路遺構と考えられる。遺構底面は波板状の小穴をもつが、側溝跡は確認できない。須恵器片と、藤澤良祐氏によ

る編年<sup>②</sup>の4形式と5形式の山茶碗が出土した。平安時代末期と考えられる。山茶碗が出土しているが、これは、S D 2030は溝状であるため、中世の上層遺構を認識できず、一体として掘った可能性が考えられる。

**S D 2044** 調査区中央部（K-G22～K-J24グリッド）を北西から南東にかけて延びる、幅約60cm、深さ約30cmの溝である。埋土は褐灰色砂質土である。土師器壺が出土した。なお、須恵器台付長頸壺が出土したが、流入と考えられる。平安時代と考えられる。

**S D 2050** 調査区南部（K-L22～K-M23グリッド）を北西から南東に向けて延びる幅40cm、深さ約47cmの溝である。埋土は褐色砂質土で、縄文土器が出土したが、流入であると考えられる。

**S D 2053** 調査区中央部（K-J22～K-L24グリッド）を北西から南東にかけて延びる、幅約1m、深さ約70cmの溝である。埋土は褐色砂質土で、下層では粘質土ブロックが混ざり、中世には埋没したと考えられる。縄文土器が出土したが、流入と考えられる。出土した土師器小片から平安時代と考えられる。

**S D 2059** 調査区南部（K-L22～K-N23グリッド）を北西から南東に向けて延びる幅約3m、深さ約1.1mの溝である。溝の北半分はテラス状の段があるが、土層断面から2時期に分かれる流れがあったと考えられる。S D 2070より新しい。縄文土器が出土したが、流入と考えられる。

**S D 2061** 調査区中央部（K-D22～K-Eグリッド）を北西から南東に延びる深さ約30cmの遺構である。埋土は褐色砂質土で、南東になるほど幅1mと細くなり、北西になるほど幅5mと広くなる。その性格は不明である。綠釉陶器香炉、山茶碗が出土した。平安時代末期から鎌倉時代と考えられる。

**S D 2065** 調査区南部（K-O21～K-Q22グリッド）を北西から南東に向けて延びる、幅70cm、深さ約69cmの溝である。埋土は暗褐色砂質土である。弥生土器と考えられる小片が出土した。

**S D2068** 調査区南部（K-P24-K-Q24グリッド）を北西から南東に向けて延びる溝である。大半が調査区外で、検出できたのは一部であるが、埋土からS D2059と同一と考えられる。

**S D2070** 調査区南部（K-N21-K-O23グリッド）を北西から南東に向けて延びる幅約4m、深さ約1.3mの溝である。S D2059より古い。繩文土器が出土したが、流入と考えられる。

**S D2071** 調査区南部（K-O20-K-Q21グリッド）を北西から南東に向けて延びる幅2.5m、深さ約90cmの溝である。繩文土器が黄褐色シルト（地山）に入り込んだ状態で出土した。

**S D2073** 調査区南部（K-M21-K-P19グリッド）で検出した溝S D2024に沿う溝である。現在の字境溝の前身となる溝と考えられる。須恵器杯が出土した。なお、繩文土器が出土したが、流入と考えられる。平安時代と考えられる。

**S D2074** 調査区北部（H-Y23-K-F25グリッド）にかけて流れる溝である。幅約1m、深さ約35cmで、遺物の出土は弥生土器と考えられる小片が数点のみである。北西から南東の方向に延びるが、北東に向かって蛇行し、調査区外へと続く。弥生時代以降の溝で、古代より前に埋没したと考えられる。

## 中世

中世の遺構は掘立柱建物3棟、欄4条、井戸17基、溝5条、土坑8基である。中世においては、鎌倉時代と室町時代の遺構に若干の相違がみられる。掘立柱建物は、鎌倉時代では側柱建物が1棟、室町時代では総柱建物が2棟、また井戸に関しては、ほぼすべてが鎌倉時代であり、幅2mの区画溝は室町時代である。

### 掘立柱建物・欄

室町時代の総柱建物内には長方形の浅い土坑があり、建物内土坑と考えられる。また、区画溝と合わせて、屋敷地が想定される。

**S B2079**（第8図） 調査区北部（K-B19-K-C20グリッド）で検出した3間×2間の東西棟の側柱建物である。根石を伴う柱穴が2基ある。また他の柱穴から土師器鍋、山茶碗が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S B2080**（第8図） 調査区中央部（K-D23-K-E24グリッド）で検出した東西に3間、南北に3間以上で南に庇をもつ総柱建物である。建物内に土坑S K2028、S K2027があり、建物内土坑の可能性が考えられる。一番北側の桁は溝S D2007に切られていると考えられる。柱穴から土師器鍋、鉄鎌が出土した。室町時代と考えられる。

**S B2081**（第9図） 調査区中央部（K-D22-K-E23グリッド）で検出した3間×3間の総柱建物である。建物内にある土坑S K2032は建物内土坑と考えられる。柱穴から土師器皿が出土した。室町時代と考えられる。

### 欄・柱列

欄あるいは柱列と考えられるものが3基確認でき、根石を伴うものを柱列とした。根石が非常に浅い位置にあり、後世の攪乱で建物を構成する他の柱穴が削平された可能性がある。

**S A2082**（第9図） 調査区北部（K-B21-K-B22グリッド）で検出した柱列である。3基の柱穴はいずれも根石を伴い、間隔は180cm・240cmである。この構造と掘立柱建物を構成する柱穴がみあたらず、またこの根石の深さも浅いことから、後世の攪乱で削平された可能性が考えられる。出土した土師器が小片のため、中世であるものの、前・後期の判別は難しい。

**S A2083**（第9図） 調査区中央部（K-D25-K-F25グリッド）で検出した南北方向の欄である。出土した土師器が小片のため、中世であるものの、前・後期の判別は難しい。

**S A2084**（第9図） 調査区中央部（K-F23-K-F25グリッド）で検出した東西方向の柱列である。5基の柱穴のうち4基が根石を伴い、180cmの等間隔である。掘立柱建物を構成する柱穴が確認できなかつたが、根石の深さが浅いことから、後世の攪乱で削平された可能性が考えられる。出土した土師器が小片のため、中世であるものの、前・後期の判別は難しい。

**S A2085**（第9図） 調査区北部（K-B19-K-A21グリッド）で検出した欄である。掘立柱建物S B2079の北側柱通りに並行する。柱穴から土師器、山茶碗が出土した。鎌倉時代と考えられる。

## 井戸

19基を検出した。鎌倉時代のものが16基、室町時代のものが3基である。またすべてについて、井戸枠は抜き取られている。

**S E 2005** (第10図) 調査区北部 (K-A23グリッド) で検出した直径2mの円形の井戸である。上層4層までが砂質土で、深さ約1mの5層粘質土より曲物が出土し、この深さで湧水点に達した。曲物は2段になっており、曲物底部の深さは約1.5mである。埋土は9層より還元色となる。土師器皿が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2031** (第10図) 調査区中央部 (K-E24・K-F24グリッド) で検出した一辺3mの正方形の井戸である。上層は黄褐色系のシルトで、下層は還元色シルトとなる。また下層から木片が散乱した状態で出土し、山茶碗が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2034** 調査区北部 (K-C22・K-D22グリッド) で、溝SD2007の下層から検出した直径約1.2mの井戸である。土師器鍋が出土した。室町時代と考えられる。

**S E 2035** 調査区中央部 (K-F23グリッド) で検出した直径1mの円形の井戸である。埋土は上層が砂質土で、下層は粘質土である。また深さ約45cmで砂礫層に達し、湧水がある。土師器皿が出土した。室町時代と考えられる。

**S E 2037** 調査区中央部 (K-E22グリッド) で検出した直径1.3m、深さ約1mの円形の井戸である。木器類は確認できず、6形式<sup>④</sup>の山茶碗が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2040** (第10図) 調査区中央部 (K-I23グリッド) で検出した直径約1.6mの円形の井戸である。上層(1~3層)は黄褐色の砂質土、中層(4層)は褐色の粘質土、下層(11~12層)は還元色の粘質土である。下層には曲物が2段に積まれている。標高約2.5mで粗砂層となり、湧水点に達する。ほぼ完形の山茶碗が上層で1点、中層で2点、下層の曲物外で3点、出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2046** (第10図) 調査区中央部 (K-F22グリッド) で検出した直径1mの円形の井戸である。溝SD2033に切かれている。埋土上層は黄褐色系の砂質土で、下層は黄褐色系の粘質土となる。下層で大型

の土師器鍋が出土した。鍋は底部が大きく穿孔されており、水溜として使用されたと考えられる。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2047** 調査区中央部 (K-J24グリッド) で検出した井戸である。溝SD2056に切られており、東半分が調査区外であるため、その規模は不明である。室町時代の土師器が出土したが、これは、SD2056を同時に掘削した可能性が考えられる。

**S E 2048** (第11図) 調査区北部 (K-C21グリッド) で検出した直径2.5mの円形の井戸である。遺構が複雑に重複しており、遺構上面を平面で検出することが困難であったため、完掘状況の地山の輪郭から規模と形状を判断した。深さ約1.3mで曲物が出土し、約1.5mで砾層に達し、この深さで湧水点となる。曲物は2段になっている。墨書きはじめ、5形式の山茶碗が多量に出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2049** (第11図) 調査区南部 (K-L23グリッド) で検出した直径約2mの円形の井戸である。井戸SE2055を切っている。埋土は、上層は褐色系の砂質土で、下層は褐色系の粘質土である。深さ約1mで曲物が出土し、その高さで砾層に達し、湧水する。山茶碗が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2052** (第11図) 調査区南部 (K-L23グリッド) で検出した直径約1.2mの円形の井戸である。井戸枠および曲物は確認できず、標高3mで青灰色の砂質シルト層に達した。下層(5層)の明黄褐色粘質土層ではほぼ完形の土師器の羽釜、鍋が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2054** (第12図) 調査区中央部 (K-G23グリッド) で検出したやや楕円形の井戸である。溝SD2041に切られており、全体の形状と規模は不明であるが、長径約4m、短径約3mと考えられる。曲物は確認できなかったが、下層の還元色粘土層で建築部材が出土した。5形式<sup>④</sup>の山茶碗が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2055** (第11図) 調査区南部 (K-L23グリッド) で検出した直径約2.5mの円形の井戸である。井戸SE2049に切かれている。上層は黄褐色の砂質土で、下層は褐色の粘質土となる。最下層で還元色の粘土層となりSE2049の曲物より深い位置で曲

物が出土した。出土した曲物の上面の高さは湧水点の礫層より約10cm深い。土師器小片が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2062** (第12図) 調査区南部 (K - P 22グリッド) で検出した直径約1mの円形の井戸である。井戸は還元色のシルト層まではほぼ垂直に掘られており、井戸枠および曲物は確認できなかった。土師器鍋が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2067** (第12図) 調査区北部 (K - C 21グリッド) で検出した直径1.3mの円形の井戸である。遺構が複雑に重複しており、遺構上面を平面で検出することが困難であったため、完掘状況の地山の輪郭から規模と形状を判断した。標高約23mの高さで直径70cmの礫を楔とともに確認し、標高約1.9mで曲物が出土した。曲物は2段である。埋土は、上層は暗青灰色砂質土で中層から還元色の様相を呈しており、曲物下段の底部で湧水点に達する。山茶椀とともに釣瓶の底板が曲物内から出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2072** 調査区中央部 (K - F 22グリッド) で検出した直径1.2m、深さ約1mの円形の井戸である。井戸枠および曲物は確認できず、標高約3mで湧水点に達する。井戸は、湧水点まではほぼ垂直に掘られている。土師器皿が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2075** 調査区北部 (K - C 21グリッド) で検出した円形の井戸である。溝 S D 2019を切っているが、上層で明瞭な掘形が確認できなかった。下層で直径48cmの曲物が出土した。5形式<sup>(1)</sup>の墨書きのある山茶椀が出土しており、鎌倉時代と考えられる。

**S E 2076** 調査区北部 (K - C 21グリッド) で検出した井戸である。遺構が複雑に重複しており、遺構上面を平面で検出することが困難であった。掘削時に還元色粘質シルトが円形で確認できたが、湧水が激しく、その規模を確認することができなかった。直径50cmの曲物、5形式<sup>(1)</sup>の山茶椀が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S E 2077** 調査区北部 (K - C 21グリッド) で検出した井戸である。遺構が複雑に重複しており、遺構上面を平面で検出することが困難であった。下層の還元色粘質シルトで、直径47cmの曲物が出土した。

S E 2067より古い。また5形式<sup>(1)</sup>の山茶椀が出土した。鎌倉時代と考えられる。

#### 溝

15条を検出した。鎌倉時代のものは4条で、いずれも幅が60cm程度の小規模なものである。室町時代のものは、幅2mの東西方向の区画溝3条を含め、11条で、溝の向きは概ね東西か南北に延びており、また同時に、調査区西の字境の溝を意識する位置に造られている。

**S D 2010** 調査区北部 (K - B 20・K - B 21グリッド) で検出した幅50cm、深さ約12cmの東西に延びる溝である。西端で溝 S D 2021と合流する。山茶椀が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S D 2017** 調査区北部 (K - B 20グリッド) で検出した幅1m、深さ約50cmの南北に延びる溝である。北部は調査区外に続く。埋土は上層がにぶい黄褐色砂質土で、下層が灰黄褐色粘質土である。山茶椀が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S D 2021** 調査区北部 (K - B 20グリッド) で検出した幅1m、深さ約60cmの南北に延びる溝である。埋土は上層がにぶい黄褐色砂質土で、下層は粘質土である。S D 2006より古い。土師器小片が出土した。

**S D 2033** 調査区中央部 (K - E 22グリッド) で検出した幅60cmの南北に延びる溝である。S E 2039・S K 2064、S D 2030、S E 2046より新しい。土師器鍋が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S D 2066** 調査区南部 (K - P 24・K - Q 24グリッド) で検出した幅30cm、長さ2.6mの東西に延びる溝である。埋土は灰色砂質土で、山茶椀が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S D 2001** (第13図) 調査区中央部 (K - H 24・K - I 24) を南北方向に延び、北端を溝 S D 2041に切れられ、南端は調査区外へと続く幅2m以上、深さ約1.4mの溝である。東岸が調査区外であるため、規模は不明である。土師器鍋が出土した。室町時代と考えられる。なお、木杭がS D 2041との境でS D 2001の流れを狹めるように打たれている。

**S D 2002** 調査区北部 (L - A 1グリッド) で検出した。幅90cm、深さ約17cmの東西に延びる溝である。S D 2003・S D 2004より新しい。埋土は灰黄褐色砂質土で、粗砂が混ざる。瓦質の火鉢が出土した。

室町時代と考えられる。

**S D 2003** (第13図) 調査区北部 (H-X25~L-A1グリッド) で検出した幅1.5m深さ約60cmの南北に延びる溝である。S D 2002より古い。北端と南端が調査区外のため、規模は不明であるが、S D 2006との埋土に明瞭な境がないため、同時期のものであるかもしれない。下層から鎌倉時代の土師器が、上層から室町時代の土師器皿・鍋・羽釜、陶器鉢皿が出土した。鎌倉時代から室町時代にかけての溝と考えられる。なお、下層からも室町時代の鍋の口縁部が出土したが、掘削時に上層のものを取り上げたと考えられる。

**S D 2004** 調査区北部 (K-A25~L-A1グリッド) で検出した幅50cm、深さ約5cmの南北に延びる溝である。埋土は褐灰色砂質土である。出土した土師器が小片のため時期の特定は難しい。溝 S D 2002より古い。

**S D 2006** 調査区北部 (L-A1~K-C20グリッド) で検出した幅50cm、深さ約30cmの東西に延びる溝である。東端は溝 S D 2003に当たり、埋土に明瞭な境がないため、同時期のものであるかもしれない。土師器鍋が出土した。室町時代と考えられる。

**S D 2007** 調査区北部 (K-D21~L-C1グリッド) で検出した幅2m、深さ約80cmの東西に延びる溝である。西端はK-D21グリッドで止まり、東は調査区外へと続く。埋土は上層がにぶい黄橙色砂質土で、下層は褐灰色粘質土である。調査区外でS D 2003につながる可能性が考えられる。瓦質の火鉢が出土した。室町時代と考えられる。

**S D 2008** (第13図) 調査区北部 (H-Y22~K-C22グリッド) で検出した幅50cm、深さ約30cmの南北に延びる溝である。南端はK-C22グリッドで止まり、北端は調査区外へと続く。溝 S D 2006に切られているが、ほぼ同時期のものと考えられる。土師器皿が出土した。室町時代と考えられる。

**S D 2012** (第13図) 調査区北部 (K-C21~K-B25グリッド) で検出した幅1m、深さ約70cmの東西に延びる溝である。東端はK-B25グリッドで止まり、平面は方形である。埋土はにぶい黄橙色砂質土で、瓦質の火鉢が出土した。室町時代と考えられる。

**S D 2016** 調査区北部 (K-B19~K-C20グリッド) で検出した北西から南東に延びる幅40cm、深さ約60cmの溝である。K-C19グリッドで溝 S D 2024にあたっている。K-B19グリッドで土師器皿が出土した。室町時代と考えられる。

**S D 2018** 調査区北部 (K-B21~K-B22グリッド) で検出した幅40cm、深さ約10cmの東西に延びる溝である。埋土は褐灰色砂質土である。土師器皿が出土した。室町時代と考えられる。

**S D 2024** (第7図) 調査区東端部で検出した第1次調査区との境溝にあたる南北に延びる溝である。K-C18グリッド付近で最下層は褐灰色砂質土となり、出土遺物は中世以降のものである。K-E21グリッド、K-J21グリッドでは、さらにその下層で黒褐色粘質土の埋土がみられ、古代から中世の土器が出土した。現在における字境溝として形成されたのは中世と考えられる。東西に延びる3条の区画溝 (S D 2007・S D 2041・S D 2056) がS D 2024に接していないことから、道路として使用された可能性も考えられるが、土層断面からはその痕跡は見出せない。

**S D 2026** (第13図) 調査区中央部 (K-D22~L-C1グリッド) で検出した幅50cm、深さ約30cmの東西に延びる溝である。東端は調査区外へと続く。埋土はにぶい黄橙色砂質土である。土師器鍋が出土した。室町時代と考えられる。

**S D 2041** (第13図) 調査区中央部 (K-G22グリッド~K-G25グリッド) で検出した幅2m、深さ約85cmの東西に延びる溝である。西端は、平面が方形を呈し、東は調査区外へと続く。上層はにぶい黄橙色砂質土で、下層は暗赤褐色砂質土となり樹木が混ざる。上層から常滑の練鉢が出土した。室町時代と考えられる。

**S D 2042** (第13図) 調査区中央部 (K-I22~K-J22グリッド) で検出した幅60cm、深さ約55cmの南北に延びる溝である。土師器鍋が出土した。室町時代と考えられる。

**S D 2043** 調査区中央部 (K-I23~K-M22グリッド) で検出した幅60cm、深さ約50cmの南北に延びる溝である。溝 S D 2056より古く、溝 S D 2044・溝 S D 2050・溝 S D 2053より新しい。土師器鍋が出



第4図 遺構平面図(1:300)

調查区東壁土層斷面

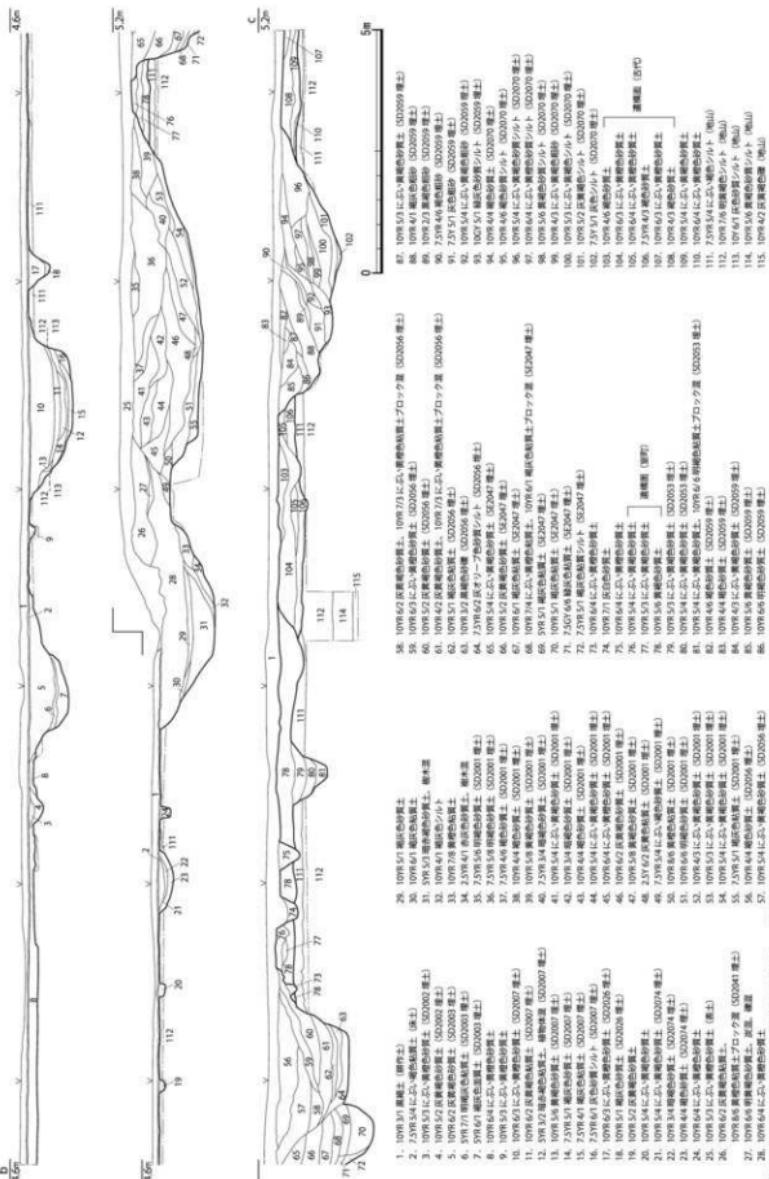
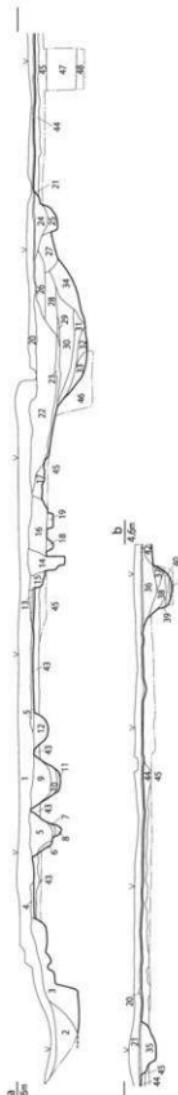


図5 椰子島調査区東壁土層断面図 (1:100)

調査区北壁土層断面



1. 1098.64に於ける黒褐色砂質土。(透土)
2. 1098.62に於ける黒褐色砂質土。(透土)
3. 1098.56 黒褐色砂質土。
4. 1098.56 黒褐色砂質土。
5. 1098.56 黒褐色砂質土。
6. 1098.46 黒褐色砂質土。(透土)
7. 1098.42 黒褐色砂質土。(透土)
8. 1098.42 黒褐色砂質土。(透土)
9. 1098.42 黒褐色砂質土。(透土)
10. 1098.42 黒褐色砂質土。(透土)
11. 1098.42 黒褐色砂質土。(透土)
12. 1098.42 黒褐色砂質土。(透土)
13. 1098.42 黒褐色砂質土。(透土)
14. 1098.42に於ける黒褐色砂質土。(透土)
15. 1098.42 黒褐色砂質土。透視
16. 1098.42に於ける黒褐色砂質土。透視

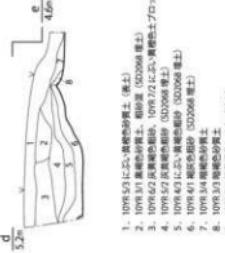
17. 1098.78 黒褐色砂質土。1098.52 黑褐色砂質土。
18. 1098.46 黑褐色砂質土。1098.66 黑褐色砂質土。
19. 1098.56 黑褐色砂質土。
20. 1098.37 黑褐色砂質土。(透土)
21. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。
22. 1098.53に於ける黒褐色砂質土。
23. 1098.53に於ける黒褐色砂質土。透視
24. 1098.53に於ける黒褐色砂質土。
25. 1098.52 黑褐色砂質土。
26. 1098.52 黑褐色砂質土。
27. 1098.53に於ける黒褐色砂質土。
28. 1098.44 黑褐色砂質土。
29. 1098.43に於ける黒褐色砂質土。
30. 1098.46 黑褐色砂質土。
31. 1098.61 黑褐色砂質土。
32. 1098.61 黑褐色砂質土。
33. 1098.61 黑褐色砂質土。
34. 1098.51に於ける黒褐色砂質土。(透土)
35. 1098.49に於ける黒褐色砂質土。
36. 1098.49に於ける黒褐色砂質土。
37. 1098.49に於ける黒褐色砂質土。
38. 1098.49に於ける黒褐色砂質土。
39. 1098.52 黑褐色砂質土。
40. 1098.54 黑褐色砂質土。
41. 1098.72に於ける黒褐色砂質土。
42. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。
43. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。
44. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。
45. 1098.76 黑褐色砂質土。
46. 23.9mに於ける黒褐色砂質土。
47. 1098.56 黑褐色砂質土。
48. 1098.42 黑褐色砂質土。

調査区南端部北壁土層断面



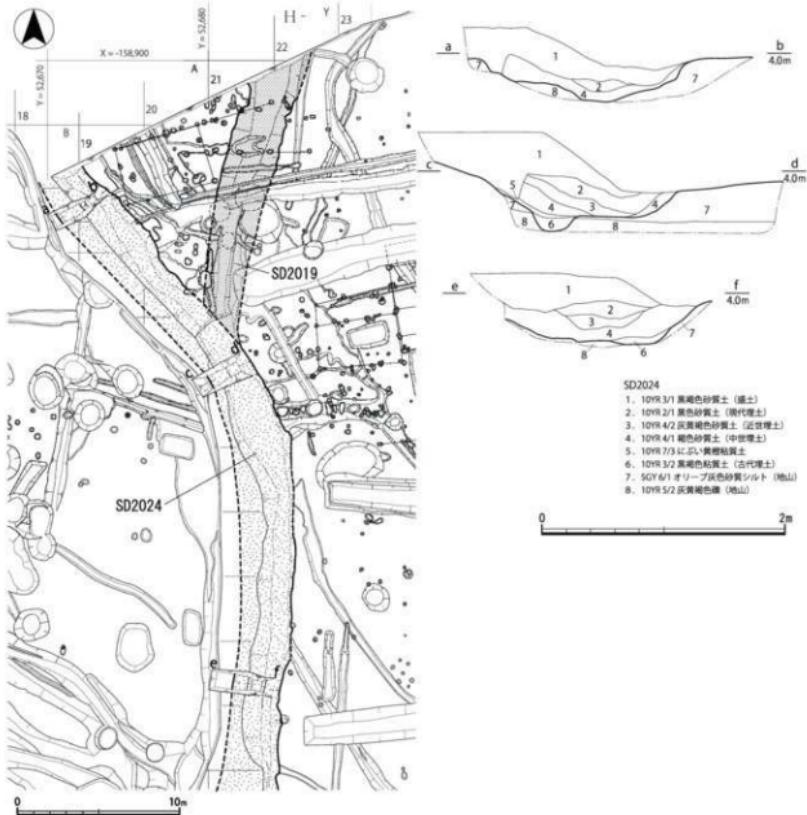
1. 1098.53に於ける黒褐色砂質土。(透土)
2. 1098.62に於ける黒褐色砂質土。
3. 1098.52 黑褐色砂質土。
4. 1098.43に於ける黒褐色砂質土。
5. 1098.43に於ける黒褐色砂質土。
6. 1098.51 黑褐色砂質土。
7. 1098.51に於ける黒褐色砂質土。
8. 1098.43 黑褐色砂質土。
9. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。
10. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。
11. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。
12. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。

調査区南端部東壁土層断面



1. 1098.53に於ける黒褐色砂質土。(透土)
2. 1098.51 黑褐色砂質土。透視
3. 1098.52 黑褐色砂質土。
4. 1098.43に於ける黒褐色砂質土。
5. 1098.43に於ける黒褐色砂質土。
6. 1098.43に於ける黒褐色砂質土。
7. 1098.43に於ける黒褐色砂質土。
8. 1098.33 黑褐色砂質土。
9. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。
10. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。
11. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。
12. 1098.54に於ける黒褐色砂質土。

第6図 調査区北壁・南端部北壁・南端部東壁土層断面図(1:100)



第7図 個別遺構実測図① (1:300) (土層断面図は1:40)

土した。室町時代と考えられる。

**S D 2056** 調査区南部 (K - K22~K - K24グリッド) で検出した幅2m、深さ約1.4mの東西に延びる溝である。西端は平面が方形を呈し、東は調査区外へと続く。埋土は上層がにぶい黄褐色砂質土で、下層は粘質土ブロックが混ざり、灰オリーブ色砂質シルトである。土師器皿、土師器羽釜が出土した。室町時代と考えられる。

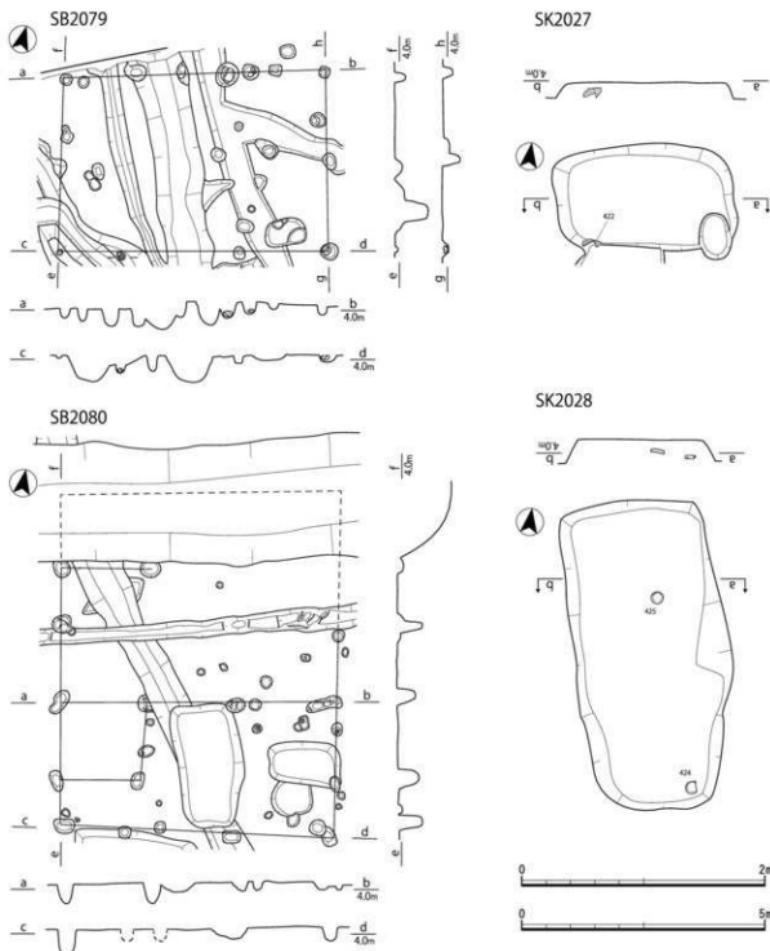
#### 土坑

14基を検出した。円形を呈するものが数基あるも

の、全体として長方形を呈するものが多い。掘立柱建物内のものはその形状、深さから建物内土坑であると考えられる。

**S K 2011** 調査区北部 (K - A21グリッド) で検出した深さ約20cmの土坑である。北側が調査区外のため規模は不明である。埋土は暗褐色砂質土に粗砂が混ざる。山茶碗が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S K 2014** 調査区北部 (K - A21グリッド) で検出した。土坑としたが、規模は小さく、調査区外に続いたため、性格は不明である。埋土は褐色砂質土に

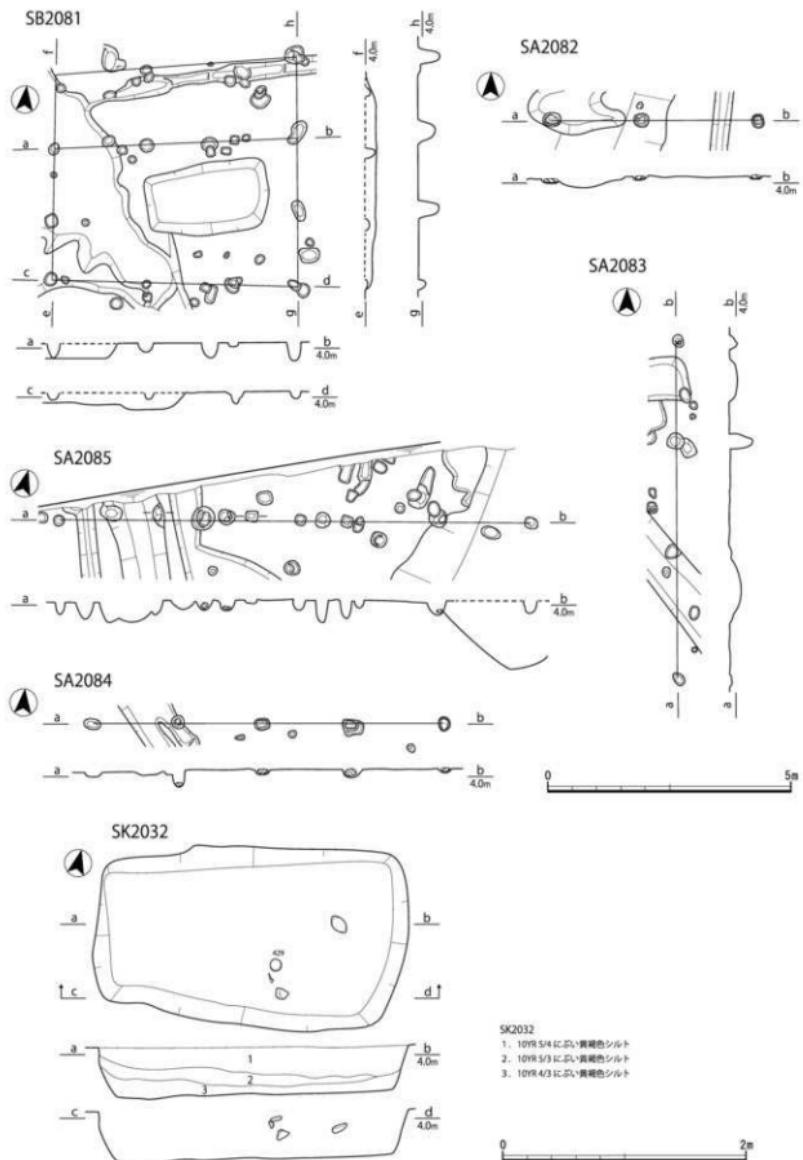


第8図 個別遺構実測図② (1:100) (SK2027・SK2028は1:40)

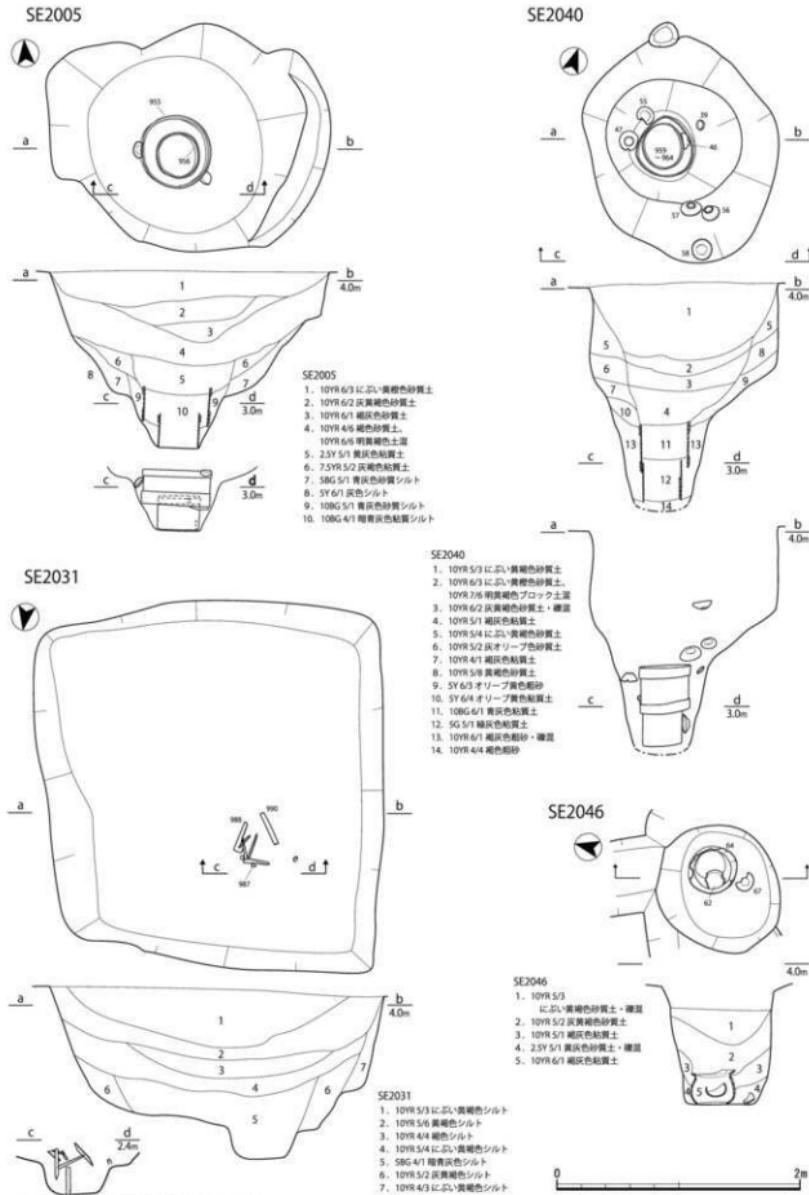
明黄褐色土ブロックが混ざる。土師器鍋が出土した。室町時代と考えられる。

**SK2015** 調査区北部 (K-B20グリッド) で検出した深さ約18cmの土坑である。下層から2基のピットを検出した。山茶椀が出土した。鎌倉時代と考えられる。

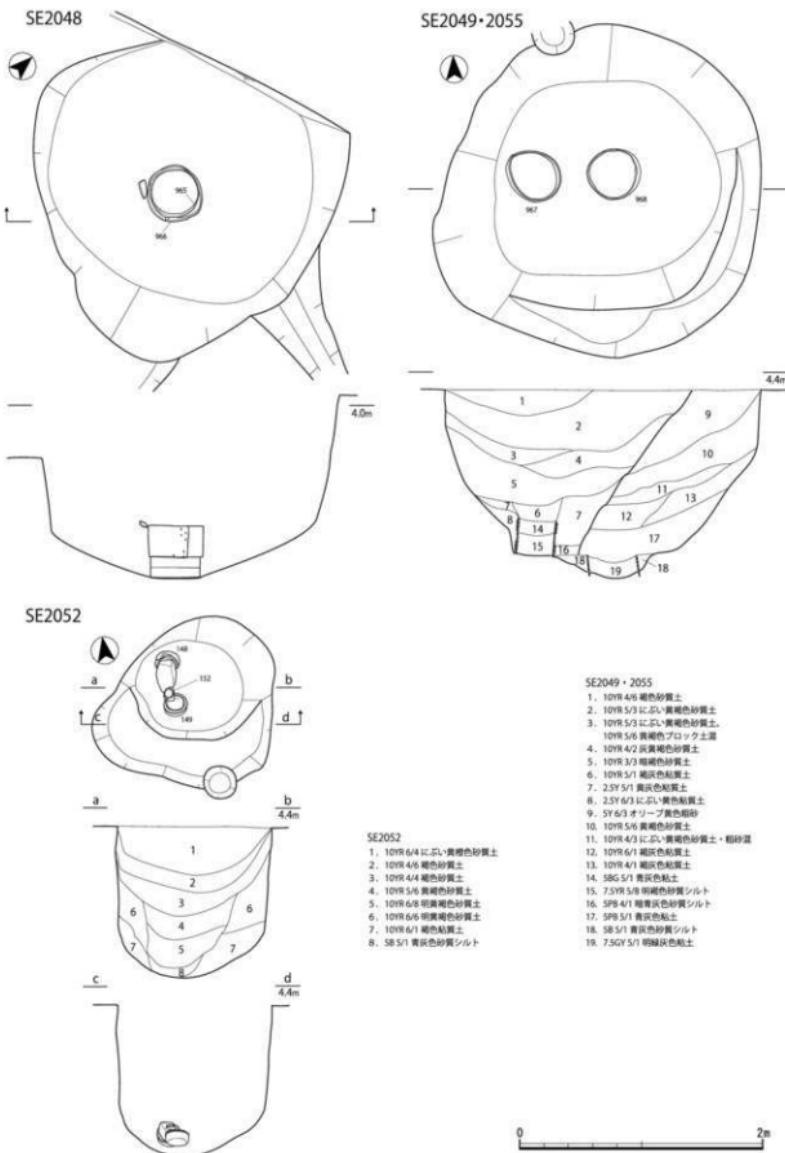
**SK2027** (第8図) 調査区中央部 (K-D25・K-E25グリッド) で検出した長辺15m、短辺80cm、深さ約13cmの長方形の土坑である。掘立柱建物SB2080の南東隅に位置している。埋土は暗褐色砂質土の単層で、土師器鍋が出土した。室町時代と考えられる。



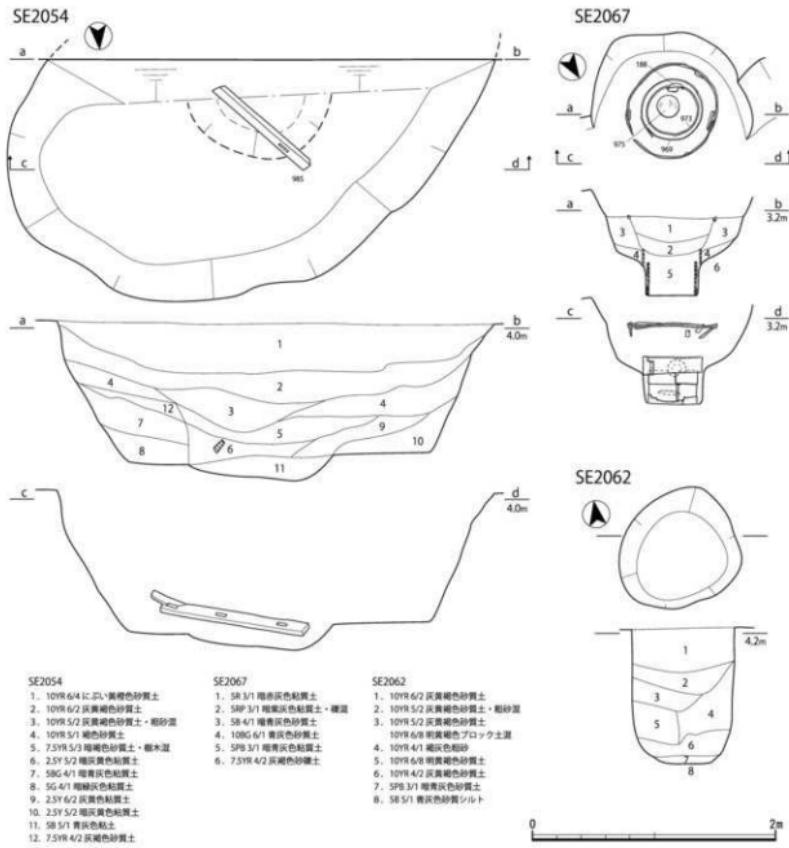
第9図 個別遺構実測図③ (1:100) (SK2032は1:40)



第10図 個別遺構実測図④ (1 : 40)



第11図 個別遺構実測図⑤ (1 : 40)



第12図 個別遺構実測図⑥ (1:40)

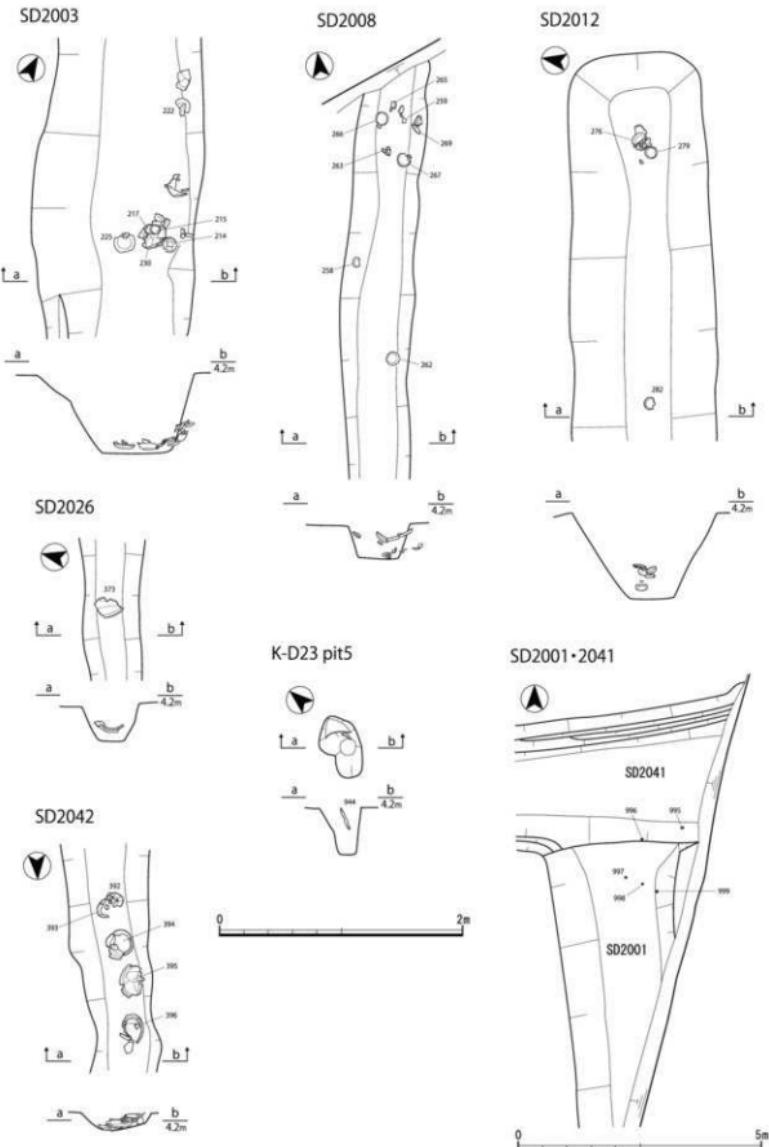
**S K 2028** (第8図) 調査区中央部 (K-E24グリッド) で検出した長辺25m、短辺18m、深さ約14cmの長方形の土坑である。掘立柱建物 S B 2080内に位置している。埋土は暗褐色砂質土の単層で、完形の土師器皿が出土した。室町時代と考えられる。

**S K 2029** 調査区中央部 (K-C22・K-C23グリッド) で検出した短辺15m、深さ約14cmの長方形の土坑である。溝 S D 2007に切られているため長辺の規模は不明である。山茶楕が出土した。鎌倉時代と

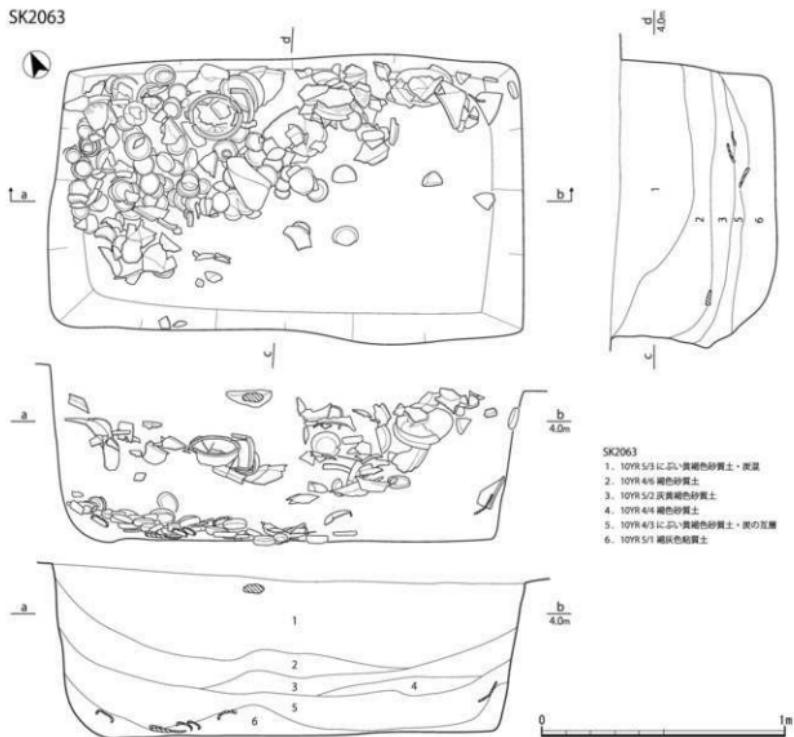
考えられる。

**S K 2032** (第9図) 調査区中央部 (K-E23グリッド) で検出した長辺25m、短辺19m、深さ約38cmの長方形の土坑である。掘立柱建物 S B 2081内に位置している。埋土は3層からなるにぶい黄橙色砂質土の3層で、上層で完形の土師器皿が出土した。室町時代と考えられる。

**S K 2036** 調査区北部 (K-D20・K-D21グリッド) で検出した長辺1m、短辺70cmの楕円形の土坑である。埋土は暗褐色砂質土で、溝 S D 2039より新



第13図 個別遺構実測図⑦ (1:40) (S D2001・SD2041は1:100)



第14図 個別遺構実測図⑧ (1:20)

しい。山茶碗が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S K 2038** 調査区中央部 (K - F22グリッド) で検出した深さ約18cmの溝状の土坑である。土師器皿が出土した。室町時代と考えられる。

**S K 2045** 調査区南部 (K - M22グリッド) で検出した長径1m、短径70cm、深さ約65cmの楕円形の土坑である。埋土は灰色砂質土で、土器の出土はわずかである。土師器鍋の体部小片が出土した。

**S K 2063** (第14図) 調査区南部 (K - O21・K - P21グリッド) で検出した長辺2m、短辺1m、深さ約65cmの長方形の土坑である。掘形は、底面からほぼ垂直に立ち上がる。室町時代後期の土器が多量に出土した。上層は厚さ約30cmのにぶい黄褐色砂質

土で、炭が混ざり、土師器の鍋類が多量に出土した。その下に厚さ約20cmの炭が混ざらない褐色砂質土がある。さらにその下に厚さ約10cmの砂質土と炭の互層となり、土師器皿が多量に出土した。最下層は褐灰色粘質土となる。室町時代と考えられる。なお、銭貨「乾元重寶」が出土した。

**S K 2064** 調査区中央部 (K - E22グリッド) で検出した土坑である。大半を溝S D2033で切られているため、規模は不明である。土師器鍋が出土した。鎌倉時代と考えられる。

**S K 2069** 調査区南部 (K - Q23グリッド) で検出した1辺が1.3mの方形の土坑で、南端は調査区外となる。土師器皿が出土した。室町時代と考えら

遺物名	グリッド	ピット番号	ピット遺物の時期	遺物時期	埋積(東西m×南北m)	主軸	方位 (N基準)	備考
S B2079	K-B19	p i t 4	土師器皿(II a)	鎌倉時代	3 (5, 4) × 2 (3, 6)	東西	N 16° W	
	K-B20	p i t 4	土師器皿(II a), 山茶碗					
	K-B20	p i t 6	山茶碗, 土師器小片					
	K-B21	p i t 4	陶器鉢, 土師器小片					
S B2080	K-B23	p i t 1	土師器皿(III a)	室町時代	3 (5, 6) × 4 ? (5, 4以上)	東西	N 12° W 南面庇	
	K-B23	p i t 5	山茶碗, 鉢縁					
	K-B23	p i t 9	土師器皿(III a)					
	K-B24	p i t 1	土師器小片, 山茶碗					
	K-B24	p i t 4	土師器小片					
	K-B25	p i t 4	土師器皿(III a), 山茶碗					
	K-B25	p i t 2	土師器小片, 山茶碗					
S B2081	K-B25	p i t 6	土師器皿	室町時代	3 (4, 4) × 3 (4, 6)	東西	N 10° W	
	K-B25	p i t 7	土師器小片, 頸壺器片					
	K-B25	p i t 1	土師器小片					
	K-B25	p i t 5	土師器小片					
	K-B25	p i t 2	土師器小片					
S A2082	K-B21	p i t 3	土師器小片	中世	2 (4, 3)	東西	N 2° W	
	K-B21	p i t 2	土師器小片					
S A2083	K-B25	p i t 7	土師器小片	室町時代	3 (7, 0)	南北	N 1° W	
	K-B25	p i t 3	土師器小片					
S A2084	K-E24	p i t 2	土師器小片	中世	3 (7, 2)	東西	N 6° W	
	K-E25	p i t 2	土師器小片					
S A2085	K-A21	S K2009	土師器小片	鎌倉時代	5 (7, 4)	東西	N 16° W	
	K-A21	p i t 8	土師器小片					
	K-B19	p i t 2	土師器小片					
	K-B20	p i t 3	土師器小片, 山茶碗					

第1表 遺構一覧表①

れる。

**S K2078** 調査区北部 (K - B21グリッド) で検出した深さ約20cmの不整形の土坑である。埋土は褐砂質土で、土師器小片が出土した。

#### [註]

- ① 藤澤良祐「総論」「愛知県史 別編 中世・近世瀬戸系 窯業2」愛知県史編さん委員会(2007年)

遺構番号	性 格	時期	地区	グリッド	備考
S D2001	溝	室町時代	K	H24・H25・I 24	S D2041より古い。
S D2002	溝	室町時代	L	A1	S D2003・S D2004より新しい。
S D2003	溝	中世	I	X1・Y1	S D2002より古い。 S D2006と同時期か。
S D2004	溝	不明	K	A25	S D2002より古い。
S E2005	井戸	鎌倉時代	K	A23	
S D2006	溝	室町時代	K	B21～B25	S D2074より新しい。
S D2007	溝	室町時代	K	D21～C25	S K2029・S D2074より新しい。
S D2008	溝	室町時代	K	A22～C22	S D2006・S D2012・S D2018より古い。
S K2009	土坑	平安時代	K	A21	S D2019より新しい。 S A2065の柱穴。
S D2010	溝	鎌倉時代	K	B20～B21	
S K2011	土坑	鎌倉時代	K	A21	S D2019より新しい。
S D2012	溝	室町時代	K	B21～B25	
S K2013	土坑	鎌倉時代	K	A21	
S K2014	土坑	室町時代	K	A21	
S K2015	土坑	鎌倉時代	K	B20	S D2021より新しい。 S D2006より古い。
S D2016	溝	室町時代	K	C19	
S D2017	溝	鎌倉時代	K	B20	
S D2018	溝	室町時代	K	B21・B22	S D2008・S D2019より新しい。
S D2019	溝	平安時代	K	A21～D21	
S D2020	溝	不明	K	A25	S D2006より古い。
S D2021	溝	鎌倉時代	K	B20	S K2015より古い。
S D2022	溝	中世	K	B19～C20	
S K2023	土坑	鎌倉時代	K	C20	
S D2024	溝	～室町時代	K	C19～P19	現代の字塗溝。
欠番	—	—	—	—	
S D2026	溝	室町時代	K	D22～D25	S D2061・S D2074より新しい。
S K2027	土坑	室町時代	K	D25・E25	
S K2028	土坑	室町時代	K	D25・E25	S D2074より新しい。
S K2029	土坑	鎌倉時代？	K	C22・C23	S D2007より古い。
S D2030	溝	平安時代	K	F22・F23	S D2033・S E2035・S E2046より古い。
S E2031	井戸	鎌倉時代	K	E24・F24	
S K2032	土坑	室町時代	K	E23	S D2061より新しい。
S D2033	溝	鎌倉時代	K	E22・F22	S E2034・S K2064・S D2061・S E2046より新しい。
S E2034	井戸	室町時代	K	C22・D22	S D2007の下層より検出。
S E2035	井戸	室町時代	K	F23	S D2030より新しい。
S K2036	土坑	鎌倉時代	K	D20・D21	S D2039より新しい。
S E2037	井戸	鎌倉時代	K	E22	S D2033より古い。
S K2038	土坑	室町時代	K	F22	
S D2039	溝	鎌倉時代	K	D21	S K2036より古い。
S E2040	井戸	鎌倉時代	K	I23	
S D2041	溝	室町時代	K	G22～G25	S D2001・S E2054より新しい。

第2表 遺構一覧表②

遺構番号	性 格	時 期	地 区	グ リッド	備 考
S D2042	溝	室町時代	K	I 22・J 22	S D2053より新しい。
S D2043	溝	室町時代	K	I 23～M 22	S D2044・S D2056・S D2050・S D2059より新しい。
S D2044	溝	平安時代？	K	G 22～J 23	S D2056より古い。
S K2045	土 坑	鎌倉時代	K	M22	S D2059より新しい。
S E2046	井戸	鎌倉時代	K	F 22	S D2030より新しい。S D2033より古い。
S E2047	井戸	鎌倉時代？	K	J 24	S D2056より古い。
S E2048	井戸	鎌倉時代	K	C21	S E2019より新しい。
S E2049	井戸	鎌倉時代	K	L 23・M 23	S E2055より新しい。
S D2050	溝	不明	K	L 22・M 23	S D2043より古い。
欠番	—	—	—	—	
S E2052	井戸	鎌倉時代	K	L 23	S D2053より新しい。
S D2053	溝	～古代	K	J 22～L 23	S E2052より古い。
S E2054	井戸	鎌倉時代	K	G 22・G 23	S D2041より古い。
S E2055	井戸	鎌倉時代	K	L 23・M 23	S E2049より古い。
S D2056	溝	室町時代	K	K22～K24	S D2043より古い。S D2053より新しい。
欠番	—	—	—	—	
欠番	—	—	—	—	
S D2059	溝	古代か	K	L 22～N 23	S D2043・S K2045より古い。S D2070より新しい。
S D2060	溝	鎌倉時代	K	D20	
S D2061	溝	平安時代末期	K	E22	S K2033・S D2026より古い。
S E2062	井戸	鎌倉時代	K	P22	
S K2063	土 坑	室町時代	K	O21・P21	S D2065より新しい。
S K2064	土 坑	鎌倉時代	K	E22	S D2033より古い。
S D2065	溝	不明	K	O21～Q22	S K2063より古い。
S D2066	溝	鎌倉時代	K	P24・Q24	S D2068より古い。
S E2067	井戸	鎌倉時代	K	C20・C21	S D2012より古い。S D2019より新しい。
S D2068	溝	不明	K	P24・Q24	S D2059と同一か。
S K2069	土 坑	室町時代	K	Q23	
S D2070	溝	～古代	K	M21～Q23	S D2059・S D2073より古い。
S D2071	溝	～古代	K	O20～Q21	S D2073より古い。
S E2072	井戸	室町時代	K	F22	
S D2073	溝	～古代	K	M21～P19	S D2070・S D2071より新しい。
S D2074	溝	弥生時代か	K	A22～F25	
S E2075	井戸	鎌倉時代	K	C21	S D2019より新しい。
S E2076	井戸	鎌倉時代	K	C21	S D2019より新しい。
S E2077	井戸	鎌倉時代	K	C21	S D2019より新しい。
S K2078	土 坑	鎌倉時代か	K	B21	S D2019より新しい。

第3表 遺構一覧表③

## IV 遺 物

### 1 概要

今回の調査で出土した遺物は、大部分が古代・中世のものである。古代のものは溝からの出土が多く、縄文陶器の香炉や須恵器獸脚付壺など、特徴のあるものがみられる。鎌倉時代のものは陶器山茶碗が多く、そのほとんどは井戸からの出土である。室町時代のものは溝・土坑からの出土で、土坑S K2063から出土したものは、ほとんどが土師器の鍋や皿で、今回の調査の約半数を占める点数がみられた。若干であるが繩文土器も出土しており、その出土地点は調査区の南部にある溝S D2070・溝S D2071付近に集中している。ほかにも古墳時代中期のものも、少量であるが出土している。

なお、この遺跡の主体を占める古代の遺物については、近在する斎宮と類似する資料があるため、斎宮の編年<sup>①</sup>に、中世の南伊勢系土師器については、伊藤裕作氏の編年<sup>②</sup>に、中世の陶器については、藤澤良祐氏の編年<sup>③</sup>により記述する。なお、文末に土器編年区分表を示している。

### 2 出土遺物

**縄文土器（1～10）** 1～10は中期後葉に相当する縄文土器である。1は隆帯で区画され、区画内に文様がみられる。2は突帶で区画され、区画内に沈線による文様が描かれる。3は口縁部直下に突帶がみられ、5は沈線による文様が確認できる。6は沈線による区画内に斜め方向の沈線が並行して描かれる。7・8は八の字状の沈線が描かれる。9は平行した沈線で、10は突帶である。

**S B2079出土遺物（11・12）** 11は土師器鍋の口縁部小片である。口縁端部の折り返しの形状から、南伊勢中世II a期（以下「南伊勢」を省略）であろうか。12は陶器山茶碗の口縁部である。

**S B2080出土遺物（13～15）** 13は土師器鍋の口縁部小片である。口縁端部の折り返しの形状から、中世III a期と考えられる。14は陶器山茶碗の底部で、第5形式である。15は土師器皿で口径から中世III期と考えられる。

**S B2081出土遺物（16・17）** 16は土師器皿で、口径から中世III期と考えられる。17は土師器小皿である。

**S A2085出土遺物（18）** 18は土師器皿で、斎宮第III期2段階である。

**S E2005出土遺物（19～33）** 19～21は土師器皿で、口径から、19は中世III b期のものであるが、上層造構を同時に掘った可能性が考えられる。20・21は中世II b期のものである。22・23は土師器鍋で、22は小型のものである。24～32は陶器山茶碗で、24は尾張型第5形式、25・26は渥美型第5形式、27は第6形式、28～32は尾張型第6形式である。30は底部外面に「+」の墨書きがみられる。33は陶器壺である。

**S E2034出土遺物（34）** 34は土師器鍋で、中世II b期のものである。

**S E2035出土遺物（35・36）** 35・36は土師器で、35は皿、36は壺である。ともに斎宮第III期1段階に相当するものであろうか。

**S E2037出土遺物（37）** 37は陶器山茶碗である。

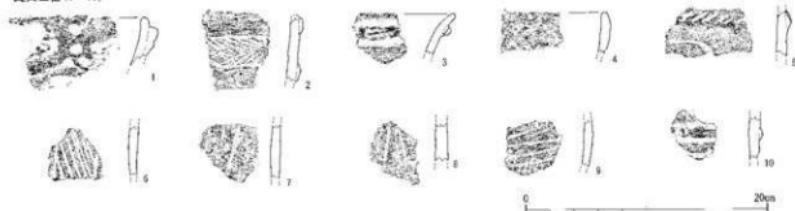
**S E2040出土遺物（38～58）** 38～43は土師器で、38・39は小皿である。40～42は皿で、40は斎宮第III期2段階のもの、41は中世II a期、42は中世II b期のものである。43は鍋で、中世II a期のものである。44～58は陶器山茶碗で、44は尾張型、45～56は尾張型第6形式のもの、57は渥美型第6形式のもの、58は第6形式である。54～56は「○」、57は「エ」の墨書きがみられる。

**S E2046出土遺物（59～68）** 59～64は土師器鍋で、中世II a期のものである。64は大型のもので、底部を穿孔し、井戸の水溜として利用されたと考えられる。65～67は陶器山茶碗で、65は渥美型第5形式、66は東濃型第6形式、67は尾張型第6形式のものである。68は青磁碗で、外面に蓮弁文が施されている。

**S E2047出土遺物（69・70）** 69・70は土師器皿で、中世III b期のものである。

**S E2048出土遺物（71～119）** 71～73は土師器小皿である。74～80は土師器皿である。74は中世IV a期、

縄文土器(1~10)



第15図 出土遺物実測図① (1:4)

75は中世Ⅲ b 期、76・77は中世Ⅲ a 期、78は中世Ⅱ a 期、79・80は斎宮第Ⅲ期2段階のものである。81は土師器鍋で、中世Ⅱ a 期のものである。82は土師器甕で、斎宮第Ⅲ期2段階のものである。83~115は陶器山茶椀である。83~87は尾張型、89・90は涅美型である。91・92は尾張型第6形式である。91~93は墨書で、91は「万」、93は「八十九」であると考えられる。94~98は涅美型で、94・95は第5形式、96・97は第6形式である。102~114は尾張型第6形式である。116・117は陶器山皿、118・119は陶器鉢である。

**S E 2049出土遺物 (120~147)** 120は土師器小皿である。121~127は土師器皿で、121は斎宮第Ⅱ期2段階、122~127は中世Ⅲ a 期である。128は土師器鍋で中世Ⅱ a 期である。129~147は陶器山茶椀である。130は尾張型、133は涅美型第5形式、134~136は涅美型第6形式、137~147は尾張型第6形式である。

**S E 2052出土遺物 (148~152)** 148~150は土師器である。148は鍋で中世Ⅳ a 期、149は羽釜で中世Ⅲ b 期、150は甕で斎宮第Ⅱ期3段階である。151・152は陶器山茶椀で、尾張型である。152は第6形式で、底部外面に墨痕がみられる。

**S E 2054出土遺物 (153~175)** 153~164は土師器である。153は小皿、154~162は鍋で、154は中世Ⅰ b 期、155~158は中世Ⅱ a 期、159・160は中世Ⅲ a 期、161・162は中世Ⅲ b 期である。163は羽釜で、中世Ⅲ a 期である。164は小型甕である。165~173は陶器山茶椀で、165・166は涅美型第5形式、167~169は尾張型第6形式、170は尾張型、171・172は第6形式である。172は底部外面に「○」の墨書が

みられる。174は常滑の陶器鉢で、175は陶器甕である。

**S E 2055出土遺物 (176~178)** 176~178は尾張型陶器山茶椀である。177・178は第6形式である。

**S E 2062出土遺物 (179~183)** 179は土師器高杯で、島貫Ⅱ期古に相当する<sup>⑤</sup>。180・181は土師器小皿である。182は土師器皿で、中世Ⅱ b 期である。183は陶器山茶椀で、尾張型である。

**S E 2067出土遺物 (184~192)** 184は土師器小皿である。185~190は陶器山茶椀である。186は第5形式、187~189は尾張型、188~190は第6形式である。188は体部外面に墨書がみられる。191・192は陶器鉢である。

**S E 2072出土遺物 (193)** 193は土師器皿で、中世Ⅲ b 期である。

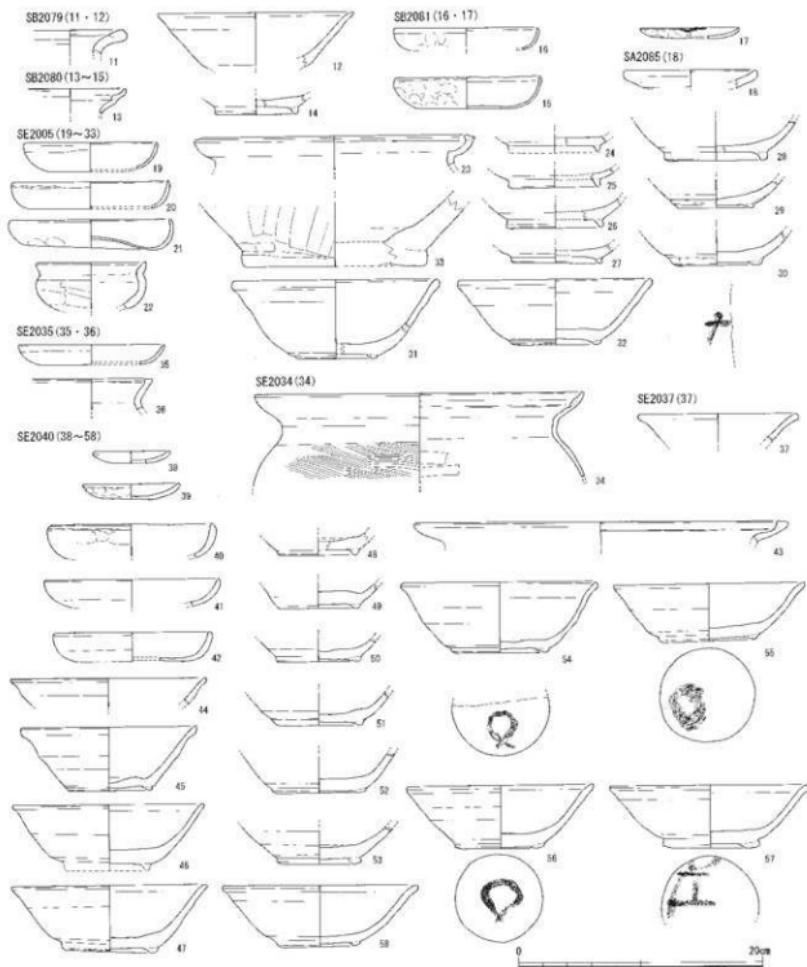
**S E 2075出土遺物 (194・195)** 194は土師器杯、195は土師器甕で、斎宮第Ⅲ期2段階である。

**S E 2076出土遺物 (196・197)** 196・197は陶器山茶椀で、196は東濃型第6形式である。197は尾張型第6形式で、底部外面に墨痕がみられる。

**S E 2077出土遺物 (198・199)** 198・199は陶器山茶椀で、198は涅美型第6形式である。199は東濃型第6形式で、底部外面に墨痕がみられる。

**S D 2001出土遺物 (200)** 200は土師器鍋で中世Ⅲ a 期である。

**S D 2003出土遺物 (201~245・1003・1004)** 201~242・1004は土師器である。201~203は小皿で、中世Ⅳ a 期のものである。205~225・1004は皿で、205~207は中世Ⅲ b 期、208~225は中世Ⅳ a 期である。220~225・1004はD形態である。226~237は鍋で、226~231は中世Ⅱ a 期、232~236は中世Ⅲ a



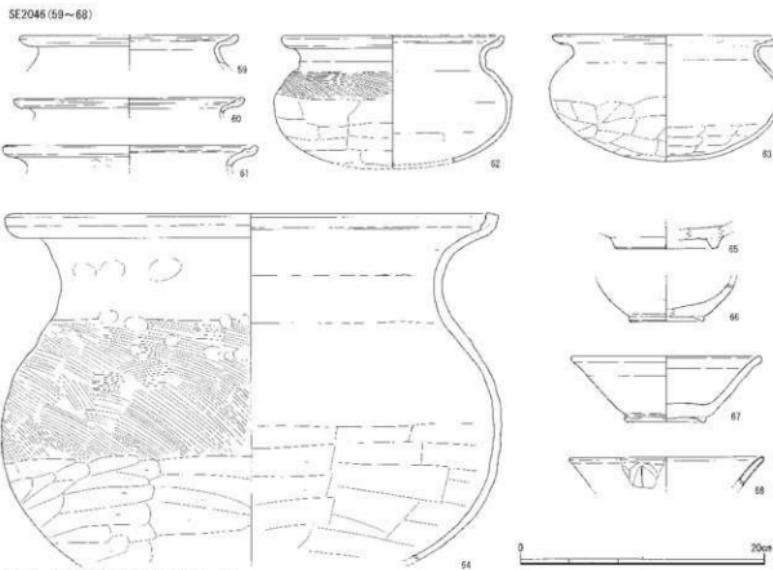
第16図 出土遺物実測図③ (1:4)

期、237は中世IV a期である。238は壺で中世II a期である。239~242は羽釜で、239は中世IV a期、240~242は中世III期である。242の口径については小片のため、不正確である。243~245は陶器である。243は古瀬戸の鉢皿で、前期様式Ⅲ期に相当する<sup>⑤</sup>。244・245は常滑の壺で、第3段階9小期に相当する<sup>⑥</sup>。

244は口縁部内面に「+」の線刻がみられる。

**S D 2006出土遺物 (246・247)** 246・247は土師器鍋で、中世IV a期である。

**S D 2007出土遺物 (248~255)** 248・249は土師器皿で、中世IV a期である。250・251は陶器山茶椀で、尾張型6形式である。251は、底部外面に墨書き



第17図 出土遺物実測図③ (1:4)

がみられる。平仮名か片仮名か判別できないが、「か〇〇〇」と考えられる。252は古瀬戸の直縁大皿で、後期様式Ⅲ期に相当する。253は陶器瓶子か。古瀬戸中期様式Ⅳ期であろうか<sup>7</sup>。254は青磁碗、255は白磁碗である。

**S D 2008出土遺物 (256~271)** 256~270は土師器で、256~258は小皿である。259~270は皿で、中世Ⅲ b期である。271は陶器山茶椀である。

**S D 2010出土遺物 (272・273)** 272は陶器山茶椀第6形式、273は山皿で墨書きがある。

**S D 2012出土遺物 (274~298)** 274~285は土師器である。274は杯で、斎宮第Ⅱ期2段階に相当する。275~283は皿で、275・276は中世Ⅲ a期、277は中世Ⅲ b期、278~283は中世Ⅳ a期のものである。284は鍋で中世Ⅱ a期のものである。285は羽釜である。286~288は古瀬戸の陶器平碗で、287は中期様式Ⅰ期、288は中期様式Ⅳ期にあたる<sup>8</sup>。289~292は陶器山茶椀で、289は渥美型第5形式、290・291は尾張型第6形式、292・293は第6形式である。

294は灰釉陶器皿である。295は陶器壺で、296は陶器壺である。297~298は瓦質の火鉢で、いわゆる「奈良火鉢」と考えられる。297は口縁部外面に巴文がスタンプされている。

**S D 2013出土遺物 (299~301)** 299は土師器羽釜で、中世Ⅲ期に相当する。口径については小片のため、不正確である。300・301は陶器山茶椀で第6形式のもので、300は尾張型である。

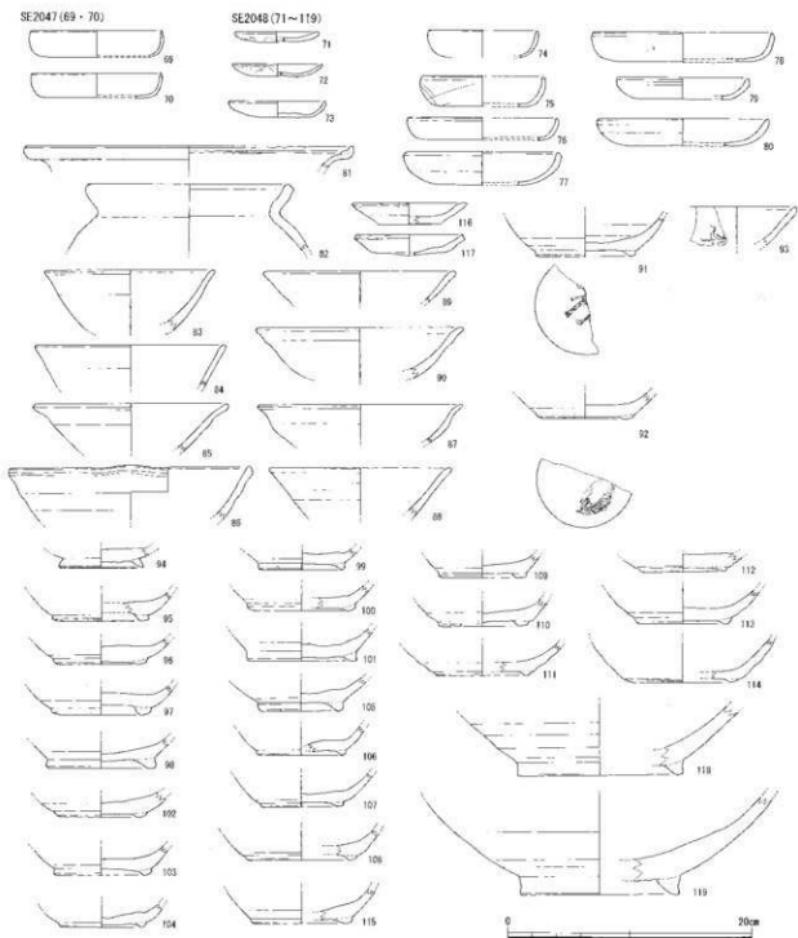
**S D 2016出土遺物 (302~310)** 302~310は土師器皿である。302~304は中世Ⅲ a期、305~310は中世Ⅲ b期のものである。

**S D 2017出土遺物 (311・312)** 311は陶器山茶椀で尾張型第6形式のもの、312は陶器鉢である。

**S D 2018出土遺物 (313)** 313は土師器皿で、中世Ⅲ b期のものである。

**S D 2019出土遺物 (314~361)** 主体は古代の土器である。中世の遺物も出土しているが、これは中世の造構を同時に掘ったものであると考えられる。

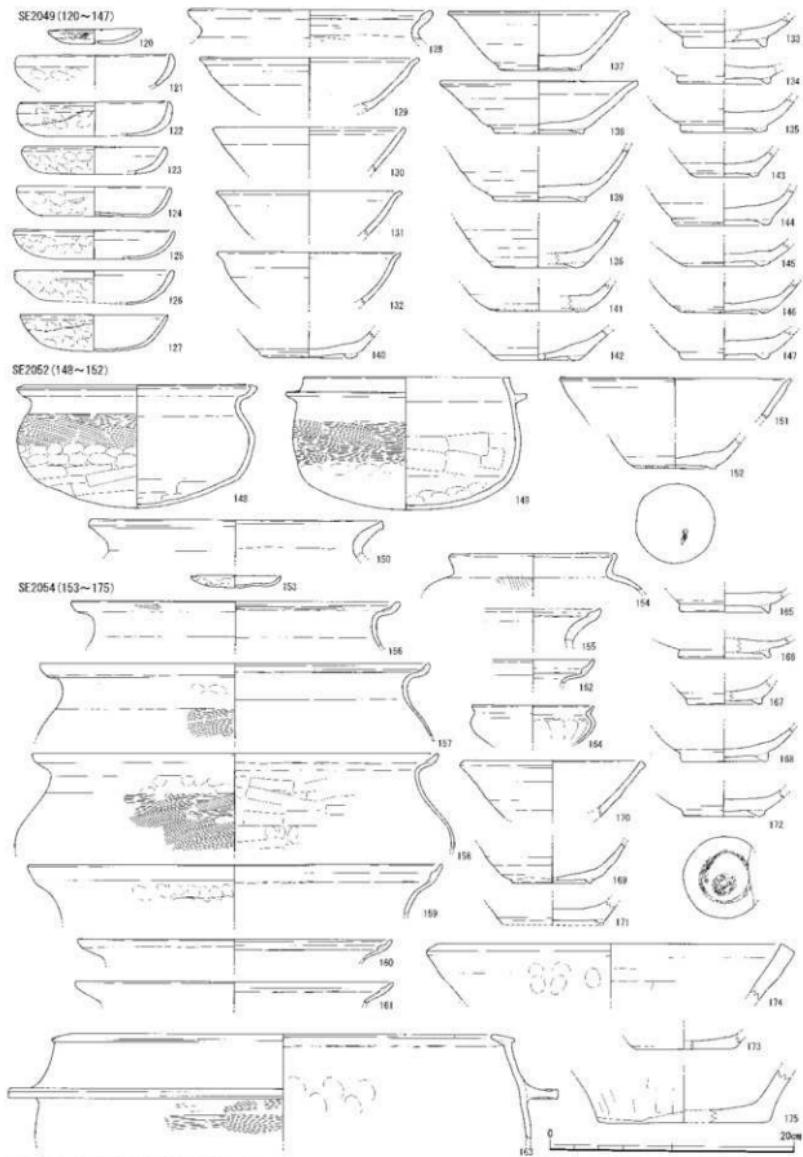
314~346は土師器である。314~328は杯で、314



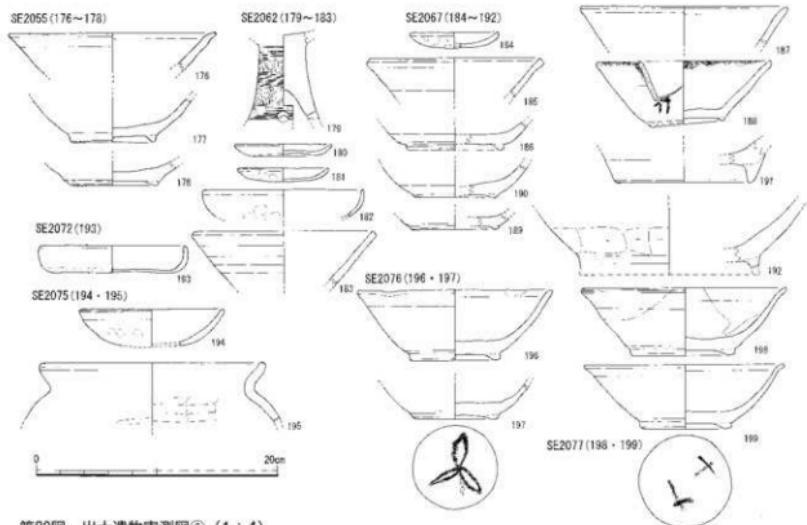
第18図 出土遺物実測図④ (1:4)

は器壁が厚くなっている。斎宮第Ⅰ期2段階に相当する。315~318は斎宮第Ⅱ期1段階に相当する。316は内面に放射状・螺旋状の暗文が施されている。317は内面に線刻がみられる。319~323は斎宮第Ⅱ期3段階に相当する。324~326は斎宮第Ⅱ期4段階のものである。327は斎宮第Ⅲ期1段階に相当する。328は斎宮第Ⅱ期3~4段階に相当し、底部外

面に「六万」の墨書きがみられる。329・330は碗で、斎宮第Ⅱ期2~3段階に相当する。331~336は皿で、331は螺旋状の暗文が施されており、斎宮第Ⅰ期3段階に相当する。332・333は斎宮第Ⅰ期4段階に相当し、333は螺旋状の暗文が施されている。334は斎宮第Ⅱ期2段階、335・336は斎宮第Ⅱ期3段階に相当する。337~341は中世のもので、中世Ⅲ期の



第19図 出土遺物実測図⑤ (1 : 4)



第20図 出土遺物実測図⑥ (1:4)

皿である。上層遺構を同時に掘った可能性が考えられる。342~345は壺である。342は斎宮第Ⅱ期1段階、343・344は斎宮第Ⅱ期4段階、345は斎宮第Ⅲ期2段階に相当する。346は鉢で斎宮第Ⅱ期2段階に相当する。347~352は須恵器である。347は杯身で、348は瓶、349は広口瓶、350は壺、351は長頸壺である。352は短頸壺で、三足の獸脚がつくと考えられる<sup>⑤</sup>。353~360は陶器山茶椀である。355は第5形式、356は涅美型第5形式、357~360は尾張型である。358は第5形式、359・360は第6形式である。361は陶器山皿で尾張型である。

**S D 2021出土遺物** (362) 362は陶器山茶椀である。

**S D 2022出土遺物** (363・364) 363・364は土師器皿で、363は中世Ⅲb期、364は中世Ⅳa期のものである。

**S D 2024出土遺物** (365~371) 365~370は陶器山茶椀である。365は第5形式、366は涅美型第6形式、367~370は尾張型第6形式である。371は陶器鉢で、体部外面に沈線がみられる。

**S D 2026出土遺物** (372~374) 372・373は土師器鍋で中世Ⅳa期のものである。374は常滑の陶器練

鉢で、第3段階10小期に相当する<sup>⑥</sup>。

**S D 2030出土遺物** (375~379) 375は土師器椀で斎宮第Ⅲ期1段階のBタイプに相当する。376は土師器壺で斎宮第Ⅲ期1段階に相当する。377は須恵器杯身で、斎宮Ⅰ期のBタイプに相当する。378・379は陶器山茶椀で、尾張型6形式である。

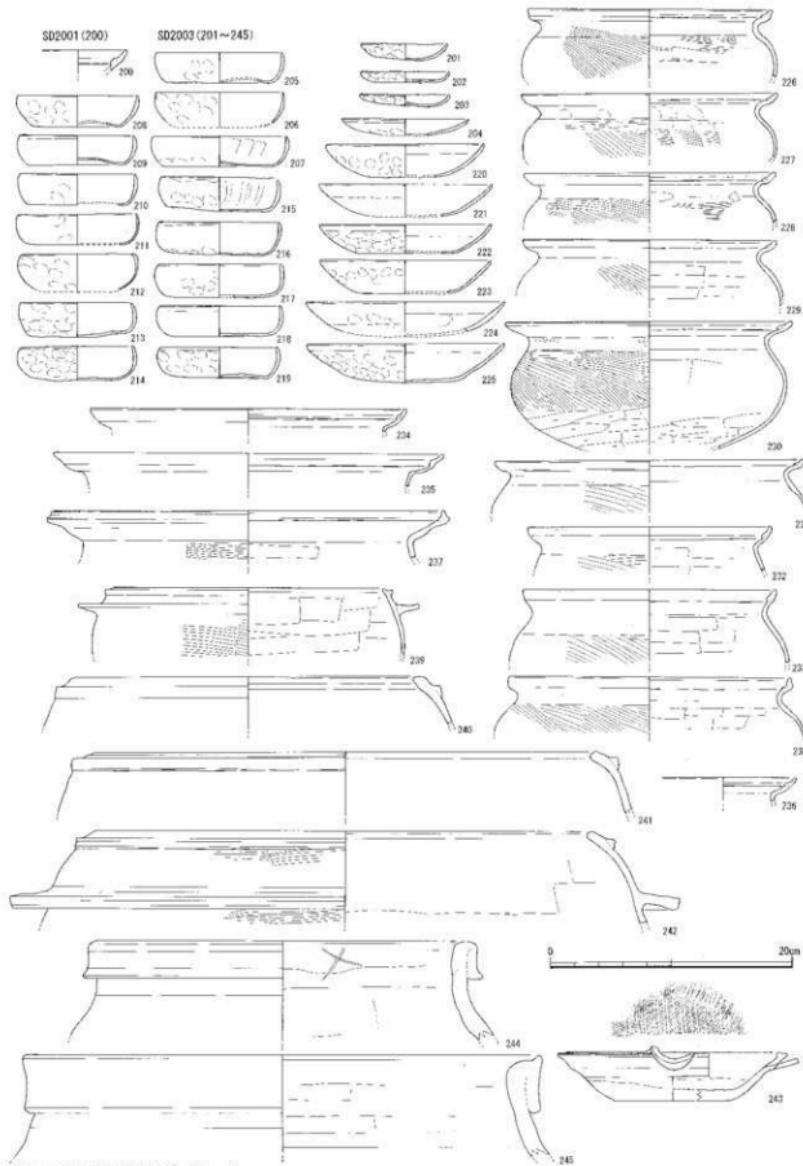
**S D 2033出土遺物** (380~383) 380は土師器小皿、381は土師器皿で中世Ⅳa期のもの、382は土師器鍋で中世Ⅱa期のもの、383は陶器山茶椀である。

**S D 2039出土遺物** (384~389) 384は土師器皿で、中世Ⅲb期のもの、385は土師器鉢で斎宮第Ⅱ期2段階に相当する。386は灰釉陶器椀、387~389は陶器山茶椀である。388は東濃型第6形式、389は第6形式である。

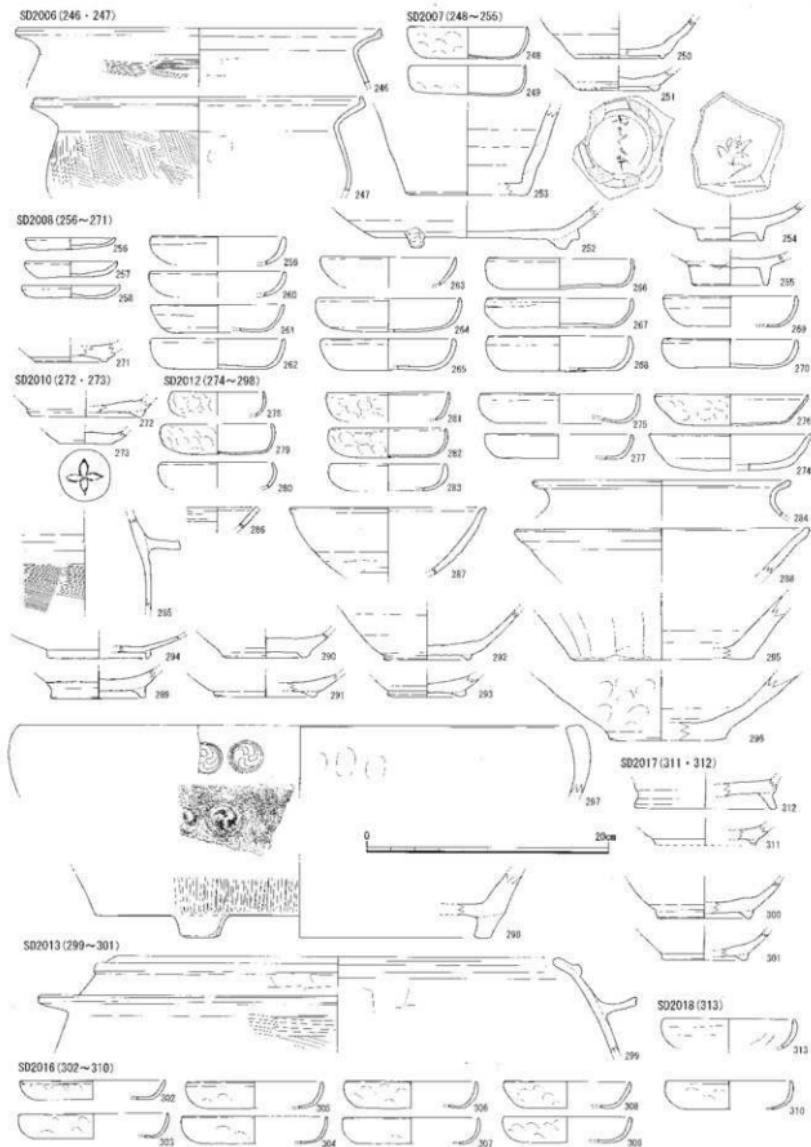
**S D 2041出土遺物** (390) 390は土師器鍋で中世Ⅳa期のものである。

**S D 2042出土遺物** (391~396) 391~393は土師器皿で中世Ⅳa期のもので、392・393はD形態である。394~396は土師器鍋である。394・395は中世Ⅱa期、396は中世Ⅱb期に相当する。

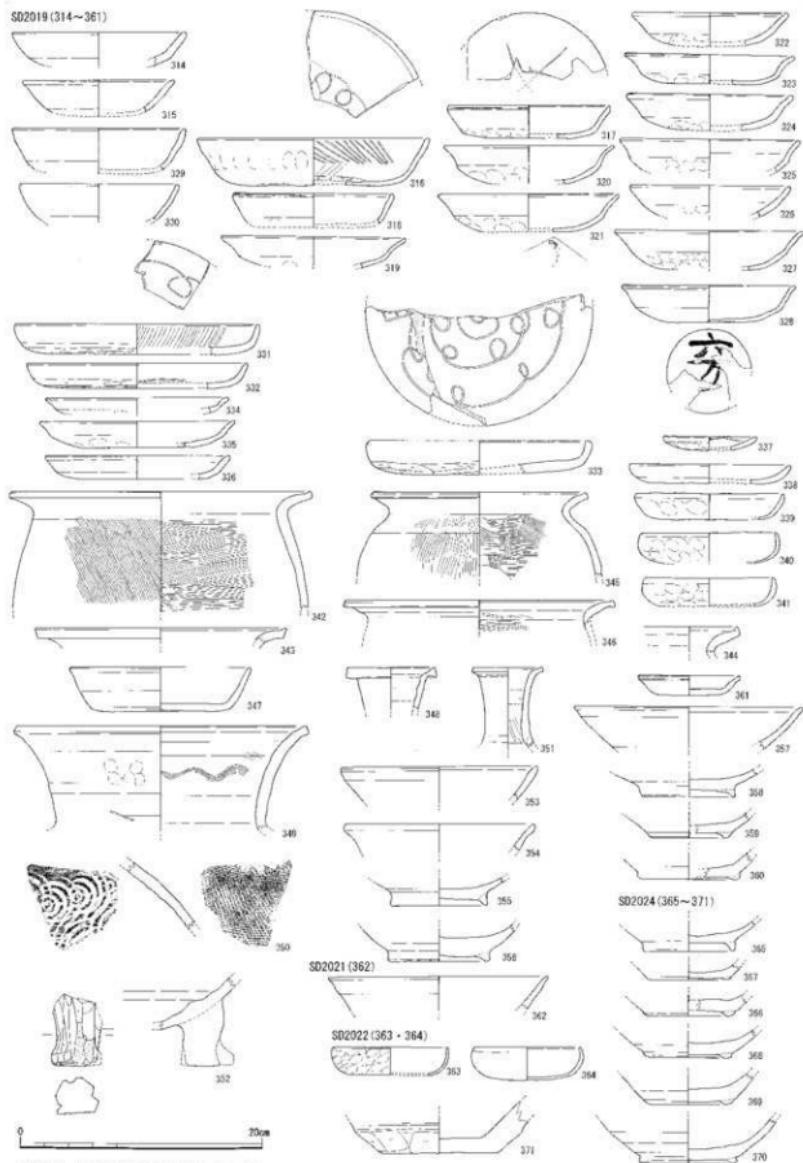
**S D 2044出土遺物** (397・398) 397は土師器壺で



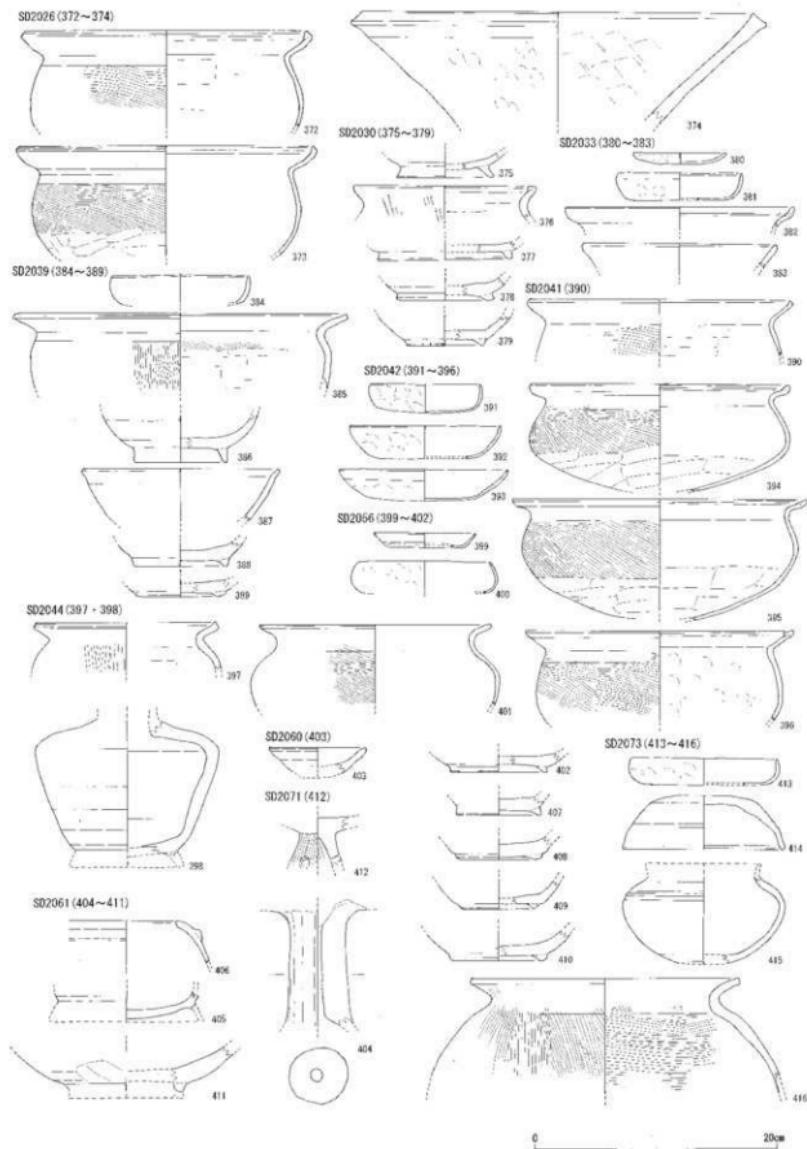
第21図 出土遺物実測図⑦ (1 : 4)



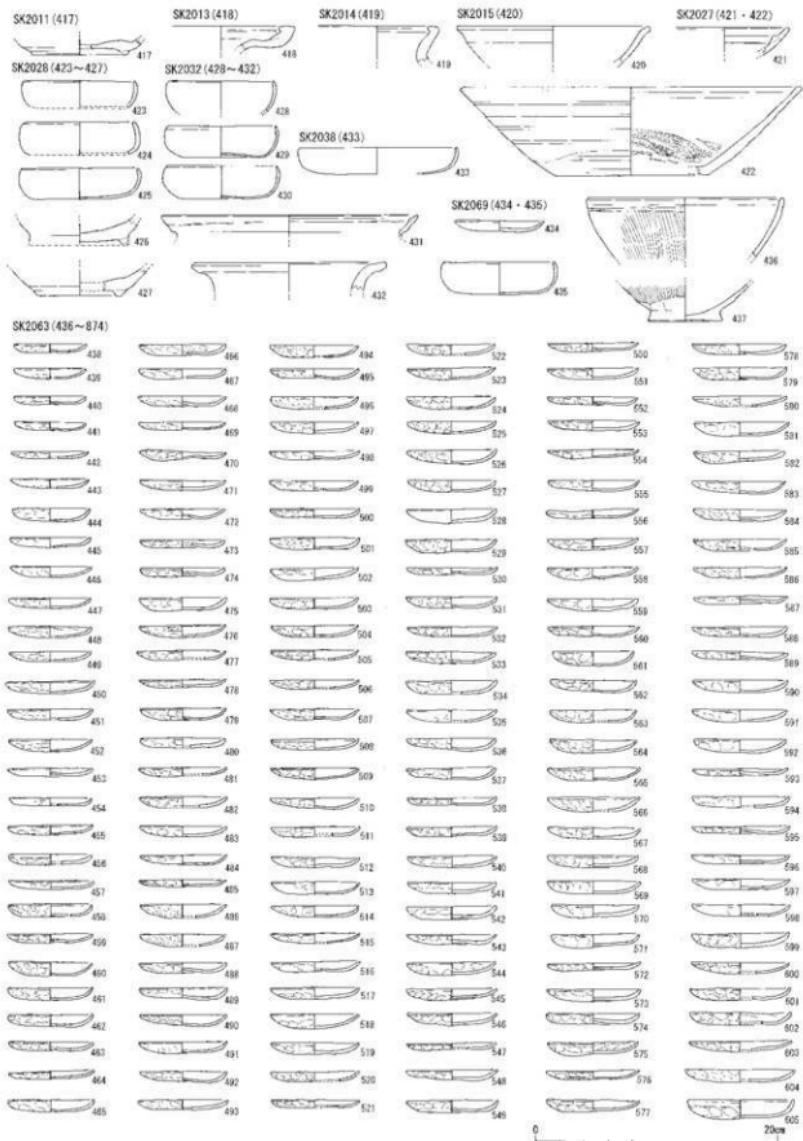
第22図 出土遺物実測図⑧ (1 : 4)



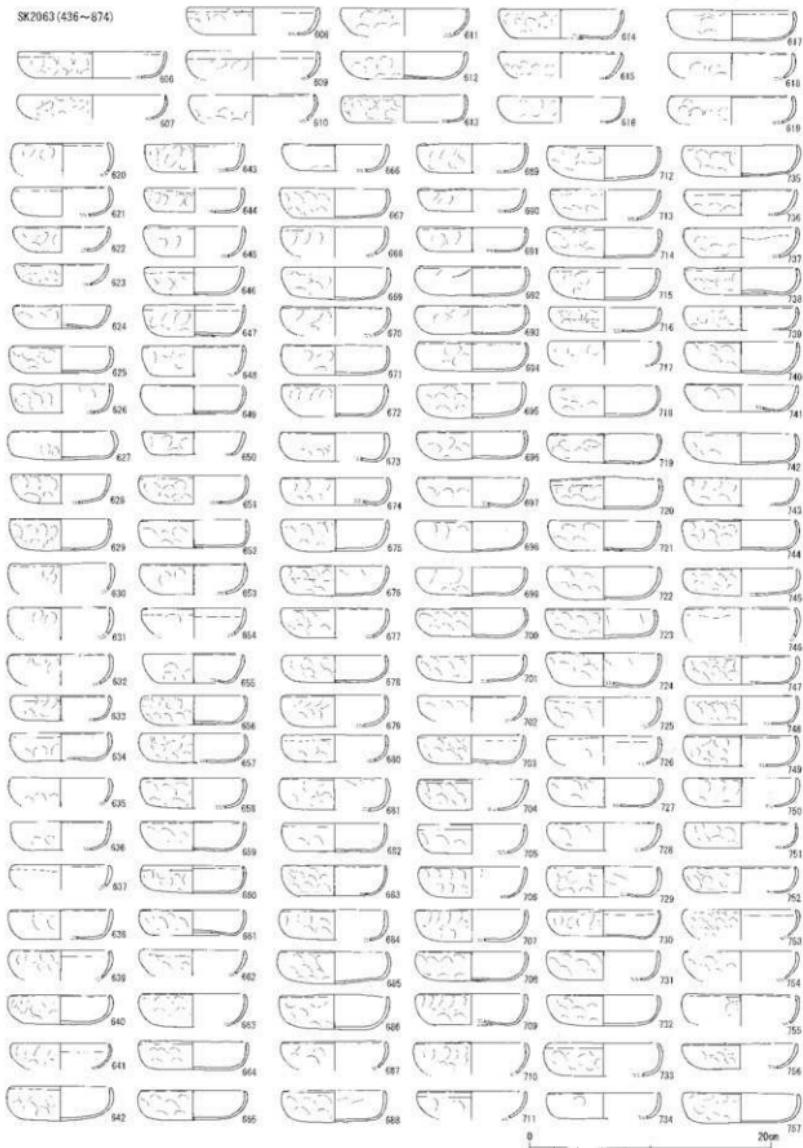
第23図 出土遺物実測図⑨ (1 : 4)



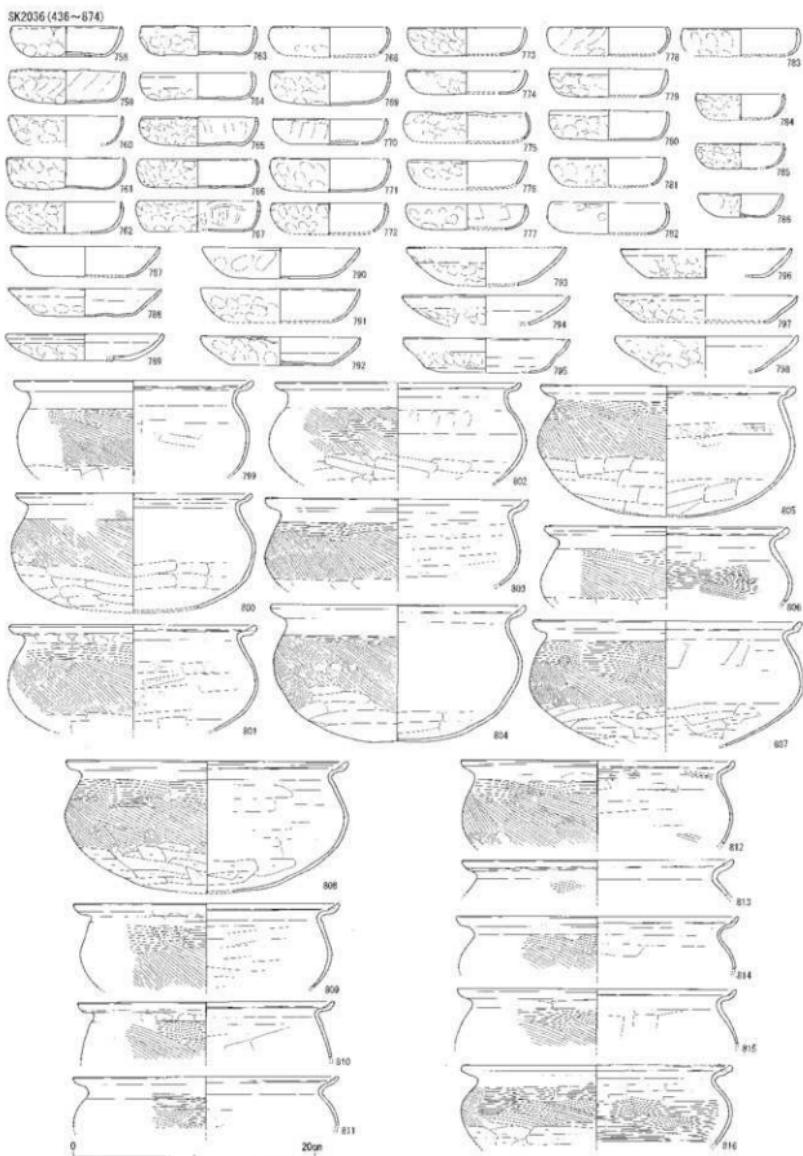
第24図 出土遺物実測図⑩ (1 : 4)



第25図 出土遺物実測図⑪ (1 : 4)

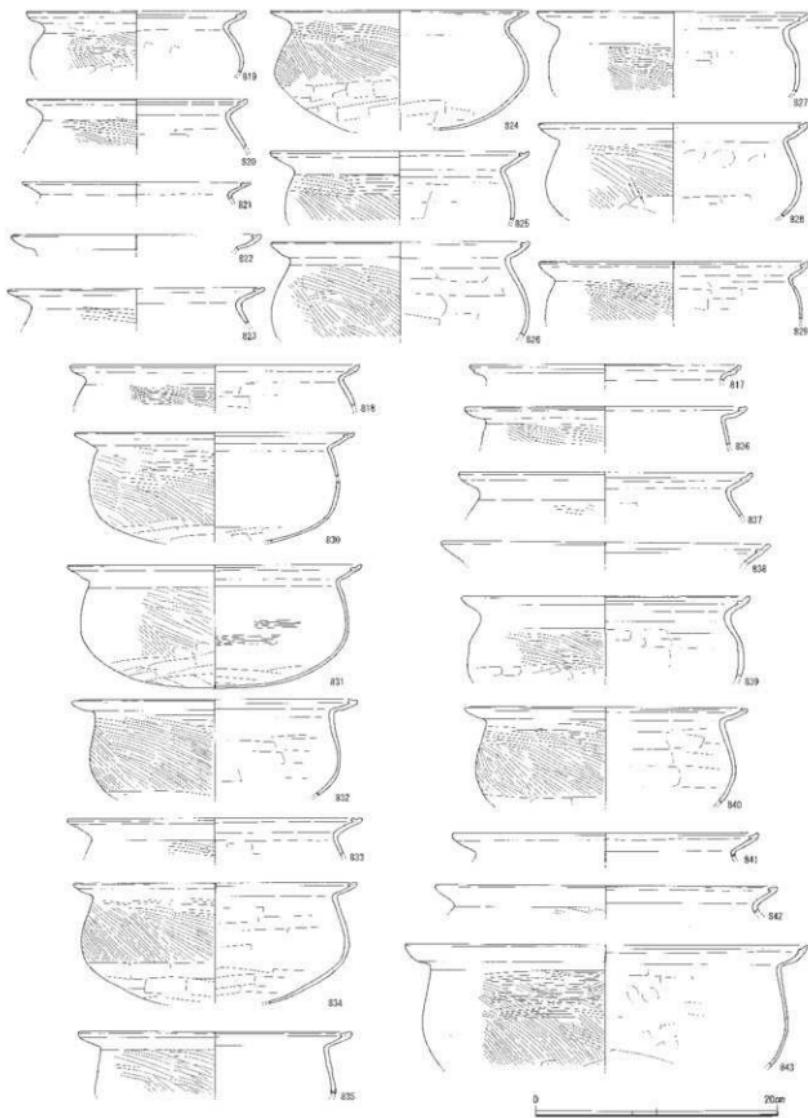


第26図 出土遺物実測図⑫ (1:4)

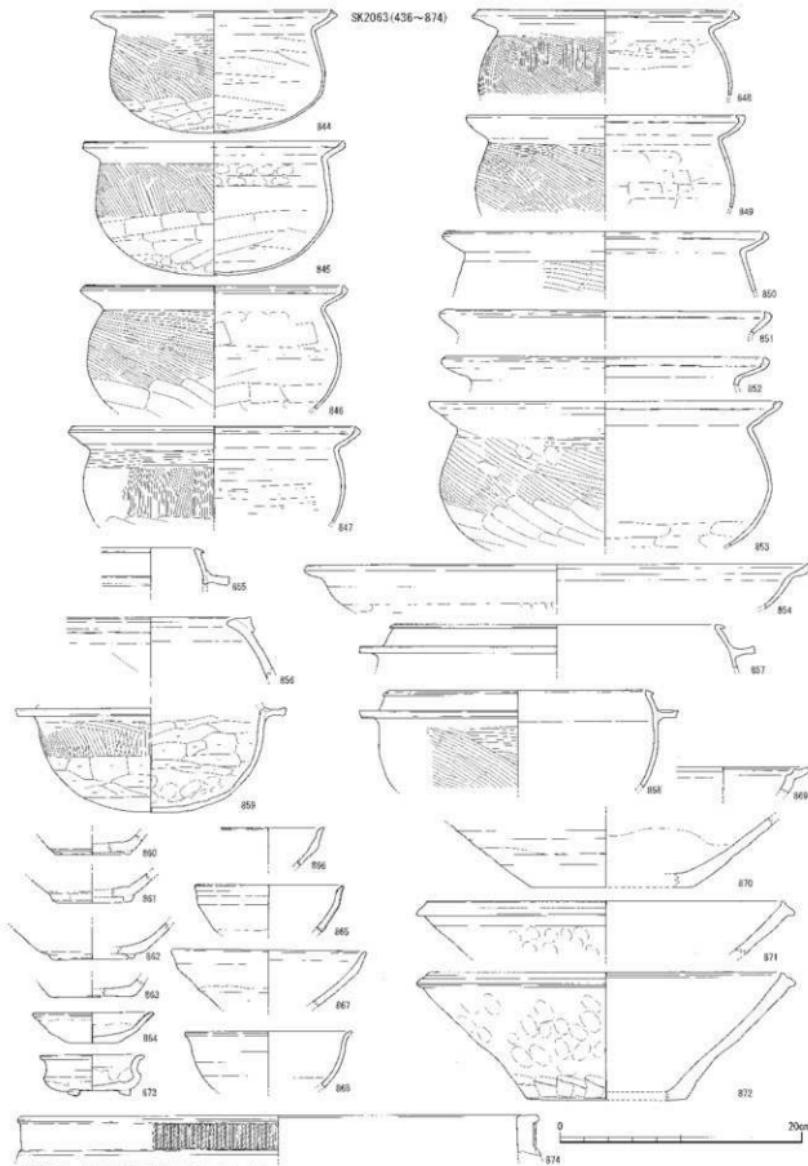


第27図 出土遺物実測図⑨ (1 : 4)

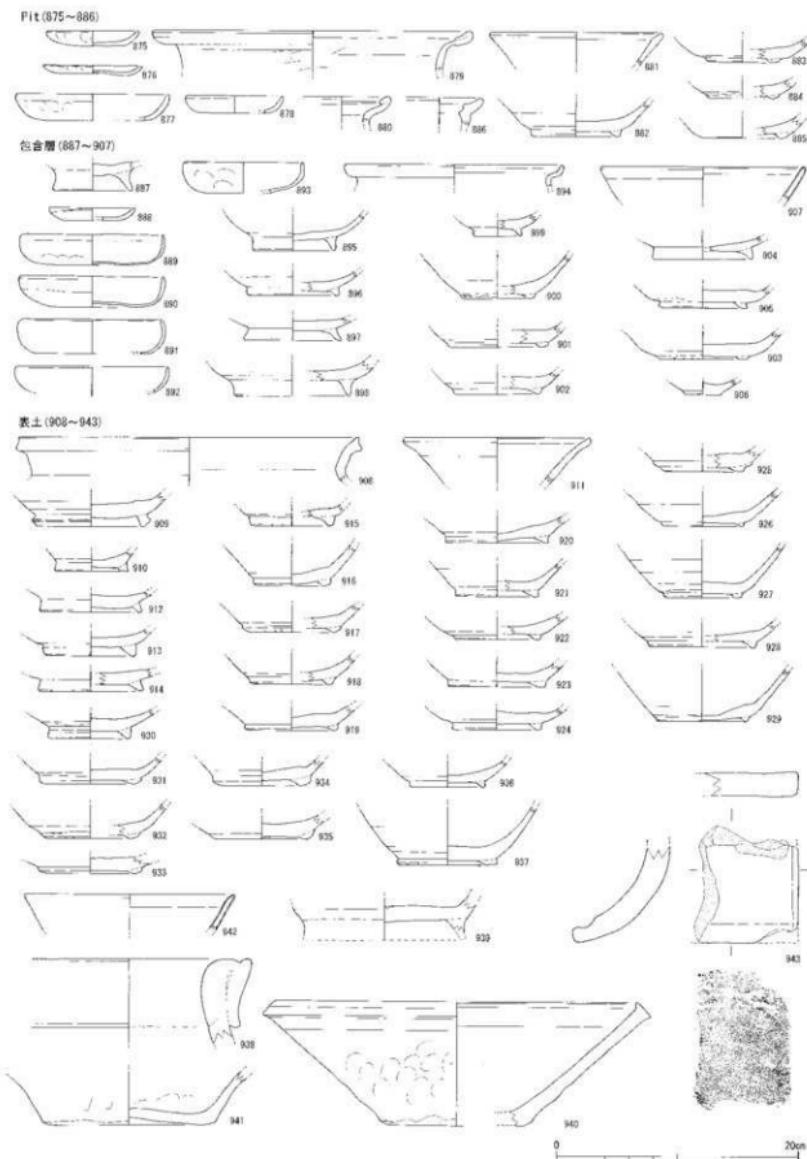
SK2063 (436~874)



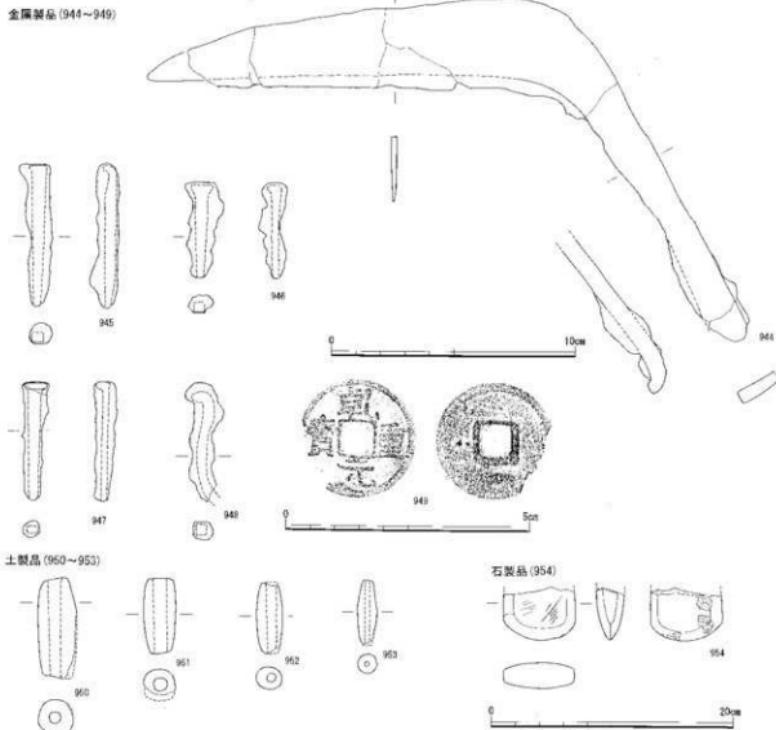
第28図 出土遺物実測図④ (1 : 4)



第29図 出土遺物実測図⑤ (1:4)



第30図 出土遺物実測図⑥ (1 : 4)



第31図 出土遺物実測図⑦ (1:4) (944~948は1:2) (949は1:1)

斎宮第Ⅱ期2段階のものである。398は須恵器長頭壺である。

**S D 2056出土遺物 (399~402)** 399は土師器小皿である。400は土師器皿で、中世Ⅲ b期のものである。401は土師器鍋で中世Ⅲ a期のものである。402は陶器山茶椀で尾張型第6形式である。

**S D 2060出土遺物 (403)** 403は陶器山皿である。

**S D 2061出土遺物 (404~411)** 404は土師器高杯で斎宮第Ⅱ期第4段階に相当する。405は緑釉陶器香炉で、猿投窯産と考えられ、斎宮第Ⅱ期第3段階に相当する。406は土師器羽釜で中世Ⅲ b期のものである。407~410は陶器山茶椀で、407は第5形式、408~410は第6形式、409は尾張型である。411は陶

器鉢である。

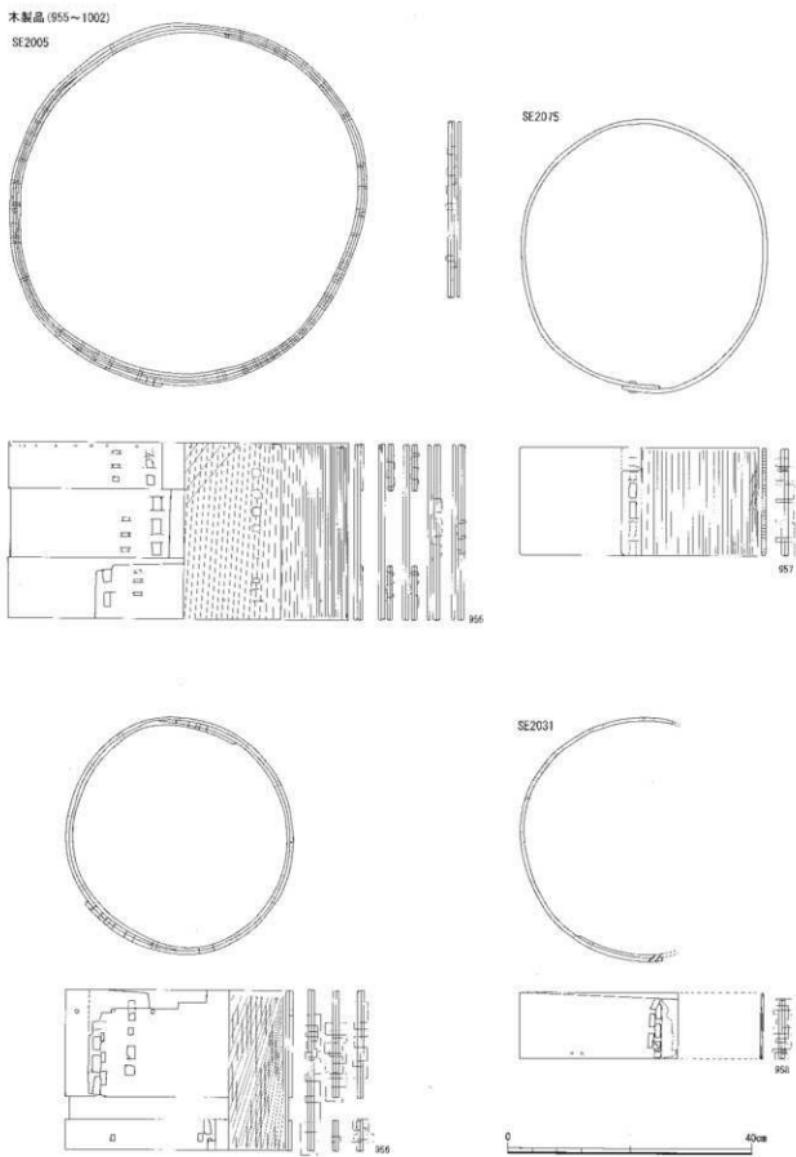
**S D 2071出土遺物 (412)** 412は土師器高杯で鳥貫D期に並行するものであろうか。

**S D 2073出土遺物 (413~416)** 413は土師器皿で中世Ⅲ b期のものである。上層遺構を同時に掘った可能性が考えられる。414は須恵器杯蓋で斎宮第Ⅰ期第1段階に相当する。415は須恵器短頭壺である。416は土師器壺で斎宮第Ⅱ期第3段階のものである。

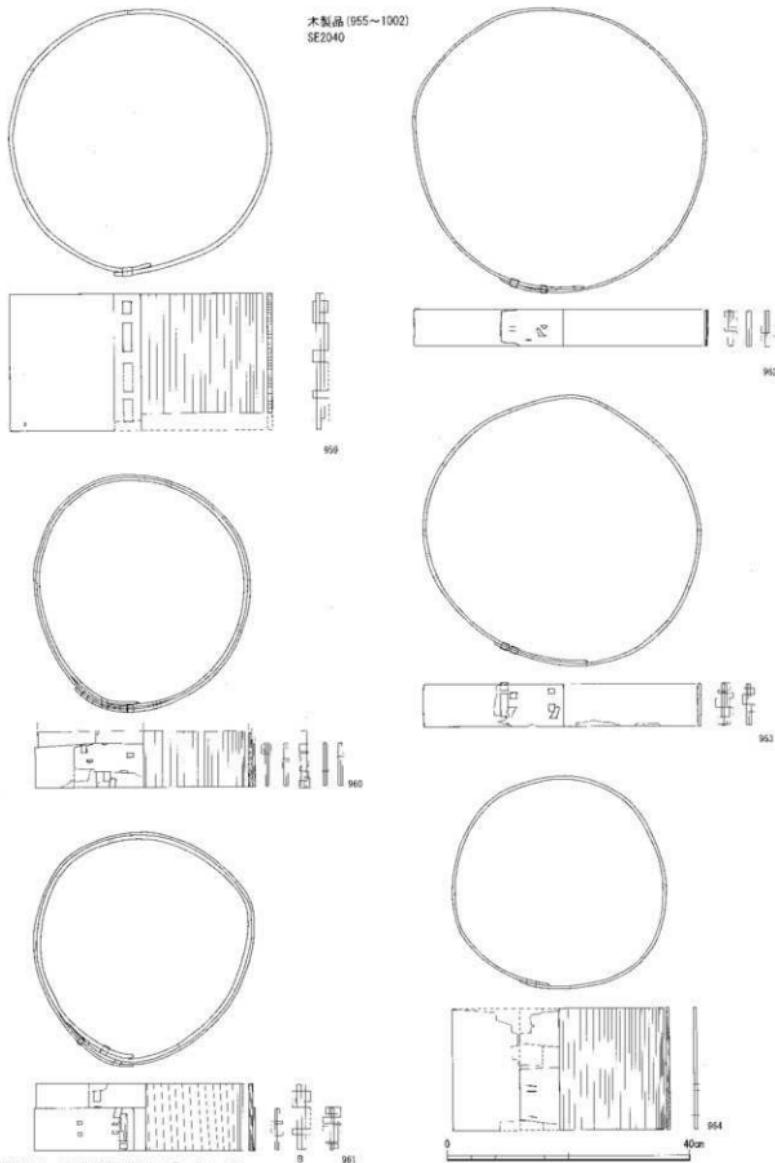
**S K 2011出土遺物 (417)** 417は陶器山茶椀で、尾張型第6形式のものである。

**S K 2013出土遺物 (418)** 418は土師器鍋で、中世Ⅱ期に相当するであろうか。

**S K 2014出土遺物 (419)** 419は土師器壺で、斎宮



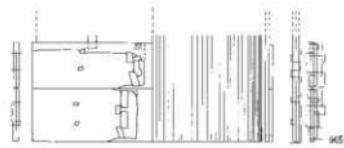
第32図 出土遺物実測図⑩ (1 : 8)



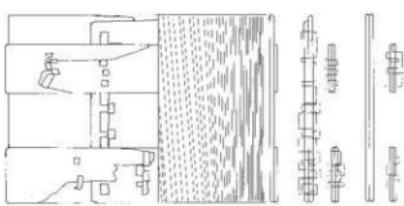
第33図 出土遺物実測図⑨ (1 : 8)

木製品(955～1002)

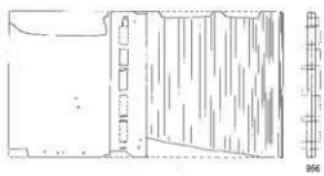
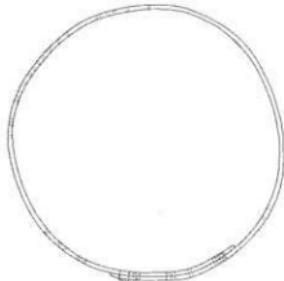
SE2048



SE2049



SE2056



40cm

968



第34図 出土遺物実測図◎ (1:8)

木製品(955~1002)

SE2067



SE2076



955



956

SE2077



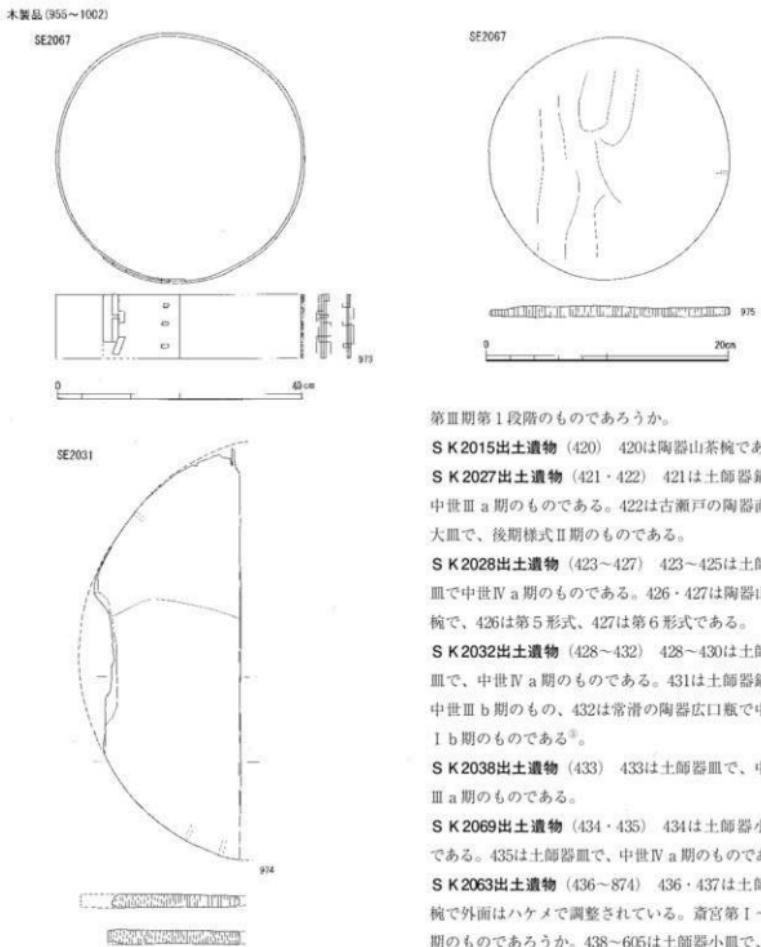
957



959



第35図 出土遺物実測図② (1 : 8)



第36図 出土遺物実測図㉙ (1:4) (973は1:8)

第Ⅲ期第1段階のものであろうか。

**S K 2015出土遺物 (420)** 420は陶器山茶椀である。

**S K 2027出土遺物 (421・422)** 421は土師器鍋で、中世Ⅲ a 期のものである。422は古瀬戸の陶器直縁大皿で、後期様式Ⅱ期のものである。

**S K 2028出土遺物 (423~427)** 423~425は土師器皿で中世Ⅳ a 期のものである。426・427は陶器山茶椀で、426は第5形式、427は第6形式である。

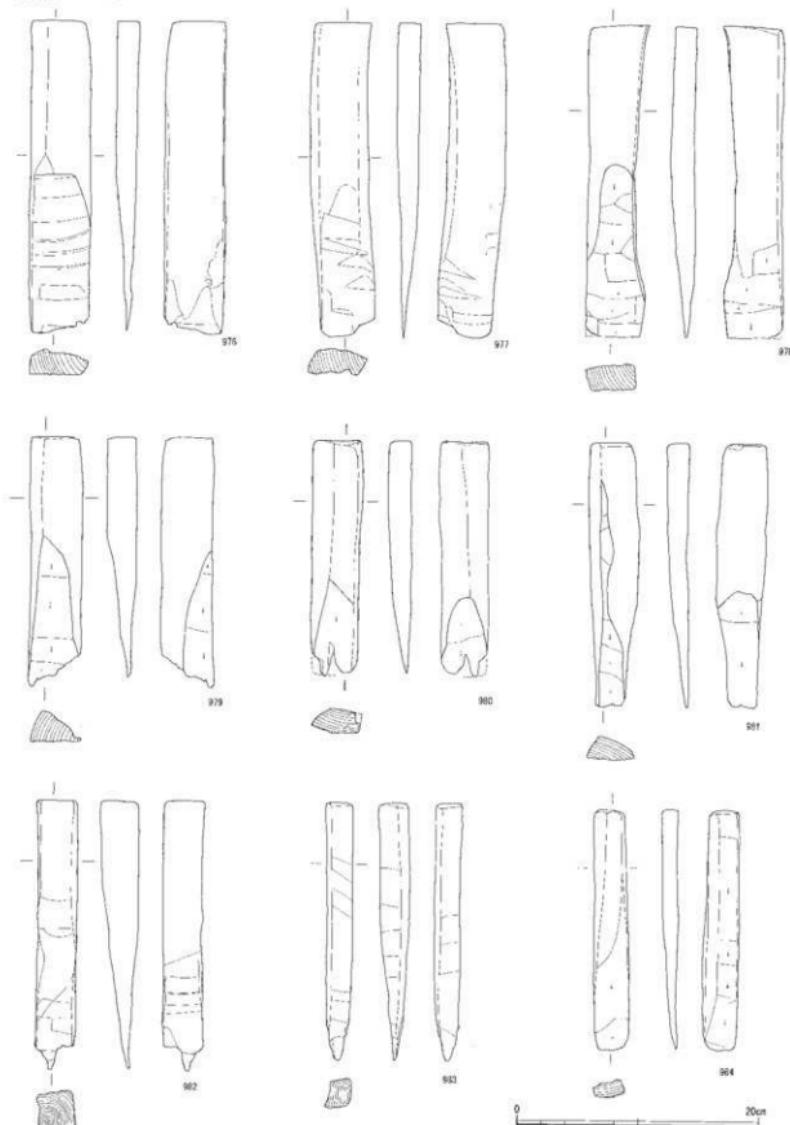
**S K 2032出土遺物 (428~432)** 428~430は土師器皿で、中世Ⅳ a 期のものである。431は土師器鍋で中世Ⅲ b 期のもの、432は常滑の陶器広口瓶で中世Ⅰ b 期のものである<sup>⑤</sup>。

**S K 2038出土遺物 (433)** 433は土師器皿で、中世Ⅲ a 期のものである。

**S K 2069出土遺物 (434・435)** 434は土師器小皿である。435は土師器皿で、中世Ⅳ a 期のものである。

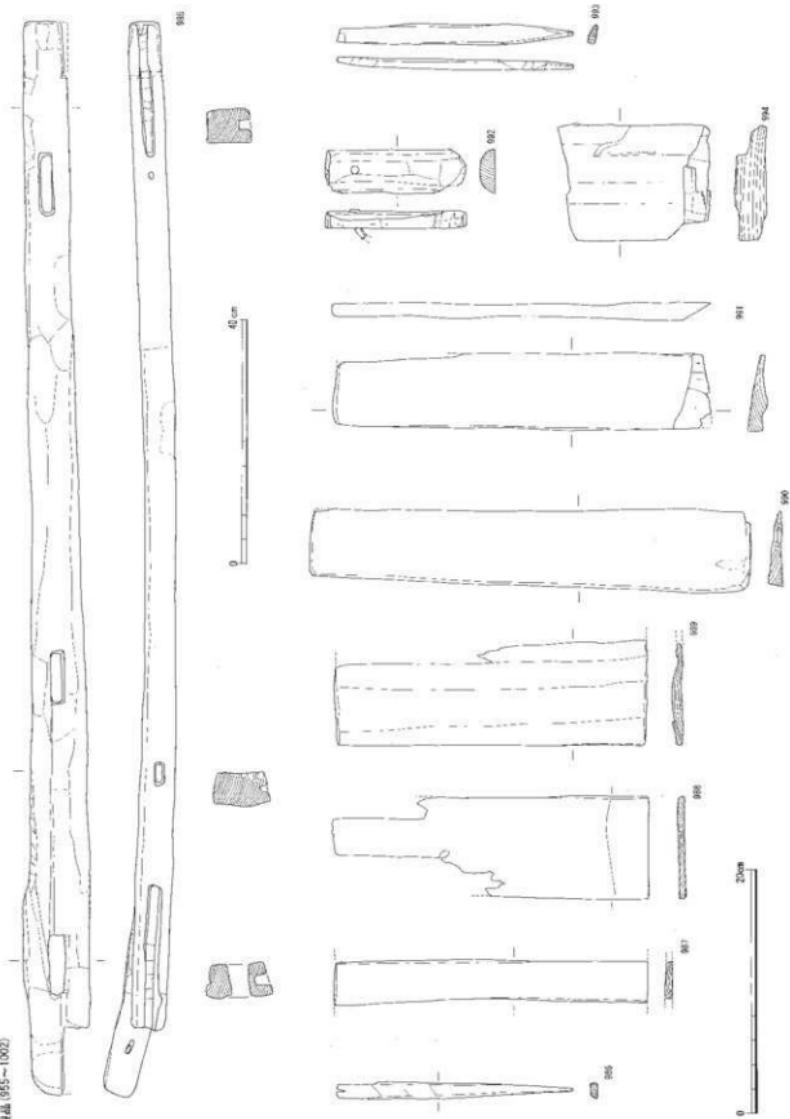
**S K 2063出土遺物 (436~874)** 436・437は土師器碗で外側はハケメで調整されている。斎宮第Ⅰ~Ⅱ期のものであろうか。438~605は土師器小皿で、中世Ⅳ期に相当するものである。606~798は土師器皿で、606・607は中世Ⅲ a 期、608~619は中世Ⅲ b 期に相当する。620~783は中世Ⅳ a 期、784~786は中世Ⅳ b 期に相当する。787~798は中世Ⅳ期D形態である。799~853は土師器鍋で799~818は中世Ⅱ a 期、819は中世Ⅱ b 期、820~843は中世Ⅲ期、844~853は中世Ⅳ a 期に相当する。854は培培である。855~859は土師器羽釜で、中世Ⅲ~Ⅳ期のものである。

木製品(955~1002)

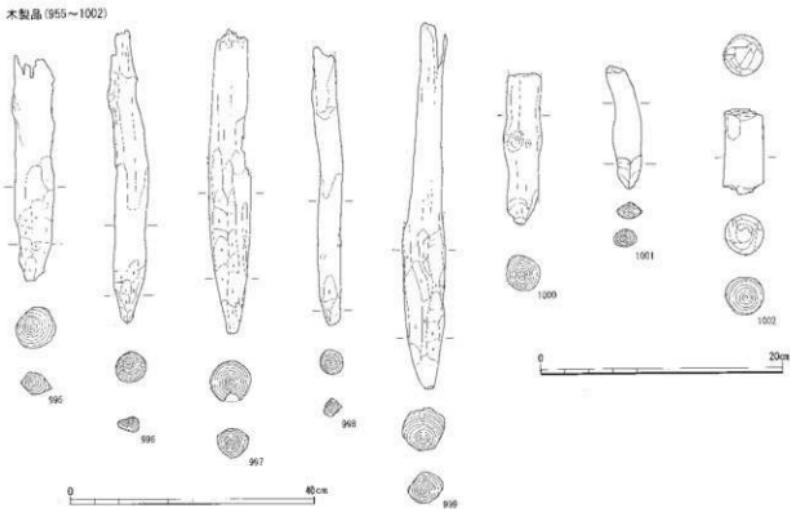


第37図 出土遺物実測図23 (1:4)

木製品 985-102



第38図 出土遺物実測図24 (1 : 4) (985±1 : 8)



第39図 出土遺物実測図28 (1:8) (1001・1002は1:4)

860～863は陶器山茶碗である。860・861は尾張型第6形式、862は涅美型第6形式である。863は尾張型で、高台のつかないタイプである。864は陶器山皿である。865～867は古瀬戸の陶器碗で、867は平椀である。868は青磁碗である。869・870は古瀬戸の陶器大皿である。871・872は常滑の陶器鉢で、872は体部内面に使用痕がみられる。873は古瀬戸の陶器香炉で、後期様式IV期新に相当するものである<sup>⑤</sup>。874は瓦質の火鉢である。

**pit出土遺物 (875～886)** 875・876は土師器小皿である。877・878は土師器皿で、877は中世IIIa期、878は中世IVa期のものである。879・880は土師器鍋で、中世IIa期のものである。881～885は陶器山茶碗で、882・883は第5形式、884・885は第6形式のものである。886は陶器鉢の口縁部小片である。

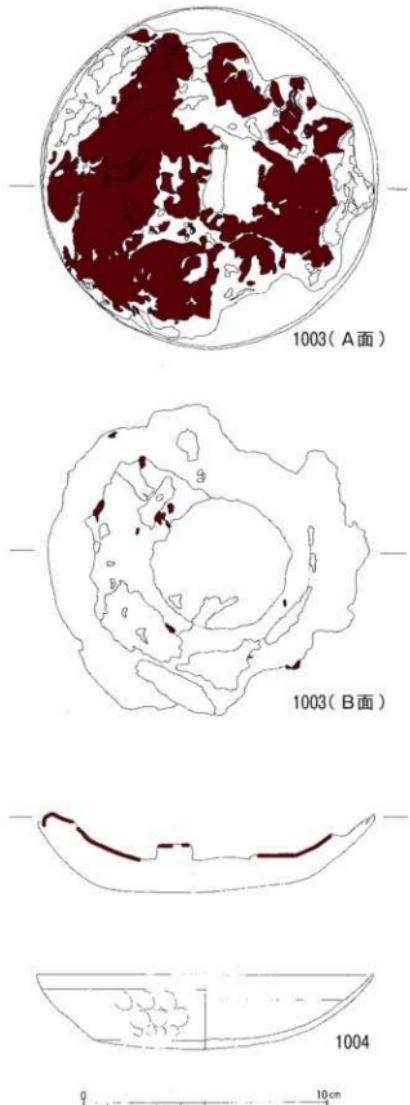
**包含層出土遺物 (887～907)** 887は土師器碗の高台部で、竈宮第III期1段階に相当する。888は土師器小皿である。889～893は土師器皿で、889～892は中世III期のもので、893は中世IVa期のものである。894は土師器鍋で、中世IIa期のものである。895～897は灰釉陶器碗の高台部である。898～905は陶

器山茶碗である。898～903は尾張型で、898・899は第5形式、900～903は第6形式である。904・905は涅美型で、904は第5形式、905は第6形式である。906は陶器山皿である。907は青磁碗の口縁部である。**表土出土遺物 (908～943)** 908～910は須恵器で、908は壺の口縁部である。909・910は壺の底部で、高台がついたものである。911～937は陶器山茶碗である。911～929は尾張型で、912～914は第5形式、915～929は第6形式である。930～936は涅美型で、930は第5形式、931～937は第6形式である。938は常滑の陶器壺で、第3段階9小期に相当する<sup>⑥</sup>。939～941は陶器鉢である。940・941は常滑で、940は片口鉢II類第3段階10小期に相当する<sup>⑦</sup>。942は青磁碗である。943は丸瓦で、内面に布目痕がみられる。

**金属製品・土製品・石製品 (944～954)** 944は鉄鎌、945～948は鉄釘である。949は銅錢「乳元重寶」で、穿下甲文であろうか。950～953は土鍤である。954は両刃の磨製石斧である。

**木製品 (955～1002)** 今回の調査で出土した木製品は井戸の水溜と使用された曲物(965～973)が主である。974・975は曲物の底板で、975は釣瓶と考え

漆製品(1003)(1004は土師器皿)



第40図 出土遺物実測図(1:2)

られる。976~984は楔でいずれも井戸からの出土であり、結桶に使用されたと考えられる。985は水平材で、3箇所の溝が確認できる。986~993は加工材で、986・993は先端を尖らせている。987~991は板状で、992は鉄釘が打たれている。995~1001は杭である。1002は丸太に切り込みを入れ、切断した加工痕が確認できる。

(谷口)

漆製品(1003) 1003は、土師器皿中世IV期D形態(1004)の内面に泥土と密着した状態で出土した漆製品である。出土時、土師器皿内面に詰まる泥土中から部分的に漆膜が観察され、漆製品が土師器と重なる状態であることが推察された。製品の形状など詳細が不明であったため、クリーニング、記録作業および分析を含めた保存処理を行った。

製品を土師器皿から分離した結果、製品の木胎が朽ちて無くなり、漆膜のみが残存していた。土師器皿と接しない面(以下、A面)では、赤・黒色漆膜、土師器皿と接していた面(以下、B面)では、黒色漆膜が全体に広がり、一部で赤色漆膜を確認した。漆膜の上下関係から、A面の黒色漆膜は、木胎が失われた結果、B面の黒色漆膜が表出したものと考えられる。また、A面では他の漆膜と比べ浮いた状態の漆膜を確認したが、これらは埋没や木胎が朽ちていく過程で、本来のところから浮遊した漆膜とみられる。これらの漆膜から正確な製品の形状を断定できないが、B面の漆膜の広がりから推測して、椀形のものである可能性が考えられる。

(渡辺)

#### 【註】

- ①宮内歴史博物館「高宮跡発掘調査報告Ⅱ」(2001年)
- ②伊藤裕介「南伊勢・志摩地域の中世土器」「三重県史 資料編考古2」(2008年)
- ③齋澤良祐「絶論」「愛知県史 別編 中世・近世瀬戸系 窯業2」愛知県史編さん委員会(2007年)
- ④・川崎志乃「付編1 古墳時代前期の窯出鳥貴遺跡」「鳥坂Ⅲ」三重県埋蔵文化財センター(2001年)
- ・伊藤裕介「付編2 窯出鳥貴遺跡における古墳時代中後期に土師器」「鳥坂Ⅲ」三重県埋蔵文化財センター(2001年)
- ⑤愛知県史編さん委員会「愛知県史別編 中世・近世常滑窯業3」(2012年)
- ⑥「世界陶磁全集2 日本古代」小字版(1979年)
- ⑦愛知県史編さん委員会「愛知県史 別編 中世・近世瀬戸系窯業2」(2007年)

#### 【参考文献】

- ・宮内歴史博物館「史跡高宮跡 平成16年度発掘調査概報」(2006年)

編年区分			
年代	斎宮	中世陶器	南伊勢
700	斎宮第 I 期第1段階		
	斎宮第 I 期第2段階		
	斎宮第 I 期第3段階		
	斎宮第 I 期第4段階		
800	斎宮第 II 期第1段階		
	斎宮第 II 期第2段階		
	斎宮第 II 期第3段階		
900	斎宮第 II 期第4段階		
	斎宮第 III 期第1段階		
1000	斎宮第 III 期第2段階		
	斎宮第 III 期第3段階		
1100	斎宮第 III 期第4段階		
	斎宮第 IV 期第1段階	第5型式	中世 II a
		第6型式	
1300			中世 II b
			中世 III a
1400			中世 III b
			中世 IV a
1500			中世 IV b

第4表 土器編年区分表

番号	実測 器種 番号	出土 位置	遺構	器種類型	直 径 (cm)			調整技術の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
					口径	周長	その他					
1	129-K-L-23	SH2653	縄文土器	—	—	—	—	ナデ	にぶい黄緑 (10186/4)	密(～4.0mm砂粒含)	小片	陳着。
2	129-K-K-22	SH2670	縄文土器	—	—	—	—	外面工具ナデ	にぶい黄緑 (5385/4)	密(～2.5mm砂粒含)	小片	沈縫。
3	128-E-K-L-23	SH2653	縄文土器	—	—	—	—	ナデ	外：にぶい黄緑 (10186/3) 内：にぶい黄緑 (10187/3)	密(～2.0mm砂粒含)	小片	突縄文、条痕。
4	129-K-L-22	包含層	縄文土器	—	—	—	—	—	にぶい碧 (7.5187/4)	密(～5.0mm砂粒含)	小片	—
5	129-K-P-20	SH2671	縄文土器	—	—	—	—	ナデ	にぶい碧 (7.5186/20)	密(～2.5mm砂粒含)	小片	沈縫。
6	129-K-K-23	SH2656	縄文土器	—	—	—	—	—	にぶい黄緑 (10187/3)	密(～3.0mm砂粒含)	小片	沈縫。
7	128-K-C-21	SE2698	縄文土器	—	—	—	—	—	にぶい碧 (7.5187/4)	密(～4.0mm砂粒含)	小片	沈縫。
8	129-K-P-20	SH2671	縄文土器	—	—	—	—	—	にぶい黄緑 (10187/2)	密(～3.0mm砂粒含)	小片	沈縫。
9	129-K-P-20	SH2671	縄文土器	—	—	—	—	—	にぶい黄緑 (10186/4)	密(～2.5mm砂粒含)	小片	沈縫。
10	129-E	表土	縄文土器	—	—	—	—	ナデ	外：灰黒縞 (10186/12) 内：にぶい黄緑 (10186/3)	密(～1.5mm砂粒含)	小片	突縄文。
11	I-1 K-B19	Pitt (SH2679)	土器部 鍋	—	—	—	—	ナデ	浅黄緑 (10186/3)	粗	小片	中世Ⅱ a。
12	I-1 K-B20	Pit5 (SH2679)	陶器 山茶柄	16.6	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.5187/1)	密(～0.5mmの砂粒含)	口縁部Z/12	—	—
13	I-5 K-025	Pit4 (SH2690)	土器部 鍋	—	—	—	ナデ	灰白 (10188/2)	やや粗(～0.5mmの砂 粒含)	口縁部J/12	中世Ⅲ a。	—
14	I-3 K-023	Pit5 (SH2690)	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.3	ロクロナデ	灰白 (537/1)	密	高台部I/12	5形式。 近部外側に素切り縫。	—
15	I-2 K-023	Pit1 (SH2690)	土器部 鍋	11.7	2.6	—	内面オサエ 内面ナデ	浅黄緑 (2.5186/3)	やや粗(～0.5mmの砂 粒含)	口縁部J/12	中世Ⅲ b。	—
16	I-6 K-023	Pit3 (SH2691)	土器部 鍋	11.8	—	—	ナデ	灰白 (2.5187/2)	密	口縁部J/12	中世Ⅲ。	—
17	I-9 K-025	Pit6 (SH2691)	土器部 小皿	8.0	1.35	—	外面オサエ。ナデ 内面ナデ	にぶい黄緑 (10187/2)	密	口縁部Z/12	—	—
18	I-6 K-A21	SK2699	土器部 鍋	10.6	—	—	ナデ	浅黄緑 (7.5188/4)	密	口縁部Z/12	身宮Ⅱ。	—
19	22-7 K-A23	SE2695	土器部 鍋	10.8	—	—	内面オサエ。ナデ 内面ナデ	灰白 (2.5187/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	口縁部J/12	中世Ⅲ b。井戸内。	—
20	22-6 K-A23	SE2695	土器部 鍋	12.6	—	—	内面オサエ。ナデ 内面ナデ	灰白 (2.5187/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	口縁部S/12	中世Ⅲ b。	—
21	22-8 K-A23	SE2695	土器部 鍋	13.1	2.5	—	内面オサエ。ナデ 内面ナデ	灰白 (2.5187/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	口縁部S/12	中世Ⅲ b。	—
22	23-3 K-A23	SE2695	土器部 小形鍋	8.8	—	—	内面ケタエ 内面ナデ	灰白 (10188/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	口縁部Z/12	—	—
23	23-2 K-A23	SE2695	土器部 鍋	21.6	—	—	ナデ	浅黄緑 (10186/4)	密(～1.0mmの砂粒 含)	口縁部J/12	—	—
24	22-4 K-A23	SE2695	陶器 山茶柄	—	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.517/1)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部I/12	見張型5形式。 底部外側に素切り縫。	—
25	22-2 K-A23	SE2695	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.8	ロクロナデ	灰白 (2.517/1)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部I/12	見張型5形式。	—
26	22-1 K-A23	SE2695	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰 (537/1)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部I/12	見張型5形式。 底部外側に素切り縫。	—
27	22-5 K-A23	SE2695	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.1	ロクロナデ	灰白 (2.518/1)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部Z/12	6形式。 底部外側に素切り縫。	—
28	22-3 K-A23	SE2695	陶器 山茶柄	—	—	高台径 5.9	ロクロナデ	灰白 (2.517/1)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部I/12	見張型6形式。	—
29	21-5 K-A23	SE2695	陶器 山茶柄	—	—	高台径 5.6	ロクロナデ	灰白 (2.517/1)	密(～3.0mmの砂粒 含)	高台部I/12	見張型6形式。 底部外側に素切り縫。	—
30	131-K-A23	SE2695	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白 (10187/0)	密	高台部 H.12	見張型6形式。 底部外側に素切り縫。 亂層。	—
31	21-4 K-A23	SE2695	陶器 山茶柄	16.6	6.5	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白 (2.517/1)	密(～1.0mmの砂粒。 5.0mmの小石含)	口縁部Z/12 高台部Z/12	見張型6形式。 底部外側に素切り縫。	—
32	21-3 K-A23	SE2695	陶器 山茶柄	15.6	5.4	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白 (2.517/1)	密(～1.0mmの砂粒。 4.0mmの小石含)	口縁部Z/12 高台部Z/12	見張型6形式。 底部外側に素切り縫。	—
33	23-1 K-A23	SE2695	陶器 便	—	—	高台径 14.6	外面工具ナデ	灰白 (2.516/1)	密(～1.0mmの砂粒。 2.0mmの小石含)	高台部Z/12	見張型6形式。 底部外側に素切り縫。	—
34	23-1 K-C22	SE2634	土器部 鍋	26.8	—	—	内面ハケメ 内面工具ナデ	灰黄緑 (10186/2)	密(～1.0mmの砂粒。 2.0mmの小石含)	高台部Z/12	自然釉。 保村村。	—
35	28-6 K-F20	SK2695	土器部 小皿	11.9	1.7	—	ナデ	灰白 (2.518/2)	密(～2.0mmの砂粒。 小石含)	口縁部J/12	身宮Ⅰ。	—

第5表 出土遺物観察表①

番号	実測番号	出土位置	遺構	施設名	施設 (cm)			調査技法の特徴	色 調	粘土	残存度	備考
					口径	高さ	その他					
36	28-9	K-P23	SK2035	土師器 壺	—	—	—	ナデ	褐 (5SR7/6)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	小片	蓄宮Ⅲ。
37	28-4	K-P22	SK2037	陶器 山茶樹	12.7	—	—	ロクロナデ	灰白 (NB/0)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	
38	15-4	K-123	SE2040	土師器 小皿	6.2	1.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄緑 (7.SV88/6)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部2/12	
39	134-3	K-123	SE2040	土師器 小皿	8.0	1.3	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄緑 (10VR8/3)	密	口縁部 12/12	煤付着。
40	11-6	K-123	SE2040	土師器 杯	13.0	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄緑 (7.SV88/3)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	蓄宮Ⅲ 2。
41	15-3	K-123	SE2040	土師器 皿	14.2	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄緑 (7.SV88/3)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	中世Ⅱ a。
42	15-2	K-123	SE2040	土師器 皿	12.4	2.4	—	ナデ	浅黄緑 (10VR8/3)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部2/12	中世Ⅱ b。
43	15-1	K-123	SE2040	土師器 皿	30.0	—	—	ナデ	浅黄緑 (10VR8/3)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	中世Ⅱ b。
44	11-4	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	16.0	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.SV7/1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	尾張型。
45	14-6	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	14.3	5.3	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白 (NB/0)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	口縁部5/12 高台部1/12	尾張型6形式。自然釉。
46	14-1	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	15.5	4.9	高台径 6.8 ~7.2	ロクロナデ	灰白 (NB/0)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	尾張型6形式。黒墨。
47	15-6	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	15.8	5.6	高台径 7.8	ロクロナデ	灰白 (NB/0)	密 (~3.0mmの砂粒 含)	口縁部11/12 高台部12/12	尾張型6形式。
48	11-3	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白 (2.SV7/1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	尾張型6形式。
49	14-3	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白 (NB/0)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	口縁部6/12	尾張型6形式。
50	14-5	E-L23	SE2040	陶器 山茶樹	—	—	高台径 6.3	ロクロナデ	灰白 (NB/0)	密 (~3.0mmの砂粒 含)	高台部3/12	尾張型6形式。
51	14-4	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白 (2.SV8/1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	尾張型6形式。 追跡部表面に壓板。
52	11-2	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	—	—	高台径 6.5	ロクロナデ	灰白 (NB/0)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部12/12	尾張型6形式。
53	11-1	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白 (2.SV7/1)	密 (~1.5mmの砂粒 含)	高台部12/12	尾張型6形式。
54	132-2	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	15.8	5.8	高台径 7.3	ロクロナデ	灰白 (SV7/1)	密 (~2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	尾張型6形式。
55	14-2	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	15.5	4.8	高台径 7.3	ロクロナデ	灰白 (NB/0)	密 (~2.0mmの砂粒, 5.0~6.8mm小石含)	口縁部9/12	尾張型6形式。墨書き。
56	131-1	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	15.1	5.2	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白 (N7/0)	密	口縁部 11/12	尾張型6形式。全体に 墨書き。底部外周に赤切り瓶。
57	15-5	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	16.1	5.2	高台径 7.9	ロクロナデ	灰白 (NB/0)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	口縁部10/12 高台部12/12	尾張型6形式。
58	134-1	K-123	SE2040	陶器 山茶樹	15.8	5.1	高台径 5.1	ロクロナデ	灰白 (2.SV7/1)	密	口縁部 12/12	6形式。煤付着。 底部外周に赤切り瓶。
59	8-4	K-P22	SE2046	土師器 鍋	17.6	—	—	ナデ	浅黄 (2.SV8/3)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	中世Ⅱ a。
60	6-2	E-P22	SE2046	土師器 鍋	18.8	—	—	ナデ	灰白 (2.SV8/2)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	口縁部3/12	中世Ⅱ a。
61	8-3	K-P22	SE2046	土師器 鍋	20.6	—	—	ナデ	にぶい、黃緑 (10VR8/3)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	中世Ⅱ a。
62	5-3	K-P22	SE2046	土師器 鍋	18.0	—	—	外面ハケメ、ケズ 内面工具ナデ	灰白 (5SR8/2)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部4/12	中世Ⅱ a。
63	6-1	E-P22	SE2046	土師器 鍋	18.2	10.3	—	外面オサエ、ナ 内面工具ナズリ 内面工具ナデ	灰白 (10VR8/2)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	口縁部5/12	中世Ⅱ a。
64	135-1	K-P22	SE2046	土師器 大形鍋	39.2	—	—	外面ハケメ、ケズ リ面工具ナズリ、 内面工具ナデ、ケズリ	外・灰白 (2.SV8/2) 内・灰黄 (2.SV7/2)	密 (~2.0mm砂粒含)	口縁部 9/12	中世Ⅱ a。煤付着。
65	5-2	E-P22	SE2046	陶器 山茶樹	—	—	高台径 8.4	ロクロナデ	灰白 (2.SV8/1)	密 (~1.5mmの砂粒 含)	高台部3/12	尾張型6形式。
66	5-1	K-P22	SE2046	陶器 山茶樹	—	—	高台径 5.7	ロクロナデ	灰白 (SV7/1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部3/12	東濃型6形式。
67	7-1	E-P22	SE2046	陶器 山茶樹	15.3	5.4	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白 (2.SV7/1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部9/12 高台部4/12	尾張型6形式。
68	128-1	K-P22	SE2046	青磁 碗	15.8	—	—	ロクロナデ	素地、灰白 (NB/0) 箱: 緑釉 (7.SG76/1)	密 (微砂粒)	口縁部 1/12	外面上に蓮弁文。
69	7-7	K-J24	SE2047	土師器 皿	10.6	—	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白 (10VR8/2)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部2/12	中世Ⅱ b。
70	7-8	K-J24	SE2047	土師器 皿	10.4	—	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白 (10VR8/2)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	中世Ⅱ b。

第6表 出土遺物観察表②

番号	実測番号	出土位置	遺構	器種形態	寸法 （cm）			調整技術の特徴	色調	粘土	残存度	備考
					直径	高さ	その他					
71	19-6	E-C21	SE20-88	土師器 小皿	6.6	0.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰黒褐 (501BB/3) (含)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部3/12	
72	19-7	E-C21	SE20-88	土師器 小皿	7.3	1.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部3/12		
73	17-6	E-C21	SE20-88	土師器 小皿	7.8~ 8.2	1.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (508/1)	褐	白練部12/12	
74	19-4	E-C21	SE20-88	土師器 皿	8.8	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰黒褐 (501BB/3)	褐 (~2.0mmの砂粒 含)	白練部2/12	中世Ⅱa。
75	17-9	E-C21	SE20-88	土師器 皿	10.0	2.5	—	オサエ、ナデ	灰白 (508/1)	褐	白練部2/12	中世Ⅱb。
76	19-5	E-C21	SE20-88	土師器 皿	12.2	1.8	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (501BB/2)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	中世Ⅱa。
77	16-2	E-C21	SE20-88	土師器 皿	12.1	2.7	—	オサエ、ナデ	灰 (508/1)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部2/12	中世Ⅱb。
78	19-1	E-C21	SE20-88	土師器 皿	14.7	2.4	—	ナデ	灰黒褐 (501BB/3)	褐 (~2.0mmの砂粒 含)	白練部2/12	中世Ⅱa。
79	19-3	E-C21	SE20-88	土師器 小皿	16.7	1.7	—	ナデ	灰白 (501BB/2)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	古宮Ⅲ。2。
80	19-2	E-C21	SE20-88	土師器 皿	13.8	2.2	—	ナデ	灰白 (501BB/2)	褐 (~2.0mmの砂粒 含)	白練部2/12	古宮Ⅲ。2。
81	8-2	E-C21	SE20-88	土師器 皿	26.6	—	—	ナデ	灰黒褐 (501BB/3)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	中世Ⅱa。
82	17-5	E-C21	SE20-88	土師器 皿	16.2	—	—	工具ナデ	灰白 (501BB/2)	褐 (~2.0mmの砂粒 含)	白練部2/12	古宮Ⅲ。2。
83	17-10	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	13.7	—	—	ロクロナデ	灰白 (507/1)	褐	白練部2/12	尾張型。
84	29-11	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	15.4	—	—	ロクロナデ	灰白 (508/6)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	尾張型。
85	29-10	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	15.6	—	—	ロクロナデ	灰白 (508/6)	褐 (~1.0mmの砂粒 6.0mmの小石含)	白練部1/12	尾張型。
86	18-2	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	19.8	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.507/1)	褐		尾張型、自然輪。
87	17-4	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 16.5	ロクロナデ	灰白 (2.508/1)	褐	高台部2/12	尾張型。
88	19-8	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	14.6	—	—	ロクロナデ	灰白 (508/4)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	
89	29-9	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	15.1	—	—	ロクロナデ	灰白 (508/6)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	尾張型。
90	17-3	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 16.4	ロクロナデ	灰白 (2.507/1)	褐	高台部1/12	尾張型。
91	21-1	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白 (2.508/1)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部5/12	尾張型6形式。 墨書き「万」。
92	132-5	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白 (2.507/1)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部 5/12	尾張型6形式。 底部外側に素切り瓶。 高台部に模倣瓶。墨書き。
93	21-2	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.508/1)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	小片	墨書き。
94	17-8	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	6.4	—	—	ロクロナデ	灰白 (508/1)	褐 (~5.0mmの小石 含)	高台部1/12	尾張型5形式。
95	16-4	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白 (2.507/1)	褐 (~2.0mmの砂粒 含)	高台部2/12	尾張型5形式。
96	20-1	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白 (508/4)	褐 (~3.0mmの砂粒 4.0~6.0mmの小石含)	高台部6/12	尾張型4形式。 底部外側に素切り瓶。
97	16-8	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白 (2.507/1)	褐		尾張型6形式。
98	17-1	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 8.3	ロクロナデ	灰白 (2.508/1)	褐	高台部3/12	尾張型6形式。
99	19-12	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.5	ロクロナデ	灰白 (508/4)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	6形式。 底部外側に素切り瓶。
100	20-3	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰白 (508/4)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	6形式。 底部外側に素切り瓶。
101	16-1	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白 (2.508/1)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部3/12	6形式。
102	17-2	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.2	ロクロナデ	灰白 (2.507/1)	褐 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部6/12	尾張型6形式。
103	20-2	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.2	ロクロナデ	灰白 (508/4)	褐 (~2.0mmの砂粒 含)	高台部11/12	尾張型6形式。
104	16-3	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白 (2.507/1)	褐 (~2.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	尾張型6形式。
105	19-9	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.5	ロクロナデ	灰白 (508/4)	褐 (~2.0mmの砂粒 含)	高台部12/12	尾張型6形式。
106	20-6	E-C21	SE20-88	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白 (508/4)	褐 (~2.0mmの砂粒 含)	高台部2/12	尾張型6形式。 底部外側に素切り瓶。

第7表 出土遺物観察表③

番号	実測番号	出土位置	遺構	器種類別	寸法 (cm)			調整技術の特徴	色 調	粘土	残存度	備 考
					直径	高さ	その他					
107	19-11	K-C21	SE2048	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.2	ロクロナデ	灰白 (086.0)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	尾張型6形式
108	16-6	K-C21	SE2048	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 8.2	ロクロナデ	灰白 (087.1)	密 (~3.0mmの砂粒 含)	高台部3/12	尾張型6形式
109	16-7	K-C21	SE2048	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白 (2.577.1)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	尾張型6形式
110	17-7	K-C21	SE2048	陶器 山茶瓶	6.4	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.577.1)	密 (~5.0mmの小石 含)	高台部3/12	尾張型6形式
111	19-10	K-C21	SE2048	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 7.5	ロクロナデ	灰白 (086.0)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	高台部3/12	尾張型6形式、自然軸。
112	20-5	K-C21	SE2048	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白 (086.0)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	尾張型6形式、 底面部外周に斜切り削。
113	19-4	K-C21	SE2048	陶器 山茶瓶	7.4	—	—	ロクロナデ	灰 (087.1)	密	口縁部7/12	尾張型6形式。 重ね、自然軸。
114	16-5	K-C21	SE2048	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 7.8	ロクロナデ	灰白 (087.1)	密 (~5.0mmの砂粒 含)	高台部1/12	尾張型6形式。
115	18-1	K-C21	SE2048	陶器 山茶瓶	7.4	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.577.1)	密	高台部2/12	6形式。
116	20-8	K-C21	SE2048	陶器 山皿	9.0	1.8	底径 5.0	ロクロナデ	灰白 (076.0)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	白練部1/12 高台部2/12	尾張型6 底面部外周に斜切り削。
117	20-7	K-C21	SE2048	陶器 山皿	8.6	1.7	底径 5.6	ロクロナデ	灰白 (086.0)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部3/12 高台部3/12	尾張型6 底面部外周に斜切り削。
118	20-1	K-C21	SE2048	陶器 釜	—	—	高台径 13.0	ロクロナデ	灰白 (086.0)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	面台部1/12	6形式。
119	16-3	K-C21	SE2048	陶器 釜	—	—	高台径 12.8	ロクロナデ	灰 (086.1)	密		
120	9-5	K-L23	SE2049	土師器 小皿	7.6	1.25	—	内面オサエ、ナデ 内面ナデ	相 (5.577.6)	密	口縁部2/12	
121	12-2	K-M23	SE2049	土師器 盆	12.3	—	—	内面オサエ、ナデ 内面ナデ	相 (7.577.6)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部2/12	宮室Ⅱ。
122	9-4	K-M23	SE2049	土師器 盆	12.0	2.8	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	相	密	口縁部3/12	中世Ⅲa。
123	9-6	K-M23	SE2049	土師器 盆	11.6	2.25	—	内面オサエ、ナデ 内面ナデ	相 (5.578.3)	密 (~1.0mmの砂 粒含)	口縁部2/12	中世Ⅲa。
124	9-7	K-L23	SE2049	土師器 盆	12.6	2.4	—	内面オサエ、ナデ 内面ナデ	相 (7.578.6)	密	口縁部2/12	中世Ⅲa。
125	9-2	K-L23	SE2049	土師器 盆	13.0	2.4	—	内面オサエ、ナデ 内面ナデ	相 (7.578.7.6)	密	口縁部4/12	中世Ⅲa。
126	9-3	K-L23	SE2049	土師器 盆	12.8	—	—	内面オサエ、ナデ 内面ナデ	相 (5.580.6)	密	口縁部11/12	中世Ⅲa。
127	9-1	K-L23	SE2049	土師器 盆	12.0	3.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	相 (7.578.6.0)	密	口縁部6/12	中世Ⅲa。
128	10-6	K-L23	SE2049	土師器 瓶	19.8	—	頭部径 17.8	— ナデ	外: 売灰 (10106.1) 内: 反灰陶 (10106.2)	小やれ (~1.0mmの砂 粒含)	口縁部1/12 頭部径3/12	中世Ⅲa。
129	12-3	K-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	18.0	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.577.1)	密 (~1.5mmの砂粒 含)	口縁部1/12	自然軸。
130	10-5	K-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	15.6	—	—	ロクロナデ	灰白 (087.)	密	口縁部1/12	尾張型。
131	12-4	K-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	18.0	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.578.1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部2/12	
132	10-1	K-M23	SE2049	陶器 山茶瓶	15.0	—	—	ロクロナデ	灰白 (087.)	密	口縁部2/12	尾張型。
133	12-1	K-M23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰黄 (2.577.2)	密 (~1.5mmの砂粒 含)、 高台部小石含	高台部4/12	尾張型5形式。
134	12-8	K-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 7.7	ロクロナデ	灰白 (087.1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部2/12	尾張型6形式。
135	12-5	K-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白 (087.0)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部6/12	尾張型6形式。
136	12-7	K-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白 (2.577.1)	密 (~1.5mmの砂粒 含)	高台部4/12	尾張型6形式。
137	13-1	K-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	14.6	4.9	高台径 6.7	ロクロナデ	灰白 (088.0)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部12/12	尾張型6形式。
138	13-4	K-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	15.8	4.4	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白 (087.6)	密 (~1.5mmの砂粒 含)	口縁部3/12	尾張型6形式。
139	10-1	K-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白 (2.577.1)	密	高台部12/12	尾張型6形式。
140	11-6	K-M23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白 (087.0)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	口縁部5/12	尾張型6形式。
141	12-6	K-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰白 (10107.1)	密 (~1.5mmの砂粒 含)	高台部2/12	尾張型6形式。
142	11-8	K-M23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.1	ロクロナデ	灰白 (089.1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	尾張型6形式。

第8表 出土遺物観察表④

番号	実物番号	出土位置	遺物	器種器形	寸法 （cm）			調整技術の特徴	色調	粘土	残存度	備考
					直径	高さ	その他					
143	13-3	E-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白 (2.5H7/1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部2/12	尾張型6形式。
144	13-2	E-L23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.9	ロクロナデ	灰白 (2.5H7/1)	密 (~1.5mmの砂粒 含)	高台部1/12	尾張型6形式。
145	10-3	E-M23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白 (2.5H7/2)	密	高台部3/12	尾張型6形式。
146	11-7	E-M23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白 (2.5H7/1)	密 (~1.5mmの砂粒 含)	高台部10/12	尾張型6形式。
147	10-2	E-M23	SE2049	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白 (2.5H7/1)	密	高台部6/12	尾張型6形式。
148	133-1	E-L23	SE2052	土師器 鍋	18.6	10.3	—	外面ハケメ、オザ ニ、ナデ、ケズリ 内面オサエ、ナ デ、ケズリ	灰白 (10H8/2)	密 (~2.0mm砂粒含)	白練部 8/12	中世Ⅱa。外面に揮付 有。
149	133-2	E-L23	SE2052	土師器 羽釜	16.6	10.9	—	外面ハケメ、オザ ニ、ナデ、ケズリ 内面オサエ、ナ デ、ケズリ	灰白 (10H8/2)、内 面(10H7/2)	密 (~1.0mm砂粒含)	白練部 12/12	中世Ⅱb。外面に揮付 有。
150	56-1	E-L23	SE2052	土師器 甕	24.9	—	—	ナデ	灰白 (7.5H8/6)	密	白練部 1/12	古宮Ⅲ。
151	55-3	E-L23	SE2052	陶器 山茶瓶	19.9	—	—	ロクロナデ	灰(5H6/1)	密	白練部 1/12	尾張型
152	132-2	E-L23	SE2052	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.1	ロクロナデ	外：灰白 (2.5H7/1) 内：灰白(9H/1)	密	高台部 12/12	尾張型6形式。 底部外側に系切り瓶。 墨書き。高台部に揮付有。
153	27-5	E-G23	SE2054	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (10H8/3)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部7/12	
154	26-3	E-G23	SE2054	土師器 鍋	13.4	—	頭部径 13.0	外面ハケメ 内面ナデ	内:5.4根 (5H8/0)	やや密 (~0.5mmの砂 粒含)	白練部1/12	頭部径2/12
155	26-2	E-G23	SE2054	土師器 鍋	—	—	—	ヨコナデ	にぶ・黄褐 (10H7/2)	やや粗 (~2.0mmの砂 粒含)	白練部1/12	中世Ⅱa。揮付有。
156	27-2	E-G23	SE2054	土師器 鍋	26.6	—	—	ナデ	灰白 (10H6/2)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	中世Ⅱa。揮付有。
157	27-2	E-G23	SE2054	土師器 鍋	31.7	—	—	外面ハケメ 内面ナデ	灰白 (10H8/2)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	中世Ⅱa。外面に揮付 有。
158	26-1	E-G23	SE2054	土師器 小皿	33.0	—	頭部径 30.2	外面ハケメ 内面工具ナデ	にぶ・黄褐 (10H7/2)	やや密 (~0.5mmの砂 粒含)	白練部1/12	中世Ⅱa。
159	25-3	E-G23	SE2054	土師器 鍋	34.0	—	—	ヨコナデ	にぶ・黄褐 (10H7/2)	やや密	白練部2/12	中世Ⅱa。揮付有。
160	27-1	E-G23	SE2054	土師器 鍋	25.6	—	—	ヨコナデ	灰白 (10H8/2)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	白練部2/12	中世Ⅱa。揮付有。
161	26-5	E-G23	SE2054	土師器 鍋	26.0	—	—	ヨコナデ	灰白 (2.5H8/2)	やや粗 (~1.0mmの砂 粒含)	白練部1/12	中世Ⅱb。
162	26-4	E-G23	SE2054	土師器 鍋	—	—	—	工具ナデ	外：灰黃 (10H5/2) 内：灰褐 (10H5/1)	密	小片	中世Ⅱb。
163	27-1	E-G23	SE2054	土師器 羽釜	34.3	—	径 45.0	外面ハケメ 内面オサエ、ナデ	灰白 (10H8/2)	密 (~2.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	中世Ⅱa。
164	25-1	E-G23	SE2054	土師器 小形皿	10.0	—	—	ナデナデ	灰白 (10H8/2)	密	白練部3/12	外面に揮付有。
165	24-3	E-G23	SE2054	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 7.2	ロクロナデ	灰黃 (2.5H7/2)	密	高台部11/12	尾張型5形式。 底部外側に系切り瓶。
166	24-6	E-G23	SE2054	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白 (2.5H7/1)	密	高台部2/12	尾張型5形式。 底部外側に系切り瓶。
167	24-1	E-G23	SE2054	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.9	ロクロナデ	灰白 (2.5H7/1)	密	高台部2/12	尾張型6形式。 底部外側に系切り瓶。
168	28-1	E-G23	SE2054	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.9	ロクロナデ	灰白 (2.5H6/3)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	底部12/12	尾張型6形式。 底部外側に系切り瓶。
169	24-1	E-G23	SE2054	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白 (2.5H7/1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	高台部5/12	尾張型6形式。 底部外側に系切り瓶。
170	24-2	E-G23	SE2054	陶器 山茶瓶	14.6	—	—	ロクロナデ	灰 (2.5H6/1)	密 (~1.0mmの砂粒 含)	白練部4/12	尾張型。
171	21-5	E-G23	SE2054	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 8.2	ロクロナデ	灰白 (2.5H7/1)	密	高台部1/12	6形式。 底部外側に系切り瓶。
172	131-6	E-G23	SE2054	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 5.8	ロクロナデ	灰白 (2.5H7/1)	密	高台部9/12	6形式。 底部外側に系切り瓶。 墨書き。
173	24-7	E-G23	SE2054	陶器 山茶瓶	—	—	底径 8.9	ロクロナデ	墨書き：灰白 (2.5H6/3) 輪：オリーブ (2.5H6/3)	密	底部3/12	底部外側に系切り瓶。 内面自然輪。
174	25-2	E-G23	SE2054	陶器 盆	28.0	—	—	工具ナデ	にぶ・黄 (10H6/3)	やや粗 (~1.0mmの砂 粒含)	白練部1/12	常滑。

第9表 出土遺物観察表⑤

番号	実測番号	出土位置	遺物	器種形態	寸法 （cm）			調整技術の特徴	色調	粘土	残存度	備考	
					直径	最高	その他						
175	25-1	E-G23	SE2654	陶器 甕	—	—	底径 14.0	外腹ナデ 内腹ロクロナデ	赤灰 (577/1) 灰モリーブ 黄(575/3)・暗 緑(10YR5/3/20)	やや密(～0.5mmの砂粒 含)	白緑部3/12	残軸。	
176	7-3	E-M23	SE2655	陶器 山茶瓶	16.8	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.577/1)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部2/12	尾張型。	
177	7-2	E-M23	SE2655	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白 (2.577/1)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部5/12	尾張型6形式。	
178	7-4	E-M23	SE2655	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰黄 (2.577/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部3/12	尾張型6形式。	
179	3-3	E-D22	SE2662	土師器 高杯	—	—	基盤径 3.8	ナデ、ケズリ	に点・黃緑 (10YR7/3)	密(～1.5mmの砂粒 含)	脚部12/12	鳥貴目。	
180	7-5	E-P22	SE2662	土師器 小皿	7.9	1.0	—	外腹オサエ 内腹ナデ	浅黄緑 (10YR9/3)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部4/12		
181	7-6	E-P22	SE2662	土師器 小皿	7.4	1.1	—	外腹オサエ 内腹ナデ	浅黄緑 (10YR8/3)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部4/12		
182	3-2	E-D22	SE2662	土師器 皿	13.0	—	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部1/12	中世Ⅱb。	
183	3-1	E-D22	SE2662	陶器 山茶瓶	14.7	—	—	ロクロナデ	灰白 (2.577/1)	密(～2.0mmの砂粒 含)	白緑部2/12	尾張型。	
184	4-6	E-C21	SE2667	土師器 小皿	7.0	1.3	—	外腹オサエ 内腹ナデ	に点・櫻 (58R7/4)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部3/12		
185	3-6	E-C21	SE2667	陶器 山茶瓶	13.9	—	—	ロクロナデ	灰白 (M2.4)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部2/12		
186	3-8	E-C21	SE2667	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 7.2	外腹ロクロナデ、 ケズリ 内腹ロクロナデ	灰白 (2.577/1)	密(～1.5mmの砂粒 含)	高台部2/12	5形式。	
187	4-5	E-C21	SE2667	陶器 山茶瓶	16.8	—	—	ロクロナデ	灰 (596/1)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部1/12	尾張型。	
188	131-2	E-C21	SE2667	陶器 山茶瓶	14.9	5.3	高台径 5.1	ロクロナデ	外：灰(596/1) 内：灰褐色 (7.5R5/2)	やや粗(0.8mmの小石含 む)	白緑部10/12	尾張型4形式。 外面に墨書き。 口縁部付着。底 部外周に素切り痕。 底部に移設痕。	
189	3-9	E-C21	SE2667	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.5	外腹ロクロナデ、 ケズリ 内腹ロクロナデ	灰白 (2.577/1)	密(～2.0mmの砂粒 含)	高台部5/12	尾張型6形式。	
190	3-5	E-C21	SE2667	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 5.8	ロクロナデ	灰白 (M7.4)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	6形式。	
191	4-4	E-C21	SE2667	陶器 杯	—	—	底盤径 11.9	—	灰白 (598.9)	密(～1.5mmの砂粒 含)	高台部1/12	6形式。	
192	3-7	E-C21	SE2667	陶器 杯	—	—	高台径 15.0	外腹ロクロナデ、 ケズリ 内腹ロクロナデ	灰白 (M7.1)	密(～1.5mmの砂粒 含)	高台部2/12	6形式。	
193	3-4	E-F22	SE2672	土師器 皿	11.6	2.2	—	外腹オサエナデ、 ナサエ 内腹ナデ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部4/12	中世Ⅲb。	
194	7-9	E-C21	SE2675	土師器 杯	11.6	—	—	外腹オサエ 内腹ナデ	浅黄 (2.577/3)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部1/12	宮Ⅱ 2。	
195	8-5	E-C21	SE2675	土師器 甕	18.0	—	—	工具ナデ	浅黄 (2.578/3)	密(～3.0mmの砂粒 含)	白緑部3/12	宮闈Ⅱ。	
196	4-1	E-C21	SE2676	陶器 山茶瓶	15.8	5.2~ 6.2	高台径 6.9	ロクロナデ	灰白 (2.578/1)	密(～1.5mmの砂粒 含)	白緑部3/12	尾張型6形式。 内部に自然軸。	
197	131-5	E-C21	SE2676	陶器 山茶瓶	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白(2.577/1)	密	白緑部 12/12	尾張型6形式。 底部外周に素切り痕。 墨書き。	
198	4-2	E-C21	SE2677	陶器 杯	16.6	5.55	高台径 7.6	ロクロナデ	灰白 (577/1)	密(～1.5mmの砂粒 含)	白緑部2/12	尾張型6形式。座輪。	
199	4-3	E-C21	SE2677	陶器 山茶瓶	15.4~ 16.2	5.1~ 5.9	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白 (598/1)	密(～3.0mmの砂粒 含)	白緑部11/12	尾張型5形式。 底部外周に墨書き。 内部に自然軸。	
200	89-10	E-H23	SE2691	土師器 鍋	—	—	—	ロコナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	小片	中世Ⅲa。	
201	32-6	1-Y1	SD2693	土師器 小皿	7.0	1.9	—	外腹オサエ、ナサエ 内腹ナデ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.5mmの砂粒 含)	白緑部9/12	中世Ⅳa。	
202	40-8	1-Y25	SB2693	土師器 小皿	7.2	9.9	—	外腹オサエ、ナサエ 内腹ナデ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.0mmの砂粒、 3.0mm小石含)	白緑部4/12	中世Ⅳa。	
203	32-7	1-Y1	SD2693	土師器 小皿	7.2	1.1	—	外腹オサエ、ナサエ 内腹ナデ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.5mmの砂粒 含)	白緑部6/12	中世Ⅳa。	
204	89-7	1-Y25	SB2693	土師器 皿	10.1	—	—	外腹オサエ、ナサエ 内腹ナデ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.5mmの砂粒 含)	白緑部2/12		
205	32-1	1-Y1	SD2693	土師器 皿	10.2	2.5	—	外腹オサエ、ナサエ 内腹ナデ	灰白 (10YR8/2)	密(～2.0mmの砂粒 含)	白緑部2/12	中世Ⅲb。	
206	89-5	1-Y25	SD2693	土師器 皿	10.2	—	—	外腹オサエ、ナサエ 内腹ナデ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部3/12	中世Ⅲb。	
207	31-4	1-Y1	SD2693	土師器 皿	10.9	2.5	—	外腹オサエ、ナサエ 内腹ナデ	浅黄緑 (10YR8/3)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白緑部3/12	中世Ⅲb。	

第10表 出土遺物観察表⑥

番号	実測番号	出土位置	遺構	器種形態	寸法 （cm）			調整技術の特徴	色調	粘土	残存度	備考	
					直径	高さ	その他						
208	31-7	I-Y1	SB2093	土師器皿	9.8	2.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~2.0mm)の砂粒 含	白練部2/12	中世IV a.	
209	32-2	I-Y1	SB2093	土師器皿	9.1	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部12/12	中世IV a.	
210	31-5	I-Y1	SB2093	土師器皿	9.3	2.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部3/12	中世IV a.	
211	31-6	I-Y1	SB2093	土師器皿	9.6	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部2/12	中世IV a.	
212	40-6	I-X25	SB2093	土師器皿	9.0	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部4/12	中世IV a.	
213	33-3	I-Y1	SB2093	土師器皿	9.0	2.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部11/12	中世IV a.	
214	33-4	I-Y1	SB2093	土師器皿	9.1	2.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.5mm)の砂粒 含	白練部1/12	中世IV a.	
215	33-2	I-Y1	SB2093	土師器皿	9.5 ~9.8	2.8	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.5mm)の砂粒 含	白練部2/12	中世IV a. 内面に工具痕。墨跡。	
216	32-4	I-X25	SB2093	土師器皿	9.7	2.8	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部6/12	中世IV a.	
217	35-3	I-Y1	SB2093	土師器皿	9.9	2.7	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒, 8.0mm小石含	白練部6/12	中世IV a.	
218	32-3	I-Y1	SB2093	土師器皿	9.7	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~2.0mm)の砂粒 含	白練部6/12	中世IV a. 外面上に墨跡。	
219	32-5	I-Y1	SB2093	土師器皿	9.2 ~9.7	2.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部12/12	中世IV a.	
220	35-2	I-Y1	SB2093	土師器皿	12.8	—	—	外面オサエ 内面ナデ	灰黄褐 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部3/12	中世IV a D形態	
221	31-3	I-Y1	SB2093	土師器皿	14.1	—	—	ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.5mm)の砂粒 含	白練部3/12	中世IV a D形態	
222	33-5	I-Y1	SB2093	土師器皿	13.9	2.4	—	外面オサエ 内面ナデ	灰黄褐 (010BB/2)	密 (~1.5mm)の砂粒 含	白練部4/12	中世IV a D形態	
223	35-1	I-Y1	SB2093	土師器皿	13.8	2.8	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部3/12	中世IV a D形態	
224	31-2	I-X25	SB2093	土師器皿	16.3	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.5mm)の砂粒 含	白練部5/12	中世IV a D形態	
225	34-5	I-Y1	SB2093	土師器皿	16.9	3.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.5mm)の砂粒 含	白練部9/12	中世IV a D形態。 外面上に墨跡。	
226	34-2	I-Y1	SB2093	土師器皿	19.8	—	—	外面径 16.6 体部径 21.0	外面ハケメ 内面工具ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部2/12 頭部2/12 体部1/12	中世II a.
227	34-4	I-Y1	SB2093	土師器皿	20.6	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	にぶい黄褐 (010BB/2)	密 (~1.5mm)の砂粒 含	白練部2/12 頭部3/12 体部1/12	中世II a.	
228	34-3	I-Y1	SB2093	土師器皿	20.1	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	にぶい黄褐 (010BB/2)	密 (~2.0mm)の砂粒 含	白練部3/12 頭部3/12	中世II a.	
229	37-1	L-A1	SB2093	土師器皿	20.8	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	にぶい黄褐 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部4/12	中世II a. 爪付着。	
230	34-1	I-Y1	SB2093	土師器皿	23.2	—	—	外面径 19.6 体部径 22.6	内面ケズリ、ハケ ナデ 内面オサエ、ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~2.0mm)の砂粒 含	白練部4/12 頭部4/12 体部4/12	中世II b.
231	37-2	I-Y1	SB2093	土師器皿	25.2	—	—	外面ハケメ 内面オサエ、ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部1/12	中世II a.	
232	35-4	I-Y1	SB2093	土師器皿	19.8	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	灰白 (2.508/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部1/12	中世III a. 外面上に 爪付着。	
233	35-6	I-Y1	SB2093	土師器皿	20.6	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	にぶい黄褐 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部1/12	中世III a.	
234	31-1	I-M1	SB2093	土師器皿	25.9	—	—	ココナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部1/12	中世III b.	
235	38-4	I-X25	SB2093	土師器皿	35.7	—	—	ナデ	灰黄褐 (010BB/2)	密 (~1.5mm)の砂粒 含	白練部1/12	中世III a. 外面上に 爪付着。	
236	38-6	I-X25	SB2093	土師器皿	—	—	—	ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~2.0mm)の砂粒 含	小片	中世III a. 爪付着。	
237	36-3	I-Y1	SB2093	土師器皿	32.0	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	にぶい黄褐 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部3/12	中世IV a.	
238	35-5	I-Y1	SB2093	土師器皿	22.8	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	灰黄褐 (010BB/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部3/12	中世II a.	
239	36-2	I-Y1	SB2093	土師器皿	22.0	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	灰白 (2.508/2)	密 (~1.0mm)の砂粒 含	白練部8/12	中世IV a.	
240	38-3	I-X25	SB2093	土師器皿	28.3	—	—	内面工具ナデ 内面ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~2.0mm)の砂粒 含	白練部3/12	中世III b.	
241	38-1	I-X25	SB2093	土師器皿	41.0	—	—	ナデ	灰白 (010BB/2)	密 (~2.0mm)の砂粒 含	白練部1/12		

第11表 出土遺物観察表⑦

番号	実測 位置 番号	出土 位置	遺物	器種・形態	寸 量 (cm)			調整技術の特徴	色 調	粘土	残存度	備 考	
					口徑	底 径	その他						
242	33-1	I-Y2	SB2001	土師器 引垂	41.6	—	—	外側ハケメ 内側工具ナダ	灰白 (10188/2)	密(～2.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	中世Ⅲa。	
243	133-3	I-Y1	SB2003	陶器 鉢皿	17.4	4.0	底径 9.3	ロクロナダ	淡黄褐 (7.5YR7/3)、に ぶら (7.5YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部3/12	古窯口削面。 底部外側に毛切り線。	
244	36-1	I-Y1	SB2003	土師器 鉢	36.0	—	—	コニナダ	明赤褐 (5.5YR9/0)	密(～2.0mmの砂粒 含)	口縁部3/12	常滑3-9。 圓則。保付柾。	
245	37-3	I-Y1	SB2003	陶器 壺	32.6	—	—	ナダ	灰褐 (7.5YR1/2)	密(～3.0mmの砂粒 含)	口縁部1/12	常滑。	
246	63-3	E-C21	SB2006	土師器 鉢	28.8	—	—	外側ハケメ 内側工具ナダ	にぶら (10188/2)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部1/12	中世Ⅳa。	
247	61-1	E-C21	SB2006	土師器 鉢	26.6	—	—	外側ハケメ 内側工具ナダ	浅黄褐 (10188/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部3/12	中世Ⅳa。	
248	49-9	E-B23	SB2007	土師器 皿	9.6	2.6	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (10188/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	口縁部3/12	中世Ⅳa。	
249	49-3	E-B24	SB2007	土師器 皿	9.4	2.5	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (10188/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	口縁部10/12	中世Ⅳa。	
250	49-1	E-B22	SB2007	陶器 山茶碗	—	—	高台径 6.8	ロクロナダ	灰白(N6/0)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部3/12	尾張型6形式。 底部外側に毛切り線。	
251	39-5	E-B21	SB2007	陶器 山茶碗	—	—	高台径 6.1	ロクロナダ	灰白(N7/0)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部6/12	尾張型6形式。 底部外側に毛切り線。 蓋。	
252	39-1	E-B23	SB2007	陶器 直線大皿	—	—	高台径 15.0	外側ロクロケズリ 内側ロクロナダ	灰白 (10188/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部4/12	内面に施釉。土鏡製。 底部外側に毛切り線。 古窯口後退。	
253	39-3	E-B23	SB2007	陶器 丸子	—	—	底径 9.3	ロクロナダ	灰白(NT/0) 輪: オリーブ灰 (2.5GY6/1)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部3/12	外面上施釉。 古窯口中央。	
254	39-2	E-B23	SB2007	青磁 壺	—	—	高台径 4.7	外側ロクロケズリ 内側ロクロナダ	灰白 (2.5GY6/1)	密	高台部12/12		
255	39-9	E-B21	SB2007	白磁 壺	—	—	高台径 6.0	ロクロナダ	灰白(N8/0) 輪: オリーブ灰 (2.5GY6/1)	密	高台部1/12		
256	41-1	E-A22	SB2008	土師器 小皿	7.2	1.0	—	オサエ、ナダ	淡黄褐 (10188/3)	密(～1.0mmの砂粒 含)	口縁部5/12		
257	41-2	E-A22	SB2008	土師器 小皿	7.4	1.9	—	オサエ、ナダ	灰白 (2.5YR2/2)	密	口縁部4/12		
258	41-7	E-A22	SB2008	土師器 小皿	8.9	1.1	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (10188/2)	密	口縁部6/12		
259	42-7	E-A22	SB2008	土師器 皿	10.8	—	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (5GY8/1)	密	口縁部1/12	中世Ⅲb。	
260	42-9	E-A22	SB2008	土師器 皿	11.0	—	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (10188/2)	密	口縁部5/12	中世Ⅲb。	
261	41-3	E-A22	SB2008	土師器 皿	11.0	2.3	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (2.5YR2/2)	密(～2.0mmの砂粒 含)		中世Ⅲb。	
262	42-3	E-A22	SB2008	土師器 皿	10.8	2.5	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	淡黄褐 (2.5YR3/3)	密	口縁部7/12	中世Ⅲb。	
263	42-1	E-A22	SB2008	土師器 皿	11.0	—	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (2.5GY8/1)	密	口縁部1/12	中世Ⅲb。	
264	41-6	E-B22	SB2008	土師器 皿	11.8	2.8	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (10188/2)	密(～1.0mmの小石 含)	口縁部2/12	中世Ⅲb。	
265	42-6	E-A22	SB2008	土師器 皿	10.8	2.6	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	GY8/1)	密	口縁部5/12	中世Ⅲb。	
266	42-2	E-A22	SB2008	土師器 皿	11.8	2.5	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (2.5YR2/2)	密	口縁部9/12	中世Ⅲb。	
267	41-9	E-A22	SB2008	土師器 皿	11.8	2.4	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (10188/2)	やや密(～5.0mmの小 石含)	口縁部9/12	中世Ⅲb。	
268	41-5	E-A22	SB2008	土師器 皿	11.6	2.9	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	灰白 (10188/2)	密(～2.0mmの砂粒 含)	口縁部4/12	中世Ⅲb。	
269	41-1	E-A22	SB2008	土師器 皿	10.8	2.5	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	淡黄褐 (2.5GY8/3)	密(～2.0mmの砂粒 含)	口縁部6/12	中世Ⅲb。	
270	41-10	E-E22	SB2008	土師器 皿	11.0	2.3	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	淡黄褐 (2.5YR8/3)	密		中世Ⅲb。	
271	41-8	E-C22	SB2008	陶器 山茶碗	—	—	高台径 4.5	内側ロクロナダ	灰白 (2.5YR7/1)	密	口縁部2/12	底部外側に毛切り線。	
272	57-1	E-B20	SB2010	陶器 山茶碗	—	—	高台径 9.0	ロクロナダ	灰白(N5Y7/1)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部2/12	尾張型5形式。 底部外側に毛切り線。 蓋。	
273	132-1	E-H20	SB2010	陶器 山里	—	—	底無径 4.6	ロクロナダ	灰白(2.5YR7/1)	密	底部 5/12	常滑Ⅱ。	
274	51-9	E-C21	SB2012	土師器 杯	13.2	3.0	—	外側オサエ、ナダ 内側ナダ	にぶら (3GY7/4)	密	口縁部5/12	中世Ⅲa。	
275	51-9	E-C20	SB2012	土師器 皿	13.0	2.4	—	外側オサエ、ナダ 内側オサエ、ナダ	にぶら (7.5YR7/3)	密	口縁部2/12		

第12表 出土遺物観察表⑧

番号	実物 番号	出土 位置	遺物	器種形態	寸 量 (cm)			調整技術の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
					口径	底高	その他					
226	51-1	E-R25	SB2912	土師器皿	12.1	2.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.518/2)	密	白練部 11/12	中世Ⅲa。
277	51-2	E-C29	SB2912	土師器皿	12.0	2.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(1.0188/2)	密	白練部 2/12	中世Ⅲb。
278	51-3	E-C22	SB2912	土師器皿	7.6	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(1.0188/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 4/12	中世Ⅳa。
279	51-3	E-B25	SB2912	土師器皿	8.8	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(0.9187/2)	密	白練部 10/12	中世Ⅳa。
280	51-1	E-C29	SB2912	土師器皿	9.0	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(3.518/1)	密	白練部 4/12	中世Ⅳa。
281	51-5	E-C21	SB2912	土師器皿	10.0	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(1.0188/2)	密	白練部 2/12	中世Ⅳa。
282	51-2	E-B29	SB2912	土師器皿	9.6	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(3.518/1)	密	白練部 5/12	中世Ⅳa。
283	51-5	E-C29	SB2912	土師器皿	9.4	—	—	オサエ、ナデ	灰白(1.0188/2)	密	白練部 3/12	中世Ⅳa。
284	51-2	E-C29	SB2912	土師器皿	20.8	—	—	ナデ	灰白(1.0188/2)	密(～1.5mm砂粒含)	白練部 2/12	中世Ⅱa。外面に保付着。
285	51-2	E-C21	SB2912	土師器皿	—	—	—	外面ハケメ 内面ハ工具ナデ	外：にぶい黄褐色 (0.9187/2) 内：暗緑(3.518/3)	密	小片	保付着。
286	51-10	E-B21	SB2912	陶器 平柄	—	—	—	ロクロナデ	—	密	小片	施釉。古漬戻。
287	51-6	E-C21	SB2912	陶器 平柄	16.0	—	—	ロクロナデ	—	密	白練部 2/12	施釉。 施釉戻戻戻中1。
288	51-1	E-C29	SB2912	陶器 平柄	23.8	—	—	ロクロナデ	灰白(2.517/1)	密	白練部 4/12	施釉。 古漬戻中IV。
289	51-8	E-B22	SB2912	陶器 山茶輪	—	—	高台様 7.8	ロクロナデ	灰白(2.517/1)	密	高台部3/12	施釉外面上に系切り瓶。 保付着。
290	51-4	E-C21	SB2912	陶器 山茶輪	—	—	高台様 6.4	ロクロナデ	灰白(2.517/1)	密(～1.5mm砂粒含)	高台部6/12	瓦張型6形式。 施釉外面上に重ね埴燒。
291	51-7	E-B21	SB2912	陶器 山茶輪	—	—	高台様 7.8	ロクロナデ	にぶい黄褐色 (0.9187/2)	密	高台部2/12	瓦張型6形式。 施釉外面上に系切り瓶。
292	51-7	E-C21	SB2912	陶器 山茶輪	—	—	高台様 7.0	ロクロナデ	—	密(～3.0mm砂粒含)	高台部12/12	6形式。 施釉外面上に系切り瓶。 施釉外面上に焼物付着。 高台部12に自然釉。
293	51-9	E-C21	SB2912	陶器 山茶輪	—	—	高台様 5.2	ロクロナデ	灰白(7.517/1)	密	高台部2/12	6形式。 施釉外面上に系切り瓶。
294	51-5	E-C29	SB2912	灰熱陶器 皿	—	—	高台様 8.0	ロクロナデ	灰白(2.517/1)	密(～3.0mm小石含)	白練部 1/12	瓦張型5形式。 施釉外面上に系切り瓶。
295	52-1	E-C22	SB2912	陶器 皿	—	—	底径 14.4	工具ナデ	にぶい銀 (2.5186/1)	やや粗(～1.0mm砂粒 含)	底部 2/12	—
296	52-2	E-C21	SB2912	陶器 皿	—	—	底径 10.6	工具ナデ	外：赤茶 (2.5185/2) 内：灰褐色 (2.5186/2)	やや粗(～1.0mm砂粒 含)	底部 1/12	6形式。 施釉外面上に系切り瓶。
297	53-1	E-C21	SB2912	瓦質土器 火鉢	36.0	—	—	ミガキ	灰(7.015/1)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 1/12	—
298	53-2	E-C22	SB2912	瓦質土器 火鉢	—	—	底径 35.4	ミガキ	灰(7.015/1)	密(～1.0mm砂粒含)	底部 1/12	—
299	119-1	E-C29	SB2913	土師器皿 肩差	—	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	浅黃褐 (2.5186/3)	密(～2.0mm砂粒含)	白練部 1/12	中世Ⅲ。
300	50-2	E-C29	SB2913	陶器 山茶輪	—	—	高台様 7.0	ロクロナデ	灰白(87/9)	密(～2.5mm砂粒含)	高台部3/12	瓦張型6形式。 施釉外面上に系切り瓶。 高台部に移設窓。
301	57-2	E-B19	SB2913	陶器 山茶輪	—	—	高台様 6.4	ロクロナデ	灰白(2.517/1)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部3/12	6形式。 施釉外面上に系切り瓶。
302	50-5	E-C19	SB2916	土師器皿	11.8	1.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(1.0188/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世Ⅲa。 外面に粘土絆の織目。
303	50-1	E-C19	SB2916	土師器皿	12.1	2.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(1.0188/2)	密(～2.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世Ⅲa。
304	50-6	E-C19	SB2916	土師器皿	11.7	2.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(1.0188/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世Ⅲa。
305	50-10	E-C20	SB2916	土師器皿	11.0	2.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(1.0188/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 1/12	中世Ⅲb。
306	50-7	E-C19	SB2916	土師器皿	10.6	2.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(1.0188/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世Ⅲb。
307	50-8	E-C19	SB2916	土師器皿	11.0	2.1	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(1.0188/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 5/12	中世Ⅲb。
308	49-9	E-C19	SB2916	土師器皿	10.2	2.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(1.0188/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世Ⅲb。

第13表 出土遺物観察表⑨

番号	実測 標高	出土 位置	遺物	器種形態	寸 量 (cm)			調整技術の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考	
					口径	底径	その他						
309	19-9	E-C19	SB2916	土師器 皿	19.3	2.1	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	浅黄褐 (10Y8R/3)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 2/12	中世Ⅲ b。	
310	50-9	E-C19	SB2916	土師器 皿	19.0	2.3	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(10Y8R/2)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 4/12	中世Ⅲ b。	
311	57-3	E-B20	SB2917	陶器 山茶碗	—	—	高台捲 7.8	クロコナダ	灰白(2.53R/1)	密(～2.0mm砂粒食)	高台部1/12	尾垂型6形式。 底部外側に切り落。	
312	57-5	E-B20	SB2917	陶器 杯	—	—	高台捲 11.4	ナダ	灰白(Ng/0)	密(～3.0mm砂粒食)	高台部4/12	4形式。	
313	57-5	E-B21	SB2918	土師器 皿	19.6	—	—	外腹オサエ、ナダ 内腹工具ナダ	浅黄褐 (10Y8R/3)	密(無砂粒食)	白練部 1/12	中世Ⅲ b。	
314	44-1	E-D21	SD2019	土師器 杯	14.0	—	—	ナダ	桙 (5Y8R/4)	密	白練部2/12	柾宮Ⅱ 2。	
315	43-5	E-D21	SD2019	土師器 杯	12.4	—	—	ナダ	外：にぶい桙 (7.5WZ/1) 内：桙(5Y8R/7)	密	白練部2/12	柾宮Ⅱ 1。	
316	43-1	E-D21	SD2019	土師器 杯	19.0	3.9	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	にぶい桙 (5WZ/4)	密	白練部2/12	柾宮Ⅱ 1。 内面に暗文 (螺旋、放射)。	
317	43-5	E-D21	SD2019	土師器 杯	13.2	2.7	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	外：桙(3Y8E/6) 内：桙(5Y8R/7)	密	白練部4/12	柾宮Ⅱ 1。 内面に螺旋。	
318	43-4	E-D21	SD2019	土師器 杯	12.0	—	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	にぶい桙 (7.5WZ/4)	密	白練部2/12	柾宮Ⅱ 1。	
319	49-3	E-B21	SB2919	土師器 杯	14.8	—	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	にぶい桙 (5WZ/4)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 1/12	柾宮Ⅲ 3。	
320	49-5	E-B21	SB2919	土師器 杯	13.8	—	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	にぶい黄褐 (10Y8R/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 2/12	柾宮Ⅲ 3。	
321	49-2	E-B21	SB2919	土師器 杯	14.6	3.1	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	桙(5Y8E/6)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 5/12	柾宮Ⅲ 3。 底部外面に墨書き。	
322	47-7	E-D21	SD2019	土師器 杯	12.6	—	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	桙(7.5WZ/6)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 2/12	柾宮Ⅲ 3。	
323	49-1	E-D21	SD2019	土師器 杯	13.6	2.4	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	桙(5Y8E/6)	密(～2.0mm砂粒食)	白練部 2/12	柾宮Ⅲ 3。	
324	47-5	E-D21	SB2919	土師器 杯	13.4	—	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	浅桙(5Y8E/4)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 2/12	柾宮Ⅲ 4。	
325	47-6	E-D21	SD2019	土師器 杯	14.7	—	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	にぶい桙 (5WZ/4)	密(無砂粒食)	白練部 1/12	柾宮Ⅲ 4。	
326	44-9	E-D21	SB2019	土師器 杯	13.8	—	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	にぶい桙 (5WZ/4)	密	白練部2/12	柾宮Ⅲ 4。	
327	48-4	E-D21	SD2019	土師器 杯	15.6	—	—	外腹オサエ 内腹ナダ	にぶい黄褐 (10Y8R/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 1/12	柾宮Ⅳ 1。	
328	134-2	E-D21	SD2019	土師器 杯	14.0	3.0	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	にぶい黄褐 (10Y8R/3)	密	白練部1/12	柾宮Ⅲ 3・4。 底部外面に墨書き「六万」。	
329	44-5	E-D21	SD2019	土師器 杯	16.9	—	—	ナダ	にぶい桙 (7.5WZ/3)	密	白練部1/12	柾宮Ⅲ 2・3。	
330	44-5	E-D21	SD2019	土師器 杯	12.8	—	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	にぶい桙 (5WZ/4)	密	白練部1/12	柾宮Ⅲ 2・3。	
331	43-2	E-D21	SD2019	土師器 皿	29.0	2.5	—	外腹工具ケズリ 内腹ナダ	桙(5Y8E/6)	密	白練部1/12	柾宮Ⅲ 1。 内面に暗文 (螺旋、放射)。	
332	44-6	E-D21	SD2019	土師器 皿	18.0	2.1	—	外腹ヘラケズリ 内腹ナダ	にぶい桙 (7.5WZ/4)	密	白練部1/12	柾宮Ⅳ 4。	
333	46-4	E-C21	SD2019	土師器 皿	17.8	2.9	—	外腹ヘラケズリ 内腹ナダ	桙(5Y8E/6)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部6/12	柾宮Ⅳ 4か。 底部近面に螺旋状暗文。	
334	48-3	E-D21	SD2019	土師器 皿	14.6	—	—	外腹オサエ 内腹ナダ	にぶい桙 (7.5WZ/4)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 1/12	柾宮Ⅲ 2。	
335	49-6	E-D21	SD2019	土師器 皿	16.0	—	—	外腹工具ケズリ 内腹ナダ	桙(5Y8E/6)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 1/12	柾宮Ⅲ 3。	
336	44-2	E-D21	SD2019	土師器 皿	15.0	1.9	—	ナダ	にぶい桙 (7.5WZ/3)	密	白練部1/12	柾宮Ⅲ 3。	
337	47-8	E-D21	SD2019	土師器 皿小皿	7.1	1.1	—	外腹オサエ 内腹工具ナダ	灰白(10Y8R/2)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 2/12		
338	49-7	E-D21	SD2019	土師器 皿	13.0	1.5	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(10Y8R/2)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 1/12	中世Ⅲ a。	
339	45-2	E-D21	SD2019	土師器 皿	12.0	2.2	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(2.53R/1)	密	白練部2/12	中世Ⅲ a。	
340	49-1	E-D21	SD2019	土師器 皿	10.9	2.6	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(10Y8R/2)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 5/12	中世Ⅲ b。	
341	48-2	E-D21	SD2019	土師器 皿	10.4	2.4	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(10Y8R/2)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 2/12	中世Ⅲ b。	
342	49-1	E-D21	SD2019	土師器 皿	24.4	—	—	ハケメ	浅黄褐 (10Y8R/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 1/12	柾宮Ⅳ 1。	
343	44-8	E-D21	SD2019	土師器 皿	20.1	—	—	ヨコナダ	灰白 (10Y8R/2)	密	白練部1/12	柾宮Ⅳ 4。	
344	44-7	E-D21	SD2019	土師器 皿	—	—	—	ナダ	にぶい黄褐 (10Y8R/3)	密	白練部1/12	柾宮Ⅳ 4。	

第14表 出土遺物観察表⑩

番号	実機 番号	出土 位置	遺物	器種類別	寸 量 (cm)			調整技術の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考	
					口径	底高	その他						
345	47-8	E-B21	SH2019	土師器 甕	17.4	—	—	外面部ハケメ、内面部ハケメ、ケズリ	に点状黄褐色 (0.07R7/2)	褐(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	直宮Ⅲ 2。	
346	45-7	E-B21	SH2019	土師器 甕	22.0	—	—	腹部縦 18.4	外面部コナゲ 内面部ハケメ	褐 (0.07R7/6)	褐	白練部1/12 腹部1/12	直宮Ⅲ 2。
347	46-3	E-C21	SH2019	須恵器 杯	17.6	3.7	—	腹部縦 17.2	内面部輪軸ナゲ 内面部ハケメ、ナ ゲ	灰白 (2.5R7/9)	褐(～3.0mmの砂粒 含)	白練部6/12	
348	47-1	E-B21	SH2019	須恵器 瓶	7.0	—	—	ロクロナゲ	灰白(2.5R7/1)	褐(微砂粒含)	白練部 3/12	外面に自然釉。	
349	46-3	A22	SH2019	須恵器 広口瓶	23.6	—	—	腹部縦 17.2	内面部輪軸ナゲ	灰 (N5/0)	褐(～2.5mmの砂粒 含)	白練部1/12 腹部2/12	直宮Ⅲ 2 外面に指压痕。
350	127-10	E-B21	包装箱	須恵器 甕	—	—	—	タタキ	灰(N6/1)	褐(～3.0mm砂粒含)	陶部小片		
351	44-9	E-B21	SH2019	須恵器 長颈甕	5.7	—	—	ロクロナゲ	灰 (5R6/1)	やや褐(～0.5mmの砂 粒含)	白練部7/12	自然釉。	
352	46-2	E-B21	SH2019	須恵器 軽量付蓋	—	—	—	上面部ロクロナゲ 底部ヘラカズリ 裏面部ロクロナゲ 外面部ヘラカズリ 内面部：ヘラカズリ	灰 (N6/0, 5/0)	褐(～1.0mmの砂粒 含)	白練部12/12	灰釉。 自然釉。	
353	45-6	E-B21	SH2019	陶器 山茶碗	16.0	—	—	ロクロナゲ	灰白 (2.5R7/1)	褐	白練部1/12		
354	47-2	E-B21	SH2019	陶器 山茶碗	15.4	—	—	ロクロナゲ	灰灰(2.5R8/1)	褐(～1.0mm砂粒含)	白練部 1/12		
355	50-3	E-B21	SH2019	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 7.7	ロクロナゲ	灰白(N8/0)	褐(～1.0mm砂粒含)	高台部4/12	D形式。 底部外面に素切り版。	
356	45-2	E-B21	SH2019	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 7.8	ロクロナゲ	灰白 (5R7/1)	褐(～0.5mmの砂粒 含)	高台部10/12	尾張型5形式。 底部外面に素切り版。 墨版。	
357	50-1	E-C21	SH2019	陶器 山茶碗	18.6	—	—	ロクロナゲ	灰白(N7/0)	褐(～2.0mm砂粒、 0.8mm～10.1mm小石含)	白練部 1/12	尾張型。	
358	45-9	E-B21	SH2019	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 7.4	ロクロナゲ	灰白 (5R7/1)	褐	高台部4/12	尾張型5形式。	
359	47-3	E-B21	SH2019	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 6.2	ロクロナゲ	灰白(2.5R7/1)	褐(～1.5mm砂粒含)	高台部3/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り版。 高台部に墨版。	
360	45-7	E-B21	SH2019	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 7.8	ロクロナゲ	灰白 (2.5R7/1)	褐	白練部2/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り版。 内面部墨版。	
361	45-5	E-B21	SH2019	陶器 山皿	7.2	1.6	—	内面部ロクロナゲ 外面部ロクロナゲ、 ナゲ	褐 (5R7/6)	褐	白練部5/12	尾張型。 底部外面に素切り版。	
362	57-6	E-B29	SH2021	陶器 山茶碗	18.9	—	—	ロクロナゲ	灰白(2.5R8/1)	褐(～1.0mm砂粒含)	白練部 1/12		
363	57-7	E-B29	SH2022	土師器 皿	9.2	2.3	—	内面部オサエ 内面部ナゲ	浅黄褐 (0.07R8/3)	褐(～1.0mm砂粒含)	白練部 5/12	中世IV a。	
364	55-5	E-C20	SH2022	土師器 皿	8.6	2.8	—	内面部オサエ、ナ ゲナゲ	浅黄褐 (0.07R8/3)	褐	白練部 3/12	中世IV a。	
365	58-5	E-F21	SH2024	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 7.2	ロクロナゲ	灰(5R7/1)	褐(～1.0mm砂粒含)	高台部4/12	D形式。 底部外面に素切り版。	
366	57-8	E-C19	SH2024	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 6.3	ロクロナゲ	灰白(2.5R7/1)	褐(～1.0mm砂粒含)	高台部3/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り版。	
367	58-4	E-D29	SH2024	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 6.0	ロクロナゲ	灰(5R6/1)	褐(～1.0mm砂粒含)	高台部1/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り版。	
368	58-2	E-C19	SH2024	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 6.0	ロクロナゲ	灰白(2.5R7/1)	褐(～1.5mm砂粒含)	高台部6/12	尾張型6形式。 底部外面 に素切り版。	
369	58-1	E-C19	SH2024	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 6.0	ロクロナゲ	灰白(2.5R7/1)	褐(～1.0mm砂粒含)	高台部4/12	尾張型6形式。 底部外面 に素切り版。	
370	57-9	E-C19	SH2024	陶器 山茶碗	—	—	高台縦 7.6	ロクロナゲ	灰白(N7/0)	褐(～1.5mm砂粒含)	高台部9/12	尾張型6形式。 底部外面 に素切り版、墨版。	
371	58-3	E-B20	SH2024	陶器 杯	—	—	底径 N.8	内面部ナゲ、ケ ズリ、オサエ 内面部ナゲ	灰白(N7/0)	褐(～4.0mm砂粒含)	高台部3/12	背面に墨版。	
372	59-1	E-C25	SH2026	土師器 甕	22.9	—	—	外面部ハケメ、ケズ リ、内面部工具ナ ゲ	浅黄褐 (0.07R8/3)	褐(～1.5mm砂粒含)	白練部 1/12	中世IV a。 外面に襯付着。	
373	56-1	I-C1	SH2026	土師器 甕	24.2	—	—	外面部ハケメ、ケズ リ、内面部工具ナ ゲ	浅黄褐 (0.07R8/3)	褐(～2.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世IV a。 外面に襯付着。	
374	59-2	E-C25	SH2026	陶器 杯	32.0	—	—	内面部オサエ 内面部工具ナ ゲ	浅黄褐 (5R8/2)	褐(～3.0mm砂粒含)	白練部 2/12	常滑3-10, 内面に使用痕。	
375	62-8	E-F22	SH2030	土師器 甕	—	—	高台縦 7.4	ナゲ	浅黄褐 (0.07R8/4)	褐(～1.0mm砂粒含)	高台部1/12	直宮Ⅲ 1。	
376	64-3	E-F23	SH2030	土師器 甕	14.8	—	—	ナゲ	浅黄褐 (5R8/4)	褐(～1.0mm砂粒含)	白練部 1/12	直宮Ⅲ 1。 内面に粘土痕。	

第15表 出土遺物観察表⑪

番号	実機 番号	出土 位置	遺物	器種・形態	寸 量 (cm)			調整技術の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
					口径	底 高	その他					
377	62-3	E-F22	SD2030	須恵器 杯	—	—	高台径 16.9	ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部1/12	査官I。
378	62-6	E-F22	SD2030	須恵器 山茶碗	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白(2.538/1)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部2/12	尾張型6形式。 底部外側に系切り瓶。
379	62-1	E-F22	SD2030	須恵器 山茶碗	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	密(～2.0mm砂粒含)	高台部4/12	尾張型6形式。 底部外側に系切り瓶。 内面に自然釉。
380	62-9	E-F22	SD2033	土師器 小皿	7.5	0.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(16Y8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 6/12	外面に保付着。
381	63-4	E-D21	SD2033	土師器 皿	10.0	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.538/1)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a。
382	61-8	E-F22	SD2033	土師器 鍋	18.6	—	—	ヨコナデ	淡黄(2.538/3)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世IV a。
383	61-5	E-F22	SD2033	須恵器 山茶碗	15.6	—	—	ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	密	口縁部 1/12	
384	62-2	E-D21	SD2039	土師器 皿	11.0	—	—	ナデ	灰白(16Y8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV b。
385	63-1	E-D20	SD2039	土師器 盆	29.4	—	—	外面ハケメ 内面ハケメ、工具 ナデ	豆青い黄緑 (10Y8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	査官II 2。
386	62-2	E-D20	SD2039	灰陶器 鉢	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白(2.538/1)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部3/12	底部外側に系切り瓶。
387	61-2	E-D21	SD2039	須恵器 山茶碗	16.0	—	—	ロクロナデ	灰白(5Y8/1)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	
388	62-5	E-D20	SD2039	須恵器 山茶碗	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	密(～3.0mm砂粒含)	高台部4/12	東濃型6形式。 底部外側に系切り瓶。
389	62-4	E-D21	SD2039	須恵器 山茶碗	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白(7.5Y7/1)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部2/12	6形式。 底部外側に系切り瓶。
390	63-2	E-G25	SD2041	土師器 鍋	21.3	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	外面：淡黄緑 (10Y8/3) 内面：豆青い黄緑 (10Y8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世IV a。外面に保付 着。
391	61-2	E-J22	SD2042	土師器 皿	8.8	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(16Y8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世IV a。
392	60-3	E-J22	SD2042	土師器 皿	12.3	2.7	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(16Y8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 5/12	中世IV a. D形態。
393	60-4	E-J22	SD2042	土師器 皿	13.8	2.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(16Y8/2)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 6/12	中世IV a. D形態。
394	60-2	E-J22	SD2042	土師器 鍋	21.2	—	—	外面ハケメ、ケズ 内面ナデ	淡黄緑 (10Y8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世II a. 外面に保付着。
395	60-1	E-J22	SD2042	土師器 鍋	24.0	—	—	外面ハケメ、ケズ 内面ナデ	淡黄緑 (10Y8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 5/12	中世II a. 外面に保付着。
396	61-1	E-J22	SD2042	土師器 皿	21.8	—	—	外面ハケメ 内面オサエ、ナデ	淡黄緑 (10Y8/3)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 5/12	中世II b. 外面に保付着。
397	59-3	E-L22	SD2044	土師器 皿	14.6	—	—	外面ハケメ 内面工具ナデ	豆青い緑 (2.538/4)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 1/12	査官II 2。
398	56-2	E-H22	SD2044	須恵器 長颈瓶	—	—	肩部径 15.0	外側ロクロナデ、 コロクロケツリ 内側ロクロナデ	灰白(9E/1)	密(～1.0mm小石含)	肩部2/12 高台部1/12	外面に自然釉。
399	65-6	E-K23	SD2056	土師器 小皿	8.4	1.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	淡黄緑 (10Y8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	
400	65-5	E-K23	SD2056	土師器 皿	10.5	—	—	ナデ	灰白(16Y8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世III b。
401	66-1	E-K21	SD2056	土師器 皿	18.8	—	—	外面ハケメ、 内面ナデ	淡黄緑 (10Y8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世II a. 外面に保付 着。
402	67-5	E-K23	SD2056	須恵器 山茶碗	—	—	高台径 7.5	ロクロナデ	灰白(1N8/0)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部2/12	尾張型6形式。 底部外側に系切り瓶。 高台部に保付組。
403	66-5	E-D20	SD2060	須恵器 山茶碗	7.8	—	—	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	
404	66-2	E-F22	SD2061	土師器 高杯	—	—	基部径 4.5	ケズリ	棕(5Y8/6)	密(～2.0mm砂粒含)	基部 12/12	査官II 4。
405	132-1	E-F22	SD2061	綠釉陶器 香炉	—	—	—	ロクロナデ	濃緑：灰白 (6E/6) 材：切跡	密		植役。査官II 3。
406	65-3	E-E21	SD2061	土師器 羽釜	—	—	—	ナデ	灰白(16Y8/2)	密(～2.0mm砂粒含)	小片	中世III b。
407	66-6	E-E21	SD2061	須恵器 山茶碗	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～2.0mm砂粒、 4.0mm～5.0mm小石含)	高台部3/12	5形式。 底部外側に系切り瓶。
408	67-4	E-E21	SD2061	須恵器 山茶碗	—	—	高台径 5.8	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部1/12	底部外側に系切り瓶。
409	66-1	E-E21	SD2061	須恵器 山茶碗	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～1.5mm砂粒含)	高台部2/12	尾張型6形式。 底部外側に系切り瓶。 高台部に保付組。

第16表 出土遺物観察表⑫

番号	実測番号	出土位置	遺物	器種形態	寸法 (cm)			調整技術の特徴	色調	粘土	残存度	備考
					直径	高さ	その他					
410	67-3 K-E21	SK2061	陶器 山茶樹	—	—	高台径 7.5	—	ロクロナダ	灰白(N8/0)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部3/12	6形式。 底部外縁に垂切り痕。
411	67-4 K-E21	SK2061	陶器 林	—	—	—	—	ロクロケズリ、ロ クロナダ	灰白(N8/0)	密(～1.5mm砂粒含)		
412	66-3 K-P21	SK2071	土師器 萬葉	—	—	基部径 2.9	—	ハケメ、ナダ	褐(SI6/6)	密(～2.0mm砂粒含)	基部 12/12	三方透孔。島貫D類。
413	65-5 K-N21	SK2073	土師器 風	11.9	2.2	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 3/12	中世Ⅲb。
414	67-6 K-Q20	SK2073	董器 杯	13.0	4.4	—	—	外面ロクロナダ、 ハラ切り 内面ロクロナダ	灰白(N7/0)	密(～2.0mm砂粒含)	白練部 2/12	青宮Ⅰ。
415	67-2 K-N21	SK2073	董器 泡垂型	—	—	底径 9.2	13.3	体部透 ロクロタズリ、ロ クロナダ	灰白(N8/0)	密(～1.0mm砂粒含)	体部4/12	体部外縁に沈跡。
416	65-2 K-O20	SK2073	土師器 甕	21.7	—	—	—	ハケメ	浅黄根 (10YR8/3)	密(～2.0mm砂粒含)	白練部 3/12	青宮Ⅱ。
417	28-2 K-A21	SK2011	陶器 山茶樹	—	—	底径 7.6	—	ロクロナダ	灰白 (08E/0)	密(～2.0mmの砂粒 含)	透部1/12	瓦張型6形式。 底部外縁に垂切り痕。
418	28-7 K-A21	SK2013	土師器 鍋	—	—	—	—	ヨコナダ	灰白 (10YR8/2)	密(～2.0mmの砂粒 含)	白練部3/12	中世Ⅱ。
419	28-8 K-A21	SK2014	土師器 甕	—	—	—	—	ヨコナダ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白練部7/12	青宮Ⅲ。
420	28-3 K-R20	SK2015	陶器 山茶樹	15.6	—	—	—	ロクロナダ	灰白 (N8/0)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	
421	29-2 K-O25	SK2027	土師器 甕	—	—	—	—	ヨコナダ	浅黄根 (10YR8/3)	密(～1.5mmの砂粒 含)	小片	中世Ⅲa。
422	29-1 K-E25	SK2027	陶器 圓盤大皿	27.6	7.3	底径 16.6	—	外面ロクロケズ リ、ロクロナダ 内面ロクロナダ	灰白 (N8/0)	密(～2.0mmの砂粒 含)	白練部2/12 高台部2/12	施釉。 吉澤戸焼。
423	29-4 K-E24	SK2028	土師器 皿	8.9	—	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.5mmの砂粒 含)	白練部3/12	中世Ⅳa。
424	29-3 K-E24	SK2028	土師器 皿	8.8	2.7	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白練部4/12	中世Ⅳa。
425	29-5 K-E24	SK2028	土師器 皿	9.3	2.6	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.5mmの砂粒 含)	白練部12/12	中世Ⅳa。
426	29-6 K-E24	SK2028	陶器 山茶樹	—	—	底径 8.0	—	ロクロナダ	灰白 (N7/0)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部2/12	5形式。
427	29-7 K-E24	SK2028	陶器 山茶樹	—	—	高台径 6.8	—	ロクロナダ	灰白 (N7/0)	密(～1.0mmの砂粒 含)	高台部2/12	6形式。
428	30-3 K-E23	SK2032	土師器 皿	8.4	—	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.5mmの砂粒 含)	白練部3/12	中世Ⅳa。 口縁に直撫付着。
429	30-1 K-E23	SK2032	土師器 皿	8.2	2.6	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	浅黄根 (10YR8/3)	密(～2.0mmの砂粒 含)	白練部12/12	中世Ⅳa。
430	30-2 K-E23	SK2032	土師器 皿	8.6	—	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	灰白 (2.5YR8/2)	密(～1.5mmの砂粒 含)	白練部12/12	中世Ⅳa。
431	30-4 K-E23	SK2032	土師器 鍋	20.8	—	—	—	ヨコナダ	浅黄根 (10YR8/3)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白練部1/2	中世Ⅲb。
432	30-5 K-E23	SK2032	陶器 口瓶	15.6	—	—	—	外面ロクロナダ	灰白 (N7/1)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	常滑。 内面に自然釉。
433	28-5 K-F22	SK2038	土師器 小皿	12.8	2.2	—	—	ナダ	灰白 (10YR8/2)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白練部1/12	中世Ⅲa。
434	30-7 K-Q23	SK2069	土師器 小皿	7.2	0.9	—	—	外面オサニ 内面ナダ	にぶ・黄根 (10YR7/3)	密(～1.0mmの砂粒 含)	白練部12/12	
435	30-6 K-Q23	SK2069	土師器 皿	8.8	2.7	—	—	外面ナダ+オサニ 内面ナダ	灰白 (2.5YR8/2)	密(～1.0mmの砂粒、 4.0mmの小石含)	白練部1/12	中世Ⅳa。
436	96-2 K-P21	SK2063	土師器 碗	16.0	—	—	—	外面ハケメ 内面ナダ	にぶ・根 (2.5YR7/4)	密	白練部 1/12	青宮Ⅰ～Ⅱ。
437	80-3 K-P21	SK2063	土師器 碗	—	—	底径 5.8	—	外面ケズリ 内面工具ナダ	にぶ・黄根 (10YR7/2)、堵 泥(N3/3/0)	密(～1.0mm砂粒含)	近部 11/12	青宮Ⅰ～Ⅱ。 貼付高台。
438	90-5 K-P21	SK2063	土師器 小皿	5.8	0.7	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	浅黄根 (10YR8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 3/12	中世Ⅳ。
439	100-4 K-P21	SK2063	土師器 小皿	5.8	0.9	—	—	外面オサニ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世Ⅳ。
440	118-9 K-P21	SK2063	土師器 小皿	5.8	0.7	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世Ⅳ。
441	118-12 K-P21	SK2063	土師器 小皿	5.8	0.7	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 3/12	中世Ⅳ。
442	115-1 K-P21	SK2063	土師器 小皿	6.2	0.6	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	やや密(～1.0mm小石 含)	白練部 4/12	中世Ⅳ。
443	108-7 K-P21	SK2063	土師器 小皿	6.3	0.8	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	にぶ・黄根 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世Ⅳ。
444	116-9 K-P21	SK2063	土師器 小皿	6.4~ 7.1	1.1	—	—	外面オサニ、ナダ 内面ナダ	にぶ・黄根 (10YR7/3)	密	白練部 10/12	中世Ⅳ。

第17表 出土遺物観察表⑬

番号	実測 表面 番号	出土 位置	遺物	器種形態	寸 量 (cm)			調整技術の特徴	色 調	粘土	残存度	備 考	
					口径	脚高	その他						
445	138-9	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.5	0.9	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～2.0mm砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	
446	138-11	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.5	0.9	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	
447	83-11	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.6	0.8	—	外腹オサエ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	
448	83-12	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.6	0.9	—	外腹オサエ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	
449	106-12	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.6	0.9	—	外腹オサエ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	
450	83-8	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	1.0	—	外腹オサエ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～0.5mm砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	
451	73-2	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	0.9	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 4/12	中世IV。	
452	93-9	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	1.0	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	浅黄褐 (10198/3)	やや密(～2.0mm砂粒 食)	白練部 4/12	中世IV。	
453	118-10	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	0.6	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/2)	密(～2.0mm砂粒食)	白練部 2/12	中世IV。	
454	108-5	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	0.7	—	外腹オサエ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 2/12	中世IV。	
455	108-6	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	0.8	—	外腹オサエ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	
456	114-12	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	0.9	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/2)	やや密(～3.0mm小石 含)	白練部 6/12	中世IV。	
457	108-3	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	0.7	—	外腹オサエ 内腹ナデ	灰白(10198/2)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 4/12	中世IV。	
458	79-2	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	1.0	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10195/3)	密	白練部 3/12	中世IV。	
459	106-11	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	0.7	—	外腹オサエ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(黑砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	
460	87-5	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.8	1.1	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/2)	密	白練部 3/12	中世IV。	
461	71-4	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.9	1.0	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10195/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 11/12	中世IV。	
462	75-3	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.9	1.1	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	浅黄褐 (10198/3)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 10/12	中世IV。	
463	80-6	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.9	0.7	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	浅黄褐 (10198/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	
464	108-2	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.9	0.7	—	外腹オサエ 内腹ナデ	浅黄褐 (10198/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	
465	111-9	E-P21	SK2063	土師器 小皿	6.9	1.0	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	灰白(10198/2)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 4/12	中世IV。	
466	73-3	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.9	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 4/12	中世IV。	
467	73-5	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.8	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 2/12	中世IV。	
468	73-6	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.8	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	灰白(10198/2)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 2/12	中世IV。	
469	73-7	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.6	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	灰白(10198/2)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 2/12	中世IV。	
470	75-7	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	1.0	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 12/12	中世IV。	
471	76-1	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.9	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	灰白(10198/2)	密	白練部 4/12	中世IV。	
472	76-2	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.8	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密	白練部 4/12	中世IV。	
473	76-4	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.7	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/4)	密	白練部 3/12	中世IV。	
474	76-7	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.7	—	オサエ、ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密	白練部 3/12	中世IV。	
475	76-8	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	1.0	—	オサエ、ナデ	にぶい黄褐 (10197/4)	密	白練部 12/12	中世IV。	
476	76-10	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	1.0	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10196/3)	密	白練部 6/12	中世IV。	
477	85-6	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	1.2	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	灰黄褐 (10196/2)	密	白練部 2/12	中世IV。	
478	85-1	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	1.2	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密	白練部 6/12	中世IV。	
479	105-6	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	1.0	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	浅黄褐 (7.5198/3)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 6/12	中世IV。	
480	106-9	E-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.8	—	外腹オサエ、ナデ 内腹ナデ	にぶい黄褐 (10197/3)	密(～2.0mm砂粒食)	白練部 3/12	中世IV。	

第18表 出土遺物観察表⑯

番号	実測 番号	出土 位置	遺構	剖面形態	寸 法 (cm)			調整技術の特徴	色 調	粘土	残存度	備 考
					直径	高さ	その他					
481	106-9	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	—	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(燕砂粒含)	白練部 2/12	中世IV。
482	107-11	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.9	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～1.5mm砂粒含)	白練部 2/12	中世IV。
483	108-9	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.9	—	外面オサエ 内面ナダ	西黄褐色 (10W8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 3/12	中世IV。
484	108-11	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.9	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 9/12	中世IV。
485	115-11	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	0.6	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	西黄褐色 (10W8/3)	密(～0.5mm砂粒含)	白練部 3/12	中世IV。
486	116-2	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	1.1	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 3/12	中世IV。
487	116-4	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.0	1.0	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 2/12	中世IV。
488	73-8	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.1	0.8	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(2.5W8/1)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 3/12	中世IV。
489	75-2	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.1	1.0	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(2.5W8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	白練部 11/12	中世IV。
490	79-6	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.1	1.5	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 9/12	中世IV。
491	108-10	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.1	1.0	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 11/12	中世IV。
492	116-5	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.1	0.8	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 6/12	中世IV。
493	68-9	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.9	—	外面オサエ 内面ナダ	灰白(10W8/1)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 9/12	中世IV。
494	79-9	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 4/12	中世IV。
495	79-10	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.9	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 8/12	中世IV。
496	79-11	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W6/3)	密	白練部 9/12	中世IV。
497	71-5	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10W8/2)	密	白練部 12/12	中世IV。
498	73-1	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.7	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10W8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 5/12	中世IV。
499	73-4	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.8	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～2.0mm砂粒含)	白練部 7/12	中世IV。
500	75-6	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.8	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 12/12	中世IV。
501	75-8	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 9/12	中世IV。
502	76-11	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 9/12	中世IV。
503	77-3	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.9	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 11/12	中世IV。
504	79-5	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 3/12	中世IV。
505	78-6	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	1.3	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 5/12	中世IV。
506	78-9	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	1.3	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 3/12	中世IV。
507	78-11	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.8	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～0.5mm砂粒含)	白練部 6/12	中世IV。
508	79-1	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.9	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 6/12	中世IV。
509	79-5	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.9	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密	白練部 6/12	中世IV。
510	80-3	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 10/12	中世IV。
511	83-9	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.8	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(燕砂粒含)	白練部 4/12	中世IV。
512	106-7	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.9	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 3/12	中世IV。
513	108-1	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世IV。
514	108-9	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 12/12	中世IV。
515	111-5	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.8	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい・黄褐色 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 5/12	中世IV。
516	111-10	K-P21	SK2063	土師器 小皿	7.2	0.8	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10W8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	白練部 3/12	中世IV。

第19表 出土遺物観察表⑯

番号	実測 番号	出土 位置	遺構	器種形態	出 量 (cm)			調整技法の特徴	色、調	粘土	残存度	備考
					工作	鉛灰	その他					
517	114-3	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5W8/1)	泥	II種部 6/12	中世IV。
518	114-5	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	1.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	泥	II種部 11/12	中世IV。
519	114-6	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	0.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 内面ナデ	やや密(～4.0mm小石 含)	II種部 9/12	中世IV。
520	115-2	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	0.8	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	西黄(5Y8/3)	泥	II種部 2/12	中世IV。
521	115-3	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	0.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/2)	泥	II種部 4/12	中世IV。
522	115-5	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	0.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5W8/1)	泥	II種部 3/12	中世IV。
523	115-8	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	0.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5W8/1)	泥	II種部 3/12	中世IV。
524	115-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥	II種部 5/12	中世IV。
525	116-1	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	1.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥	II種部 5/12	中世IV。
526	116-6	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	1.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥	II種部 6/12	中世IV。
527	116-7	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	1.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥	II種部 8/12	中世IV。
528	118-6	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2	1.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/1)	泥(～2.0mm砂粒含)	II種部 3/12	中世IV。
529	69-3	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.3	1.1	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥(～1.0mm砂粒含)	II種部 11/12	中世IV。
530	73-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.3	0.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	泥(～1.0mm砂粒含)	II種部 2/12	中世IV。
531	75-1	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.3	0.9	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥(～1.0mm砂粒含)	II種部 6/12	中世IV。
532	75-4	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.3	0.9	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	泥(～1.0mm砂粒含)	II種部 8/12	中世IV。
533	75-5	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.3	1.0	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	泥(～1.5mm砂粒含)	II種部 12/12	中世IV。
534	75-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.3	1.1	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白(2.5W8/2)	泥(～1.5mm砂粒含)	II種部 4/12	中世IV。
535	111-11	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.3	1.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5W7/1)	泥(～1.0mm砂粒含)	II種部 5/12	—
536	116-8	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.3	1.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白 (2.5W8/1) 内：灰白 (2.5W7/2)	やや密(～1.0mm小石 含)	II種部 6/12	中世IV。
537	68-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.0	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥(～1.0mm砂粒含)	II種部 12/12	中世IV。
538	71-3	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.7	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5W8/2)	泥	II種部 7/12	中世IV。
539	71-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.8	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR6/3)	泥	II種部 5/12	中世IV。
540	76-6	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥	II種部 10/12	中世IV。
541	76-10	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	西黄(5Y8/3)	泥	II種部 11/12	中世IV。
542	76-12	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.1	—	オサエ、ナデ	灰白(10YR7/3)	泥	II種部 12/12	中世IV。
543	77-1	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.8	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	泥	II種部 12/12	中世IV。
544	77-2	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.0	—	オサエ、ナデ	灰白(10YR7/4)	泥	II種部 12/12	中世IV。
545	77-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	やや密	II種部 11/12	中世IV。
546	77-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/4)	泥	II種部 5/12	中世IV。
547	77-10	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥(～1.5mm砂粒含)	II種部 3/12	中世IV。
548	77-11	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥	II種部 12/12	中世IV。
549	77-12	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.0	—	オサエ、ナデ	灰白(10YR7/3)	泥	II種部 12/12	中世IV。
550	79-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR7/4)	泥	II種部 7/12	中世IV。
551	83-5	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.9	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白(10YR7/4)	泥(～1.0mm砂粒含)	II種部 5/12	中世IV。
552	83-6	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.7	—	外面オサエ 内面ナデ	灰白(10YR7/3)	泥(～1.5mm砂粒含)	II種部 6/12	中世IV。

第2表 出土遺物観察表⑯

番号	実測 番号	出土 位置	遺構	器種形態	寸 量 (cm)			調整技術の特徴	色 調	細土	残存度	備 考
					口径	底高	その他					
553	83-7	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.8	—	外腹オサエ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W6/3)	密(～1.5mm砂粒含)	白練部 5/12	中世IV。
554	108- 12	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.7	—	外腹オサエ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 6/12	中世IV。
555	109-3	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.9	—	外腹オサエ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 12/12	中世IV。
556	114-7	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.7	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/2)	密(～2.0mm砂粒、 3.0mm小石含)	白練部 9/12	中世IV。
557	114-7	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.0	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/2)	密	白練部 12/12	中世IV。
558	114-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.0	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密	白練部 11/12	中世IV。
559	114- 10	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.0	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(10W8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	白練部 12/12	中世IV。
560	114- 11	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	0.8	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密	白練部 10/12	中世IV。
561	87-4	K-P21	SK2963	土師器 小皿	6.6～ 7.5	1.3	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密	白練部 10/12	中世IV。
562	116- 10	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.0～ 7.5	1.0	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/2)	密	白練部 7/12	中世IV。
563	116- 11	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.2～ 7.8	1.0	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	やや密(～1.0mm小石 含)	白練部 10/12	中世IV。
564	83-4	K-P21	SK2963	土師器 小皿	6.8～ 7.4	1.1	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 11/12	中世IV。
565	79-3	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.5	1.1	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密	白練部 4/12	中世IV。
566	79-4	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.5	1.2	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W6/3)	密	白練部 4/12	中世IV。
567	106-6	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.5	0.9	—	外腹オサエ 内腹ナダ	灰褐灰 (7.5W6/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 3/12	中世IV。
568	107- 10	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.5	1.0	—	外腹オサエ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 12/12	中世IV。
569	111-4	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.5	1.1	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(10W8/2)	密(～2.0mm砂粒含)	白練部 8/12	中世IV。
570	110-4	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.5	1.1	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 11/12	中世IV。
571	110-2	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.1～ 7.5	1.1	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 11/12	中世IV。
572	76-3	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	0.6	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(10W8/2)	密	白練部 6/12	中世IV。
573	76-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	1.0	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(10W8/2)	密	白練部 10/12	中世IV。
574	77-4	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	0.9	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密	白練部 12/12	中世IV。
575	77-7	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	1.1	—	オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密	白練部 11/12	中世IV。
576	78-12	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	0.7	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/2)	やや密(～0.5mm砂粒 含)	白練部 6/12	中世IV。
577	83-2	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	1.1	—	外腹オサエ 内腹ナダ	淡黄褐 (10W8/3)	密(～1.5mm砂粒含)	白練部 10/12	中世IV。
578	83-10	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	0.9	—	外腹オサエ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密(～1.5mm砂粒含)	白練部 4/12	中世IV。
579	87-6	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	1.0	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 4/12	中世IV。
580	106-1	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	0.9	—	外腹オサエ 内腹ナダ	灰白(10W8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世IV。
581	111-8	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	1.1	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	淡黄褐 (10W8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 9/12	中世IV。
582	114-2	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	1.0	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	淡黄褐 (10W8/3)	密	白練部 11/12	中世IV。
583	114-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	1.1	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密	白練部 10/12	中世IV。
584	115-1	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	1.0	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(10W8/2)	密	白練部 4/12	中世IV。
585	115-6	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	0.9	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密	白練部 12/12	中世IV。
586	115- 12	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	0.9	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰ぶ、黄褐 (10W7/3)	密	白練部 2/12	中世IV。
587	117- 11	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.6	0.6	—	外腹オサエ、ナダ 内腹ナダ	灰白(10W8/2)	密(～1.0mm砂粒、 ～5.0mm小石含)	白練部 5/12	中世IV。
588	68-10	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.7	0.9	—	外腹オサエ 内腹ナダ	灰白(10W8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	白練部 7/12	中世IV。

第21表 出土遺物観察表⑯

番号	実測 番号	出土 位置	遺構	器種形態	寸 量(cm)			調整技術の特徴	色 調	粘土	残存度	備 考
					直径	高さ	その他					
589	80-4	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.7	0.6	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/3	赤(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV。
590	117-8	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.7	1.0	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/2	赤(～2.0mm砂粒含。 3.0mm～4.0mm小石含)	口縁部 10/12	中世IV。
591	117- 10	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.7	1.0	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/2	赤(～2.0mm砂粒含)	口縁部 6/12	中世IV。
592	118-5	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.4	1.1	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/1	赤(～1.0mm砂粒含)	口縁部 11/12	中世IV。
593	76-5	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.8	0.6	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/3	赤	口縁部 4/12	中世IV。
594	118-6	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.8	0.9	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV。
595	79-7	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.9	0.7	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤	口縁部 10/12	中世IV。
596	117-9	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.9	0.7	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/2	赤(～2.0mm砂粒含)	口縁部 6/12	中世IV。
597	118-2	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.9	0.9	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/2	赤(～1.5mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世IV。
598	118-7	K-P21	SK2963	土師器 小皿	7.9	0.9	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/2	赤(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV。
599	77-6	K-P21	SK2963	土師器 小皿	8.0	1.2	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤	口縁部 5/12	中世IV。
600	115- 10	K-P21	SK2963	土師器 小皿	8.0	0.9	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤(～0.5mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV。
601	106- 10	K-P21	SK2963	土師器 小皿	8.2	0.9	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤(熟砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV。
602	106-5	K-P21	SK2963	土師器 小皿	8.4	1.1	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV。
603	115-7	K-P21	SK2963	土師器 小皿	8.0～ 8.6	0.9	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/2	赤(2.5mm/2)	口縁部 4/12	中世IV。
604	116-3	K-P21	SK2963	土師器 小皿	9.0	1.1	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤	口縁部 3/12	中世IV。
605	114-1	K-P21	SK2963	土師器 小皿	8.6	1.6	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/2	赤白(1.0mm/2)	口縁部 8/12	中世IV。
606	70-6	K-P21	SK2963	土師器 皿	12.0	2.2	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤	口縁部 1/12	中世Ⅲ a..
607	71-8	K-P21	SK2963	土師器 皿	12.0	—	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR6/3	赤	口縁部 12/12	中世Ⅲ a..
608	105-3	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.6	2.2	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/3	赤(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
609	105-4	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.6	—	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/3	赤(～2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
610	113-5	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.2	—	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
611	72-9	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.1	—	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/2	赤(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
612	111-1	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.1	2.3	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/3	赤(～1.5mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
613	95-5	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.0	2.2	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/2	赤(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
614	78-3	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.0	2.4	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/4	赤	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
615	113-8	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.0	2.1	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
616	117-5	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.0	2.1	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/2	赤(～2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
617	70-6	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.0	2.5	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤	口縁部 1/12	中世Ⅲ b..
618	113- 12	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.0	—	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/2	赤(～3.0mm小石含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
619	113-4	K-P21	SK2963	土師器 皿	10.0	—	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/2	赤(～3.5mm小石含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ b..
620	109- 10	K-P21	SK2963	土師器 皿	7.5	—	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/3	赤(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a..
621	109- 12	K-P21	SK2963	土師器 皿	7.6	—	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤(～2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a..
622	84-8	K-P21	SK2963	土師器 皿	7.6	2.1	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/2	赤(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a..
623	85-3	K-P21	SK2963	土師器 皿	7.6	—	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR7/3	赤	口縁部 3/12	中世IV a..
624	105-5	K-P21	SK2963	土師器 皿	7.7	1.9	—	外蓋オサエ、ナダ 内蓋ナダ	□:5.5~7.0 △:SYR8/2	赤(～2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a..

第22表 出土遺物観察表⑯

番号	実測番号	出土位置	遺構	器種形態	尺寸(cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
					口径	高さ	その他					
625	107-3	K-P21	SK2063	土師器皿	7.8	2.2	—	外面オサエ 内面ナガ	灰白(10YR8/2) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世IV a.	
626	107-4	K-P21	SK2063	土師器皿	7.8	2.4	—	外面オサエ 内面ナガ	灰白(10YR8/2) 密(~1.5mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世IV a.	
627	101-4	K-P21	SK2063	土師器皿	7.9	2.4	—	外面オサエ 内面ナガ	灰白(2.5YR8/2) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 12/12	中世IV a.	
628	89-5	K-P21	SK2063	土師器皿	7.9	2.4	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	灰白(10YR8/2) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世IV a.	
629	98-4	K-P21	SK2063	土師器皿	7.9	2.7	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	淡黄(2.5YR8/3) 密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 12/12	中世IV a.	
630	107-6	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	—	—	外面オサエ 内面ナガ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世IV a.	
631	109-5	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	—	—	外面オサエ 内面ナガ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a.	
632	109-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	—	—	外面オサエ 内面ナガ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a.	
633	71-2	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	2.1	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	淡黄(2.5YR8/3) 密	口縁部 4/12	中世IV a.	
634	113-1	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	2.3	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	浅黄褐 (10YR8/3) 密	口縁部 2/12	中世IV a.	
635	113-2	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	—	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	灰白(10YR8/2) 密	口縁部 2/12	中世IV a.	
636	113-3	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	2.3	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a.	
637	113-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	—	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	灰白(2.5YR8/2) 密(~4.0mm小石含)	口縁部 3/12	中世IV a.	
638	109-6	K-P21	SK2063	土師器皿	8.2	—	—	外面オサエ 内面ナガ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.	
639	71-10	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	—	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	灰黄褐 (10YR8/2) 密	口縁部 4/12	中世IV a.	
640	74-8	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	2.4	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	灰白(2.5YR8/2) 密(~1.5mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a.	
641	78-4	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	—	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密	口縁部 4/12	中世IV a.	
642	84-1	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	2.8	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(~1.5mm砂粒含)	口縁部 9/12	中世IV a.	
643	85-9	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	2.3	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	灰白(2.5YR8/1) 密	口縁部 2/12	中世IV a.	
644	93-6	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	2.0	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	浅黄褐 (7.5YR8/3) 密	口縁部 3/12	中世IV a.	
645	93-8	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	2.5	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	浅黄褐 (7.5YR8/3) 密	口縁部 3/12	中世IV a.	
646	93-10	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	2.3	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	浅黄褐 (7.5YR8/3) やや密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.	
647	96-3	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	2.6	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	にぶい・褐 (5YR7/4) 密	口縁部 3/12	中世IV a.	
648	84-4	K-P21	SK2063	土師器皿	8.0	—	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	にぶい・褐 (5YR7/3) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.	
649	104-6	K-021	SK2063	土師器皿	8.1	2.4	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	灰白(10YR8/2) 密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 6/12	中世IV a.	
650	69-2	K-P21	SK2063	土師器皿	8.1	1.9	—	外面オサエ 内面ナガ	淡黄(2.5YR8/3) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.	
651	106-2	K-P21	SK2063	土師器皿	8.2	2.3	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	灰白(10YR8/2) 密(微砂粒含)	口縁部 4/12	中世IV a.	
652	99-4	K-P21	SK2063	土師器皿	8.4	2.3	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(~1.5mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.	
653	109-8	K-P21	SK2063	土師器皿	8.2	—	—	外面オサエ 内面ナガ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.	
654	111-4	K-P21	SK2063	土師器皿	8.2	—	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	浅黄褐 (7.5YR8/3) 密(~1.5mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a.	
655	113-11	K-P21	SK2063	土師器皿	8.2	2.4	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	にぶい・褐 (7.5YR7/4) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a.	
656	78-1	K-P21	SK2063	土師器皿	8.2	2.4	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	淡黄褐 (7.5YR8/3) 密	口縁部 5/12	中世IV a.	
657	78-2	K-P21	SK2063	土師器皿	8.2	2.4	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	灰白(10YR8/2) 密	口縁部 4/12	中世IV a.	
658	89-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.2	—	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	にぶい・褐 (7.5YR7/4) 密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 5/12	中世IV a.	
659	84-6	K-P21	SK2063	土師器皿	8.2	2.4	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(~1.5mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世IV a.	
660	85-10	K-P21	SK2063	土師器皿	8.2	2.3	—	外面オサエ、ナガ 内面ナガ	灰白(10YR8/2) 密	口縁部 6/12	中世IV a.	

第23表 出土遺物観察表⑩

番号	実測番号	出土位置	遺構	部種器形	生 墓 [cm]			調整技法の特徴	色 調	粘 土	残存度	備 考
					口径	高さ	その他					
661	100-3 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.3	2.1	—	オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 11/12	中世IV a.
662	100-5 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.3	—	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/1)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 2/12	中世IV a.
663	104-9 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.3	—	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	□縁部 4/12	中世IV a.
664	69-5 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.3	2.3	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 11/12	中世IV a.
665	81-3 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.3	2.4	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	□縁部 12/12	中世IV a.
666	101-3 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	—	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5YR8/1)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 3/12	中世IV a.
667	104-5 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.5	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 11/12	中世IV a.
668	106-3 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	—	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/3)	密(微砂粒含)	□縁部 2/12	中世IV a.
669	107-1 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.6	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄(5Y7/3)	密(～1.5mm砂粒含)	□縁部 11/12	中世IV a.
670	107-8 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	—	—	外面上オサエ、 内面ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	密(微砂粒含)	□縁部 3/12	中世IV a.
671	112-10 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.5	—	外面上オサエ、 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	□縁部 5/12	中世IV a.
672	98-6 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.3	2.6	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～2.0mm砂粒含)	□縁部 8/12	中世IV a.
673	112-9 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	—	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 9/12	中世IV a.
674	117-4 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.2	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 4/12	中世IV a.
675	117-2 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.7	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR7/3)	密(～2.0mm砂粒含)	□縁部 11/12	中世IV a.
676	68-5 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.5	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～2.0mm砂粒含)	□縁部 12/12	中世IV a. 底面に漆面に板目状彫。
677	69-6 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.4	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 2/12	中世IV a.
678	71-6 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.2	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2)	密	□縁部 5/12	中世IV a.
679	72-5 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.6	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 9/12	中世IV a.
680	84-3 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	—	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄(2.5YR8/3)	密(微砂粒含)	□縁部 2/12	中世IV a.
681	84-9 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.6	—	外面上オサエ、 内面ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 4/12	中世IV a.
682	92-6 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.3	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰黄褐色 (10YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	□縁部 2/12	中世IV a.
683	96-5 K-021	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.4	2.5	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR7/2)	密	□縁部 2/12	中世IV a.
684	112-6 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.0	—	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 11/12	中世IV a.
685	74-1 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.5	2.7	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	□縁部 12/12	中世IV a.
686	74-6 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.5	2.9	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	□縁部 11/12	中世IV a.
687	84-10 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.5	—	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 4/12	中世IV a.
688	88-5 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.0~ 8.5	2.6	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	□縁部 11/12	中世IV a.
689	107-5 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.6	2.4	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	密(～1.5mm砂粒含)	□縁部 2/12	中世IV a.
690	107-7 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.6	1.9	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 3/12	中世IV a.
691	107-9 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.6	2.0	—	外面上オサエ、 内面ナデ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 4/12	中世IV a.
692	109-2 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.6	2.4	—	外面上オサエ、 内面ナデ	淡黄(2.5YR8/3)	密(～3.0mm砂粒含)	□縁部 8/12	中世IV a.
693	109-3 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.6	2.4	—	外面上オサエ、 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 12/12	中世IV a.
694	109-4 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.6	2.4	—	外面上オサエ、 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	□縁部 12/12	中世IV a.
695	104-6 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.3~ 8.6	2.8	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・褐色 (7.5YR7/4)	密(～1.5mm砂粒含)	□縁部 11/12	中世IV a. 外面部に工具痕。
696	112-1 K-P21	SK2063	土師器皿	土師器皿	8.6	2.5	—	外面上オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	密(～2.0mm砂粒含)	□縁部 10/12	中世IV a.

第24表 出土遺物観察表⑩

番号	実測 番号	出土 位置	遺構	剖面形態	寸 法 (cm)			調整技術の特徴	色 調	粘土	残存度	備 考	
					直径	高さ	その他						
697	113-10	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	2.1	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～2.0mm砂粒含)	白練部 3/12	中世IV a.		
698	133-1	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 11/12	中世IV a.		
699	72-3	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	2.3	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR8/3) 密(～2.0mm砂粒含)	白練部 6/12	中世IV a.		
700	81-1	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 12/12	中世IV a.		
701	81-8	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	2.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 4/12	中世IV a.		
702	84-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 4/12	中世IV a.		
703	85-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密	白練部 10/12	中世IV a.		
704	89-3	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～2.0mm砂粒含)	白練部 6/12	中世IV a.		
705	89-4	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR8/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 3/12	中世IV a.		
706	98-5	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR8/3) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 10/12	中世IV a.		
707	72-8	K-P21	SK2063	土師器皿	8.6	—	8.7	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 12/12	中世IV a.	
708	81-4	K-P21	SK2063	土師器皿	8.7	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～2.0mm砂粒含)	白練部 6/12	中世IV a.		
709	81-6	K-P21	SK2063	土師器皿	8.7	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(～1.5mm砂粒含)	白練部 5/12	中世IV a.		
710	100-1	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/1) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世IV a. 混化物付着。		
711	111-2	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～2.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世IV a.		
712	112-3	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 7/12	中世IV a.		
713	112-11	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 4/12	中世IV a.		
714	112-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2) 密(～1.5mm砂粒含)	白練部 11/12	中世IV a.		
715	68-3	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(～1.5mm砂粒含)	白練部 4/12	中世IV a. 底部外側に板状瓦軸。		
716	70-8	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.0	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/2) 密	白練部 2/12	中世IV a.		
717	70-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2) 密	白練部 4/12	中世IV a.		
718	84-2	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (2.5YR8/3) 密(微砂粒含)	白練部 3/12	中世IV a.		
719	114-2	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.3	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/3) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 12/12	中世IV a.		
720	74-2	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～1.5mm砂粒含)	白練部 12/12	中世IV a.		
721	81-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/3) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 4/12	中世IV a.		
722	84-5	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.7	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/4) 密(～2.5mm砂粒含)	白練部 4/12	中世IV a.		
723	88-6	K-P21	SK2063	土師器皿	8.8	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 11/12	中世IV a.		
724	104-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.9	2.8	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 4/12	中世IV a. 外底面部に工具痕。		
725	107-2	K-P21	SK2063	土師器皿	8.9	—	—	外面オサエ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 3/12	中世IV a.		
726	110-5	K-P21	SK2063	土師器皿	8.9	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/2) 密(～1.5mm砂粒含)	白練部 2/12	中世IV a.		
727	117-3	K-P21	SK2063	土師器皿	8.9	2.3	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～1.5mm砂粒含)	白練部 5/12	中世IV a.		
728	117-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.9	2.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～2.0mm砂粒含)	白練部 2/12	中世IV a.		
729	68-7	K-P21	SK2063	土師器皿	8.9	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 4/12	中世IV a.		
730	70-1	K-P21	SK2063	土師器皿	8.9	2.3	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR8/3) 密	白練部 12/12	中世IV a. 底面内部に工具痕。		
731	72-19	K-P21	SK2063	土師器皿	8.9	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 5/12	中世IV a.		
732	81-5	K-P21	SK2063	土師器皿	8.9	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	にぶい・黄褐 (10YR7/2) 密(～1.0mm砂粒含)	白練部 7/12	中世IV a.		

第25表 出土遺物観察表②

番号	実測 番号	出土 位置	遺構	表面形状	寸 量 (cm)			調整技法の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
					白径	高さ	その他					
733	106-1	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～1.0mm砂粒含)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a.
734	110-6	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.
735	112-6	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～1.0mm砂粒含)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 11/12	中世IV a.
736	113-6	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.1	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/3)	密	口縁部 2/12	中世IV a.
737	113-9	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/3)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a.
738	69-6	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.2	—	外面オサエ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/3)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.
739	71-1	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	1.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2) 灰	密	口縁部 5/12	中世IV a.
740	72-2	E-P21	SK2063	土師器 皿	8.5~ 9.0	2.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～1.0mm砂粒含)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 12/12	中世IV a.
741	110-8	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR7/3)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a.
742	112-2	E-P21	SK2063	土師器 皿	2.0	3.1	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2) 灰(～2.0mm砂粒含)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 12/12	中世IV a.
743	72-6	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～1.0mm砂粒含)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.
744	74-5	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 7/12	中世IV a.
745	74-7	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.2	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～1.0mm砂粒含)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世IV a.
746	77-5	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	—	—	オサエ、ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/3)	密	口縁部 2/12	中世IV a.
747	76-7	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.3	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2) 灰(～0.5mm砂粒含)	密(～0.5mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.
748	78-8	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.3	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/3)	密	口縁部 3/12	中世IV a.
749	79-10	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/3)	やや密(～0.5mm砂粒含)	口縁部 5/12	中世IV a.
750	80-6	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.3	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～1.0mm砂粒含)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世IV a.
751	91-5	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.1	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (2.5YR6/4)	密	口縁部 2/12	中世IV a.
752	94-6	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	2.1	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	やや密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a. 外面に揮付 有。
753	96-1	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.0	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR8/3)	密	口縁部 3/12	中世IV a. 外面に揮付 有。
754	72-7	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.1	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～1.0mm砂粒含)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.
755	109- 11	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.2	—	—	外面オサエ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.
756	112- 14	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.2	2.1	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～1.0mm砂粒含)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世IV a.
757	112-2	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.2	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～2.0mm砂粒含)	口縁部 12/12	中世IV a.	
758	77-13	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.9	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/4)	密	口縁部 5/12	中世IV a.
759	79-3	E-P21	SK2063	土師器 皿	8.7~ 9.5	2.9	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～1.5mm砂粒含)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 12/12	中世IV a.
760	71-7	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.2	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/3)	密	口縁部 4/12	中世IV a.
761	74-4	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.4	2.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(10YR8/2) 灰(～1.5mm砂粒含)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 12/12	中世IV a.
762	71-11	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.2	2.6	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰白(2.5YR8/2) 灰	口縁部 2/12	中世IV a.	
763	68-1	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.2	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 11/12	中世IV a.
764	69-1	E-P21	SK2063	土師器 皿	7.9	2.3	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/3)	密(～3.0mm砂粒含)	口縁部 11/12	中世IV a.
765	68-2	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.2	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 10/12	中世IV a.
766	70-2	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.4	2.4	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	に点々・黄褐色 (10YR7/3)	密	口縁部 6/12	中世IV a. 底面内側に工具板。
767	70-3	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.8	2.5	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	密	口縁部 6/12	中世IV a. 底面内側に工具板。
768	117-6	E-P21	SK2063	土師器 皿	9.2	—	—	外面オサエ、ナデ 内面ナデ	浅黄褐 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世IV a.

第26表 出土遺物観察表②

番号	実測 番号	出土 位置	遺構	器種類形	寸 量 (cm)			調整技術の特徴	色 調	粘土	残存度	備 考		
					直径	鉢高	その他							
769	72-1	E-P21	SK2963	土師器 皿	8.7~ 9.7	2.8	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2) に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 12/12	中世IV a.		
770	72-9	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.2	2.1	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2) に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～2.0mm砂粒含)	0縁部 2/12	中世IV a.		
771	81-2	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.3	2.8	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2) に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～2.0mm砂粒含)	0縁部 11/12	中世IV a.		
772	81-10	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.2	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	0縁部 3/12	中世IV a.		
773	82-4	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.3	2.3	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰黄(2.5YR8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 4/12	中世IV a.		
774	82-5	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.6	1.9	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰黄(2.5YR8/4)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 2/12	中世IV a.		
775	85-1	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.6	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰黄褐 (10YR8/3)	密	0縁部 2/12	中世IV a.		
776	85-2	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.8	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(2.5YR1)	密	0縁部 3/12	中世IV a.		
777	81-9	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.6	2.1	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 2/12	中世IV a.		
778	110-5	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.4	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰黄褐 (2.5YR8/3)	密(～2.0mm砂粒含)	0縁部 4/12	中世IV a.		
779	112-12	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.4	2.3	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 2/12	中世IV a.		
780	112-13	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.4	2.4	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2) に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 5/12	中世IV a.		
781	97-7	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.2	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2) に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～2.0mm砂粒含)	0縁部 4/12	中世IV a.		
782	109-9	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.3	—	—	外面オサエ 内面ナダ	に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 3/12	中世IV a.		
783	97-5	E-P21	SK2963	土師器 皿	9.4	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(2.5YR1)	密(～1.0mm砂粒、4.0 mm～5.0mm小石含)	0縁部 2/12	中世IV a.		
784	85-5	E-P21	SK2963	土師器 皿	7.9	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密	0縁部 2/12	中世IV b.		
785	70-5	E-P21	SK2963	土師器 皿	7.9	2.1	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰黄褐 (10YR8/3)	密	0縁部 4/12	中世IV b.		
786	111-3	E-P21	SK2963	土師器 皿	6.7	1.9	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰黄褐 (10YR8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 1/12	中世IV b.		
787	111-5	E-P21	SK2963	土師器 皿	12.0	2.5	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	稍(5YR7/6)	密(～2.0mm砂粒含)	0縁部 2/12	中世IV D形態。		
788	105-2	E-P21	SK2963	土師器 皿	12.4	2.5	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	0縁部 5/12	中世IV D形態。		
789	88-4	E-P21	SK2963	土師器 皿	12.7	2.2	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 3/12	中世IV D形態。		
790	102-2	E-P21	SK2963	土師器 皿	12.8	2.5	—	オサエ、ナダ	に:5.5°黄緑 (10YR7/2)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 5/12	中世IV D形態。		
791	99-5	E-P21	SK2963	土師器 皿	13.0	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 1/12	中世IV D形態。		
792	88-3	E-P21	SK2963	土師器 皿	13.0	2.4	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	0縁部 3/12	中世IV D形態。		
793	79-9	E-P21	SK2963	土師器 皿	13.0	3.1	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 2/12	中世IV D形態。		
794	83-1	E-P21	SK2963	土師器 皿	13.6	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 2/12	中世IV D形態。		
795	85-9	E-P21	SK2963	土師器 皿	13.6	2.3	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密	0縁部 4/12	中世IV D形態。		
796	75-10	E-P21	SK2963	土師器 皿	14.0	2.4	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～1.5mm砂粒含)	0縁部 1/12	中世IV D形態。		
797	93-1	E-P21	SK2963	土師器 皿	15.0	1.7	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(2.5YR8/2)	密(～2.5mm小石含)	0縁部 2/12	中世IV D形態。		
798	68-4	E-P21	SK2963	土師器 皿	14.8	—	—	外面オサエ 内面ナダ	に:5.5°黄緑 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 3/12	中世IV D形態。		
799	110-3	E-P21	SK2963	土師器 皿	19.4	—	—	外面ハケメ 内面ナカチナフ	灰黄褐 (10YR8/3)	密(～2.0mm砂粒含)	0縁部 2/12	中世II a.		
800	101-2	E-P21	SK2963	土師器 皿	19.0	—	—	頭面径 17.2	外面オサエ、ケズ 内面工具ナフ、ケ ズメ、オサエ、ナ ダ	灰:2:オサエ、内 に:5.5°黄緑 (10YR7/3)、褐 (10YR5/1)	密(～2.0mm砂粒含)	0縁部 2/12	中世II a. 外側に保付面。	
801	80-2	E-P21	SK2963	土師器 皿	20.0	—	—	外面ハケメ 内面工具ナフ	に:5.5°黄緑 (10YR7/3)、褐 (10YR5/1)	密(～2.0mm砂粒含)	0縁部 2/12	中世II a.		
802	98-2	E-P21	SK2963	土師器 皿	19.9	—	—	外面ハケメ、ケズ 内面ナフ、ケズリ	灰黄褐 (2.5YR8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	0縁部 1/12	中世II a.		

第27表 出土遺物観察表②

番号	実測 座標	出土 位置	遺構	器種	形 状 (cm)	寸 径 高さ その他	調査法の特徴	色 調	胎 土	残存度	備 考	
803	103-2	E-P21	SK2063	土師器 鍋	21.3	—	—	外面ハケメ、ケズ リ表面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 12/12	中世Ⅱ a.
804	101-1	E-P21	SK2063	土師器 鍋	20.8	11.3	頸部径 18.2	外面オサニ、ナ ド、ケズリ、内面工具ナダ、ケ ズリ、オサエ、ナ ド	灰白(10YR8/1)	密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世Ⅱ a.
805	90-2	E-P21	SK2063	土師器 鍋	20.6	10.8	—	外面ハケメ、ケズ リ表面工具ナダ、ケ ズリ	浅黄橙 (10YR8/2)	密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 10/12	中世Ⅱ a.
806	98-1	E-021	SK2063	土師器 鍋	19.7	—	—	外面ハケメ、ケズ リ表面工具ナダ、ハ ケメ	灰白(10YR8/2)	密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世Ⅱ a.
807	82-3	E-P21	SK2063	土師器 鍋	21.8	—	—	外面ハケメ、ケズ リ表面工具ナダ	浅黄橙 (10YR8/3)	密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世Ⅱ a.
808	100-2	E-P21	SK2063	土師器 鍋	23.0	10.8	頸部径 23.2	外面ハケメ、ケズ リ表面ナダ、ケズ リ	浅黄橙 (10YR8/4)	密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅱ a.
809	80-1	E-P21	SK2063	土師器 鍋	21.6	—	—	外面ハケメ 内面工具ナダ	にぶい・黄橙 (10YR7/3)	密(~1.5mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅱ a.
810	104-2	E-P21	SK2063	土師器 鍋	20.8	—	—	外面ハケメ 内面工具ナダ	浅黄橙 (7, SYR8/3)	密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世Ⅱ a.
811	117-1	E-P21	SK2063	土師器 鍋	21.6	—	—	外面ハケメ 内面工具ナダ	灰白(10YR8/2)	密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅱ a.
812	97-2	E-P21	SK2063	土師器 鍋	22.2	—	—	外面ハケメ 内面工具ナダ	浅黄橙 (7, SYR8/3)	密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世Ⅱ a.
813	100-7	E-P21	SK2063	土師器 鍋	22.0	—	頸部径 19.6	外面ハケメ 工具ナダ	浅黄橙 (10YR8/3)	密(~1.5mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅱ a.
814	91-3	E-P21	SK2063	土師器 鍋	23.0	—	—	外面ハケメ 内面工具ナダ	浅黄橙 (10YR8/3)	密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅱ a.
815	69-8	E-P21	SK2063	土師器 鍋	22.8	—	—	外面ハケメ 内面工具ナダ	浅黄橙 (10YR8/3)	密(~1.5mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅱ a.
816	94-1	E-021	SK2063	土師器 鍋	21.8	—	頸部径 19.4	外面ハケメ、ケズ リ表面ナダ、ケズ リ	浅黄(2, SYR8/3)	密	口縁部 4/12	中世Ⅱ a. 外面に煤付 着。
817	94-3	E-P21	SK2063	土師器 鍋	22.0	—	—	ヨコナダ	灰白(2, SYR8/2)	密	口縁部 2/12	中世Ⅱ a.
818	87-1	E-P21	SK2063	土師器 鍋	23.6	—	頸部径 21.0	外面ハケメ 内面工具ナダ	灰黄褐 (10YR5/2)	やや密(~1.0mm砂粒 含)	口縁部 1/12	中世Ⅱ a.
819	104-4	E-P21	SK2063	土師器 鍋	17.8	—	—	外面ハケメ、ケズ リ表面工具ナダ	灰白(10YR8/2)	密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅱ b。内面に粘土粒 混入。
820	104-3	E-P21	SK2063	土師器 鍋	17.9	—	—	外面ハケメ 内面工具ナダ	にぶい・黄橙 (10YR7/3)	密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅲ。
821	89-3	E-P21	SK2063	土師器 鍋	18.6	—	—	ヨコナダ	灰白(10YR8/2)	密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅲ。
822	87-2	E-P21	SK2063	土師器 鍋	20.4	—	—	ヨコナダ	浅黄橙 (10YR8/3)	密	口縁部 1/12	中世Ⅲ。
823	110-4	E-P21	SK2063	土師器 鍋	20.8	—	—	外面ハケメ 内面ナダ	灰白(10YR8/2)	密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅲ。
824	90-1	E-P21	SK2063	土師器 鍋	21.6	—	—	外面ハケメ、ケズ リ表面工具ナダ、ケ ズリ	浅黄橙 (10YR8/3)	密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 9/12	中世Ⅲ。外面に煤付着。
825	95-1	E-P21	SK2063	土師器 鍋	21.6	—	頸部径 17.2	外面ハケメ 内面工具ナダ	にぶい・黄橙 (10YR7/3)	やや密(~1.0mm砂粒 含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ。
826	82-2	E-P21	SK2063	土師器 鍋	20.9	—	—	外面ハケメ 内面工具ナダ	浅黄橙 (10YR8/3)	密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅲ。外面に煤付着。
827	110-2	E-P21	SK2063	土師器 鍋	22.1	—	—	外面ハケメ 内面工具ナダ	浅黄橙 (10YR8/3)	密(~2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ。外面に煤付着。
828	104-1	E-P21	SK2063	土師器 鍋	21.8	—	—	外面ハケメ、ケズ リ表面工具ナダ	灰白 (10YR8/2), 極 黒(SYR5/1)	密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅲ。
829	95-4	E-P21	SK2063	土師器 鍋	22.0	—	頸部径 19.4	外面ハケメ 内面工具ナダ	灰白(10YR8/2)	密	口縁部 1/12	中世Ⅲ。外面に煤付着。
830	105-1	E-021	SK2063	土師器 鍋	22.8	—	—	外面ハケメ、ケズ リ表面工具ナダ、ケ ズリ	灰白(10YR8/2)	密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅲ。
831	103-1	E-021	SK2063	土師器 鍋	23.9	10.1	—	外面ハケメ、ケズ リ表面ナダ、ハケメ	灰白(10YR8/2)	密(~1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ。

第28表 出土遺物観察表②

番号	実測 番号	出土 位置	遺構	器種形 式	寸 量 (cm)			調整技法の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
					口径	脚高	その他					
832	99-3	K-P21	SK2063	土器器 鍋	22.1	—	脚部径 19.6	外面ハケメ、ケズ リナダ	浅黄褐 (10YR8/3)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅲ。外面に保付着。
833	96-1	K-P21	SK2063	土器器 鍋	24.0	—	脚部径 20.6	外面ハケメ、内面 工具ナダ	灰黄(2.5Y7/2)	やや密(～1.0mm砂粒 含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ。外面に保付着。
834	88-1	K-P21	SK2063	土器器 鍋	23.0	—	—	外面ハケメ、ケズ リナダ	に赤い黄裡 (10YR7/2)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅲ。外面に保付着。
835	102-2	K-P21	SK2063	土器器 鍋	22.0	—	脚部径 18.5	外面ハケメ、内面 工具ナダ	に赤い黄裡 (10YR7/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世Ⅲ。外面に保付着。
836	94-2	K-P21	SK2063	土器器 鍋	23.0	—	脚部径 19.6	外面ハケメ、内面 ナダ	灰白(10YR8/2)	やや密(～1.0mm砂粒 含)	口縁部 3/12	中世Ⅲ。
837	95-3	K-P21	SK2063	土器器 鍋	24.0	—	脚部径 20.4	外面ハケメ、内面 工具ナダ	灰白(10YR8/2)	やや密(～1.0mm砂粒 含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ。外面に保付着。
838	92-4	K-P21	SK2063	土器器 鍋	26.8	—	—	ヨコナダ	灰黄褐 (10YR6/2)	密	口縁部 1/12	中世Ⅲ。外面に保付着。
839	99-1	K-P21	SK2063	土器器 鍋	23.4	—	脚部径 20.4	外面ハケメ、ケズ リナダ	浅黄褐 (10YR8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世Ⅲ。
840	99-2	K-P21	SK2063	土器器 鍋	22.2	—	脚部径 19.5	外面ハケメ、ケズ リナダ	灰白(10YR8/2)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世Ⅲ。
841	95-2	K-021	SK2063	土器器 鍋	25.0	—	脚部径 21.0	—	に赤い黄裡 (10YR7/3)	やや密(～1.0mm砂粒 含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ。外面に保付着。
842	92-3	K-P21	SK2063	土器器 鍋	—	—	—	外面ハケメ、内面 ナダ	浅黄褐 (10YR8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅲ。
843	86-2	K-P21	SK2063	土器器 鍋	32.6	—	脚部径 28.6	外面ハケメ、内面 工具ナダ、ヘ タケズリ	灰白(10YR8/2)	密	口縁部 1/12	中世Ⅲ。外面に保付着。
844	82-1	K-P21	SK2063	土器器 鍋	19.2	10.1	—	外面ハケメ、ケズ リナダ	灰褐(7.5YR6/2)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 11/12	中世Ⅳa。外面に保付 着。
845	97-3	K-P21	SK2063	土器器 鍋	21.2	11.0	—	外面ハケメ、ケズ リナダ	浅黄褐 (10YR8/3)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世Ⅳa。
846	88-2	K-P21	SK2063	土器器 鍋	21.0	—	—	外面ハケメ、ケズ リナダ	浅黄褐 (10YR8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世Ⅳa。外面に保付 着。
847	89-2	K-P21	SK2063	土器器 鍋	23.1	—	—	外面ハケメ、ケズ リナダ	浅黄褐 (10YR8/3)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅳa。外面に保付 着。
848	69-1	K-P21	SK2063	土器器 鍋	20.9	—	—	外面ハケメ、内面 工具ナダ	に赤い黄裡 (10YR6/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世Ⅳa。
849	86-1	K-P21	SK2063	土器器 鍋	22.6	—	脚部径 19.0	外面ハケメ、内面 工具ナダ、ヘ タケズリ	灰黄褐 (10YR5/2)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 5/12	中世Ⅳa。外面に保付 着。
850	91-1	K-P21	SK2063	土器器 鍋	26.0	—	—	外面ハケメ、内面 工具ナダ	浅黄褐 (10YR8/4)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 4/12	中世Ⅳa。
851	94-4	K-P21	SK2063	土器器 鍋	26.0	—	—	ヨコナダ	に赤い黄裡 (10YR7/3)	やや密(～1.0mm砂粒 含)	口縁部 1/12	中世Ⅳa。外面に保付 着。
852	91-4	K-P21	SK2063	土器器 鍋	26.0	—	—	ヨコナダ	に赤い黄裡 (10YR7/3)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅳa。外面に保付 着。
853	102-1	K-P21	SK2063	土器器 鍋	28.8	—	脚部径 24.1	外面ハケメ、ケズ リナダ、ケズリ	浅黄褐 (10YR8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世Ⅳa。外面に保付 着。
854	89-1	K-P21	SK2063	土器器 鍋	41.0	—	—	外面ナダ、ケズリ 内面ナダ	浅黄褐 (7.5YR8/3)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅳ。外面に保付着。
855	92-2	K-P21	SK2063	土器器 羽釜	—	—	—	ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 1/12	中世Ⅲ・Ⅳ。
856	69-7	K-P21	SK2063	土器器 羽釜	—	—	—	ナダ	浅黄褐 (10YR8/3)	密(～1.5mm砂粒含)	小片	中世Ⅲ・Ⅳ。
857	119-2	K-P21	包含層	土器器 羽釜	26.6	—	跨径 32.2	ヨコナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	中世Ⅲ・Ⅳ。
858	92-1	K-P21	SK2063	土器器 羽釜	21.0	—	—	外面ハケメ、内面 工具ナダ	灰白(10YR8/2)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 3/12	中世Ⅲ・Ⅳ。 外面に保付着。
859	119-3	K-P21	包含層	土器器 茶釜	—	—	跨径 22.0	外面ハケメ、ケズ リナダ、オサ ニナダ 内面ナダ	に赤い黄裡 (10YR7/3)	密(～1.5mm砂粒含)	跨部 1/12	中世Ⅲ・Ⅳ。 外面に保付着。
860	100-6	K-P21	SK2063	陶器 山茶碗	—	—	高台 6.0	ロクロナダ	灰白(2.5Y7/1)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部 2/12	尾張型A形式。 高台に輪郭線。
861	95-6	K-P21	SK2063	陶器 山茶碗	—	—	高台 5.4	ロクロナダ	灰白(BY7/1)	やや密(～1.0mm砂粒 含)	高台部 1/12	尾張型B形式。 高台に輪郭線。
862	105-9	K-P21	SK2063	陶器 山茶碗	—	—	高台 6.6	ロクロナダ	灰白(O8/0)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部 2/12	尾張型C形式。 高台に輪郭線。

第29表 出土遺物観察表②

番号	実物番号	出土位置	遺物	器種器形	法 全 (cm)	調査技法の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
					口径 底径 その他					
863	93-4 K-P21	SK2063	陶器 山茶碗	—	—	底径 5.8	ロクロナダ	灰白(2.8Y7/1)	密	高台部 2/12
864	93-5 K-P21	SK2063	陶器 山茶碗	9.8	—	—	ロクロナダ	青白(2.8Y7/1) 輪・オーリーブ (5Y9/4)	密	口縁部 1/12
865	105-7 K-P21	SK2063	陶器 山茶碗	12.1	—	—	ロクロナダ	青白(2.8Y7/1) 輪・浅黄 (2.8Y7/2)	密	口縁部 1/12
866	93-2 K-P21	SK2063	陶器 山茶碗	—	—	—	ロクロナダ	オーリーブ (5Y9/4)	密	口縁部 1/12
867	102-4 K-P21	SK2063	陶器 平鉢	15.7	—	—	ロクロナダ	青白(2.8Y7/2) 輪・浅黄 (2.8Y7/2)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12
868	105-8 K-P21	SK2063	青磁 碗	13.6	—	—	ロクロナダ	青白(2.8Y7/1) 輪・オーリーブ灰 (5Y9/6/1)	密	口縁部 1/12
869	93-7 K-P21	SK2063	陶器 大皿	—	—	—	ロクロナダ	浅黄(5Y7/4)	密	小片
870	91-2 K-P21	SK2063	陶器 大皿	—	—	底径 16.0	ロクロナダ	にぶい黄橙 (10Y9/7/4)	密	底部 2/12
871	97-1 K-021	SK2063	陶器 鉢	29.0	—	—	ロクロナダ	にぶい橙 (SY8R/4)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12
872	100-1 K-P21	SK2063	陶器 鉢	28.8	10.5	底径 13.0	外面オサエ、工具 内面ナダ	にぶい尾 (7.8Y6/3)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 3/12
873	134-4 K-P21	SK2063	陶器 香炉	8.4	3.4	—	ロクロナダ	オーリーブ (5Y9/3)	密	口縁部 9/12
874	110-1 K-P21	SK2063	瓦土器 火鉢	42.2	—	—	ロクロナダ	灰(8Y4/0)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 1/12
875	2-10 K-Q23	P1t9	土質器 小皿	7.6	1.3	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	外：灰白 (2.8Y8/1) 内：灰白 (2.8Y8/2)	密	口縁部8/12
876	2-9 K-E23	P1t7	土質器 小皿	8.2	1.3	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白 (2.8Y8/2)	密	口縁部6/12
877	2-3 K-A21	P1t2	土質器 皿	12.4	2.2	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	浅黄橙 (10Y9/8/3)	やや密	口縁部1/12
878	2-11 K-E23	P1t8	土質器 皿	7.9	1.45	—	ナダ	灰白 (2.8Y8/2)	やや密(～1.0mm砂 粒含)	口縁部1/12
879	2-1 K-F23	P1t6	土質器 皿	26.0	—	頸部径 22.0	工具ナダ	にぶい黄橙 (10Y9/5/3)	密	口縁部2/12 頸部1/12
880	2-7 K-B20	P1t9	土質器 皿	—	—	—	ナダ	にぶい黄橙 (10Y9/7/3)	密	口縁部1/12
881	2-8 K-D21	P1t1	陶器 山茶碗	14.0	—	—	ロクロナダ	灰白 (2.8Y7/1)	密	口縁部2/12
882	1-7 K-A22	P1t1	陶器 山茶碗	—	—	高台径 8.8	ロクロナダ	灰白 (2.8Y7/1)	密	高台部6/12
883	2-2 K-C21	P1t1	陶器 山茶碗	—	—	高台径 5.2	ロクロナダ	灰白 (0N7/)	密	高台部4/12
884	2-6 K-B19	P1t1	陶器 山茶碗	5.0	—	—	ロクロナダ	灰白 (5Y7/1)	密	高台部3/12
885	2-5 K-P23	P1t6	陶器 山茶碗	—	—	底径6.4	ロクロナダ	灰白 (8Y8/)	やや密	底部2/12
886	2-4 K-S23	P1t8	陶器 鉢	—	—	—	ロクロナダ	灰白 (5Y7/1)	密	口縁部1/12
887	124-3 K-N22	包含層	土質器 鉢	—	—	高台径 6.5	ナダ	灰白(10Y8R/2)	密(～3.0mm砂粒含)	高台部 4/12
888	124-4 K-C21	包含層	土質器 小皿	7.0	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	外：にぶい橙 (SY7/3) 内：浅黄橙 (7.8Y8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12
889	119-5 K-C22	包含層	土質器 皿	11.4	2.5	—	ナダ	灰白(10Y8R/2)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 4/12
890	119-4 K-B21	包含層	土質器 皿	11.7	2.5	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	にぶい黄橙 (10Y9/7/3)	密(～1.5mm砂粒含)	口縁部 9/12
891	127-9 K-C22	包含層	土質器 皿	11.3	—	—	ナダ	灰白(2.8Y7/2)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12
892	124-5 K-C21	包含層	土質器 皿	12.3	—	—	ナダ	浅黄橙 (7.8Y8/4)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 2/12
893	124-6 K-D21	包含層	土質器 皿	9.6	—	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(10Y8R/2)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 7/12
894	127-8 L-A1	包含層	土質器 鉢	17.4	—	頸部径 15.8	ナダ	浅黄橙 (2.8Y8/3)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 1/12
895	120-5 K-D21	包含層	灰陶器 鉢	—	—	高台径 6.6	ロクロナダ	灰(8Y6/0)	密(微砂粒含)	高台 7/12
										内面に重ね焼き痕。

第30表 出土遺物観察表②

番号	実測 番号	出土 位置	遺構	器種形態	底 面 (cm)			調整技術の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
					口径	底深	その他					
896	127-4-E-C21	包含層	灰釉陶器 桶	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白(S18/1)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 3/12	底部外面に素切り瓶。	
897	122-2-E-D20	包含層	灰釉陶器 桶	—	—	高台径 7.8	ロクロナデ	灰白(S17/1)	密	高台部 3/12	底部外面に素切り瓶。	
898	127-1-E-A21	包含層	陶器 山茶柄	—	—	高台径 9.2	ロクロナデ	灰白(2.S17/1)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 3/12	尾張型5形式。	
899	127-1-E-A1	包含層	陶器 山茶柄	—	—	高台径 9.3	ロクロナデ	灰白(2.S19/1)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 3/12	尾張型5形式。 底部外面に素切り瓶。	
900	122-4-E-C21	包含層	陶器 山茶柄	—	—	高台径 5.6	ロクロナデ	灰白(S17/1)	密	高台部 2/12	尾張型6形式。 高台部に横縫隙。	
901	127-5-E-A22	包含層	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.6	ロクロナデ	灰白(2.S17/1)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 2/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。	
902	127-7-E-C20	包含層	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白(S17/1)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 3/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。	
903	122-4-E-020	包含層	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.2	ロクロナデ	灰白(2.S19/1)	やや密(～2.0mm砂粒 食)	高台部 5/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。 高台部に横縫隙。	
904	121-1-E-021	包含層	陶器 山茶柄	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰白(S17/1)	密	高台部 3/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。	
905	122-7-E-021	包含層	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白(S17/1)	密	高台部 11/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。	
906	127-3-E-B20	包含層	陶器 山皿	—	—	底面径 6.0	ロクロナデ	灰白(10S17/1)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 5/12	尾張型。	底部外面に素切り瓶。
907	128-2-E-B20	包含層	青磁 桶	16.6	—	—	ロクロナデ	青白(S18/1)	密(酸紺)	白練部 1/12		
908	121-1	表土	須恵器 壺	27.6	—	—	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～2.0mm砂粒食)	白練部 1/12		
909	125-1	表土	須恵器 壺	—	—	高台径 8.6	外輪ロクロケズリ 内輪ロクロナデ	灰白(N6/1)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 4/12		
910	125-1	表土	須恵器 壺	—	—	高台径 5.8	ロクロナデ	灰白(N5/0)	密(～1.0mm砂粒食)	白練部 3/12		
911	123-2	表土	陶器 山茶柄	15.2	—	—	ロクロナデ	灰白(S17/1)	やや密(～0.5mm砂粒 食)	白練部 2/12	尾張型。	
912	126-1	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.9	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 7/12	尾張型5形式。	底部外面 に素切り瓶。
913	126-2	底土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 12/12	尾張型5形式。 底部外面に素切り瓶。	
914	125-6	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 8.2	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～3.0mm砂粒食)	白練部 3/12	尾張型5形式。 底部外面に素切り瓶。 高台部に横縫隙。	
915	127-2	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.2	ロクロナデ	灰白(2.S17/1)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 3/12	尾張型5形式。 底部外面に素切り瓶。 高台部に横縫隙。	
916	121-4	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 5.4	ロクロナデ	灰白(S18/1)	密	高台部 3/12	尾張型5形式。 底部外面に素切り瓶。	
917	125-7	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白(N7/0)	密(～1.5mm砂粒食)	白練部 2/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。 高台部に横縫隙。	
918	121-3	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白(S17/1)	密	高台部 1/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。	
919	126-4	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～1.5mm砂粒食)	高台部 5/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。	
920	121-7	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.2	ロクロナデ	灰白(S18/1)	密	高台部 2/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。	
921	126-7	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.2	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 4/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。 高台部に横縫隙。	
922	121-8	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白(S17/1)	密	高台部 3/12	尾張型6形式。	
923	122-6	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白(S18/1)	やや密(～0.5mm砂粒 食)	高台部 3/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。 高台部に横縫隙。	
924	121-5	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 7.2	ロクロナデ	灰白(S17/1)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 8/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。	
925	126-3	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.2	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～1.0mm砂粒食)	高台部 3/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。	
926	126-5	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.3	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～2.0mm砂粒食)	高台部 5/12	尾張型6形式。 底部外面に素切り瓶。 高台部に横縫隙。	
927	122-2	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白(S17/1)	やや密	高台部 11/12	尾張型6形式。 底部外面に横縫隙。	
928	126-6	表土	陶器 山茶柄	—	—	高台径 8.4	ロクロナデ	灰白(N8/0)	密(～2.0mm砂粒食)	高台部 3/12	尾張型6形式。 高台部に横縫隙。	

第31表 出土遺物観察表⑦

番号	実測 番号	出土 位置	遺構	基盤形状	法 長 (cm)			調査技法の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
					口径	高さ	その他					
929	125-2	表土	陶器 山茶楓	—	—	高台径 7.0	ロクロナダ	灰白(NR/0)	密(～2.0mm砂粒含)	高台部 9/12	尾張型6形式。 底部外面に糸切り痕。 底部内面に粗砂板。	
930	120-3	表土	陶器 山茶楓	—	—	高台径 6.5	ロクロナダ	灰白(SYR/1)	密(微砂粒含)	高台部 12/12	尾張型5形式。 内面に使用痕、自然縫。 底部外面に糸切り痕。	
931	125-3	表土	陶器 山茶楓	—	—	高台径 7.4	ロクロナダ	灰白(NR/0)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部 6/12	尾張型6形式。 内面に自然縫。 底部外面に糸切り痕。	
932	121-2	表土	陶器 山茶楓	—	—	高台径 6.8	ロクロナダ	灰白(SYT/1)	密	高台部 3/12	尾張型6形式。 内面に縫付帯。	
933	121-6	表土	陶器 山茶楓	—	—	高台径 7.0	ロクロナダ	灰白(SYT/1)	密	高台部 4/12	尾張型6形式。 底部外面に糸切り痕。	
934	125-5	表土	陶器 山茶楓	—	—	高台径 6.0	ロクロナダ	灰白(SYR/1)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 3/12	尾張型6形式。 内面に自然縫。 底部外面に糸切り痕。	
935	122-1	表土	陶器 山茶楓	—	—	高台径 7.4	ロクロナダ	灰白(2.SYT/1)	やや密	高台部 6/12	尾張型6形式。 底部外面に糸切り痕。	
936	120-4	表土	陶器 山茶楓	—	—	高台径 6.0	ロクロナダ	灰白(NR/0)	密(～1.5mm砂粒含)	高台部 10/12	尾張型6形式。 内面に自然縫。 底部外面に糸切り痕。	
937	120-2	表土	陶器 山茶楓	—	—	高台径 7.8	ロクロナダ	灰白(SYT/1)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部 12/12	6形式。内面に使用痕。 底部外面に糸切り痕。	
938	124-2	表土	陶器 甕	—	—	—	ロクロナダ	にぶい焼 (SYR/1/Q)	密(～1.0mm砂粒含)	小片	常滑3-9。	
939	123-3	表土	陶器 鉢	—	—	—	ロクロナダ	灰白(2.SYT/1)	やや密(～1.0mm砂粒含)			
940	120-1	表土	陶器 口片	29.4	10.2	底径 11.0	外面オカリ、ナダ 内面ナダ	にぶい焼 (7.SYR/3)	密(～2.0mm砂粒含)	口縁部 2/12	内面に使用痕。 常滑3-10。	
941	122-8	表土	陶器 鉢	—	—	底径 12.0	板ナダ	鳩尻(7.SYR/1)	やや粗(～3.0mm砂粒含)	底部 4/12	常滑。	
942	128-3	表土	青磁 楓	17.7	—	—	ロクロナダ	素地:灰(NR/0) 輪:灰オリーブ (7.SYR/2)	密(微砂粒)	口縁部 1/12		
943	123-1 K-021	包含層	丸瓦	—	—	—	工具ナダ	にぶい黄澄 (7.SYR/3)	粗		内面に布目痕。	
944	130-2 K-Q23	pit5	鉄製品 釘	—	—	—	—					
945	136-3 K-Q25	pit1	鉄製品 釘	—	—	—	—					
946	136-2 K-C21	SE2948	鉄製品 釘	—	—	—	—					
947	136-1 K-021	SK2963	鉄製品 釘	—	—	—	—					
948	136-4 K-C21	包含層	鉄製品 釘	—	—	—	—					
949	130-1 K-P21	SK2963	鉄製品 貨幣	—	—	—	—				乳元重寶(草字甲文 式)。	
950	120-6	表土	土師器 土鍵	全長 6.3	最大幅 3.2	孔径 1.0	オサエ、ナダ	にぶい黄澄 (10SYR/7)	密(～1.0mm砂粒含)	高台部 7/12		
951	133-5 K-P22	包含層	土師器 土鍵	6.2	幅 2.6	孔径 1.1	オサエ、ナダ、ケ ズリ	施灰(10SYR/1)	密(～2.0mm砂粒含)			
952	124-7 K-020	包含層	土師器 土鍵	全長 5.8	最大幅 2.2	孔径 0.8	オサエ、ナダ	外：施灰 (7.SYR/1) 内：施灰(NR/0)	密(～1.0mm砂粒、 3.0mm～4.0mm砂粒含)			
953	54-6 K-C20	SQ2012	土師器 土鍵	長さ 5.5	幅 1.6	重さ 13.4kg	オサエ、ナダ	灰黄(2.SYR/2)	密			
954	128-4 K-P20	SQ2071	磨製石斧	幅 5.9	厚さ 2.4	重さ 75.91g	—					
1003	138-1 I-Y1	SD2003	漆製品	—	—	—	—					
1004	137-1 I-Y1	SD2003	土師器 皿	13.8	3.1	—	外面オサエ、ナダ 内面ナダ	灰白(2.SYR/2)	密(～1.0mm砂粒含)	口縁部 12/12	中世IVD形態。	

第32表 出土遺物観察表②

番号	実測番号	出土位置	遺構	器種器形	法 量 (cm)			縦手・仕口	樹種	木取り	備考
					長/様	幅/高	厚				
955	140-1	K-A23	SE2005	曲物	58.2	29.0		木釘穴上段 53	ヒノキ	板目	
956	145-1	K-A23	SE2005	曲物	37.2	26.3		木釘穴上段 11	ヒノキ	板目	
957	148-1	K-C21	SE2075	曲物	40.3~44.9	18.0	0.6		ヒノキ	板目	
958	153-1	K-E24	SE2031	曲物	40.0	9.8	0.5	木釘穴下段 19	ヒノキ	板目	
959	155-1	K-123	SE2040	曲物	43.0	12.5	0.7		スギ	板目	
960	156-1	K-123	SE2040	曲物	35.2	9.2		木釘穴上段 5、下段3	スギ	板目	
961	158-1	K-123	SE2040	曲物	36.1~38.3	11.0	0.7	木釘穴下段 5	スギ	板目	
962	151-1	K-123	SE2040	曲物	46.7~47.9	6.0	0.4		スギ	板目	
963	150-1	K-123	SE2040	曲物	44.4~45.5	7.0	0.4	木釘穴下段 17	スギ	板目	
964	159-1	K-123	SE2040	曲物	35.0	20.0			スギ	板目	
965	144-1	K-C21	SE2048	曲物	39.4	17.5		木釘穴下段 2	サワラ	板目	
966	152-1	K-C21	SE2048	曲物	45.0~45.3	24.0	0.7	木釘穴下段 39	スギ	板目	
967	143-1	K-L23	SE2049	曲物	44.5	30.8		木釘穴下段 9	ヒノキ	板目	
968	146-1	K-L23	SE2055	曲物	49.6	19.0			サワラ	板目	
969	147-1	K-C21	SE2067	曲物	48.6	14.70			ヒノキ	板目	
970	154-1	K-C21	SE2076	曲物	52.0	10.5	0.6	木釘穴上段 15	スギ	板目	
971	142-1	K-C21	SE2077	曲物	47.0	32.0		木釘穴下段 18	スギ	板目	
972	141-1	K-C21	SE2077	曲物	38.5	31.5			スギ	板目	
973	149-1	K-C21	SE2067	曲物	40.8	10.5			ヒノキ	板目	
974	167-1	K-E24	SE2031	曲物底板	33.7		1.2		ヒノキ	板目	
975	168-1	K-C21	SE2067	曲物底板	19.3		0.9		ヒノキ	板目	
976	161-1	K-C21	SE2067	櫛	25.6	5.0	2.1		モミ属	削材	
977	161-2	K-C21	SE2067	櫛	25.7	5.0	2.1		モミ属	削材	
978	162-1	K-C21	SE2067	櫛	25.5	4.8	2.0		モミ属	削材	
979	162-2	K-C21	SE2067	櫛	20.5	4.3	2.5		コウヤマキ	削材	
980	163-1	K-C21	SE2067	櫛	19.3	4.1	2.0		コウヤマキ	削材	
981	163-2	K-C21	SE2067	櫛	21.6	4.1	1.9		コウヤマキ	削材	
982	164-1	K-C21	SE2067	櫛	22.1	3.4	3.1		コウヤマキ	芯持材	
983	164-2	K-C21	SE2067	櫛	21.1	2.2	2.4		コウヤマキ	芯持材	
984	165-2	K-C21	SE2048	櫛	19.8	2.9	1.3		コウヤマキ	板目	
985	139-1	K-G23	SE2054	水平材	176.4	11.2	6.0	納6	コウヤマキ	板目	
986	166-2	K-A23	SE2005	加工材	19.3	1.3	0.6		ヒノキ	削材	
987	169-2	K-E24	SE2031	板材	25.7	3.5	0.6		コウヤマキ	板目	
988	168-2	K-E24	SE2031	板材	25.9	8.4	0.6		コウヤマキ	板目	
989	169-1	K-E24	SE2031	板材	25.6	8.7	0.9		コウヤマキ	板目	
990	167-2	K-E24	SE2031	板材	26.0	6.9	1.5		コウヤマキ	板目	
991	165-1	K-C21	SE2048	加工材	31.0	6.3	1.5		コウヤマキ	板目	
992	169-3	K-G23	SE2054	板材	11.5	3.5	1.4		コウヤマキ	追査目	
993	170-1	K-D21	SD2019	加工材	19.3	1.7	0.8		スギ	板目	
994	170-2	K-D21	SD2019	加工材	12.5	9.5	2.6		スギ	板目	
995	159-1	K-H25	SD2041	杭	37.1	7.1	6.6		クリ	丸太	
996	159-2	K-H24	SD2041	杭	47.6	5.4	5.3		クリ	丸太	
997	160-2	K-H24	SD2001	杭	50.0	6.9	6.6		クリ	丸太	
998	160-3	K-H24	SD2041	杭	45.8	4.0	4.0		ヤブツバキ	丸太	
999	159-3	K-H24	SD2001	杭	60.1	7.0	7		スダジイ	丸太	
1000	160-1	K-H24	SD2001	杭	25.0	6.3	6.3		マツ属複雜管束亞属	丸太	
1001	170-4	K-A21	SD2011	杭	10.1	2.4	1.4		エノキ属	丸太	
1002	166-1	K-C21	SE2075	加工材	7.0	3.3	3.2		マツ属複雜管束亞属	丸太	

第33表 出土遺物観察表29

## V 自然科学分析

### 1 自然科学分析

中坪遺跡の第2次調査においては、溝から漆製品や動物遺存体が、井戸および区画溝から木製品が出土したことから、中坪遺跡の性格および遺跡周辺の環境を探る目的で、漆製品の塗膜分析、木製品の樹種同定、動物遺存体の分析および土壤分析を試みた。また、鉄滓についても鍛冶鉄であるかどうかの確認と鍛冶原料の特定を探ることを目的とし、鉄成分分析を行った。以下に各社に委託して行った各分析結果報告書を記載する。  
(谷口)

#### 分析一覧

##### ・漆塗膜分析

###### 「漆塗膜分析」

金原裕美子氏（一般社団法人文化財科学研究センター）

##### ・樹種同定

###### 「中坪遺跡（第2次）における樹種同定」

金原裕美子氏・金原裕美子氏（一般社団法人文化財科学研究センター）

##### ・動物遺存体の同定および分析

###### 「中坪遺跡から出土した馬歯」

丸山真史氏（東海大学海洋学部）

##### ・鉄滓分析

###### 「中坪遺跡（第2次）出土鉄滓の分析調査」

鈴木瑞穂氏（日鉄住金テクノロジー（株）八幡事業所・TACセンター）

##### ・土壤分析

###### 「堆積物中の珪藻化石群集」

野口真利江氏（㈱パレオ・ラボ）

###### 「中坪遺跡（第2次）の花粉分析とプラント・オバール分析」

森将志氏（㈱パレオ・ラボ）

### 2 中坪遺跡における漆製品の塗膜分析

一般社団法人 文化財科学研究センター

金原裕美子

#### 1.はじめに

中坪遺跡出土漆器製品の塗膜について、断面の顕

微鏡観察、赤外分光分析、蛍光X線分析を行い、その構造より製作工程の考察を行う。

#### 2. 試料

分析試料は、中坪遺跡より出土した土器の内部の土より採取した赤色塗膜である。土中から剥落した塗膜を採取し、これを試料とした。

#### 3. 方法

##### (1) 断面観察

蛍光X線分析を行った後、包埋し、厚さ数 $\mu\text{m}$ になるまで#80、#120、#240、#1500、#4000、#10000の耐水紙やすりで研磨した。なお、プレバラートへの接着は高透明エポキシ樹脂（ボンドEセット：コニシ株式会社製）で行った。完成した試料を光学顕微鏡（OPTIPHOTO-2:Nikon）および落射顕微鏡（OPTIPHOTO-2:Nikon）で観察した。

##### (2) 赤外分光分析

フーリエ変換赤外分光光度計（FT-IR）を用いて測定を行う。機器は、バーキンエルマーFrontierGold赤外分光光度計を使用した。測定条件は分解能は $4\text{cm}^{-1}$ 、波数範囲は $4000\text{-}500\text{cm}^{-1}$ 、積算回数16回、検出器はDTGS、光源はDownward-Lookingである。

##### (3) 蛍光X線分析

エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて測定を行う。機器はOLYMPUS製ハンドヘルド蛍光X線分析装置 DELTA DP-2000 Premium を使用した。測定条件は励起用X線ターゲットがRh、管電圧および管電流はSoilモードでビーム1が $40\text{keV}$ および $60\mu\text{A}$ 、ビーム2が $40\text{keV}$ および $40\mu\text{A}$ 、ビーム3が $15\text{keV}$ および $25\mu\text{A}$ （軽元素測定時は $15\text{keV}$ ）、Miningモードのビーム1が $40\text{keV}$ および $100\mu\text{A}$ 、ビーム2が $10\text{keV}$ および $200\mu\text{A}$ である。装置の測定部径は $9\text{mm}$ 、計測時間はSoilモードが90秒、Miningモードが60秒で、大気雰囲気下で、ワークステーション（卓上式装置）を用いて測定した。原子番号12番のMg（マグネシウム）以上の元素の検出が可能である。

#### 4. 結果

##### (1) 断面観察（第43図 写真1、2、3、4）

漆膜断面の顕微鏡観察を行った。

下地より下地層、漆層、赤色漆層の3層が観察できた。下地層は層厚41 μm以上で、細い棒状と粗い多角形の炭粉粒子が見られる。なお、炭粉の空隙には微量だが漆が観察され、上位の漆層に接する面は平坦である。漆層は層厚2 μm～6 μmで、粒子の内透明な層である。赤色漆層は層厚19 μm～31 μmで、赤色粒子が観察されその径は1 μm程度である。

##### (2) 赤外分光分析（第41図－1、2、3）

赤外分光分析は漆層が極めて薄かったため、下地層、赤色漆層で行った。

下地層のIRスペクトルでは、カルボン酸の特徴である2400～3600cm<sup>-1</sup>の幅の広い吸収帯が低い傾向を示し、パラフィン炭化水素由来の2930cm<sup>-1</sup>および2856cm<sup>-1</sup>の吸収帯が確認されない。芳香族の特徴となる700～1600cm<sup>-1</sup>で見られる複数の吸収帯が低いピークで確認される。赤色漆層のIRスペクトルでは、カルボン酸の特徴である2400～3600cm<sup>-1</sup>の幅の広い吸収帯、パラフィン炭化水素由来の2930cm<sup>-1</sup>および2856cm<sup>-1</sup>の吸収帯、芳香族の特徴となる700～1600cm<sup>-1</sup>で見られる複数の吸収帯が確認できた。なお、どちらの試料も1000cm<sup>-1</sup>の吸収帯が高く、1000cm<sup>-1</sup>付近はSi-O-Si伸縮振動を示すと推測されることから、塗膜片にはSi化合物が多く含まれる可能性がある。これは堆積環境から周囲の土壤の石英などの鉱物の影響の可能性が考えられる。

現代に利用される生漆および強制乾燥をさせた漆のIRスペクトルでは若干のピークシフトが見られるが、カルボン酸の特徴である2400～3600cm<sup>-1</sup>の幅の広い吸収帯、パラフィン炭化水素由来の2923cm<sup>-1</sup>および2853cm<sup>-1</sup>の吸収帯、芳香族の特徴となる700～1600cm<sup>-1</sup>で見られる複数の吸収帯が確認できる。試料と現代の漆サンプルでは複数の吸収帯において、ほぼ合致したスペクトルが得られるが、炭粉下地層では吸収帯のピークが低く、得られない吸収帯もあった。このことから赤色漆層では漆液が利用されているが、下地層では利用されていない可能性が示されるが、下地層の劣化が著しいことから確認されない

吸収帯があった可能性も考えられる。

##### (3) 蛍光X線分析（第42図－1、2）

水銀(Hg)のピークとともに低い硫黄(S)のピークが検出された。

#### 5. 考察

(1) 本遺跡の塗膜では下地層、漆層、赤色漆層の3層が観察され、木胎は観察されなかった。なお、下地層は炭粉下地である。

(2) 塗膜の下地は、炭粉を利用して下地塗りを行われている。なお、炭粉を利用する場合に用いる下地結合剤には漆液を利用する炭粉漆下地と、柿渋を利用する炭粉渋下地が主にある。炭粉に漆液を混ぜる炭粉漆下地は古くは縄文時代から用いられており平安時代中頃まで主流とされる技法である。一方で平安時代後期から工程を大幅に省略し簡便な漆器を製作する中で、炭粉に柿渋を混ぜた炭粉渋下地の登場により安価な漆器製作が行われるようになり、以降主に見られる下地とされる（四柳2002）。本遺跡の塗膜では下地に微量ながら漆液が観察されたこと、また赤外分光分析の結果から漆液が下地に利用された可能性があることから、炭粉漆下地によって下地塗りが行われた可能性が高い。なお、上位の漆層に接する面が平坦であることから下地塗り作業を終えた段階で表面の凹凸を緩やかにするために表面を削るもしくは研磨することで整えたと考えられる。

(3) 下地層の上位に薄い漆層があり、下地塗りの仕上げに塗られた透き漆であると考えられる。その層厚が薄いことから、下地層同様に透き漆を塗った段階でも表面の凹凸を緩やかにするために表面を削るもしくは研磨した可能性がある。

(4) 3層目の赤色漆層では赤色鉱物粒子が観察され、その径が1 μm程度であること、光学顕微鏡下で赤色に観察されること、水銀(Hg)と硫黄(S)が検出されることから水銀朱（辰砂などを碎いた顔料）に展色剤として漆液を混ぜた朱漆を利用していることがわかる。

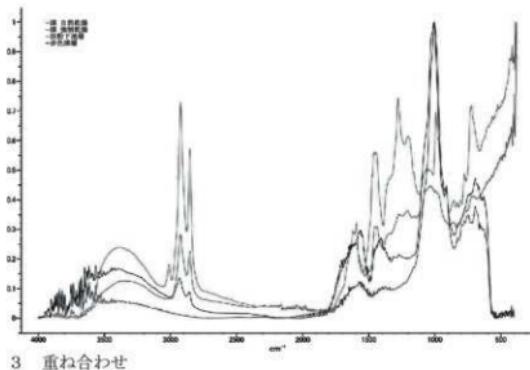
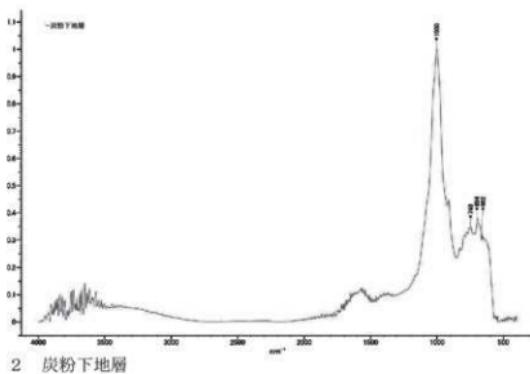
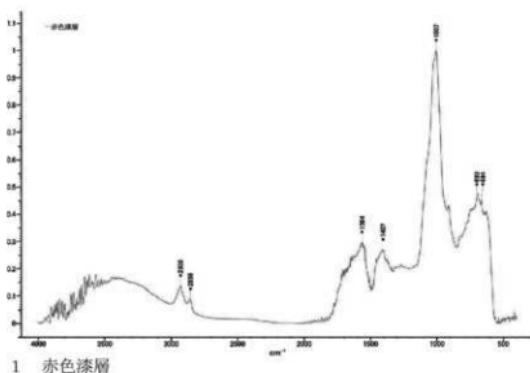
#### 6.まとめ

本遺跡の漆器は木胎を製作したのち、炭粉に漆液を混ぜた炭粉漆下地で下地塗りを行ったのち研磨して表面の凹凸を整え、透き漆（漆層）を1層塗布し、水銀朱に漆を混ぜた朱漆（赤色漆層）で仕上げ

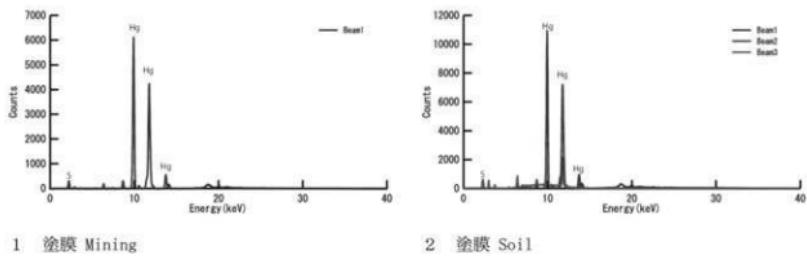
る方法で製作されている。なお、透き漆を塗布した段階でもまた研磨して表面の凹凸を整えた可能性がある。中世以降の漆器製品は炭粉下地の下地結合剤に柿渋を用い、漆の塗りを1・2回と少なくすることで作業工程を簡略化させた安価な漆器製品が多いが、本遺跡では炭粉下地の下地結合剤には漆液を用いるが、漆の塗りの工程が簡略化されている。これは、量産するためであると考えられる。

#### 〔参考文献〕

- 岡田文男（1995）古代出土漆器の研究－顕微鏡で探る材質と技法－、京都書院、191p.
- 四柳嘉章（2002）漆の技術と文化－出土漆の世界－、あらたな世界へ いくつもの日本 II、岩波書店、p.249-267.
- 四柳嘉章（2006）漆 I、ものと人間の文化史131- I、法政大学、252p.
- 四柳嘉章（2006）漆 II、ものと人間の文化史131- II、法政大学、435p.

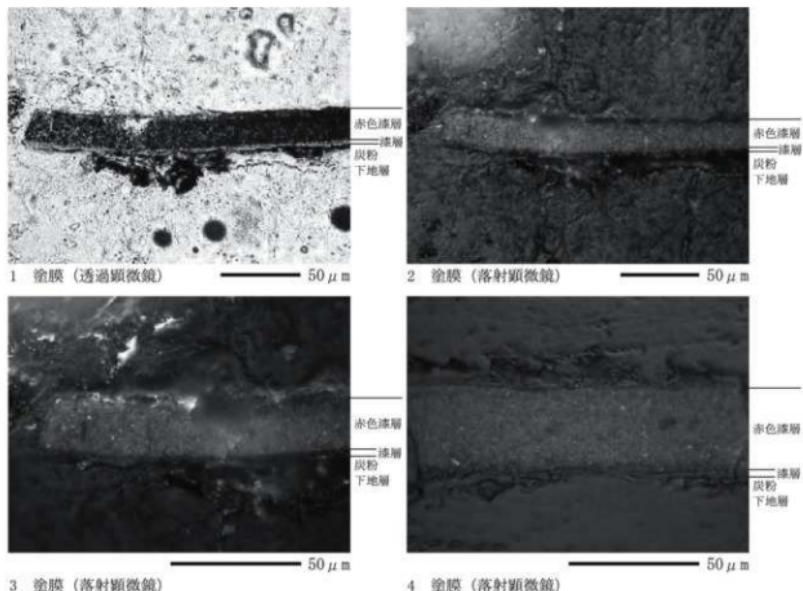


第41図 中坪遺跡における赤外分光分析結果



第42図 中坪遺跡における蛍光X線分析結果

#### 中坪遺跡の塗膜分析写真



第43図 中坪遺跡の塗膜分析写真

### 3 中坪遺跡（第2次）における樹種同定

一般社団法人 文化財科学研究センター

金原美奈子 金原裕美子

#### 1. はじめに

本報告では、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

#### 2. 試料と方法

試料は、遺跡より出土した曲物、水平材、杭、楔、曲物底板、板材、加工材などの木製品計48点である。試料は結果表に記す。時期は平安から鎌倉であり、それぞれの時期も表に記す。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡（OPTIPHOTO-2:Nikon）によって40~1000倍で観察した。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

#### 3. 結果

表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

##### (1) モミ属 *Abies* マツ科

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射柔細胞の分野壁孔は小型のスギ型で1分野に1~4個存在する。放射柔細胞の壁が厚く、数珠状末端壁が見られる。放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からモミ属に同定される。日本に自生するモミ属は5種であり、モミ以外は亜寒帯であるため、温帯性のモミが考えられる。常緑高木で高さ45m、径1.5mに達する。材は保存性が低く軽軟であるが、現在では多用される。

##### (2) マツ属複維管束亞属 *Pinus subgen. Diploxylon* マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平

樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と穏やかな箇所があり、垂直樹脂道は窓状である。放射断面では、放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の特徴から、マツ属複維管束亞属に同定される。マツ属複維管束亞属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する。常緑高木である。材はいずれも水湿によく耐え、広く用いられる。

##### (3) スギ *Cryptomeria japonica* D.Don スギ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。放射組織は単列の同性放射組織型で、1~14細胞高である。

以上の特徴からスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強韌で、広く用いられる。

##### (4) コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc. コウヤマキ科

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面では、早材から晩材への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。放射断面では、放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。接線断面では、放射組織は単列の同性放射組織型で、1~15細胞高であるが多くの10細胞高以下である。

以上の特徴からコウヤマキと同定される。コウヤマキは福島県以南の本州、四国、九州に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ30m、径80cmに達する。材は木理通直、肌目緻密で強韌、耐朽・耐湿性も高い。特に耐水湿材として用いられる。

##### (5) ヒノキ *Chamaceyparis obtusa* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に

2個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で、1~15細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強韌であり、耐朽、耐湿性も高い。良材であり、建築などに広く用いられる。

(6) サワラ *Chamaecyparis pisifera* Endl. ヒノキ科  
仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面では、早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞がみられる。放射断面では、放射柔細胞の分野壁孔がヒノキ型であるがスギ型の傾向を示すものもあり、1分野に2個存在するものがほとんどである。接線断面で放射組織は単列の同性放射組織型を呈する。

以上の特徴からサワラに同定される。サワラは岩手県以南の本州、四国、九州に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ30m、径1mに達する。材は木理通直、肌目緻密であるが、ヒノキより軽軟でもろいが、広く用いられる。

(7) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科  
年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性が強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、ほど木など広く用いられる。

(8) スダジイ *Castanopsis sieboldii* Hatusima ブナ科

年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型を示す。

以上の特徴からスダジイに同定される。スダジイ

は本州（福島県、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽、保存性やや低く、建築、器具などに用いられる。

#### (9) エノキ属 *Celtis* ニレ科

年輪のはじめに中型から大型の道管が1~2列配列する環孔材である。孔圈部外の小道管は多数複合して円形ないし斜線状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔で小道管の内壁にはらせん肥厚を有する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部に方形細胞が見られる異性放射組織型で、1~2細胞幅の小型のものと、8~10細胞幅ぐらいで細胞幅をもつ大型のものからなる。

以上の特徴からエノキ属に同定される。エノキ属にはエゾエノキ、エノキなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1.5mに達する。材は、建築、器具、薪炭などに用いられる。

#### (10) ヤブツバキ *Camellia japonica* Linn. ツバキ科

小型でやや角張った道管が、単独ないし2~3個複合して散在する散孔材である。道管の径はゆるやかに減少する。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は8~30本ぐらいである。放射組織は、異性放射組織型で、1~3細胞幅である。直立細胞には大きく彫れているもののが存在する。

以上の特徴からヤブツバキに同定される。ヤブツバキは本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、通常高さ5~10m、径20~30cmである。材は強韌で、耐朽性が強く、建築、器具、楽器、船、彫刻などに用いられる。

#### 4. 所見

同定の結果、中坪遺跡（第2次）の木製品は、コウヤマキ13点、スギ12点、ヒノキ10点、モミ属3点、マツ属複維管束垂属2点、サワラ2点、クリ3点、スダジイ1点、エノキ属1点、ヤブツバキ1点であった。

コウヤマキが最も多く、楔、水平材、板材に利用されている。コウヤマキは耐湿性に特に優れ、針葉樹の中では最も加工が容易な材である。コウヤマキは弥生時代から古墳時代にかけて近畿地方中央部を

中心に木棺などに用いられ、律令期に建築材に利用されたが、中世からは大きな材が取れなくなったのか類例は少ないので、日用具や器具などに多様に用いられる。本遺跡でも大材としては用いられていない。スギが多く、曲物、加工材に利用されている。スギは加工工作が容易な上、大きな材がとれる良材で、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。ヒノキは、曲物、曲物底板、加工材に利用されている。ヒノキは木理通直で大きな材が取れる良材であり、特に保存性が高い。特に心材は耐朽・耐湿性が高く、用途は広汎で工作が容易で表面仕上がりはきわめて良好で光沢が出る。スギおよびヒノキは曲物の側板によく利用される材である。モミ属は、楔に利用されている。モミ属は温帯性のモミと考えられ、材は耐朽・保存性は低いが、軽軟なため加工が容易な木材で多様に用いられる。マツ属複維管束亞属は、杭、加工材に利用されている。マツ属複維管束亞属は土壤条件の悪い岩山に生育し二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツがあり、木材は重硬で水湿に良く耐え腐りにくいことから建築部材などに用いられる。サワラは、曲物に利用されている。サワラは、ヒノキには劣るが木理通直、肌目緻密であり、水質によく耐える材であり、曲物の用材に適している。クリは、杭に利用されている。木材は重硬で保存性が良い材で、柱材などの建築材として比較的よく用いられる樹木である。スダジイは、杭に利用されている。スダジイはやや重硬で耐朽・保存性は低い材で、細工物などにはあまり利用されない。利用例としては杭が多く、次いで建築部材が見られるが、他の樹木と比べると利用率は低い。エノキ属は、杭に利用されている。強さにして中庸、やや堅く從属性に富んでいる。ヤブツバキは、杭に利用されている。ヤブツバキは良材であるが、切削・加工は困難である。

同定された樹木のなかで、スギ、ヒノキ、マツ属複維管束亞属、サワラ、クリ、エノキ属は温帯を中心広く分布する樹種である。なお、サワラは中部山岳地帯を中心に多く分布するが、湿気の多い肥沃地で渓流ぞいを好み、エノキ属は谷あい、斜面、河川沿いや平坦地に生育する。スダジイ、ヤブツバキは温帯下部の暖温帯に分布する照葉樹林の構成要素

である。また、ヤブツバキは海岸から河川の沿岸に多く分布する常緑高木である。コウヤマキは適調性があるが乾燥した土壤にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にもよく生育する針葉樹である。

同定された樹木は温帯に分布する樹種であった。また、スダジイ、ヤブツバキなどの温帯下部の暖温帯に分布する樹種も含まれた。本遺跡の特徴としては曲物、曲物底板、楔、板材、加工材などの木製品には主として針葉樹を利用しており、杭などの土木具には広葉樹を利用する傾向が見られた。これには木製品には水湿によく耐え加工が容易な針葉樹を選材し、杭には近隣から採取した木材を利用していたと考えられる。曲物の側板には他の地域と同じようにスギ、ヒノキが利用されるが、他にサワラが用いられている。サワラの曲物として有名なものには木曾奈良井宿の曲物がある。本遺跡で同定された樹木は当時遺跡周辺または近隣地域よりもたらされたものの中には流通によってもたらされたものがあると推定される。

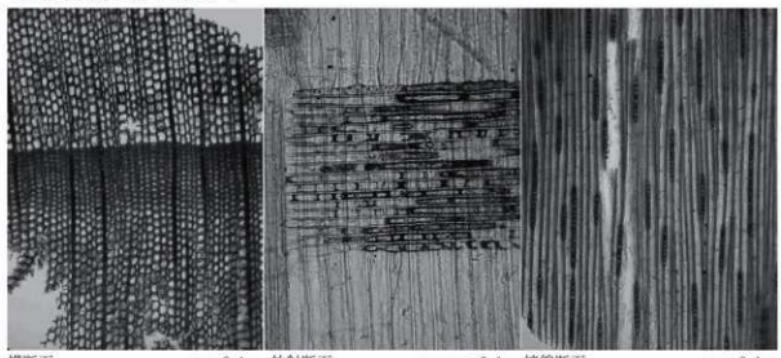
#### 【参考文献】

- 伊東隆夫・山田昌久（2012）木の考古学、雄山閣、p.449。  
佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.20-48。  
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.49-100。  
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、p.296。  
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成、植生史研究特別第1号、植生史研究会、p.242。

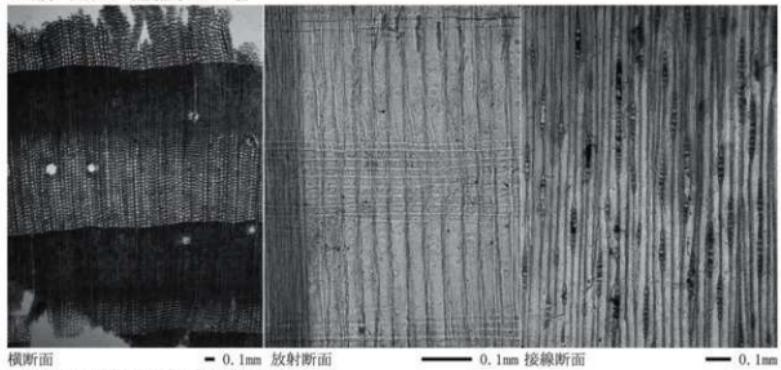
遺物番号	実測番号	出土位置	遺構	器種器形	結果(学名/和名)		時代
					学名	和名	
955	140-1	K-A23	SE2005	曲物	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	鎌倉
956	145-1	K-A23	SE2005	曲物	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	鎌倉
957	148-1	K-C21	SE2075	曲物	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	鎌倉
958	153-1	K-E24	SE2031	曲物	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	鎌倉
959	155-1	K-I23	SE2040	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	鎌倉
960	156-1	K-I23	SE2040	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	鎌倉
961	158-1	K-I23	SE2040	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	鎌倉
962	151-1	K-I23	SE2040	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	鎌倉
963	150-1	K-I23	SE2040	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	鎌倉
964	159-1	K-I23	SE2040	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	鎌倉
965	144-1	K-C21	SE2048	曲物	<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl.	サワラ	鎌倉
966	152-1	K-C21	SE2048	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	鎌倉
967	143-1	K-L23	SE2049	曲物	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	鎌倉
968	146-1	K-L23	SE2049	曲物	<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl.	サワラ	鎌倉
969	147-1	K-C21	SE2067	曲物	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	鎌倉
970	154-1	K-C21	SE2076	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	鎌倉
971	142-1	K-C21	SE2077	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	鎌倉
972	141-1	K-C21	SE2077	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	鎌倉
973	149-1	K-C21	SE2067	曲物	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	鎌倉
974	167-1	K-E24	SE2031	曲物底板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	鎌倉
975	168-1	K-C21	SE2067	曲物底板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	鎌倉
976	161-1	K-C21	SE2067	楔	<i>Abies</i>	モミ属	鎌倉
977	161-2	K-C21	SE2067	楔	<i>Abies</i>	モミ属	鎌倉
978	162-1	K-C21	SE2067	楔	<i>Abies</i>	モミ属	鎌倉
979	162-2	K-C21	SE2067	楔	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
980	163-1	K-C21	SE2067	楔	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
981	163-2	K-C21	SE2067	楔	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
982	164-1	K-C21	SE2067	楔	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
983	164-2	K-C21	SE2067	楔	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
984	165-2	K-C21	SE2048	楔	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
985	139-1	K-G23	SE2054	水平材	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	中世
986	166-2	K-A23	SE2075	加工材	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	鎌倉
987	169-2	K-E24	SE2031	板材	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
988	168-2	K-E24	SE2031	板材	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
989	169-1	K-E24	SE2031	板材	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
990	167-2	K-E24	SE2031	板材	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
991	165-1	K-C21	SE2048	楔	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	鎌倉
992	169-3	K-G23	SE2054	板材	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ	中世
993	170-1	K-D21	SD2019	加工材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	平安
994	170-2	K-D21	SD2019	加工材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ	平安
995	159-1	K-H25	SD2041	杭	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ	室町
996	159-2	K-H24	SD2041	杭	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ	室町
997	160-2	K-H24	SD2001	杭	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ	室町
998	160-3	K-H24	SD2041	杭	<i>Camellia japonica</i> Linn.	ヤブツバキ	室町
999	159-3	K-H24	SD2001	杭	<i>Castanopsis sieboldii</i> Hatusima	スダジイ	室町
1000	160-1	K-H24	SD2001	杭	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複管束亞属	室町
1001	170-4	K-A21	SK2011	杭	<i>Celtis</i>	エノキ属	鎌倉
1002	166-1	K-C21	SE2075	加工材	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複管束亞属	平安末

第34表 中坪遺跡(第2次)における木材同定結果

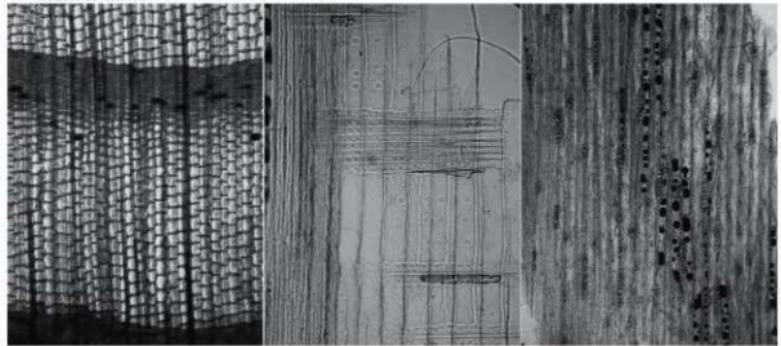
中坪遺跡（第2次）の木材 I



横断面 放射断面 接線断面  
モミ属 試料978 実測番号162-1 横木



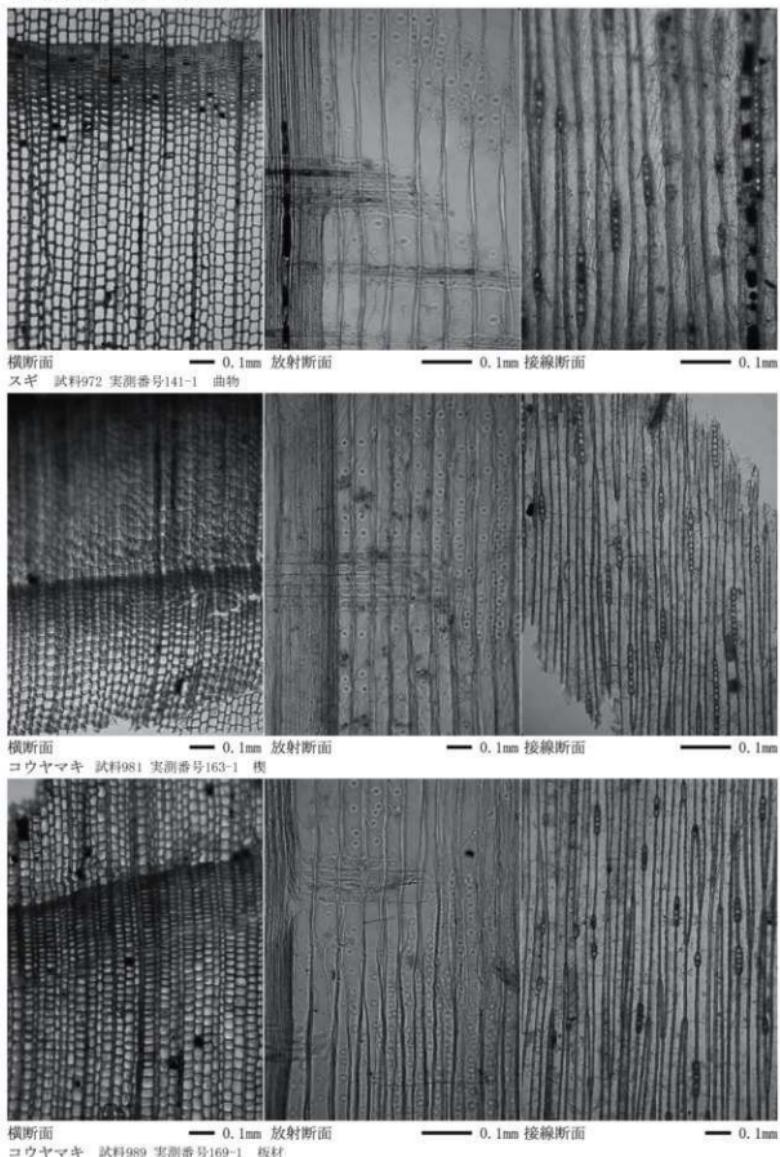
横断面 放射断面 接線断面  
マツ属複雜官束亞属 試料995 実測番号159-1 杉木



横断面 放射断面 接線断面  
スギ 試料971 実測番号142-1 曲物

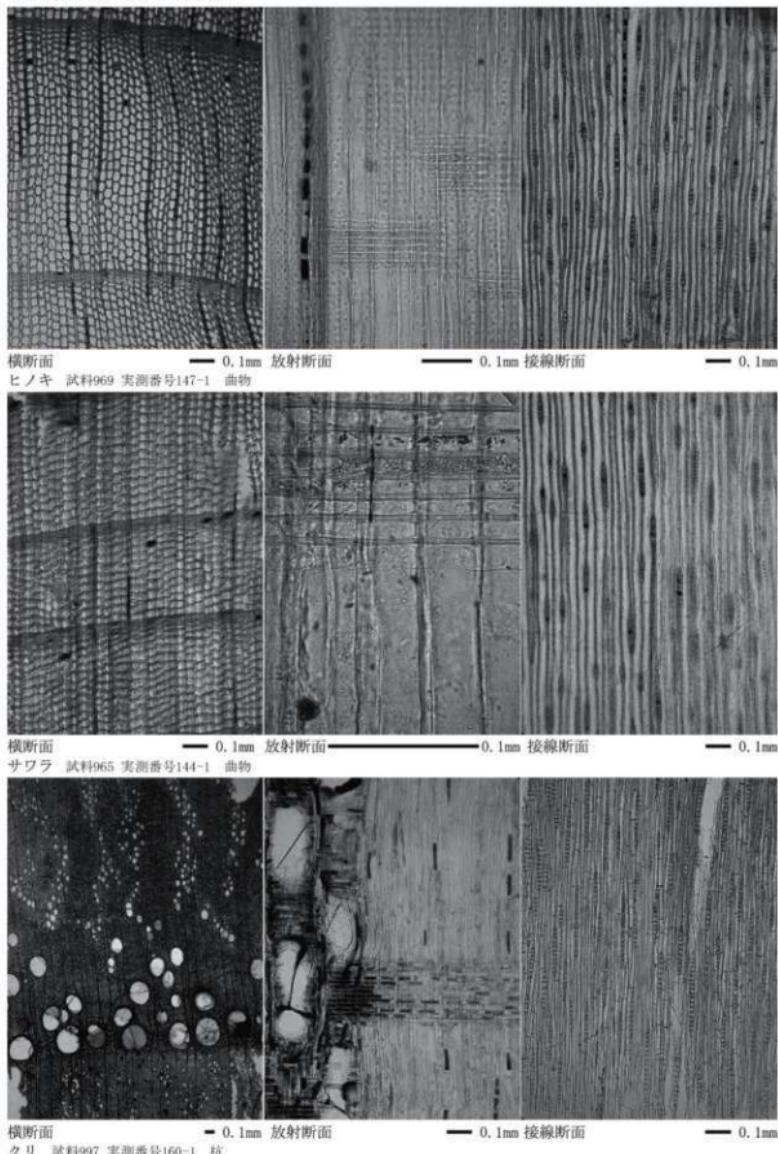
第44図 中坪遺跡（第2次）の木材I

中坪遺跡（第2次）の木材 II



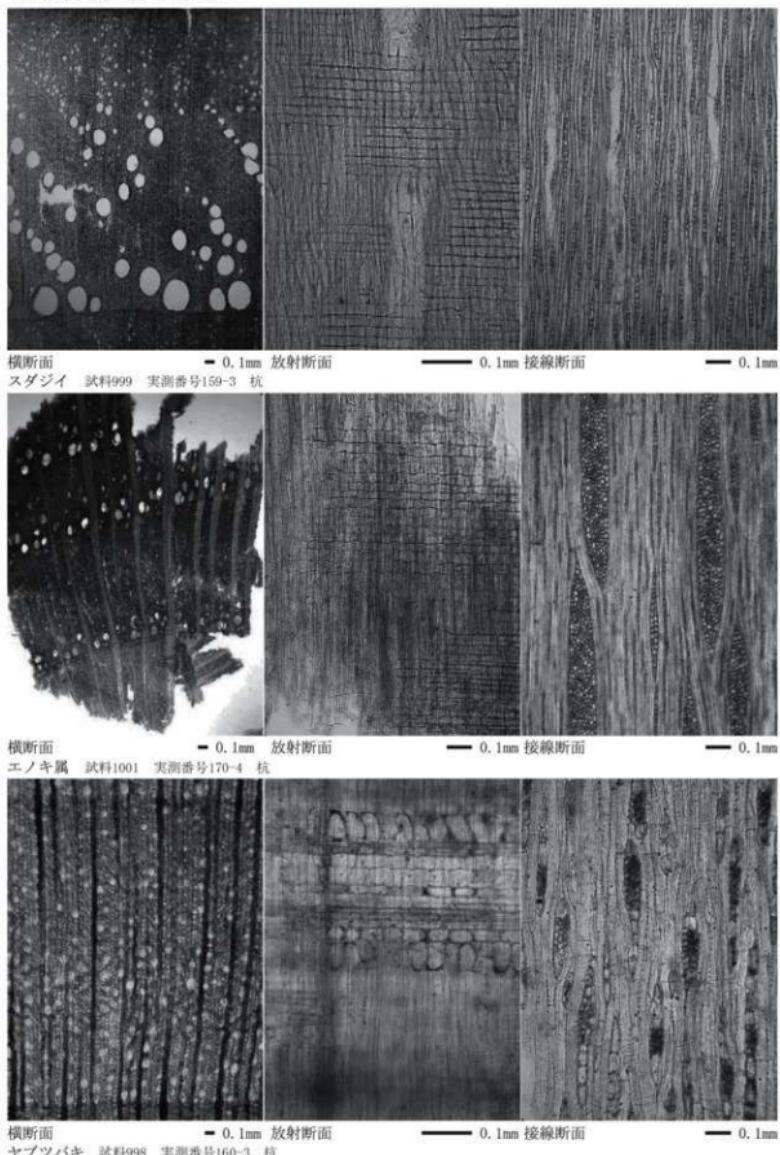
第45図 中坪遺跡（第2次）の木材II

中坪遺跡（第2次）の木材 III



第46図 中坪遺跡（第2次）の木材III

中坪遺跡（第2次）の木材 IV



第47図 中坪遺跡（第2次）の木材IV

#### 4 中坪遺跡から出土した馬歯

丸山真史（東海大学海洋学部）

K-D21地区で検出したSD2019では、8点の動物遺存体が出土している（第35表）。SD2019は、屋敷地に南北に走る溝であり、出土した動物遺存体は、共伴する須恵器、縄文陶器から平安時代中期から後期のものと推定される。いずれも哺乳類の遊離歯であり、うち6点はウマの臼歯であると同定した。残りの2点は、ウマとウシの区別ができない臼歯である。

ウマと同定した6点のうち1点は、下顎第2後白歯（左）である（第48図-1）。歯冠高は72.3mmを測り、生後3~4年の若駒馬と推定される。別の1点は、下顎第3前白歯、第4前白歯、第1後白歯のいずれか区別ができない（第48図-2）。歯冠の下部から歯根が大きく破損しており、詳細な死亡年齢は定かではないが、壮齡個体と推定される。残りの3点は、上顎第3後臼歯（右）が分解した同一個体のものである（第48図-3）。歯根が破損しているが、残存する歯冠高は62.0mmを測り、生後5年以内の個体の若駒馬と推定される。

当遺跡第1次調査では、平安時代末の井戸上層からウマの上顎・下顎臼歯列が出土しており、井戸を埋める際の祭祀に関連するものと考えられている<sup>①</sup>。一方、近隣の朝見遺跡では平安時代前期の井戸最下層から出土したウマの上顎・下顎臼歯列が出土しており、祭祀に関連する可能性が指摘される<sup>②</sup>。この

他に周辺の堀町遺跡、大蓮寺遺跡でも、平安時代、中世の井戸や溝などからウマ、ウシの歯や骨が散在して出土しており、当地一帯でウマの使役が盛んであり、その頭部を井戸の祭祀にも利用したことが考えられる。

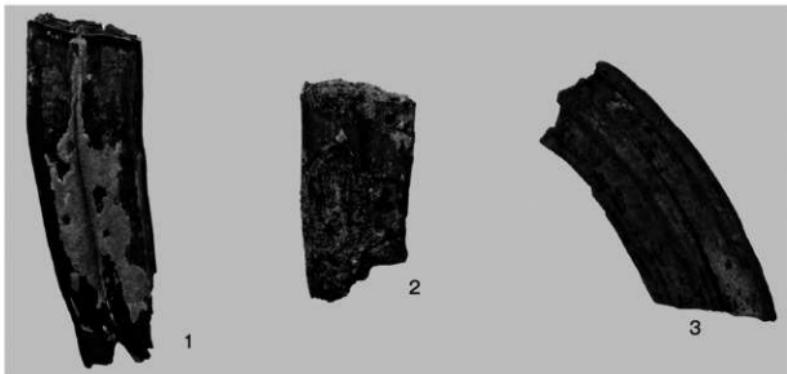
当調査で出土した馬歯は溝からの出土であり、周辺にみられる井戸の祭祀とは無関係であろう。周辺で祭祀に関連する遺構・遺物は出土していない。また、若駒馬が病死した、あるいは屠殺されたなどの死因も明らかではないが、使役したウマの遺体を溝に投棄したものと推測される。

#### 【参考文献】

- ①三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡（第1次）発掘調査報告書』（2017年）  
②三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第1・2次）発掘調査報告書』（2014年）

小分類	部分	左右	計測(mm)	備考
ウマ	遊離歯（下顎M2）	左	72.3	3~4歳
ウマ	遊離歯（下顎P3/P4/M1）	右	-	壮齡～老齢
ウマ	遊離歯（上顎M3）	右	62.0以上	4~5歳
ウマ	遊離歯	-	-	破片
ウマ？	遊離歯	-	-	破片
ウマ？	遊離歯	-	-	破片

第35表 SD 2019 出土の動物遺存体



第48図 SD 2019 出土の馬歯

## 5 中坪遺跡（2次）出土鉄滓の分析調査

日鉄住金テクノロジー（株）  
八幡事業所・TACセンター  
鈴木瑞穂

### 1. いきさつ

中坪遺跡は三重県松阪市立田町に所在する。発掘調査地区内では、鍛冶炉跡などの直接鉄器生産を示す遺構は確認されなかったが、平安時代の溝跡（SD2030）から鉄滓が出土した。この鉄滓がどのような作業に伴う遺物かを確認するために分析調査を実施した。

### 2. 調査方法

#### 2-1. 供試材

第36表に示す。鉄滓1点の調査を実施した。

#### 2-2. 調査項目

##### (1) 外観観察

鉄滓の外観的な特徴を記載した。

##### (2) マクロ組織

試料を端部から切り出した後、断面をエメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3μmと1μmで順を追って研磨し、断面の全体像を撮影した。

##### (3) 顕微鏡組織

光学顕微鏡を用いて、鉄製品の金属組織および非金属介在物を観察後、写真を撮影した。

##### (4) ピッカース断面硬度

ピッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行った。試料は顕微鏡用を併用し、荷重50gfで測定した。ピッカース硬さは測定箇所に圧子（136°の頂角をもったダイヤモンド）を押し込んだ時の荷重と、それにより残された痕跡（圧痕）の対角線長さから求めた表面積から算出される。

##### (5) EPMA調査

EPMA（日本電子製㈱ JXA-8230）を用いて、鉄滓の鉱物組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：200E-8A。

##### (6) 化学組成分析

出土鉄滓の成分分析を行った。測定元素と分析法は以下の通りである。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素（SiO<sub>2</sub>）、酸化アルミニウム（Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K<sub>2</sub>O）、酸化ナトリウム（Na<sub>2</sub>O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）、酸化クロム（Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）、五酸化磷（P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO<sub>2</sub>）、砒（As）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

### 3. 調査結果

#### NAK-1：椀形鍛治滓

（1）肉眼観察：やや小形の椀形鍛治滓破片（37.8g）と推定される。側面は全面破面である。上面にはガラス質滓が瘤状に付着しており、鍛治羽口先端部の溶融物と推測される。ガラス質中には石英・長石類等の砂粒が多数混在する。これは耐火性を高めるため、羽口粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）と考えられる。鍛治滓部分は薄手の皿状で、表層はやや風化気味である。また色調は灰褐色で、微細な気孔が点在するが緻密な滓である。着磁性はきわめて弱い。

（2）マクロ組織：第49図①に示す。写真上側の暗灰色部はガラス質滓である。滓中には、表層部が僅かに溶融した砂粒（石英・長石類）が多数確認された。上述したように、羽口などの炉材粘土の溶融物と推測される。一方、下側の明灰色部は鍛治滓である。

（3）顕微鏡組織：第49図②③に示す。②は鍛治滓部分の拡大である。滓中には白色粒状結晶ウスタイト（Wustite : FeO）、淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）が晶出する。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）に由来する、鉄チタン酸化物の結晶はなく、鉄素材を熱間で加工した際に生じる鍛錬鍛治滓の晶癖といえる。

③は滓中の微細な誘化鉄部の拡大である。断面には金属組織の痕跡が残存しており、明灰色部はフェライト（Ferrite : α鉄）、層状でやや暗い灰色部はパーライト（Pearlite）と推定される。またこの金属組織（亜共析組織）痕跡から、炭素含有率は0.3%

程度の鋼と推定される。

(4) ピッカース断面硬度：：第49図②の白色粒状結晶の硬度を測定した。硬度値は451、481 Hv であった。ウスタイトの文献硬度値450～500 Hv の範囲内でウスタイトと推定される。さらに淡灰色柱状結晶の硬度値は613 Hv であった。ファヤライトの文献硬度値600～700 Hv の範囲内であり、ファヤライトと推定される<sup>①</sup>。

(5) EPMA 調査：：第49図④に滓部の反射電子像を示す。白色樹枝状結晶は特性X線像をみると鉄(Fe)、酸素(O)に強い反応がある。定量分析値は95.6%FeO(分析点1)であった。ウスタイト(Wustite: FeO)に同定される。またウスタイトの内部に点在する非常に微細な暗灰色結晶は、特性X線像では鉄(Fe)、アルミニウム(Al)、酸素(O)に反応がみられる。定量分析値は54.6%FeO - 37.9%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> - 1.8%TiO<sub>2</sub>(分析点2)であった。ヘルシナイト(Hercynite: FeO · Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)と推定される。また少量チタニア(TiO<sub>2</sub>)を固溶する。淡灰色盤状結晶の定量分析値は65.5%FeO - 1.2%MgO - 29.7%SiO<sub>2</sub>(分析点3)であった。ファヤライト(Fayalite: 2FeO · SiO<sub>2</sub>)で、少量マグネシア(MgO)を固溶する。素地部分の定量分析値は40.4%SiO<sub>2</sub> - 23.6%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> - 7.3%CaO - 6.8%K<sub>2</sub>O - 4.4%Na<sub>2</sub>O - 6.3%P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> - 17.2%FeO(分析点4)であった。非晶質珪酸塩である。

(6) 化学組成分析：第37表に示す。全鉄分(Total Fe) 50.22%に対して、金属鉄(Metallic Fe)は0.38%、酸化第1鉄(FeO)が55.38%、酸化第2鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)9.72%の割合であった。造滓成分(SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O)は31.75%で、このうち塩基性成分(CaO + MgO)の割合は2.50%と低値であった。主に製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)は0.25%、バナジウム(V)が0.01%と低値であった。また酸化マンガン(MnO)も0.05%、二酸化ジルコニウム(ZrO<sub>2</sub>)0.01%、銅(Cu)も<0.01%と低値であった。

#### 4.まとめ

中坪遺跡(第2次調査地区)から出土した、平安時代末と推定される鐵滓(NAK-1)は、鍛錬鍛冶滓であった。遺跡周辺で鐵素材を熱間で鍛打加工し

て、鍛造鉄器を作っていたと考えられる。砂鉄起源の脈石成分(TiO<sub>2</sub>、V、MnO)の低減傾向が著しく、製錬工程の不純物(砂鉄製錬滓)が十分除去された鐵素材(新鉄)、または廢鐵器が鍛冶原料であったと考えられる。

また滓中には微細な誘化鉄部が確認された。鍛冶炉内で脱炭・浸炭した可能性があり、そのまま熱間加工した鐵素材の炭素量を示すものではないが、金属組織痕跡が残存する部分(第49図③)は、炭素含有率0.2%前後の鋼と推定される。

#### 【註】

①日刊工業新聞社「焼結鉱組織写真および識別法」(1968年)

ウスタイトは450～500 Hv、マグネタイトは500～600 Hv、ファヤライトは600～700 Hv の範囲が提示されている。

符号	遺物名	出土位置	遺物名称	推定年代	大きさ(mm)	重量(g)	メタル度	アクリル 樹脂 組成	測定項目
NAK-1	中坪(2次)	K-E22 SD2030 濃	織物組合せ 平安時代	45.1×35.6×20.3	37.4g	なし	○ ○ ○ ○ ○	W-Wustite (FeO), H-Hercynite (FeO-Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> ), *Fayalite (2FeO·SiO <sub>2</sub> )	新規度(EPMMA, 化学分析)

第36表 供試材の履歴と調査項目

符号	遺物名	出土位置	遺物名称	推定年代	大きさ(mm)	重量(g)	メタル度	アクリル 樹脂 組成	測定項目						所見									
									W-Wustite (FeO)	H-Hercynite (FeO-Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	*Fayalite (2FeO·SiO <sub>2</sub> )	CaO	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	(Na <sub>2</sub> O) / (CaO)	(P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> ) / (Na <sub>2</sub> O)	(CaO) / (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	二酸化硅素 SiO <sub>2</sub> (%)	硫酸 MgO (%)	過剰成分 Total Fe / Total Fe	TiO <sub>2</sub> / Total Fe	
NAK-1	中坪(2次)	K-E22 SD2030 濃	織物組合せ 平安時代	50.22	38.55.38	9.72	22.41	-	4.78	1.61	0.89	1.33	0.73	0.05	0.25	0.04	0.020	0.66	0.12	0.01 <0.01	0.01 <0.01	31.75	0.632	0.005

第37表 供試材の化学組成

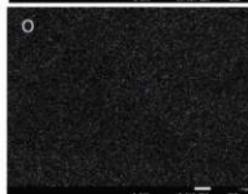
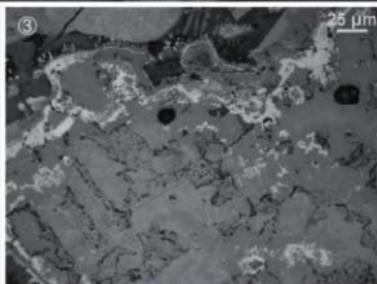
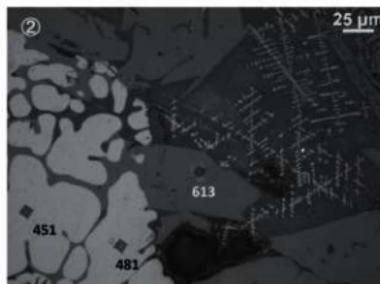
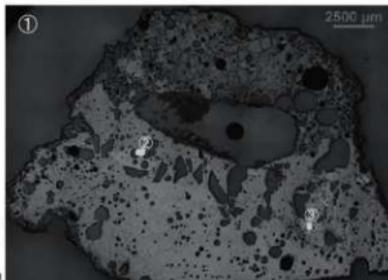
符号	遺物名	出土位置	遺物名称	推定年代	細胞組織	化学組成(%)						所見		
						Total Fe	FeO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	V	MnO	過剰 成分	Cu		
NAK-1	中坪(2次)	K-E22 SD2030 濃	織物組合せ 平安時代	津原W-Wustite+H-Hercynite(共析組成直角)	-	50.22	9.72	2.50	0.25	0.01	0.05	31.75	<0.01	偏酸性冶鐵

第38表 出土遺物の調査結果のまとめ

## NAK-1

## 楕円形鍛冶滓

①マクロ組織、上側:カラス質滓、下側:鋸治滓、ウスタイト(粒内微細ヘルシナイト)・フヤライト、②滓部、硬度:451、481Hv(ウスタイト)、613Hv(フヤライト)、(荷重:50g)③鉄化鉄部:亜共析組織痕跡



## 定量分析値

Element	1	2	3	4
MgO	0.011	0.073	1.151	0.009
SiO <sub>2</sub>	0.371	0.380	29.705	40.426
Ne <sub>2</sub> O	-	0.022	0.011	4.382
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.786	37.914	0.192	23.600
CaO	-	-	0.346	7.289
TiO <sub>2</sub>	0.694	1.777	0.059	0.249
S	0.002	-	0.002	0.040
ZrO <sub>2</sub>	0.037	0.021	0.029	-
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	-	0.050	0.274	6.312
Si <sub>3</sub> N <sub>4</sub>	-	-	-	-
K <sub>2</sub> O	-	-	-	6.791
CuO	-	0.029	0.074	0.012
FeO	95.604	54.559	65.473	17.216
MnO	-	0.040	0.111	-
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.076	0.269	0.008	0.013
V <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.063	0.299	0.024	-
CoO	0.215	0.090	0.126	0.057
Total	97.859	95.523	97.585	106.396

滓部の反射電子像(COMP)および特性X線像

第49図 楕円形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果

## 6 堆積物中の珪藻化石群集

野口真利江（パレオ・ラボ）

### 1.はじめに

珪藻は、10~500 μmほどの珪酸質殻を持つ單細胞藻類で、殻の形や刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻群集が設定されている（小杉、1988；安藤、1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境（例えばコケの表面や湿った岩石の表面など）に生育する珪藻種が知られている。こうした珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

ここでは、三重県松阪市立田町に所在する中坪遺跡の発掘調査において採取された土層堆積物試料中の珪藻化石群集を調べ、堆積環境について検討した。

### 2. 試料と方法

試料は、発掘調査でK-M24グリッドの東壁から採取された土層堆積物2点である（第39表）。これまでの調査結果から、中坪遺跡の地山は縄文時代中期末～古代の堆積物と考えられている。各試料について以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1) 濡潤重量約1.0gを取り出し、秤量した後ビーカーに移して30%過酸化水素水を加え、加熱、反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を20回ほど繰り返した。(3) 懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロビペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートは顕微鏡下600~1000倍で観察し、プレパラートの2/3以上の面積について同定・計数した。珪藻殻は、完形と非完形（原則として半分程度残っている殻）に分けて計数し、完形殻

の出現率として示した。さらに、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物1g当たりの殻数を計算した。また、保存状態の良好な珪藻化石を選び、写真を第50図に載せた。

### 3. 硅藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉（1988）および安藤（1990）が設定し、千葉・澤井（2014）により再検討された環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種（W）として、その他の種はまとめて不明種（？）として扱った。また、破片のため属レベルの同定にとどめた分類群は、その種群を不明（？）として扱った。以下に、安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

【上流水性河川指標種群（J）】：河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻全体で岩にぴたりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

【中～下流水性河川指標種群（K）】：河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、肩状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

【最下流水性河川指標種群（L）】：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角洲地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊の種でも生育できるようになるためである。

【湖沼浮遊指標種群（M）】：水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。

【湖沼沼澤地指標種群（N）】：湖沼における浮遊生種としても、沼澤湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼澤湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。

【沼澤湿地付着生指標種群（O）】：水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、

分析No.	グリッド	位置	層位	時期	備考
1	K-M24	東壁	褐色砂質シルト層	縄文時代中期末～古代	地山上層
2			黄褐色シルト層	縄文時代中期末	地山下層

第39表 堆積物の特徴

付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

【高層湿原指標種群（P）】：尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを中心とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

【陸域指標種群（Q）】：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている）。

【陸生珪藻A群（Qa）】：耐乾性の強い特定のグループである。

【陸生珪藻B群（Qb）】：A群に随伴し、湿った環境や水中にも生育する種群である。

#### 4. 結果

堆積物から検出された珪藻化石は、淡水種が4分類群4属2種であった（第40表）。これらの珪藻化石は、淡水域における2環境指標種群（Qa、Qb）に分類された。検出された珪藻化石は非常に少なく、分析No.1からは破片も含めて珪藻化石が検出されなかった。以下では、各試料中に含まれる珪藻化石の産出状況と珪藻化石群集の特徴について述べる。

分析No.1（地山上層）

堆積物は褐色砂質シルトである。珪藻化石は殻が半分以下の破片を含め検出されなかった。また、骨針化石などの他の水生生物の微化石も検出されなかった。珪藻化石をはじめとする水生生物の微化石が検出されなかつたため、基本的に乾燥した陸域環境であったと考えられる。

分析No.2（地山下層）

堆積物は黄褐色シルトである。堆積物1g中の珪

No.	分類群	種群	1	2
1	<i>Caloneis</i>	spp.	?	1
2	<i>Eunotia</i>	spp.	?	1
3	<i>Hantzschia</i>	<i>amphioxys</i>	Qa	1
4	<i>Pinnularia</i>	<i>subcapitata</i>	Qb	1
5	Unknown	?		
	陸生A群	Qa	1	
	陸生B群	Qb	1	
	淡水不定・不明種	?		2
	その他不明種	?		
	淡水種			4
	合計		0	4
	完形殻の出現率（%）		-	50.0
	堆積物1g中の殻数（個）		0.0E+00	1.6E+03

第40表 堆積物中の珪藻化石産出表（種群は、千葉・澤井（2014）による）

藻殻数は1.6×103個、完形殻の出現率は50.0%である。淡水種のみが検出された。堆積物中の珪藻殻数は非常に少ない。環境指標種群では、陸生珪藻A群（Qa）と陸生珪藻B群（Qb）が検出された。

珪藻化石が非常に少ない点と、わずかに検出された珪藻化石群集が陸生珪藻である点から、基本的には乾燥した陸域環境であったと考えられる。

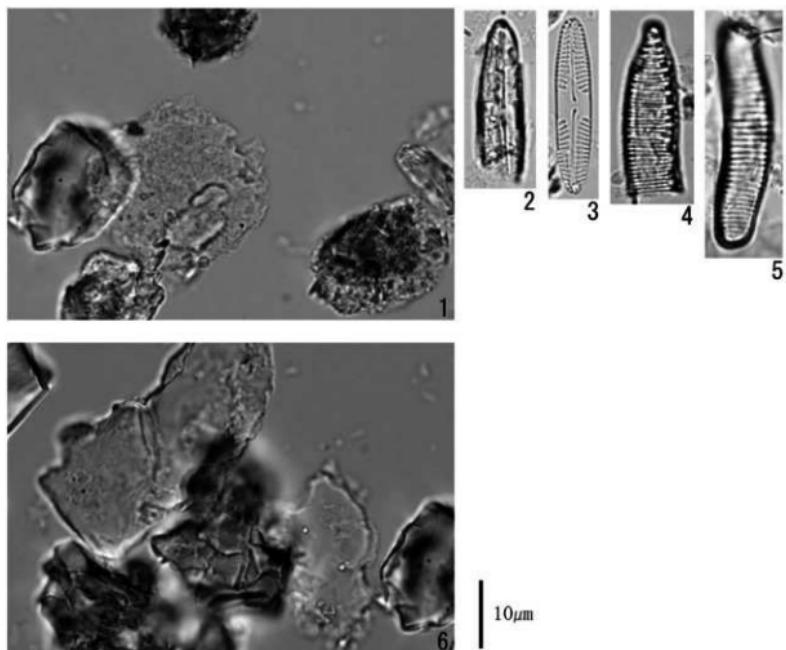
#### 5. 考察

分析No.1からは珪藻化石が検出されず、分析No.2からもわずかに検出にとどまった。したがって、縄文時代中期末～古代における中坪遺跡は基本的に乾燥した陸域環境であったと考えられる。また、花粉分析においても微化石の検出数が少ないという結果であり（詳細は、花粉分析の項を参照）、基本的に乾燥した陸域環境であった可能性は高い。

#### 【引用文献】

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理。42, 73-88。  
千葉 崇・澤井裕紀（2014）環境指標種群の再検討と更新。Diatom. 30, 7-30。

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用。第四紀研究。27, 1-20。



第50図 堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真

1. 状況写真 (No. 1)
2. *Caloneis spp.* (No. 2)
3. *Pinnularia subcapitata* (No. 2)
4. *Hantzschia amphioxys* (No. 2)
5. *Eunotia spp.* (No. 2)
6. 状況写真 (No. 1)

## 7 中坪遺跡(第2次)の花粉分析とプラント・オパール分析

森 将志(バレオ・ラボ)

### 1.はじめに

三重県松阪市に位置する中坪遺跡(第2次)では、遺跡周辺の古環境と人間活動との関係を探る一助として、土壤試料が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

### 2. 試料と方法

分析試料は、K-M24グリッドの東壁の地山層から採取された2点である(第41表)。地山下層(No.2)は縄文時代中期末、地上層(No.1)は縄文時代中期末～古代と考えられている。なお、同一試料において珪藻分析も行われている。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

#### 2-1. 花粉分析

試料(湿重量約3g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間

湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは全面を検鏡した。

#### 2-2. プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトルビーカーにとり、約0.02gのガラスピーブ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱水機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄器による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについて、ガラスピーブが300個に達するまで行った。また、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで写真を撮り、第52図に載せた。

### 3. 結果

#### 3-1. 花粉分析

両試料とも花粉化石が検出されなかった。今回は花粉化石が得られなかつたため、花粉分布図は示していない。

#### 3-2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスピーブ個数の比率から、試料1g当りの

試料No.	グリッド	位置	層位	備考
1	K-M24	東壁	褐色シルト層	地山上層
2			黄褐色シルト層	地山下層

第41表 分析試料一覧

	イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)
No. 1	1,000	5,000	0	1,000	5,000
No. 2	0	5,100	1,000	3,100	11,200

第42表 試料1g当りのプラント・オパール個数



第51図 中坪遺跡における植物珪酸体分布図

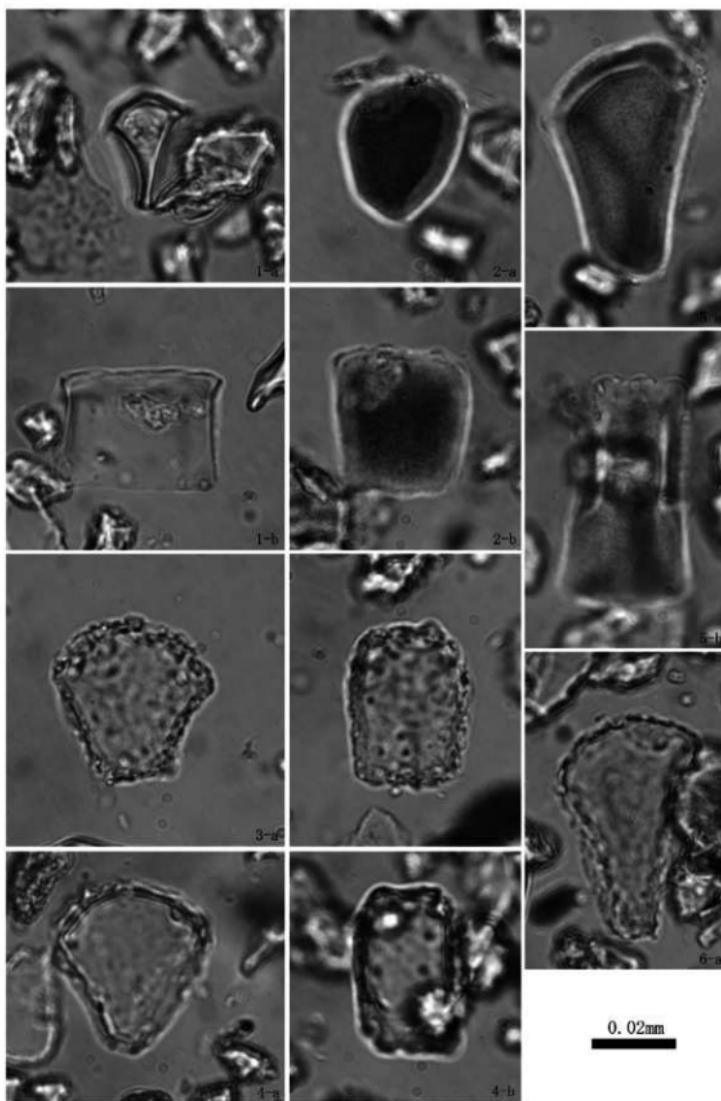
各プランツ・オバール個数を求めた。結果の一覧表を第42表に、植物珪酸体分布図を第51図に示した。以下に示す各分類群のプランツ・オバール個数は、試料1g当りの検出個数である。

2 試料の検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、他のタケア科機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の5種類の機動細胞珪酸体が確認できた。このうち、イネ機動細胞珪酸体についてはNo. 1のみ産出が確認できた。

#### 4. 考察

花粉分析の結果では、いずれの試料においても花粉化石が検出されなかった。一般的に花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壤バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。したがって、堆積植物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。同一試料で行われた珪藻分析においてもほとんど珪藻化石が得られておらず、水分条件の良好な堆積環境は推測されていない。よって、縄文時代中期末から古代の遺跡周辺は、乾燥した酸化的環境に晒されていた可能性がある。

一方で、植物珪酸体は珪酸質であるため、乾燥状態でも遺存しやすい。プランツ・オバール分析の結果では、両試料ともにネザサ節型やキビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体の産出が見られた。乾燥状態にあった遺跡周辺の日の当たる明るい場所には、ネザサ節のササ類や、ススキやチガヤなどのウシクサ族、エノコログサなどのキビ族が分布を広げていたと考えられる。また、縄文時代中期末～古代の堆積物と考えられているNo. 1では、イネ機動細胞珪酸体が1,000個/g産出した。イネ機動細胞珪酸体については水田土壌の目安として5,000個/gが用いられる場合が多いが、この目安と比べると、No. 1から産出するイネ機動細胞珪酸体の量は少ない。遺跡周辺に稻藁がもたらされたなど、何らかの要因で試料採取地点周辺にイネの葉身が存在していたと考えられる。



第52図 中坪遺跡から産出した植物珪酸体

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. イネ機動細胞珪酸体 (No. 1)    | 2. キビ族機動細胞珪酸体 (No. 1)    |
| 3. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (No. 2) | 4. ネザサ節型機動砂お坊珪酸体 (No. 2) |
| 5. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (No. 2) | 6. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (No. 2)  |

a:断面 b:側面

# VI 結語

## 1 中坪遺跡の変遷

### 古代以前

調査区を北西から南東に向かって横切る溝が6条検出できた。いずれも出土遺物は少ないものの、S D2059・S D2070・S D2071からは繩文土器が出土し、S D2065・S D2074からは実測できないものの、弥生土器と考えられる土器が出土した。これらは混入したものと考えられるが、V章の土壤分析結果より、ベースとなる層が堆積して以降、乾燥した地面であることが確認でき、北西・南東方向に複数の溝が流れていることから、古代以前の人々の活動範囲であったと考えることができる。

### 平安時代

時期を特定できる遺構は平安時代からである。平安時代の遺物が大量に出土しているのがS D2019とS D2061、S D2030である。S D2019は調査区北からほぼ南北方向に流れ、S D2024に合流している。S D2024は現代の字塙溝であるが、北部では、埋土に古代以前の遺物は見られず、南部では下層に須恵器片など、古代の遺物が出土する層があることから、平安時代には、S D2019からS D2024の南部に流れる溝が存在していたと考えられる。中世になるとS D2019は埋まり、S D2024である現代の字塙溝として流れようになつたと考えられる。S D2030は下層より波板状凹凸痕跡がみられる遺構が検出でき、道路遺構である可能性が高い。S D2024に垂直につながることから、S D2024と何らかの関連があると考えられる。S D2061も深さ約10cmと浅い遺構である。溝というよりは通路的な性格が考えられる。古代の遺構として、集落的なものを示すものはないが、須恵器獸脚付壺、縁釉陶器香炉などが出土するなど、何かしらの要地であったことは十分考えられる。

なお、S D2019からS D2024と平安時代において流れていた溝はやや蛇行するものの、向きと位置が条里の地割に合っている。現在の調査区周辺は条里の形状をみせないが、条里溝が中世に入り、現在の地形に変形した可能性も考えられる。

### 中世

今回の調査区の主体となる時代は中世である。中坪遺跡の南部には現在の立田町集落があるが、ここを西の朝田町集落から続く中世伊勢道が通っている。今回の調査区は、この中世伊勢道のすぐ北側になり、掘立柱建物、井戸及び溝が確認できたが、中世においても前期と後期によりその様相に違いがみられる。

### 鎌倉時代

側柱建物1棟とともに検出したこの時代を特徴づける遺構は16基の井戸である。方形のものや円形のものなどさまざまであるが、いずれも井戸枠が抜き取られている。下層の礫層からは曲物が多く出土した。また、自然堤防上に立地していると考えられるものの、湧水点は標高約2m弱と浅い。礫層は湧水が激しく、1次調査の結果と合わせても、非常に井戸を掘るのに適した地であり、それを有効に活用していたことが窺える。

### 室町時代

**屋敷地** 今回の調査区の主体となる掘立柱建物と区画溝からなる屋敷地が検出できた。区画溝は幅約2mのものが3条、東西方向に延びており、東側はいずれも調査区外に延び、西側はS D2024の手前約1mのところで方形に途切れている。このことから、調査区内において、屋敷地が3つ存在したと考えられる。敷地幅は南北に約12mで、最も北になる屋敷地は、調査区東端で南北に通る区画溝が検出でき、敷地を囲うように配置されている。掘立柱建物のはか、建物に伴うと考えられるpitは調査区北半部に集中していることを合わせて、これらのことは第1次調査においても同じ傾向がみられる<sup>③</sup>。区画溝の形状と合わせても、屋敷地の主体は調査区の北部に広がる可能性が考えられる。中世農村の形態としては、村落の景観が変貌し始め、濠が掘られた領主の屋敷と農民の住む集落が散在するという時期<sup>④</sup>のものであろうか。

**掘立柱建物と建物内土坑** 今回の調査では、中央の敷地で総柱の掘立柱建物が2棟みつかった。総柱建物は横列と合わせて一体のものと考えることができ

る。またこの2棟には建物内土坑とみられる土坑がみつかった。

**土坑SK2063** 今回の調査で、最も多量に土器が出土した土坑である。平面が非常に整った長方形で、掘形は底面まで垂直に掘られている。中層で土師器鍋が多く出土し、下層で土師器皿が多量に出土した。時期はともに16世紀であるが、廃棄されるにあたり、2段階あったと想定される。調査区内で検出された屋敷地よりは時代が降り、調査区の南部で検出されていることから、調査区のすぐ南に立地する現代の立田町集落につながる変遷過程での遺構であることも考えられる。

## 2 穴師神社

調査区より南に50mのところに、式内社穴師神社が鎮座している。創始は不詳であるが、神社社頭の掲示にもあるように、もとは1次調査区を含む字杉社にあったと伝えられている。今回の調査区は字東浦であり、またその痕跡を示すものは検出できなかつたが、今後の調査において、注意すべき点である。

## 3 遺物について

**縄文土器** 中期末の土器片が少數であるが10点出土した。中坪遺跡の南方に所在する朝見遺跡から同時期の遺構及び土器が出土していることから<sup>①</sup>、この時代の活動範囲であると考えられる。

**磨製石斧** 断面が隅丸長方形を呈しており、出土したSD2071からは、中期末の縄文土器が調査区において、比較的出土することから、この時期のものであろうか。

**墨書き土器** 山茶輪に仮名文字が墨書きされている。平仮名であるか片仮名であるかがあきらかでないが、この時代の仮名文字としては珍しいものである。鈴鹿市の沢城跡出土の女性の名前を書いたと想定されている「むめかく」<sup>②</sup>、旧二見町の安養寺跡出土の「於ひ」<sup>③</sup>が類例としてある。第1文字目は「か」であろうか。

**綠釉陶器香炉** 三重県内では、綠釉陶器香炉の出土例は斎宮跡でしかみられない<sup>④</sup>。官営関連遺物がみつかっている朝見遺跡に隣接することから、近隣に斎宮と関係する権力者の存在を考えることができる。

**須恵器獸脚付壺** 今回出土したものは、猪投窯K-40の短頸壺に相当するものに獸脚がついたものと考えられ<sup>⑤</sup>、8世紀の猪投窯と考へられている松阪市上川町長楽地内において出土した獸脚をもつ短頸の三足壺と同時期と考へられる<sup>⑥</sup>。また、津市の拠点的集落跡である六太A遺跡SD1の古墳時代から中世にかけての層で口縁部が欠損した三足壺の獸脚部分が出土している<sup>⑦</sup>。

**土師器大型鍋** 井戸SE2046下層に水溜として掘えられていた。鍋は使用されたと認められる煤が付着しており、欠損するなど使用不可になったときに、底部を大きく穿孔して水溜として使われたと考えられる。

**16世紀の土師器** 中坪遺跡第2次調査区の中世後期屋敷地から出土した土器は、南伊勢系土師器が大半を占めている。また瀬戸系陶器がそこに含まれる。すぐ西側の第1次調査A区でも同様に16世紀のものが主体であり、室町時代には、集落の一角であったであろうことが想定される。近世の遺物が極端に出土しなくなることから、この後、現在の立田町集落の位置へと移動し、現在に至るものと考えられる。

## [註]

①三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡（第1次）発掘調査報告』（2017年）

②広瀬和雄「中世後期の村落～西日本を中心として～」『三重県久居市上野道路に関する総合研究』三重大学教育学部日本史研究室（2002年）

③三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第5次）発掘調査報告』（2017年）

④鈴鹿市考古博物館『沢城跡 第1次発掘調査報告』（2009年）

⑤三重県二見町教育委員会『安養寺跡・豆石山中世墓群・豆石山経塚群・五峰山2号墳』（2004年）

⑥斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ 内院地区の調査 本編』（2001年）

⑦東海土器研究会『須恵器生産の出現から消滅第2分冊 生産地図』（2000年）

⑧柴畠勇夫ほか「東海・中部高地・北陸の須恵器」『世界陶磁全集 2 日本書代』（1979年）

⑨三重県埋蔵文化財センター『一般国道23号中勢道路（8工区）建設事業に伴う 六太A遺跡発掘調査報告』（2002年）

# 写 真 図 版



調査区全景（北から）



調査区全景（南から）

写真図版2

個別  
遺構



SB 2079 (北東から)



SB 2080 (北から)



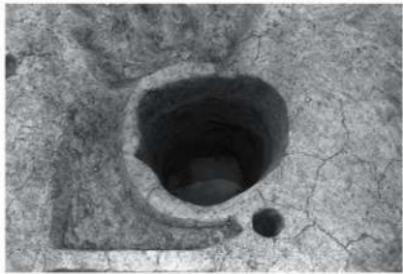
調査前風景（北西から）



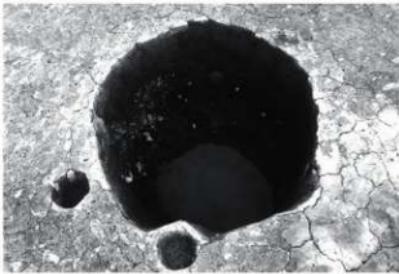
SE 2005 (南東から)



SE 2031 (北から)



SE 2035 (南東から)



SE 2040 (西から)

写真図版 4

個別  
遺構



SE 2040 (西から)



SE 2049・SE 2055 (南から)



SE 2049・SE 2055 (南から)



SE 2046 (西から)



SE 2046 (西から)



SE 2048 (北から)



SE 2052 (南東から)

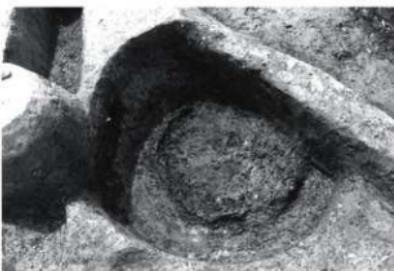


SE 2054 (北から)

個別  
遺構



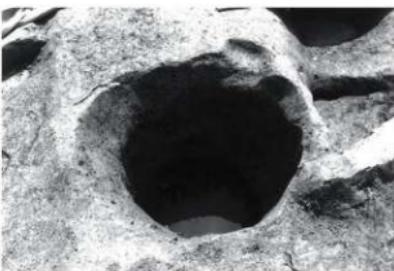
SE 2062 (南から)



SE 2067 (北から)



SE 2067 (北から)



SE 2072 (西から)



SD 2003 (北から)



SD 2008 (南から)



SD 2012 (西から)



SD 2026 (西から)



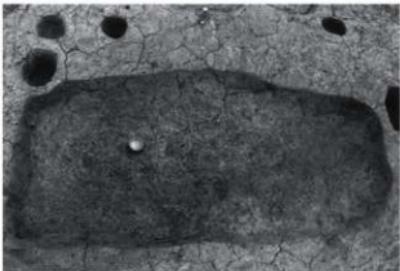
個別  
遺構



SK 2063 遺物出土状況（南から）



SK 2063（南から）



SK 2028（西から）



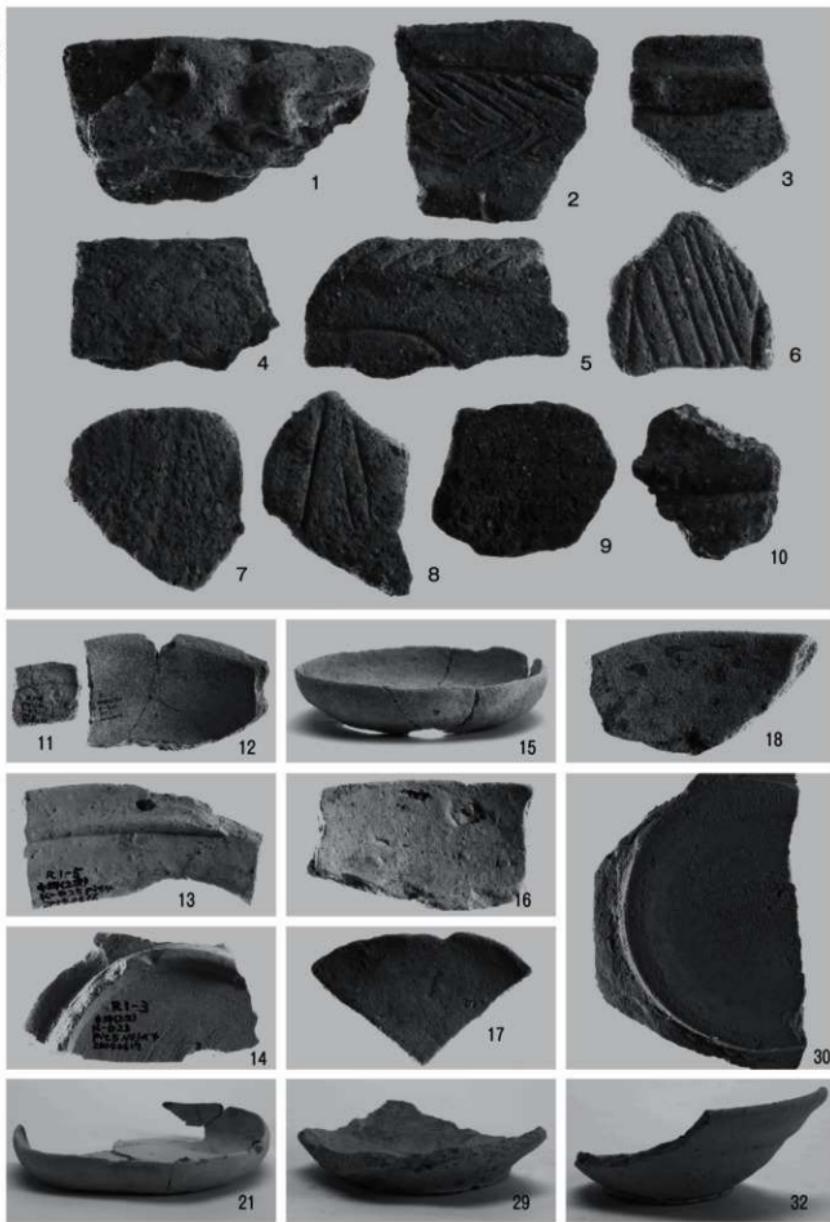
SK 2032（南から）



K-D 23pit 5（西から）

写真図版8

出土遺物

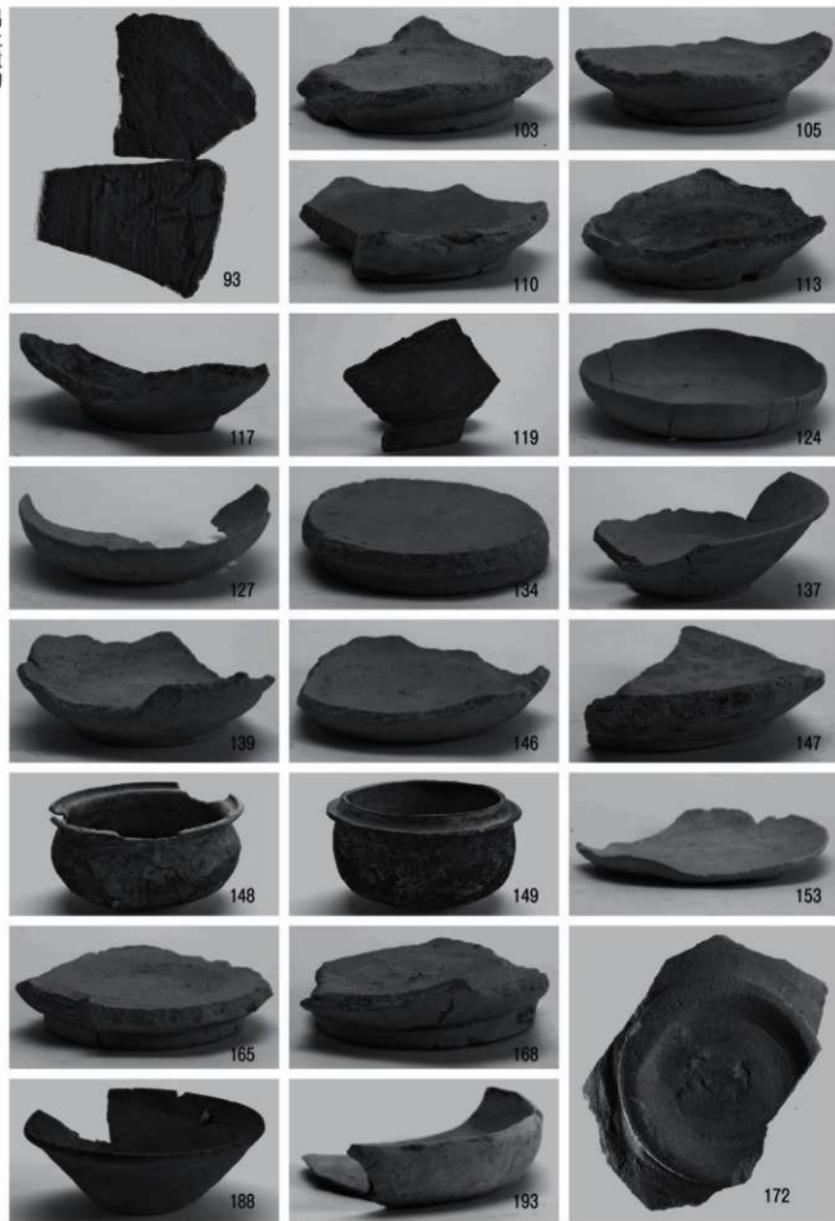


出土遺物



写真図版 10

出土遺物

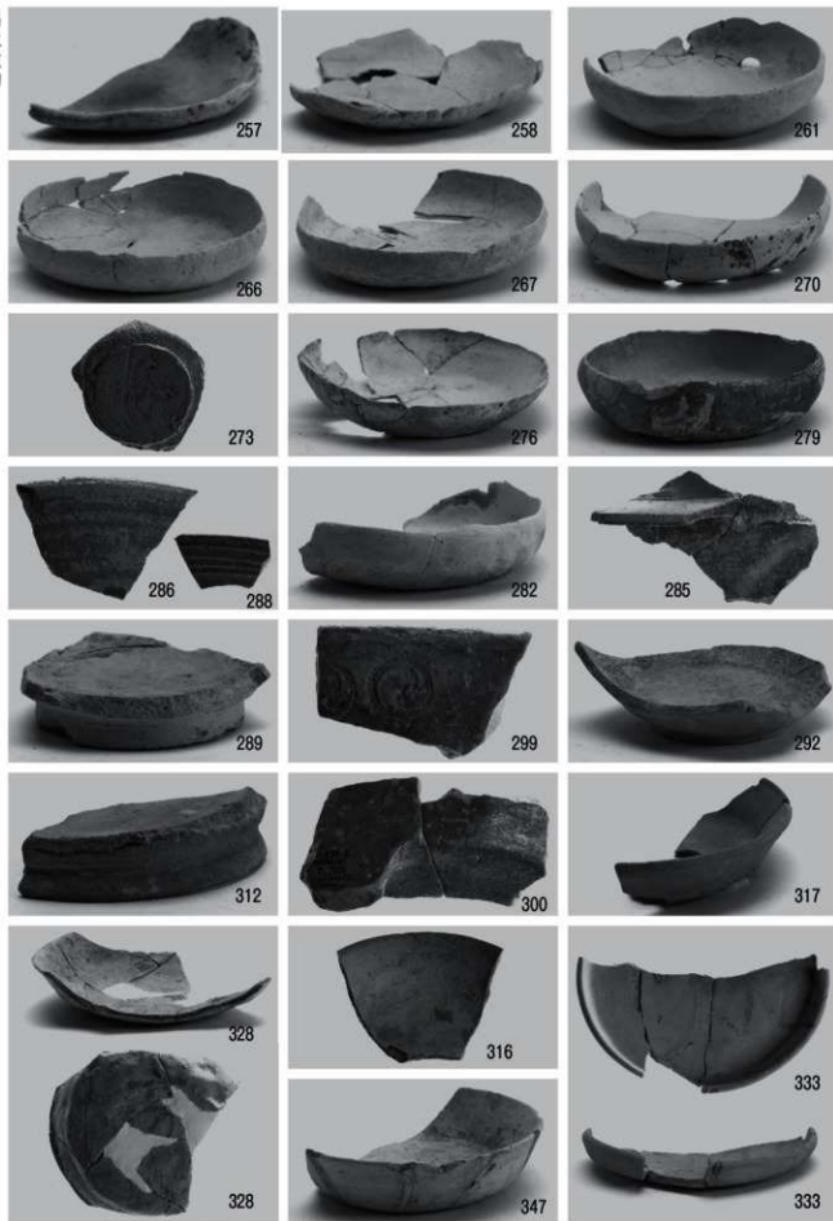


出土遺物



写真図版 12

出土遺物



出土遺物



351



352



356



350



350



358



361



365



370



371



379



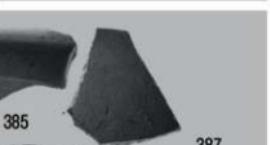
380



386



385



387



390



388



384



389



394



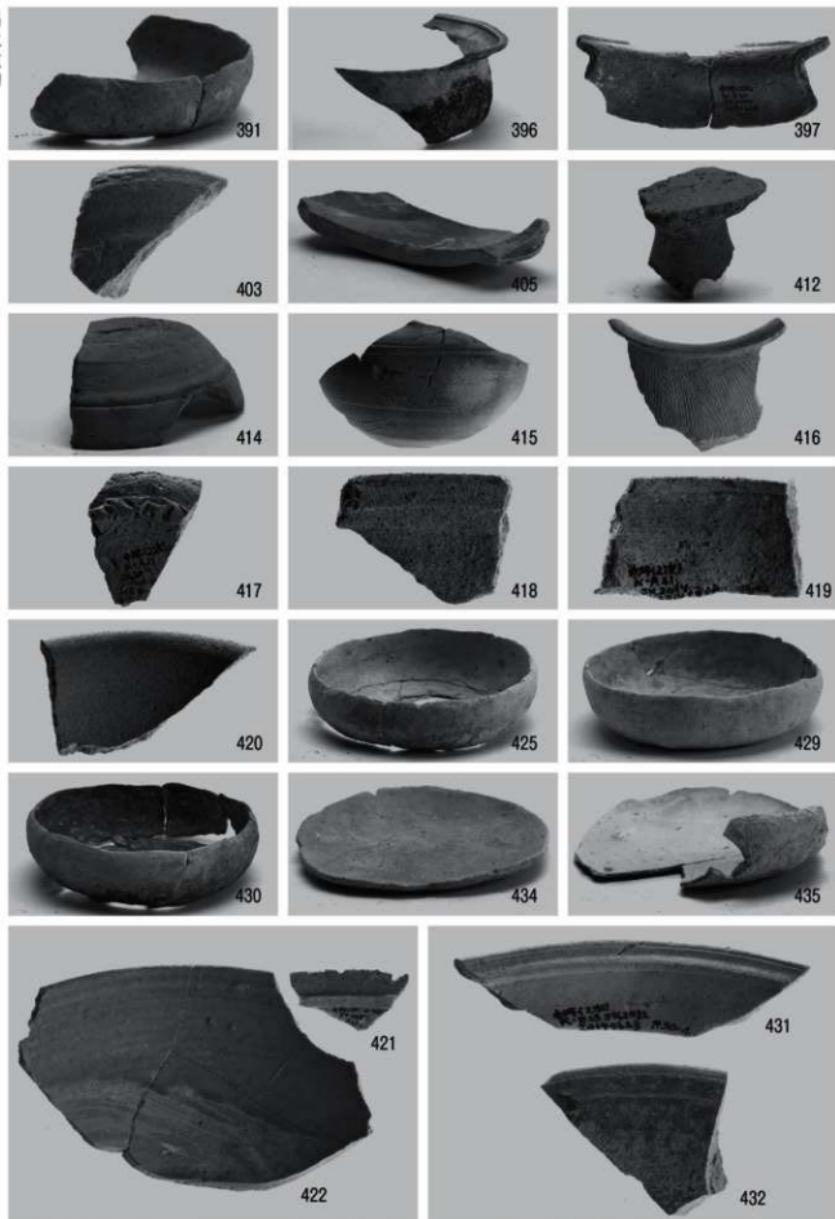
398



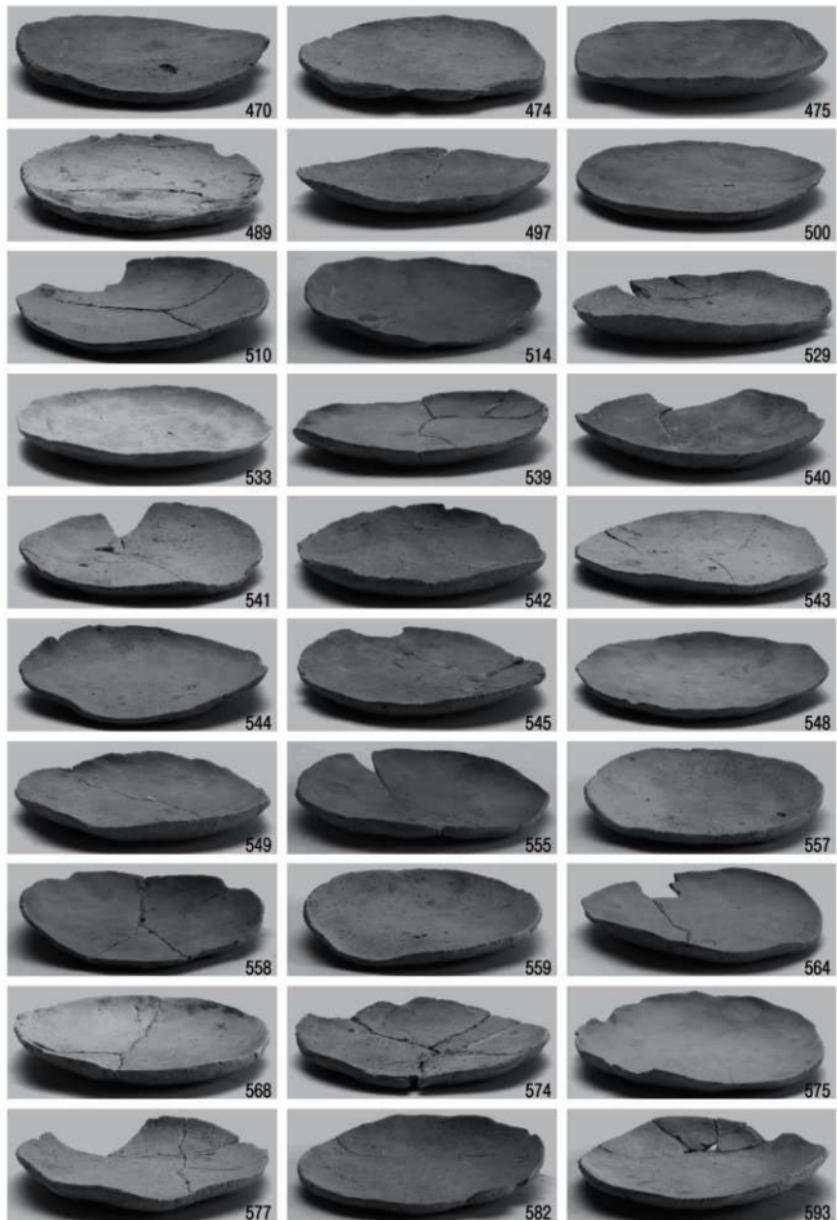
404

写真図版 14

出土遺物

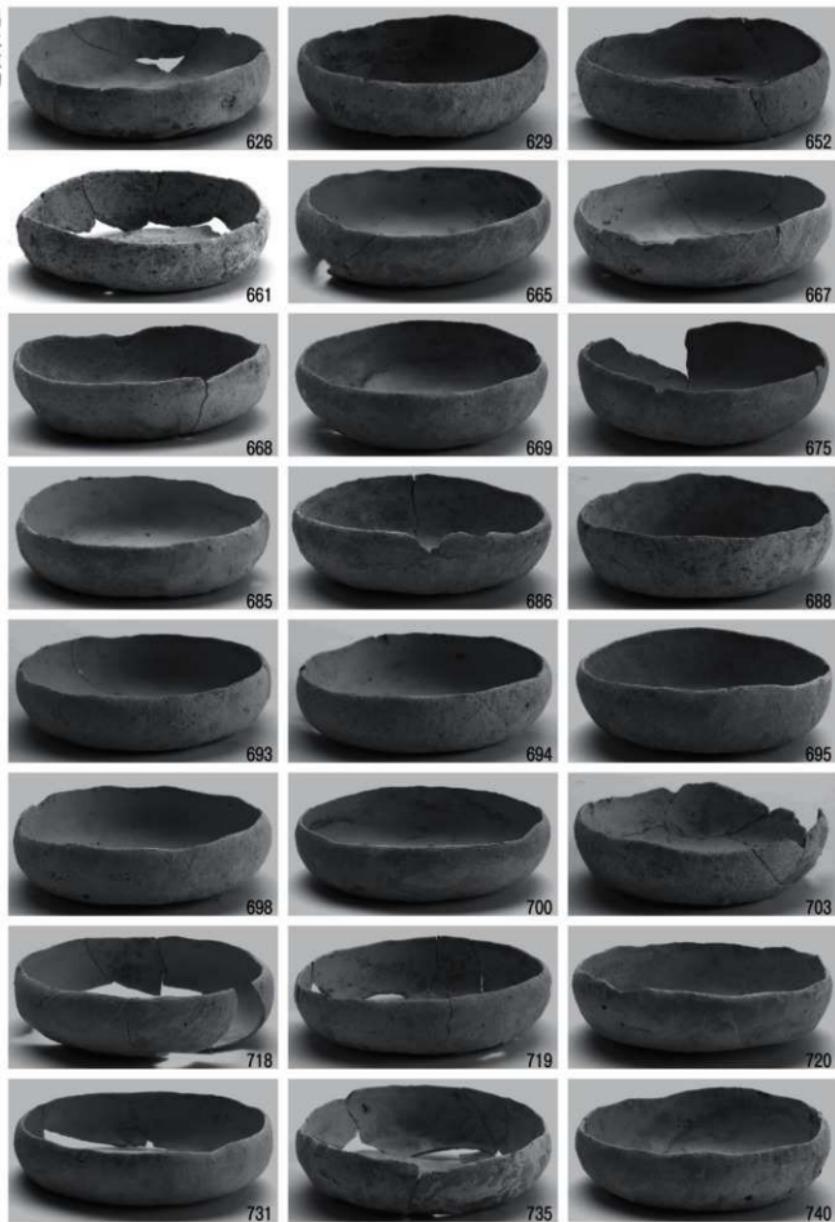


出土遺物



写真図版 16

出土遺物



出土遺物





954



951



952



953



944



949 表



949 裏



鉄滓

出土遺物



写真図版 20

出土  
遺物



出土遺物



971



972



973



974



975



976

977

978



979

980

981



982

983

984



出土遺物



990



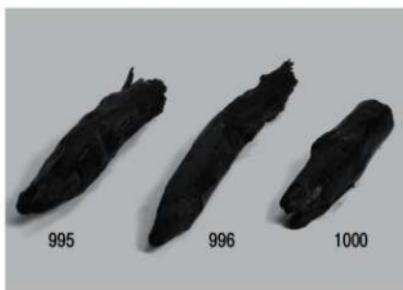
991



992



993



995

996

1000



997

999

998



1001



1002

## 報告書抄録

ふりがな	なかつぼいせき（だいにじ）はつくつちょうさはうこく						
書名	中坪遺跡（第2次）発掘調査報告						
副書名							
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	375						
編著者名	谷口 文隆 渡辺 和仁						
編集機関	三重県埋蔵文化財センター						
所在地	〒518-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596-52-1732						
発行年月日	西暦2018年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度 東經 度	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	発掘原因	
なかつぼいせき 中坪遺跡	みえけんまつきしたつちょう 三重県松阪市立田町	24204 a 907	34° 33° 57"	136° 34° 26"	20140421～ 20150116	1,100	高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
中坪遺跡	集落跡	古代・中世	掘立柱建物・井戸 溝・土坑	土師器・須恵器 縁釉陶器・陶器（山茶碗） 木製品・鉄製品			
要約	中坪遺跡は竹川左岸冲積地に位置する。本遺跡は縄文時代中期から室町時代にかけての集落跡である。古代の道路遺構及び溝と中世の垦敷地が検出された。掘立柱建物は、鍾乳時代の側柱建物が1棟、室町時代の純柱建物が2棟確認でき、井戸は鍾乳時代のものが16基、室町時代のものが3基である。また室町時代の区画溝は幅2 mのものが東西方向に3条延びており、3区画の垦敷地が考えられる。さらに室町時代末の長方形の土坑からは、土師器が大量に出土した。他にも古代の溝から須恵器瓶脚付盞や縁釉陶器香炉が出土しており、南に位置する朝見遺跡と関連する重要な地点である可能性が考えられる。						

## 三重県埋蔵文化財調査報告 375

### 中坪遺跡（第2次）発掘調査報告

2018(平成30)年3月

編集 三重県埋蔵文化財センター  
発行 有ミフジ印刷  
印刷 有ミフジ印刷